

講義科目名称： フードコーディネート論

授業コード： 51800100

英文科目名称： Food Coordination Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
田岡 晃子			
開講曜限	授業形態		
木2	講義		
添付ファイル			

科目の概要・目的	フードコーディネートとは、食に関するさまざまな場（食卓や食堂、スーパー、デパ地下、イベント、テレビ、広告、食育、店舗経営など）において、複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することである。本講義では、それに必要な知識やスキルを修得する。また、「おいしいものを提供する」という視点で授業を展開していく。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしいものを提供する際に、どのようなことを考え、気を配る必要があるのかを理解する。 ・おいしさを表現するための要素を知る。 ・フードコーディネートの基本理念について説明することができる。 ・食文化やマナーについて説明することができる。 ・食卓・食空間のコーディネートの要点を説明することができる。 ・メニュープランニングの要件について説明することができる。 ・フードサービスの特性や経営管理について説明することができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークやプレゼンテーションを取り入れる。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft officeのアプリケーション(formsなど)を利用する <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■定期試験（筆記） ■課題・発表など ・積極的に取り組んでいるか <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■定期試験 70% ■課題・発表など 30%
教科書・テキスト	「三訂 フードコーディネート論」 建帛社 発行年月日：2015年12月1日第5刷発行
参考書	「四訂 フードスペシャリスト論[第6版]」 建帛社 その他、参考図書については、講義中に提示します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	飲食店や惣菜屋、デパ地下などに出向き、店内の配置や内装、コンセプトなどに目を向けておく。 また、食に関するニュースなどに目を向けておく。
履修上の留意事項	最低限のルール・マナーを守ること。
オフィスアワー	火曜日 13:00～17:00
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題に対してコメントを記載し返却する。 ・講義の中で共有し、コメントする。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 Introduction、おいしさの本質__「おいしさ」「おいしい」を考える 授業の進め方の説明をおこなう。 フードコーディネート論について概要を説明する。 「おいしさ」「おいしい」とは、何で決まるのかについて、自身の経験等から考える。</p> <p>【事前学修】 テキストのまえがき・目次に目を通しておくこと。 今まで食べたものの中で一番おいしかったものは何かについて、理由もあせて考える。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に課題を提示する。</p> <p>第2回 おいしさの本質__「おいしさ」「おいしい」を考える 「おいしさ」「おいしい」とは、何で決まるのかについて、いろいろな視点から考える。</p> <p>【事前学修】 テキスト p.2～13に目を通しておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第3回 食事の文化</p>

	<p>「ヒトは、なぜ食事をするのか」について、「人類の誕生」や「食事の歴史」をみながら、考える。</p> <p>【事前学修】 人はなぜ食事をするのかを考える。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p>
第4回	<p>食事の文化</p> <p>日本の年中行事、通過儀礼、外国の食文化を学ぶ。また、さまざまな食文化を学ぶことと「おいしいものを提供する」ことにどのような意味があるのかを考える。</p>
第5回	<p>【事前学修】 日本の年中行事について調べておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>食卓のコーディネートと「おいしさ」について テーブルコーディネートは「おいしさ」にどのように関わっているのかについて考える。また、日本料理のテーブルセッティングの基本を学ぶ。</p>
第6回	<p>【事前学修】 日本料理の食器・食具にどのようなものがあるのかを調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>食卓のコーディネート 中国料理、西洋料理のテーブルセッティングの基本を学ぶ。</p>
第7回	<p>【事前学修】 中国料理、西洋料理の食器・食具にどのようなものがあるのかを調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>食卓のサービスとマナー サービスとマナーが「おいしいものを提供する」こととどのように関わっているのかを考える。また、日本料理のサービスとマナーの基本を学ぶ。</p>
第8回	<p>【事前学修】 日本料理のマナーについて調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>食卓のサービスとマナー 中国料理、西洋料理のサービスとマナーの基本を学ぶ。</p>
第9回	<p>【事前学修】 中国料理、西洋料理のマナーについて調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>メニュープランニング メニュープランニングが「おいしさ」にどのように関わるのかを考える。また、料理様式とメニュー開発の基礎について学ぶ。</p>
第10回	<p>【事前学修】 メニューを必要とする市場についてどのようなものがあるのかを調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>おいしさと視覚情報 おいしさに関わる視覚情報について考える。 色彩、食空間、盛り付けなど、おいしさに関わる視覚情報の基本について学ぶ。</p>
第11回	<p>【事前学修】 自宅で普段使用している食器・食具の色や形、大きさ、模様を調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>おいしさと視覚情報 「どのようにおいしさを伝えるか。」を考える。 実際に食事を提供するのではなく、商品の宣伝においても視覚は重要である。テレビコマーシャルやお店の看板、メニュー表などさまざまなところにおいしさを伝える視覚情報がある。 実際に「チラシ」を作成し、どのような点が「おいしさ」に関わっているのかを考える。</p>
第12回	<p>【事前学修】 事前に提示された課題に従って「チラシ」を作成する。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>食空間のコーディネート 食空間のコーディネートする基本的な流れについて学ぶ。</p>
第13回	<p>【事前学修】 飲食店や自宅などの食空間にはどのようなものがあるかを調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>フードサービスマネジメント～飲食店を運営するためには～ フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本(動向、基本的業務・評価)につ</p>

	<p>いて学ぶ。</p> <p>【事前学修】 身近にある飲食店にどのようなものがあるかを調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第14回 フードサービスマネジメント～飲食店を運営するためには～ フードサービスの起業を前提にコンセプトの作成、立地選定、店舗選定、投資計画・収支計画の作成、損益分岐点売上高の算出について学ぶ。</p> <p>【事前学修】 人気のある飲食店をいくつか挙げ、立地について調べる。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第15回 フードサービスマネジメント～飲食店を運営するためには～、まとめ フードサービスの起業を前提にコンセプトの作成、立地選定、店舗選定、投資計画・収支計画の作成、損益分岐点売上高の算出を行う。 まとめを行う。</p> <p>【事前学修】 14回の内容を復習しておくこと。</p> <p>【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>定期試験</p>
--	--

講義科目名称：健康運動指導法

授業コード：51802900

英文科目名称：Health Movement Instruction Method

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	選択
担当教員			
黄 泰平、佐々木 聡			
開講曜限	授業形態		
月1	講義		
添付ファイル			

科目の概要・目的	健康運動実践指導者として、対象者に対して運動障害について分かりやすく解説教授するための基礎的な知識について包括的に学ぶ。また、指導者として緊急時の対応が冷静に行なえるよう救急処置法について実践的に学ぶ。外科医療および高齢化社会における栄養管理を学ぶ。
学習到達目標	社会生活を営む上で、病気やケガや災害から自分自身を守るための知識や技術を身につけることは必須のものであるという認識を深める。運動障害とその予防についての知識を身につける。緊急時の運動障害への対応も含め、様々な状況に応じた応急処置法を身につける。外科医療および高齢化社会における栄養管理を学び理解すること。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 特になし
成績評価の方法	【評価項目】 定期試験（レポート）、受講態度 【割合】 定期試験（レポート）：50%、受講態度：50%
教科書・テキスト	適宜プリント教材を配付する
参考書	特になし
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎授業前に前回の復習をしておくこと
履修上の留意事項	この科目は「健康運動実践指導者」資格養成課程科目である。
オフィスアワー	授業時に知らせる
課題に対するフィードバックの方法	教務部に連絡して下さい。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	第1回 運動障害とその予防（1）【佐々木】 解剖 応急処置について 【事前学修】 事前に授業テーマについて調べ、知識を深める。 【事後学修】 配布資料を見直し、ノートにまとめる。 第2回 運動障害とその予防（2）【佐々木】 外傷について 【事前学修】 事前に授業テーマについて調べ、知識を深める。 【事後学修】 配布資料を見直し、ノートにまとめる。 第3回 運動障害とその予防（3）【佐々木】 障害について 【事前学修】 事前に授業テーマについて調べ、知識を深める。 【事後学修】 配布資料を見直し、ノートにまとめる。 第4回 運動障害とその予防（4）【佐々木】 外傷と障害のまとめ 【事前学修】 事前に授業テーマについて調べ、知識を深める。 【事後学修】 配布資料を見直し、ノートにまとめる。 第5回 外科医療および高齢化社会における栄養管理（1）【黄】 外科医療および高齢化社会における栄養管理について① 【事前学修】 「授業で扱うテーマを予習し、ノートにまとめる」 【事後学修】 「授業で扱ったテーマを調べて知識を深める」 第6回 外科医療および高齢化社会における栄養管理（2）【黄】 外科医療および高齢化社会における栄養管理について② 【事前学修】 「授業で扱うテーマを予習し、ノートにまとめる」

<p>第7回</p> <p>第8回</p>	<p>【事後学修】「授業で扱ったテーマを調べて知識を深める」</p> <p>外科医療および高齢化社会における栄養管理（3）【黄】</p> <p>外科医療および高齢化社会における栄養管理について③</p> <p>【事前学修】「授業で扱うテーマを予習し、ノートにまとめる」</p> <p>【事後学修】「授業で扱ったテーマを調べて知識を深める」</p> <p>外科医療および高齢化社会における栄養管理（4）【黄】</p> <p>外科医療および高齢化社会における栄養管理について④</p> <p>【事前学修】「授業で扱うテーマを予習し、ノートにまとめる」</p> <p>【事後学修】「授業で扱ったテーマを調べて知識を深める」</p> <p>定期試験</p>
-----------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
池田 扶実子			
開講曜限	授業形態		
木3	演習		
添付ファイル			

科目の概要・目的	<p>「健康運動実践指導者」資格は、現在は理学療法士・看護師・管理栄養士の方々の受験が多く、資格を併せ持つことで、資格の優位性が大きくなります。コロナ禍を経て、人々の健康への意識は大きくなっています。是非この機会に取得しましょう。卒業後に取得するとなると、沢山の時間と費用が必要になります。この資格を持つことで、包括的な健康指導ができるようになります。また社会人になり、「健康運動指導士」を取得する際には単位の免除や費用が軽減されます。資格を取らなくても、栄養と運動から生み出される「健康」を考察できる授業です。身体の仕組みや運動の重要性を理解することで、実生活に活かすことも出来るようになります。</p> <p>「健康運動実践指導者資格」の取得を目標に、運動指導に必要な知識と情報を講義します。「健康運動実践指導者養成」テキストを使って、運動指導の基本・基本的な身体の仕組み・グループ指導に必要な知識（指導法・対象者別プログラム構成・運動処方など）を学習していただきます。</p>
学習到達目標	<p>健康とは何かを考え、食事と運動の重要性を知る。 健康運動を指導実践できる、知識の習熟</p> <p>①健康とはどういうことかを知り、健康へ意識・知識を高める。 ②健康運動とはどのような運動かを知り、適切な運動プログラムを構成できるようになる。 ③運動指導を行う、テクニックとスキルを知る。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 【割合】</p> <p>定期試験（レポート）60% 平常点40%</p>
教科書・テキスト	健康運動実践指導者養成用テキスト（健康体力づくり事業財団） 「健康運動実践指導者」認定試験対策問題集（ラウンドフラット）
参考書	疑似問題配布します
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学習：授業箇所の「章」の学習目標を確認してください。 事後学習：重要なポイントの確認と授業内で不明な点などありましたら次回授業で質問できるようにしましょう。
履修上の留意事項	特になし
オフィスアワー	教務部へ連絡してください。
課題に対するフィードバックの方法	メールもしくは、ポータルで行います sunnymail235@icloud.com
実務経験	<p>フィットネスインストラクター歴 40年 パーソナルトレーナー歴 26年 大手スポーツクラブ勤務（管理職 企画経営部ディレクター）5年 大手スポーツクラブ、アドバイザー 16年 公益社団法人 日本フィットネス協会理事（役員として運動の啓蒙・普及並びに指導者育成を行っている） （公）健康体力づくり事業財団主催 「健康運動実践指導者 講習会」講師・試験官 19年 （大阪府・福岡県担当） 2004年 日本ウォーキング学会 パネリスト 2005年 「アクアエクササイズ指導教本」共著（公）日本フィットネス協会 2007年 「やってみよう！水中レジスタンストレーニング」DVD 2018年、（公）健康体力づくり事業財団より講師の部で表彰</p>
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 ①イントロダクション 資格取得に必要な履修内容を確認する。 全体を通して、健康運動と栄養を合わせた指導の重要性を理解する。 運動だけでなく、包括的に健康指導とは何かを考える。 【事前学修】運動と栄養の必要性を50文字以内で考えましょう。 【事後学修】学習内容全般を理解できていたか？再度100文字以内で、自身の考えをまとめてください。</p>

第2回	<p>②健康づくり施策概論 健康と健康づくりの概念と歴史、我が国の疾病状況・高齢化の現状を踏まえて、それを推進する保健医療・介護の制度などについて理解する。 【事前学修】1章の見開きにある「学習目標」を確認し、一読してください。 【事後学修】なぜ施策が必要なのかを、100文字以内でまとめてください。</p>
第3回	<p>③運動生理学① 運動の発現するしくみ・筋繊維のタイプと収縮特性・トレーニングによる筋力増加を理解する 【事前学修】筋繊維のタイプ・収縮特性の箇所をまとめておく 【事後学修】筋力増加の仕組みをまとめ、不明な箇所があれば質問できるように用意してください。</p>
第4回	<p>④運動生理学② 運動時の呼吸循環器系の役割と働き・体力、基本的動作の発達について理解する。継続的な運動によって、身体機能がどのように適応するかを知る。 【事前学修】心臓循環を事前に読み、理解しておくこと。 【事後学修】運動と心臓の働きについて、200文字以内で簡潔にまとめなさい。</p>
第5回	<p>⑤機能解剖とバイオメカニクス 運動器の骨、筋、靭帯、関節と機能を関連付け、力学的視点から運動の仕組みを解説する。 【事前学修】身体におけるこの仕組みはいくつあるのかを調べてくる。 【事後学修】動作によって、身体にかかる負担を考察し、どのような動作が良くないかを事例を挙げて考察します。</p>
第6回	<p>⑥栄養摂取と運動 身体活動・運動に対する各栄養素の役割及び、活動中のエネルギー代謝生活習慣病の発症及び、重症化を防ぐための望ましい食事を理解する。 【事前学修】運動することで特に必要な栄養素3つを考えてきましょう。 【事後学修】運動（種類は選んでください）選んだ運動に対して、バランスの良い食事とは？考えましょう。</p>
第7回	<p>⑦体力測定と評価 体力の概念と構成要素を解説し、測定結果の分析・評価・活用法を理解する。 【事前学修】体力測定の方法を事前にテキストで調べてください。 【事後学修】体力測定の活用方法を考えましょう。</p>
第8回	<p>⑧健康づくりと運動プログラム 生活習慣病における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について考察し、安全かつ効果的な運動プログラムを立案できるように理解する。 【事前学修】生活習慣病とは？なぜそう呼ばれるのかを1例を挙げて説明できるようにしておくこと 【事後学修】生活習慣病の予防として必要な行動は何か？をまとめましょう。</p>
第9回	<p>⑨運動指導の心理学的基礎 健康行動に影響を与える様々な要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響、個別指導における動機付けとカウンセリングの方法を理解する。他者と運動に対するポジティブな共感や共有の方法を学ぶ。 【事前学修】運動を続けられない人に対して、どうすれば続けられるのかを例を挙げておきましょう。 【事後学修】運動の継続に対して、動機付けが重要であることの理由を考えましょう。</p>
第10回	<p>⑩健康づくり運動の実際（ウォーミングアップとクールダウン） ウォームアップとクールダウンの重要性と必要性を学び、理解する。運動開始時と終了時は、自律神経の働きが大きく影響します。筋肉、循環器に対し負担のない安全な方法やそのエビデンスを学ぶ。 【事前学修】ウォームアップの重要性について50文字以内で考えてきましょう（テキストを参考にしてください） 【事後学修】クールダウンで行ってはいけないことは何かをまとめましょう。</p>
第11回	<p>⑪ストレッチング 種類と方法と特性・目的・効果と実施上の留意点について理解する。年齢などによる注意点を知り、安全なエクササイズ選択ができるように学ぶ。 【事前学修】ダイナミックストレッチとスタティックストレッチの違いをテキストから探してまとめなさい。 【事後学修】ストレッチの重要性をまとめましょう。</p>
第12回	<p>⑫ウォーキングとジョギング 運動障害と予防・救急処置 ウォーキング・ジョギングの特性・運動効果・エネルギー消費量と実施における留意点を解説する。 運動中に発生しうる救急疾病や外科的損傷の病態を解説する。 【事前学修】歩く・走るにおける、足の動きの違いを100文字以内で感想を書きましょう。 【事後学修】歩くと走るの違いをまとめましょう。</p>
第13回	<p>⑬エアロビックダンス エアロビックダンスの特性と効果を解説する。運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解する。 誰もができる・音楽に合わせる・楽しい運動とは何かを考える。現在のエアロビクスと言われるエクササイズは、音楽に合わせた体操のようなものになりつつあるが、音楽を使う運動として理解を深める。</p>

	<p>【事前学修】エアロビックダンスとは？WEBサイトで調べて、良い点を3つ挙げましょう。 【事後学修】エアロビックダンスが出来ない理由は？3つ挙げましょう。</p>
第14回	<p>⑭水中運動・レジスタンス運動 水の特性について理解する。水中運動・レジスタンス運動特性と効果を理解する。運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解する。これらのことが、実際の指導に活かされることの重要性を学ぶ。 【事前学修】水中運動と水泳の違いを50文字以内でまとめなさい。 【事後学修】水の特性（浮力・水圧・抵抗）をまとめましょう。</p>
第15回	<p>⑮まとめ（前期試験） 筆記試験対策・定期試験として、模試問題を行う。前期の試験としては、「レポート」を提出して頂きます。 模試はあくまでも理解が出来て理字野かを確認するために行い、理解出来ていなかった箇所に関しては、授業内でフォローします。 【事前学修】テキストで行った重要なポイントを再確認しましょう。 【事後学修】どの程度、自身が理解できていたのか？試験後に自己採点しましょう。</p>
定期試験	<p>前期中にレポートの内容を学生と相談し決定し、提出して頂きます。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
池田 扶実子			
開講曜限	授業形態		
土1	実習		
添付ファイル			

科目の概要・目的	<p>「健康運動実践指導者」資格は、現在は理学療法士・看護師・管理栄養士の方々の受験が多く、資格を併せ持つことで、資格の優位性が大きくなります。コロナ禍を経て、人々の健康への意識は大きくなっています。是非この機会に取得しましょう。卒業後に取得するとなると、沢山の時間と費用が必要になります。この資格を持つことで、包括的な健康指導ができるようになります。また社会人になり、「健康運動指導士」を取得する際には単位の免除や費用が軽減されます。</p> <p>「健康運動実践指導者資格」の取得は、運動指導に必要な知識と情報を学習し、資格取得に必要な運動指導法を身につけます。学習する運動の種類は、「水中歩行」です。この運動は、運動実践指導者の実技試験課題になっています。資格取得に向けて実技の習得を行います。資格を取得する学生にとっては必ず受講が必要です。</p>
学習到達目標	<p>グループエクササイズ（多人数指導）を行い、指導テクニックを身につけ、実際に指導できることを目標としている。また資格試験の1つである実技試験合格を目指す。（水中もしくは陸上運動）</p> <p>「運動指導における」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実演能力… 適正な姿勢とテンポで行える ② 運動の目的と内容の説明（理解力・説明能力）… 運動の目的を理解し、説明できる ③ 表現・伝達能力… どのように動くのかを、わかりやすく伝えることができる ④ リード・指導能力（動きのポイントと注意の指示）… 運動参加者に対して適切にリードできる ⑤ 観察と対応力… 対象者全員に目を配り、観察できる。個別に動きの修正や動機付けができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 実習活動</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 コロナ禍によりプールの利用が出来ないなどの理由から、ZOOMもしくはリズム室の実習に変更する場合があります</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】【割合】 平常点（態度、取り組みなど）（80%）実技確認テスト（20%）を合わせて評価する</p>
教科書・テキスト	健康運動実践指導者養成用テキスト プリント配布・動画配布
参考書	添付のDVD「実技試験概要」
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学習：1回目を除いて、必要な実演を動画、その他で必ず確認してください。 事後学習：授業で行った「実演」で出来なかった箇所の練習。不明な箇所については次回の授業で質問できるようにしましょう。
履修上の留意事項	この授業は「健康運動実践指導者」資格養成講座です。
オフィスアワー	教務部に連絡して下さい。
課題に対するフィードバックの方法	メール・ポータル、また必要であればZOOMなどで対応します
実務経験	<p>フィットネスインストラクター歴 40年 パーソナルトレーナー歴 26年 大手スポーツクラブ勤務（管理職 企画経営部ディレクター）5年 大手スポーツクラブ、アドバイザー 16年 公益社団法人 日本フィットネス協会参与（役員として運動の啓蒙・普及並びに指導者育成を行っている） （公）健康体力づくり事業財団主催 「健康運動実践指導者 講習会」講師・試験官 18年 （大阪府・福岡県担当） 2004年 日本ウォーキング学会 パネリスト 2005年 「アクアエクササイズ指導教本」共著 （公）日本フィットネス協会 2007年 「やってみよう！水中レジスタンストレーニング」DVD 2018年、（公）健康体力づくり事業財団より講師の部で表彰</p>
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 インTRODクシヨン 資格取得に必要な実演能力について理解する。教材のDVDを使う。（教室） 実際実技試験の内容を把握し、これから学ぶべきことを理解し、計画する。 実技試験におけるポイントを知り、その後の実技学習で習得する。 【事前学修】WEBサイトで「健康運動実践指導者実技試験」で検索し、実技の概要を知っておきましょう。 【事後学修】陸上か水中運動のどちらで試験を受けるかを決めましょう。</p>

第2回	<p>レジスタンス（水中or陸上）</p> <p>①実技試験では、実際にどのように進められるか？デモサンプルを体験学習する。 ②実技試験の1つ。規定動作を確認し、体験する。 ③実技練習を行う。</p> <p>陸上運動の場合：重力の負荷を考察する 水中運動の場合：水中で動くことにより、水の特性（浮力・抵抗・水圧・密度）を理解する。 【事前学修】レジスタンス課題の5つを練習する 【事後学修】規定動作を再度確認し、2つは出来るようにする。</p>
第3回	<p>レジスタンス②</p> <p>レジスタンス運動の指導を学び、実演練習を行う。</p> <p>①主動筋の確認 ②動きの確認 ③指導ポイントを理解する 【事前学修】5つの運動に対して、主動筋はどこかを覚える。 【事後学修】それぞれの動きのポイントを確認し、実演練習をしておくこと。</p>
第4回	<p>レジスタンス③</p> <p>規定動作と規定ルーティンを覚えて実践練習を行う。</p> <p>①どのように進めるのかを知り、練習する。 【事前学修】それぞれの動き方の説明を考えてきなさい。 【事後学修】より簡潔にわかりやすく動きの説明が出来るように練習すること</p>
第5回	<p>有酸素運動①（水中or陸上）</p> <p>①有酸素運動の実際を体験する。 ②実技試験で行われる「課題運動」を行う。 【事前学修】課題の有酸素運動を「健康作り事業財団」のサイトから閲覧し、事前に確認しましょう。 【事後学修】規定動作4つを覚えて、練習しましょう。</p>
第6回	<p>有酸素運動②</p> <p>①4つの規定動作を練習 ②2種目を使って、指導の練習を行い、指導の実際を学ぶ。 ③指導者と参加者に分かれて、実演の練習を行い、指導を学ぶ。 【事前学修】4つの動きを練習してくること 【事後学修】指導の循環とは？実際の課題に対して、台詞を考えましょう。</p>
第7回	<p>有酸素運動③</p> <p>①指導の循環を学び、実演練習を行う。 ②グループに分かれて、指導の練習を行う。 【事前学修】指導の循環の必要性を50文字以内でまとめなさい。 【事後学修】動き方の説明と修正が出来るように練習しましょう。</p>
第8回	<p>レジスタンス④</p> <p>①規定動作を確認する。 ②5つの規定動作を練習しながら、指導の練習も行い、指導スキルを身につける。 【事前学修】レジスタンス課題の5つを実演練習すること。 【事後学修】実際の試験を想定した「練習」を行いましょう。</p>
第9回	<p>レジスタンス⑤</p> <p>指導の実践（キューイング・規定動作・指導）</p> <p>①包括的なレジスタンス運動の指導練習 ②実際の試験を想定した、デモ練習 【事前学修】明確な動きとその動きの説明が出来るように練習しましょう。 【事後学修】大きな声で、動きの説明や修正が行えるようにしましょう。</p>
第10回	<p>有酸素運動④</p> <p>①指導を含めた規定動作の練習 ②指導者役と参加者役に分かれて、指導実践練習 【事前学修】1つの動作だけでいいので、明確な動き・大きな声・動き方の説明・修正と動機付けを行えるように練習してきてください。 【事後学修】4つの動作全てにおいて、指導できるように練習しましょう。</p>
第11回	<p>有酸素運動⑤</p> <p>実技試験のリハーサル練習（ウォーキングのみ）</p> <p>①時間・試験のポイントを確認し、練習する。 【事前学修】有酸素運動を3分以内で実演できるように練習しましょう。 【事後学修】グループ（2人以上）で練習し、動作・指導が出来ているかを互いに確認する。</p>
第12回	<p>実技試験対策</p> <p>実際の試験を模した指導練習（レジスタンス・ウォーキング）</p> <p>①総合的な練習 ②実際にリハーサルを行い、各自でフィードバックし練習する。 【事前学修】レジスタンス・有酸素運動を併せて5分以内に行えるように練習しましょう。 【事後学修】グループ練習し、出来ていないところをまとめておいてください。</p>
第13回	<p>実技試験対策</p> <p>①前回の授業を踏まえて不足しているところ、苦手なところを集中的に練習 ②リハーサル練習にて、さらにテクニックを磨く。 【事前学修】出来ていないと感じた箇所を練習しましょう。 【事後学修】グループで互いにフィードバックしながら、時間内（5分）で出来るように練習する。</p>
第14回	<p>実技試験対策</p> <p>資格試験直前に行う、模試トレーニング</p> <p>①動き・指導ポイント・時間の確認 ②実際の試験を想定した練習を行う。 【事前学修】模試にむけて、レジスタンス5つと有酸素運動を練習する。 【事後学修】自身はまだ自信がない箇所について、練習しましょう。</p>

第15回	<p>実技試験対策（授業内確認テスト：実技のみ）</p> <p>資格試験直前に行う、模試トレーニング</p> <p>実際の資格試験を想定したテストを行うが、授業内での各々の努力を鑑み、採点します。</p> <p>①授業内確認テスト（実技のみ）</p> <p>②資格試験にむけて、包括的なリハーサルを行い、自信を持って受験できるように練習する。</p> <p>【事前学修】実際の試験を想定した試験です。レジスタンス5種と有酸素運動が指導できるように、グループで練習しましょう。</p> <p>【事後学修】実際の資格試験までに、自身の自信のない箇所について、練習しましょう</p>
------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
山下 陽一郎			
開講曜限	授業形態		
金3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p>
科目の概要・目的	<p>【概要】健康について考える上でライフスタイルや生活環境との関連を知ることが重要です。このため、生活を構成する様々な要素と健康との関係についての正しい知識と情報を理解し、活用できることが求められます。</p> <p>【目的】生活と健康に関連する内容についての科学的な知識を深め、健康的な生活を実践することができるようになる。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルや生活環境と様々な健康問題との関連を知ることによって正しい知識と情報を理解できる。 ・健康のための行動について説明できる。 ・健康的な生活を送るために必要なことを日常生活の中で実践できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>授業の中でその日の内容に応じた課題を提示し、各自の考えを発表してもらう。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業の内容に関する確認テスト、および定期試験で評価します。</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験（筆記）80%、確認テスト20%。</p>
教科書・テキスト	新版 生活健康科学（第2版）：小田切陽一ほか、三共出版
参考書	運動生理学（第2版）-生理学の基礎から疾病予防まで-：小山勝弘ほか、三共出版
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	特になし
履修上の留意事項	特になし
オフィスアワー	授業終了後に教室で連絡して下さい。
課題に対するフィードバックの方法	確認テストについては、次の講義で解説します。
実務経験	財団法人尼崎市スポーツ振興事業団において、指導員として市民の健康づくり教室や地域の健康増進のためのプログラム指導を行った（1983年4月～1992年3月まで）
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 健康の理解 健康の捉え方、定義について学ぶ。 【事前学修】WHOの健康の定義を調べる。 【事後学修】健康であることと病気でないことの違いについて理解する。</p> <p>第2回 衣生活と健康① 温熱環境と体温調節 【事前学修】人体と環境温度の関係を考える。 【事後学修】ヒトの体温調節反応を理解する。</p> <p>第3回 衣生活と健康② 衣服の衛生 【事前学修】機能性ウェアにはどのような製品があるか調べる。 【事後学修】衣服による体温調節機能について理解する。</p> <p>第4回 食生活と健康 栄養摂取の現状と健康問題、食品保健 【事前学修】様々なダイエット方法を調査する。 【事後学修】健康的な食生活を考える。</p> <p>第5回 運動と健康①</p>

第6回	<p>運動のエネルギー供給機構 【事前学修】運動のエネルギー源を調べる。 【事後学修】骨格筋線維タイプとエネルギー供給システムとの関係を理解する。</p> <p>運動と健康② 健康づくりのための運動 【事前学修】生活習慣病の各疾病について整理する。 【事後学修】運動が疾病予防に及ぼす効果を理解する。</p>
第7回	<p>飲酒・喫煙・薬物と健康 飲酒・喫煙・薬物が健康に及ぼす影響 【事前学修】飲酒・喫煙・薬物による健康被害について調べる。 【事後学修】望ましい対応を考える。</p>
第8回	<p>メンタルヘルス ストレスと健康 【事前学修】ストレスの原因を考える。 【事後学修】ストレス性疾患とその対応策を理解する。</p>
第9回	<p>生活環境と健康① 環境要因、環境汚染と健康 【事前学修】環境要因が生体に及ぼす影響について調べる。 【事後学修】環境条件の現状とリスク評価について理解する。</p>
第10回	<p>生活環境と健康② 住環境と健康 【事前学修】快適な住まいを考える。 【事後学修】住環境が健康に及ぼす影響を理解する。</p>
第11回	<p>感染予防と健康① 感染と健康 【事前学修】感染症の成立要因について調べる。 【事後学修】感染病予防の方法について理解する。</p>
第12回	<p>感染予防と健康② 性感染症 【事前学修】性感染症について調べる 【事後学修】感染予防対策について理解する。</p>
第13回	<p>労働と健康 労働環境の現状と課題 【事前学修】労働安全衛生の法規について調べる。 【事後学修】労働衛生対策について理解する。</p>
第14回	<p>社会要因と健康 社会経済要因が健康に及ぼす影響 【事前学修】健康格差の問題について調べる。 【事後学修】社会的なつながりが健康に及ぼす効果について理解する。</p>
第15回	<p>健康と政策 健康政策と社会保障制度 【事前学修】直近の健康政策について調べる。 【事後学修】国内の課題とWHOの健康政策について理解する。</p> <p>定期試験（筆記）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
田岡 晃子			
開講曜限	授業形態		
月3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-6 身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解している。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>「食」は生きることの原点である。私たちは食物を摂取する（食べる）ことによって生命を維持し、活動するために必要なエネルギーや栄養素を得ている。しかし、どのような食物を選択するか、食生活を営むかは、その人の環境や考え方などに影響を受ける。そして、その人のQOLにも影響を与える。また、生活習慣病への罹患が増加しており、健康への関心がますます高まっている。時代とともに変遷してきた食生活の変化と疾病構造の変化などを通して、「食」の意味をさまざまな視点から理解し、考える。健康や栄養に関する情報が氾濫する今、健康を維持するための行動力や自己判断が必要であり、食生活の自己管理に加えて食事指導ができる基礎知識を修得することをめざす。</p>
----------	--

学習到達目標	健康増進や生活習慣病予防のための食生活について理解する。 自分自身を含め、他者の食生活管理に対する基礎的な知識や方法を理解する。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事調査法を体験し、方法によるメリットデメリットを考える。 ・課題についてグループで検討し、発表する <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを利用し授業を行う。 ・適宜Microsoft officeのアプリケーションを利用する。 <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（筆記） ・グループ課題（発表内容、取り組み方など） ・個人課題（提出状況、取り組み方など） <p>【割合】</p> <p>定期試験70% グループ課題15% 個人課題15%</p>
---------	--

教科書・テキスト	食と健康の科学（建帛社） 稲山貴代・大森玲子 編著 日本食品成分表（医歯薬出版株式会社） 医歯薬出版 編
----------	---

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業計画で指示している内容について取り組むこと。 課題に変更が生じる場合は、授業中に提示する。
---------------------------	--

履修上の留意事項	最低限のルールを守ること。 積極的に課題に向かう学習姿勢を必要とする。
----------	--

オフィスアワー	火曜日 13:00～17:00
---------	-----------------

課題に対するフィードバックの方法	下記のいずれかの方法で行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中にコメントする。 ・レポートにコメントを記載し返却する。 ・適宜Microsoft officeのアプリケーションを利用する。 ・Aポータルを利用する。
------------------	--

実務経験	特記事項なし
------	--------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 Introduction 授業の進め方、成績評価の説明をおこなう。 「食」について考える。 【事前学修】 シラバスに目を通しておくこと。 【事後学修】 講義終了時に提示する。</p> <p>第2回 食事の記録 食事調査法の種類について学ぶ。 秤量法（事前課題）と24時間思い出し法を体験する。 【事前学修】 食事を記録しておく（方法は別途提示）。</p>
-------	--

第3回	<p>【事後学修】講義終了時に提示する。</p> <p>食事の基本 バランスのとれた食事について理解する。 三食食品群や食事バランスガイドについて学ぶ。 【事前学修】三食食品群について調べておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第4回	<p>主食の栄養学 主食の特徴、とり方について理解する。 食品成分表を用いて、代表的な食材の栄養素量を把握する。 【事前学修】前日の食事の中で主食にあたるものは何だったか、どれくらい食べていたかを記録しておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第5回	<p>主菜の栄養学 主菜の特徴、とり方について理解する。 食品成分表を用いて、代表的な食材の栄養素量を把握する。 【事前学修】前日の食事の中で主菜にあたるものは何だったか、どれくらい食べていたかを記録しておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第6回	<p>副菜の栄養学 副菜の特徴、とり方について理解する。 食品成分表を用いて、代表的な食材の栄養素量を把握する。 【事前学修】前日の食事の中で副菜にあたるものは何だったか、どれくらい食べていたかを記録しておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第7回	<p>食事の評価 第2回で記録した食事の栄養価計算をし、1日の摂取量を把握する。 【事前学修】第2回で記録した1日分の食事記録を完成させておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第8回	<p>食事の評価 エネルギーバランスについて理解する。 エネルギー必要量について理解する。 【事前学修】自分の身長、体重を記録しておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第9回	<p>食事の評価 エネルギー産生栄養素バランスについて理解する。 自分の食事のエネルギー産生栄養素バランスを計算する。 【事前学修】エネルギー産生栄養素とは何かを調べる。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第10回	<p>日本の栄養摂取状況 国民健康・栄養調査より近年の栄養摂取状況を把握する。 【事前学修】国民健康・栄養調査とは何かを調べる。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第11回	<p>食生活と健康 健康の定義や健康寿命について理解する。 栄養・食生活と疾病構造の変化について学ぶ。 主な死因について学ぶ。 世界の健康・栄養問題について学ぶ。 【事前学修】QOL、健康の定義について調べておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第12回	<p>生活習慣病について 生活習慣病とその要因について理解する。 生活習慣病について、グループで調べ学習を行い、発表資料を作成する。 【事前学修】生活習慣病について調べておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第13回	<p>生活習慣病について グループごとに生活習慣病について発表を行う。 【事前学修】発表資料を完成させる。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第14回	<p>ライフステージ別の食や健康の課題 ライフステージ別の食や健康の課題について学ぶ。 ライフステージ別の食育教材、栄養教育教材を作成する。 【事前学修】ライフステージ別の食や健康の課題にはどのようなものがあるのか調べておく。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
第15回	<p>ライフステージ別の食や健康の課題 ライフステージ別の食育教材、栄養教育教材を完成させ、発表する。 【事前学修】発表資料を完成させる。 【事後学修】講義終了時に提示する。</p>
	<p>定期試験</p>

講義科目名称： 地球環境論（H）

授業コード： 51100400

英文科目名称： Earth's Environment

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
相羽 洋子			
開講曜限	授業形態		
金2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p>
---------	---

科目の概要・目的	地球環境問題は日本だけの問題ではなく地球全体の未来につながる大きな問題であり、地球環境の危機に対応するためには持続可能な社会を構築することが必要である。そして、本学科で学修する栄養学は、人に向き合うとともに社会の問題も見つめ、食糧の生産から消費までの一連の流れを把握することで食・栄養の問題を理解し実践できるものである。本講義では、様々な地球環境問題に向き合う考え方を理解し、食・栄養の問題に繋がる地球環境問題を解決するための方策を立てることができるようになる。
学習到達目標	地球規模で起こっている環境問題について学び、自分の生活が地球環境問題につながっていることを理解できる。環境問題を通して、食・栄養の問題に取り組む考え方を述べることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>授業毎の最初に、課題についての講義を行う。その後、課題についての現状と問題点及び解決策についてグループワークを行い、結果を発表する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>なし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
成績評価の方法	【評価項目】 【割合】 定期試験(授業内)(レポート) 50%、グループワーク・発表への参加態度 (25%)、レポート (25%)
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省編「環境白書」「図で見る環境・循環型社会・生物多様性白書」 ・世界がぐっと近くなるSDGsとボクらをつなぐ本
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	新聞・ニュースなどを通じて、環境問題に関する社会的な話題に興味を持つこと。
履修上の留意事項	居眠り、携帯電話・スマートフォンの操作、他の科目の勉強、等は厳禁とする。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・木曜日昼休み ・上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可。
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業時間内、メール及びA-ポータルを利用して返答する。 ・レポートは授業時に返却する。
実務経験	薬剤師、衛生工学衛生管理者、衛生管理者
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、地球環境論とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方の説明 ・地球環境論を学ぶ目的 【事前学修】地球環境問題について、現時点でわかっていることをノートにまとめること 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。 <p>第2回 現在起こっている地球の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること <p>第3回 地球環境の危機に関する世界の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること <p>第4回 地球温暖化による影響と対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること <p>第5回 気象災害の多発など、気候変動による環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること

第6回	身のまわりの自然で起こっている環境の変化および問題点 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること
第7回	東日本大震災によってもたらされた環境問題と対策 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること
第8回	生活の中で欠かせない化学物質による影響 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること
第9回	ごみの処理問題、資源のリサイクル 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポート（500文字程度）を作成し、次回授業で提出すること
第10回	生物多様性に関する環境問題、生物多様性を守るための対策 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること
第11回	持続可能な社会づくりに向けた地域の資源 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること
第12回	環境を考えた意識の変化 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること
第13回	資源の循環、自然資源に関する取り組み 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること
第14回	地球環境を守るための「環境と社会に良い暮らし」 【事前学修】授業のテーマについて、予習したことをノートにまとめること 【事後学修】テーマに関するレポートを作成し、次回授業で提出すること
第15回	まとめ 地球環境問題に向き合うために学んだ内容をまとめる。 授業内試験（レポート） 【事前学修】地球環境問題及び食・栄養に繋がる問題について学んだことを、ノートにまとめること 【事後学修】授業で扱ったテーマは私達の生活に関わっていることなので、常に環境問題の情報を収集し、食や栄養への影響などを考えること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
金子 雅文			
開講曜限	授業形態		
金3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	人間の体内では、正常な生命活動を営むために絶えず化学反応が起こっている。そこで、食品、栄養、代謝などの「食と健康」に関連する専門科目を正確に理解するために必要な事項を把握する。
学習到達目標	生命活動や食品の働きについて、化学的な見方で理解し、栄養のもととなっている化学物質の変化を化学反応やエネルギー変化としての観点で理解する。実験、実習の際に必要な様々な濃度の求め方を習得する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>この授業では、高等学校で化学を学習しなかった人のために基礎から、学習した人はその内容を復習しながら、大学教育としての新しい視点も取り入れて、化学の基本的な事項について学習する。分子模型の作成やディスカッションを取り入れ、主体的な学びが実現できるよう工夫する。状況に応じて、遠隔授業も検討する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（筆記）、小テスト、授業への貢献度、参加態度 を総合して評価する。</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験（筆記）（60%）、小テスト（20%）、授業への貢献度、参加態度（20%）を総合して評価する。</p>
教科書・テキスト	松井徳光・小野廣紀著「わかる化学 知っておきたい食とくらしの基礎知識」（化学同人） 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「化学 入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」（化学同人） 「視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」（数研出版）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業の前に教科書の該当する範囲に目を通し、知らない語句や物質について調べる。授業後は理解できなかった項目や興味を持った内容について自主的に調べる習慣を身につける。
履修上の留意事項	化学あるいは科学全般に興味をもつこと。 授業時の取り組みや学習態度（他の受講者への迷惑となるような行為）によっては、講義室からの退出を命じることがある。さらに平常点の成績評価の割合を大きく超えて減点することがある。
オフィスアワー	昼休み
課題に対するフィードバックの方法	試験や課題についての質問は、オフィスアワーに研究室で対応する。 小テストや課題を実施した際は、次の講義にて解説をする。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>1回 物質の成り立ちと構成元素①</p> <p>1) 元素記号、周期表、純物質と混合物 【事前学修】 原子番号1～20までの周期表を暗記する 【事後学修】 周期表の周期律が現れる要因について考察する</p> <p>2回 物質の成り立ちと構成元素②</p> <p>2) 電子殻と電子軌道 【事前学修】 電子殻の種類と収容電子数を暗記する 【事後学修】 電子軌道と電子の入る順番を理解する</p> <p>3回 物質の成り立ちと構成元素③</p> <p>3) 原子、分子、イオンの構造 【事前学修】 原子を結び付ける化学結合の種類を知る 【事後学修】 原子や分子の間に働く力を理解する</p> <p>4回 物質の成り立ちと構成元素④</p>

5回	<p>4) 分子の極性と水素結合、配位結合、金属結合 【事前学修】 原子の電気陰性度を把握する 【事後学修】 電気陰性度と分子の形が分子の極性に及ぼす影響を理解する</p> <p>物質を記号で表す化学式 組成式、分子式、構造式、示性式、イオン式、電子式 【事前学修】 化学式の種類を知る 【事後学修】 様々な化学式をどのように使い分けるのかを理解する</p>
6回	<p>物質の重さ、モル数 原子番号と質量数、同位体 【事前学修】 元素の同位体が存在する理由について調べる 【事後学修】 原子量の定義を理解し、モル数やアボガドロ定数を用いた計算ができるようになる</p>
7回	<p>食品とエネルギー 1) 生体内の化学エネルギー 2) 食品がもつエネルギーと食品が持つエネルギー含量の計算 【事前学修】 生体のエネルギー源であるATPについて調べる 【事後学修】 光合成や呼吸、発酵で起こる化学反応の概要を理解する</p>
8回	<p>物質の変化 物質の変化を示す化学式 【事前学修】 物質の物理変化と化学変化の違いについて調べる 【事後学修】 化学変化を化学式で表す方法を理解する</p>
9回	<p>酸と塩基 酸および塩基、pH 【事前学修】 酸と塩基のアレニウスの定義とブレンステッド・ローリーの定義の違いを把握する 【事後学修】 pHの計算方法を理解する</p>
10回	<p>化学反応と熱 化学反応と熱化学方程式 【事前学修】 発熱反応と吸熱反応の例を調べる 【事後学修】 反応熱が生じる原因と熱化学方程式の表し方を習得する</p>
11回	<p>酸化と還元 酸化と還元、酸化数の関係 【事前学修】 酸化と還元の例を調べる 【事後学修】 酸化と還元の定義、酸化数の変化による酸化剤、還元剤の見分け方を理解する</p>
12回	<p>溶液の濃度とその表し方① 1) パーセント濃度 【事前学修】 パーセント濃度の種類を知る 【事後学修】 パーセント濃度の計算を習得する</p>
13回	<p>溶液の濃度とその表し方② 2) モル濃度 【事前学修】 モル濃度の定義を調べる 【事後学修】 モル濃度の計算を習得する</p>
14回	<p>溶液の濃度とその表し方③ 3) グラム当量、規定濃度 【事前学修】 グラム等量、規定濃度の定義を理解する 【事後学修】 規定濃度の計算を習得する</p>
15回	<p>まとめと演習 化学Iの講義内容のまとめと演習 【事前学修】 化学Iで理解ができていない内容をまとめておく 【事後学修】 理解不足な内容を克服する</p>
定期試験	

講義科目名称： 有機化学

授業コード： 51100700 51100710

英文科目名称： Organic Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
金子 雅文			
開講曜限	授業形態		
水2、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-5 栄養とは何か、その意義について理解している。</p>
---------	---

科目の概要・目的	生体を構成し、あるいは食品に含まれる主要な成分や栄養素、すなわち糖質、脂質、アミノ酸、たんぱく質、酵素、ビタミンなどはすべて有機化合物である。この講義では、食品学、栄養学、生化学などの講義で取り扱うこれらの生体関連化合物について理解するための基礎知識を「化学結合」のレベルから系統的に学習する。
学習到達目標	化学物質が結合を作る仕組みと化学結合の種類を理解する。有機化合物の基本骨格について説明できる。有機化合物の官能基の種類とその性質を理解する。異性体と生体物質における重要性について説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>食品学、栄養学、生化学などの専門科目の講義でとりあつかう有機化合物の構造やそれらの特性について解説する。分子模型を取り入れた分子の構造に関する学習やディスカッションを取り入れ、主体的な学びが実現できるよう工夫する。状況に応じて、遠隔授業も検討する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（筆記）、小テスト、授業への貢献度、参加態度 を総合して評価する。</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験（筆記）（60%）、小テスト（20%）、授業への貢献度、参加態度（20%）</p>
教科書・テキスト	山本勇編著「健康と栄養のための有機化学」（建帛社）
参考書	「生命系の基礎有機化学」（化学同人）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業の前に教科書の該当する範囲に目を通し、知らない語句や物質について調べる。授業後は理解できなかった項目や興味を持った内容について自主的に調べる習慣を身につける。
履修上の留意事項	授業時の取り組みや学習態度（他の受講者への迷惑となるような行為）によっては、講義室からの退出を命じることがある。さらに平常点の成績評価の割合を大きく超えて減点することがある。
オフィスアワー	昼休み
課題に対するフィードバックの方法	試験や課題についての質問は、オフィスアワーに研究室で対応する。小テストや課題を実施した際は、次の講義にて解説をする。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>1回 有機化学へのアプローチ 有機化学を学ぶにあたっての導入 【事前学修】 有機化合物と無機化合物の違いを調べる 【事後学修】 炭化水素と炭水化物の違いを説明できるようにする</p> <p>2回 化学結合 化学結合 【事前学修】 共有結合について調べる 【事後学修】 共有結合を電子式で表せるようにする</p> <p>3回 結合の軌道論 電子軌道 【事前学修】 電子軌道と混成軌道について調べる 【事後学修】 sp³、sp²、sp混成軌道について説明できるようにする</p> <p>4回 有機化合物の基本骨格① アルカン：単結合、メタン 【事前学修】 sp³混成軌道による単結合のできる仕組みを調べる 【事後学修】 アルカンの構造式が描けるようにする</p>

5回	<p>有機化合物の基本骨格②</p> <p>アルケン：二重結合、エチレン</p> <p>【事前学修】 sp²混成軌道による二重結合のできる仕組みを調べる</p> <p>【事後学修】 アルケンの構造式が描けるようにする</p>
6回	<p>有機化合物の基本骨格③</p> <p>アルキン：三重結合、アセチレン</p> <p>【事前学修】 sp混成軌道による三重結合のできる仕組みを調べる</p> <p>【事後学修】 アルキンの構造式が描けるようにする</p>
7回	<p>有機化合物の基本骨格④</p> <p>芳香族化合物：ベンゼンの構造と性質</p> <p>【事前学修】 ベンゼンとその類縁体の構造式を調べる</p> <p>【事後学修】 芳香族化合物と芳香属性について説明できるようにする</p>
8回	<p>異性体と立体化学①</p> <p>構造異性体</p> <p>【事前学修】 異性体の種類を調べる</p> <p>【事後学修】 構造異性体の構造を描けるようにする</p>
9回	<p>異性体と立体化学②</p> <p>立体異性体</p> <p>【事前学修】 立体異性体が生じる要因について考察する</p> <p>【事後学修】 立体異性体の構造を理解する</p>
10回	<p>異性体と立体化学③</p> <p>光学異性体、配座異性体</p> <p>【事前学修】 光学異性体や不斉炭素原子について調べる</p> <p>【事後学修】 光学異性体の構造の書き方と生体内での意義について説明できるようにする</p>
11回	<p>有機化合物の化学 官能基の種類と性質①</p> <p>アルコール、フェノール、エーテル</p> <p>【事前学修】 アルコール、フェノール、エーテルの官能基を調べる</p> <p>【事後学修】 アルコール、フェノール、エーテルの性質、反応を理解する</p>
12回	<p>有機化合物の化学 官能基の種類と性質②</p> <p>アルデヒド</p> <p>【事前学修】 アルデヒドの官能基を調べる</p> <p>【事後学修】 アルデヒドの性質、反応を理解する</p>
13回	<p>有機化合物の化学 官能基の種類と性質③</p> <p>ケトン</p> <p>【事前学修】 ケトンの官能基を調べる</p> <p>【事後学修】 ケトンの性質、反応を理解する</p>
14回	<p>有機化合物の化学 官能基の種類と性質④</p> <p>カルボン酸</p> <p>【事前学修】 カルボン酸の官能基を調べる</p> <p>【事後学修】 カルボン酸を理解する</p>
15回	<p>まとめと演習</p> <p>有機化学の講義内容のまとめと演習</p> <p>【事前学修】 有機化学で理解ができていない内容をまとめておく</p> <p>【事後学修】 理解不足な内容を克服する</p>
定期試験	

講義科目名称： 日本語 I (H)

授業コード： 51100900 51100950

英文科目名称： Japanese I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
大澤 茂男、三木 慰子、渡口 行雄			
開講曜限	授業形態		
木2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	母国語としての日本語の運用能力を高めるため、「読む、書く、聴く、話す」活動の実践を中心に展開していく科目です。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業し社会人として活躍するために必要な言葉の知識・表現技能を十分身につけている。【知識・技能】 ・場面や状況に応じて、日本語を用いた的確な判断・適切な表現をすることができる。【思考・判断・表現】 ・日本語の学修に主体的かつ協働的に取り組むことができる。【主体性・協働性】
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 ペアワーク (2回)</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 遠隔授業を行う場合、一部の課題提出・返却(コメント付き)にMSTeamsを活用します。</p> <p>【その他特記事項】 全体を3つのグループに分けて実施するため、2回目以降の授業はそれぞれ担当者別の①～④の内容となります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 各教員の授業回 (4回ずつ) の平常点、eラーニングの学修成果、全体授業での課題達成状況。</p> <p>【割合】 各教員の授業回 (4回ずつ) の平常点をそれぞれ20%とし、eラーニングの学修成果を20%、全体授業での課題達成状況 (漢字テスト含む) を20%として合算します。</p>
教科書・テキスト	漢字検定3級 頻出順完成問題 (増進堂)
参考書	各教員が授業の中で提示する場合があります。
授業時間外の学修について (事前・事後学習について)	eラーニング「アオドリ ワカドリコース」の学修がこれにあたります。また、それぞれの教員の授業内容に応じた【事前学修】 【事後学修】 が授業時間外の学修として「授業の内容」に示されています。
履修上の留意事項	授業内での活動を重視します。積極的に授業に参加してください。
オフィスアワー	<p>大澤：水曜2限、木曜4限 (大澤研究室：4-403)</p> <p>三木：研究室は1号館307。月、火、木の昼休み (12時30分～13時)</p> <p>渡口：授業終了後に、非常勤講師の控室で相談に応じる。</p>
課題に対するフィードバックの方法	各教員とも、提出の次の授業週にコメントを付して返却する形をとります。
実務経験	<p>大澤：国立高専における1～3年次生「国語」担当 (5年間)</p> <p>渡口：新聞記者</p> <p>三木：高等学校における1～3年次生「国語」担当 (3年間)</p>
その他	特記事項なし

授業の内容	<p>第1回 全体授業 (オリエンテーション) 学年を3つのグループに分け、次の週からグループ別の授業を展開することなど、本科目の進め方や教室外の学修、eラーニングの活用などについて説明。 【事前学修】 シラバスを精読する。 【事後学修】 グループ別授業の担当教員と授業内容を確認し、必要な準備をする。</p> <p>第2回 渡口① 元号「令和」の出典・中学入試最難関に挑戦 (漢字クイズ=灘中の問題)・漢字ドリル (熟語の構成)。 【事前学修】 第1回目の全体授業で指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】 本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p> <p>第3回 渡口② 新聞記事から探る①三種の漢字について・漢字ドリル (四字熟語)。 【事前学修】 前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】 本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p> <p>第4回 渡口③</p>
-------	--

	<p>新聞記事から探る②漢字で表す外国名・漢字ドリル(部首)。 【事前学修】前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>
第5回	<p>渡口④ 新聞記事から探る③こんなに変わった珍苗字・漢字ドリル(同音同訓異字)。 【事前学修】前時に指示された事前の学修に取り組む。 【事後学修】本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>
第6回	<p>三木① 「名前」を感じる・知る・紹介する(あいうえお作文)・漢字ドリル。 【事前学修】あいうえお作文を考える。 【事後学修】名前の由来を知らない人は必ずご両親などに尋ねておく。</p>
第7回	<p>三木② 季節を感じる・知る(年中行事と記念日クイズ)・漢字ドリル。 【伝統文化に学ぶ、伝統文化の世界の授業に繋げる予定】 【事前学修】月ごとの行事を書いてみる。 【事後学修】気になる行事に関して、由来や内容に関して調べてみる。</p>
第8回	<p>全体授業(中間まとめ) 漢字100問テスト、中間アンケートなど。 【事前学修】これまでの授業内容を振り返るとともに、漢字テストのために必要な準備をおこなう。 【事後学修】返却後の漢字テストを確認し、誤答部分について知識を補填・更新しておくとともに、次回以降の各担当教員から指示された授業の準備をおこなう。</p>
第9回	<p>三木③ 他者を感じる・知る(卒業生からの学び一話す)・漢字ドリル。 【事前学修】メモの取り方について考える。 【事後学修】卒業生のプレゼンテーションから得たこと(内容はいうまでもなく、話し方、メモの取り方、まとめ方)を振り返る。</p>
第10回	<p>三木④ 他者を感じる・知る(卒業生からの学び一書く)・漢字ドリル。 【事前学修】指定されたYouTubeを見て、メモをとる。 【事後学修】授業中に紹介した他のYouTubeをみる。</p>
第11回	<p>大澤① 職場想定自己紹介、「ことばあて」(伝達力を鍛えるペアワーク)、漢字ドリル。 【事前学修】将来つきたい職業・職種について考え、現時点の希望進路を考えておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第12回	<p>大澤② 「かんじがいいね」(表記法に関するセルフワーク)、「図形あて」(伝達力を鍛えるペアワーク)、漢字ドリル。 【事前学修】漢字かな交じり表記の長所について考えておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第13回	<p>大澤③(メディアセンターにて実施) 専門分野関連書籍の書評作成演習。漢字ドリル。 【事前学修】メディアセンターに入館し、自分の専門分野に関連する書籍を探しておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、本時に指示された次回授業の準備をおこなう。</p>
第14回	<p>大澤④ 文章の要約に関する演習(セルフワーク)、漢字ドリル。 【事前学修】文章を要約した経験を振り返り、それについてコメントできるようにしておく。 【事後学修】本時の内容を振り返り、次回のために指示された授業の準備をおこなう。</p>
第15回	<p>全体授業(最終まとめ) 科目全体の学修内容を総括。漢字確認テスト、授業アンケートなど。 【事前学修】各教員の授業内容を振り返るとともに、漢字の確認テストのために必要な準備をおこなう。 【事後学修】本授業全体の内容を振り返り、自分自身の日本語力をさらに伸ばしていくために今後取り組むべきことは何か考える。</p> <p>※グループごとに、第2～7回および第9～14回の内容と担当者が変わります。第1回の授業で詳しく説明します。</p>

講義科目名称： プレゼンテーション演習（H）

授業コード： 51101200

英文科目名称： Presentation Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	選択
担当教員			
大澤 茂男			
開講曜限	授業形態		
火1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p>
---------	---

科目の概要・目的	プレゼンテーションという人間の行為(働きかけ)について総合的に学ぶ概論をふまえ、実践的なプレゼンテーション能力の向上を目指して演習します。高度な栄養指導や給食管理業務に携わる管理栄養士にとって必要なプレゼンテーション技術を身につけていきます。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションについての知識を総合的に活用した資料作りができる。【知識・技能】 ・プレゼンテーションという行為（あるいはコミュニケーション）がどのような要素から成り立っているかを理解し、それを踏まえた計画と実行ができる。【思考・判断・表現】 ・プレゼンテーションに関して本授業で学びえたことを以後の自身の生活の中に生かそうとする態度や意欲を有している。【主体性】
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 振り返り時には基本的にディスカッションを取り入れます。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 クリッカーやタブレットは使用しません。</p> <p>【その他特記事項】 なし。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 準備段階の学修、発表時のパフォーマンス、事後振り返りの活動、総まとめの活動</p> <p>【割合】 準備段階の学修30%、発表時のパフォーマンス30%、事後振り返りの活動30%、総まとめの活動10%とし、すべて平常点として評価します。</p>
教科書・テキスト	教員自作の資料（スライド、プリント）を用います。
参考書	各回のテーマに沿った文献などを授業中に適宜紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業時に課される課題を授業時間外で仕上げる 경우가多くあります。また、各回のテーマに関連する事前学習をその前の回に指示することがあります。
履修上の留意事項	特別な場合を除き、「プレゼンテーション概論」を受講し単位を修得していることが本科履修の前提となります。
オフィスアワー	時間割確定後に改めて表示します。 (4-403研究室)
課題に対するフィードバックの方法	発表課題については当該授業時間中に直接コメントします。また、事前にデータで提出する課題についてはTeamsを活用してコメントデータを送信します。
実務経験	特記事項なし
その他	特記事項なし

授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 各回の内容を説明し、プレゼンテーションについて実践することの意義を確認しあう。 【事前学修】 シラバスを精読しておく。 【事後学修】 前学期に履修した「プレゼンテーション概論」の学修成果について改めて振り返っておく。</p> <p>第2回 プレゼンテーションの計画と実践① 挨拶のプレゼンテーション。 【事前学修】 職場での挨拶を想定し、構想を練っておく。 【事後学修】 映像収録した自身のパフォーマンスを視聴してコメントしておく。</p> <p>第3回 プレゼンテーションの計画と実践② 紹介のプレゼンテーション。 【事前学修】 あらかじめ自身で設定した商品・サービスの紹介を行うための構想を練っておく。 【事後学修】 映像収録した自身のパフォーマンスを視聴してコメントしておく。</p> <p>第4回 プレゼンテーションの計画と実践③ 説明のプレゼンテーション。 【事前学修】 あらかじめ自身で料理を決め、そのレシピを口頭で説明するための構想を練っておく。 【事後学修】 映像収録した自身のパフォーマンスを視聴してコメントしておく。</p>
-------	---

第5回	<p>プレゼンテーションの計画と実践④</p> <p>説得のプレゼンテーション. 【事前学修】あらかじめ売り込もうと決めた商品を買ってもらうためのセールストーク行うための構想を練っておく. 【事後学修】映像収録した自身のパフォーマンスを視聴してコメントしておく.</p>
第6回	<p>プレゼンテーションの計画と実践⑤</p> <p>行動喚起のプレゼンテーション. 【事前学修】あらかじめ設定した「試合前ミーティング」を行うための構想を練っておく. 【事後学修】映像収録した自身のパフォーマンスを視聴してコメントしておく.</p>
第7回	<p>プレゼンテーションの計画と実践⑥</p> <p>セレモニーのプレゼンテーション. 【事前学修】あらかじめ設定した「大学創立100周年記念」のお祝いスピーチを行うための構想を練っておく. 【事後学修】映像収録した自身のパフォーマンスを視聴してコメントしておく.</p>
第8回	<p>中間ふりかえり</p> <p>第2回～第7回の実践リフレクション. 【事前学修】ここまでのプレゼンテーションの実践を大まかに振り返り、自分のスキルの現状と課題についてコメントできるようにしておく. 【事後学修】後半授業の課題リストを作成する.</p>
第9回	<p>プレゼンテーションのツール活用（資料作り）</p> <p>プレゼンテーションの実践に用いる資料の作成（主にPC以外のツール）. 【事前学修】手書き資料や印刷資料の草案を作成する. 【事後学修】作成した資料について受講者相互にコメントし、評価し合う.</p>
第10回	<p>プレゼンテーションにおけるビジュアル化</p> <p>図解化資料作りを中心に. 【事前学修】プレゼンテーションテーマを仮決めし、資料集めをする. 【事後学修】集めた資料から作成した図解化資料を自己評価する.</p>
第11回	<p>フリーテーマのプレゼンテーション実施のための準備①</p> <p>プラン作成と意見交換. 【事前学修】どのようなテーマでプレゼンテーションを行うか、考えをまとめておく. 【事後学修】受講者どうしで発表、共有した内容をもとに考えを修正・補強しておく.</p>
第12回	<p>フリーテーマのプレゼンテーション実施のための準備②</p> <p>PC室での作成作業. 【事前学修】作成する資料のおおよその流れを図式化しておく. 【事後学修】互いに閲覧し合った資料内容（中途段階）を参考に自身の資料を手直しする.</p>
第13回	<p>フリーテーマのプレゼンテーション実施のための準備②</p> <p>PC室ほかでの作成作業. 【事前学修】前時終了後の作業を入念に行う. 【事後学修】資料を完成させ、発表の準備をする.</p>
第14回	<p>フリーテーマのプレゼンテーション実施と相互評価</p> <p>各人によるプレゼンテーション実践と記録、対話による相互評価. 【事前学修】資料を完成させ、発表の準備をする. 【事後学修】受講者相互で行った評価を踏まえ、自分の実践を自己評価する.</p>
第15回	<p>まとめ</p> <p>授業全体の自己評価と相互評価、授業アンケート. 【事前学修】前時の発表への自己評価を踏まえ、授業全体の自己評価ができるよう準備しておく. 【事後学修】学修全般への振り返りをもとに、自身の今後の生活に学修の成果を生かしていく.</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
太田 誠			
開講曜限	授業形態		
火4、水2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>（Hクラス用） 本講義では、コミュニケーションを人と人との情報のやり取りと捉えて検討する。まず、コミュニケーションのチャネルの多様性について概観し、コミュニケーションの基礎となる人間の情報処理についての基礎事項を学ぶ。そのうえで、言語の役割、非言語コミュニケーション、説得的コミュニケーション、情緒の表出などのコミュニケーションの諸側面について検討する。加えて、近年大きく変貌を遂げているメディアとコミュニケーションとの関わりについて考察する。</p> <p>コミュニケーションの多様性およびコミュニケーションに関わる要因についての理解をめざし、情報の送り手・受け手としてのあり方を考察する。その中で、栄養・食事指導のあり方、食生活に関する情報の影響についても検討する。</p> <p>管理栄養士として、「人間や生活について目を向け、広い視点から人に向かい合い、人間の行動特性を理解し、栄養・食事指導ができるようになること」、「職業人として豊かな人間関係を作り、多様な職種の人と協調し、チーム医療などにも参画すること」などの基礎作りをめざす。</p>
----------	--

学習到達目標	<p>【知識】</p> <p>コミュニケーションのチャネルの種類を列挙できるようになる。</p> <p>人間の情報処理の基本的事項が説明できるようになる。</p> <p>言語の役割について記述できるようになる。</p> <p>非言語コミュニケーションの種類を記述できるようになる。</p> <p>言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションとの関係について説明できるようになる。</p> <p>説得的コミュニケーションに関わる要因について記述できるようになる。</p> <p>情緒表出の普遍性と文化差について例を挙げて説明できるようになる。</p> <p>現代のメディアの状況について記述できるようになる。</p> <p>メディアリテラシーについて説明できるようになる。</p> <p>フードファディズムについて説明できるようになる。</p> <p>【態度・技能】</p> <p>情報の送り手・受け手としての自分のコミュニケーションの特徴を指摘できるようになる。</p> <p>情報の送り手・受け手としての自分のコミュニケーションのあり方に配慮できるようになる。</p> <p>メディアからの情報を主体的批判的に受け取ることができるようになる。</p> <p>栄養指導場面や日常生活で、目的に応じて、コミュニケーションのチャネルの種類やコミュニケーションに影響する要因に配慮して、行動することができるようになる。</p>
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習、実験、体験学習：コミュニケーション行動に関わる実習、実験、体験学習を行います。 ・グループワーク、プレゼンテーション（発表）：第9回では、グループワークにより詐欺の事例についてディスカッションしまとめ、発表（プレゼンテーション）します。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>【その他特記事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 授業時に「復習課題プリント」を配布します。 提出用：授業時に指示に従って記入し、提出してください。 保存用：「提出用と同じ内容」と「自主的により理解を深めるための課題」から成る自習用課題です。持ち帰り、レジュメや資料、参考書等の内容を確認しながら記入してください。 4. 授業への理解を深める目的で、授業内容を自分の経験等と結びつけて考察するレポートをまとめます。詳しくは授業中に指示します。レポートの書き方について特別時間で説明・演習を行うので、必ず出席してください。
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題（各回提出：20%）、定期試験（筆記試験：80%）により評価します。 2. 各回授業で提出の課題は授業内容の理解を助けることを主眼とし、評価の割合としては定期試験を重視します。 3. 授業出席が授業回数の2/3未満の者および受講に著しく問題のある者については単位を認定しません。 4. 詳細は初回の授業時に説明します。 <p>【割合】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題（各回提出：20%）、定期試験（筆記試験：80%）により評価します。
---------	---

教科書・テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料プリント：レジュメ（授業の要旨をまとめたもの）と資料から構成されています。 2. 課題プリント（各回提出用、自習用） 3. 視聴覚教材 など
----------	---

参考書	【コミュニケーションにかかわるもの】
-----	--------------------

	<p>1. ロバート・B・チャルディーニ 社会行動研究会 訳 2007 影響力の武器 第二版 誠信書房 2. 大坊郁夫 1998 しぐさのコミュニケーション 人は親しみをどう伝えあうか セレクション社会心理学-14 サイエンス社 3. 橋元良明 2011 メディアと日本人-変わりゆく日常 岩波新書 4. 川上善郎 1997 セレクション社会心理学-16 うわさが走る -情報伝播の社会心理- サイエンス社 5. 河合優年 松井惟子 1996 看護実践のための心理学 メディカ 6. 草野厚 2000 テレビ報道の正しい見方 PHP新書131 PHP研究所 7. 中島義明 神山進 1996 人間行動学講座1 まとう-被服行動の心理学- 朝倉書店 8. 小川捷之 椎名健 編著 心理学パッケージ-心の世界を解き明かす-part 4 -part 5 9. 齊藤勇 編 2005 対人心理学トピックス100 新装版 10. 高木修 監修 大坊郁夫 神山進 1996 被服と化粧の社会心理学 北大路書房 11. 高橋久仁子 2007 フードファディズム メディアに惑わされない食生活 中央法規 12. 取違孝昭 1996 ブルーバックB-1116 詐欺の心理学 どうだます? なぜだまされる? 講談社 13. 東京大学情報学環メルプロジェクト 日本民間放送連盟 編 2005メディアリテラシーの 道具箱 テレビを見る・つくる・読む 東京大学出版会総務省編 14. 総務省編 情報通信白書 15. 放送倫理検証委員会 2011 委員会決定第12号情報バラエティー2番組3事案に関する意見 【コミュニケーションと関連する心理学全般に関わるもの】 1. 鹿取廣人 杉本敏夫 鳥居修晃 編 2015 心理学 第5版 東京大学出版会 2. 飯長喜一郎 岩立志津夫 2008 精神保健福祉士・社会福祉士 養成基礎セミナー第2巻 心理学 心理学理論と心理的支援 へるす出版 3. 桜井茂男 岩立京子編著 2010たのしく学べる乳幼児の心理改訂版 福村出版 以上の参考書の内容を一部紹介しながら授業を進めます。興味ある内容についての参考書を読んで理解を一層深めてください。</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>1. 復習課題プリントを使って復習しましょう。授業時に「復習課題プリント」を配布します。 提出用：授業時に指示に従って記入し、提出してください。保存用：「提出用と同じ内容」と「自主的により理解を深めるための課題」から成る自習用課題です。持ち帰り、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入してください。疑問点はメモし、質問しましょう。 2. 配布資料プリントの資料や参考書を読んで理解を深めましょう。詳細は授業時に指示します。 3. 授業への理解を深める目的で、授業内容を自分の経験等と結びつけて考察するレポートもまとめます。詳しくは授業中に指示します。</p>
履修上の留意事項	<p>1. 用語を憶えると同時にストーリーの理解に努めてください。 2. 他の授業での学修内容や、生活の中での経験、自分の興味関心と関連づけて考えるように努めてください。 3. 配布物をファイル等に整理しておきましょう。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日5限(事前に連絡してから訪問してください。) その他の時間も可能な限り対応します。事前に連絡してから訪問してください。 授業内容についての質問をする際には、質問内容に関わるレジュメ、資料、筆記用具などを持参してください。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>1. 授業時に提出されたカード：授業の参考にすると同時に、みなさんからの質問等で重要なものに対しては後の授業でコメントします。 2. 復習課題等：授業中に学生の質問を受けつけたり、答え合わせをしたり、学生の記入内容へのコメントなどをします。 3. 筆記試験：a-portalおよび後期授業等でコメントします。</p>
実務経験	
その他	<p>授業開始時刻までに着席しましょう。 授業開始前に必要物(テキスト、ノート、筆記用具など)を準備し、配布物に目を通しましょう。 配布物をファイル等に整理しておきましょう。 授業中私語厳禁とします。授業中、携帯電話は電源を切り鞆の中にしまってください。 積極的に質問をしましょう。</p>
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 授業についての事前アンケートを実施した上で、授業の概要、授業計画、授業の方法、学習到達目標、成績評価の方法などについて確認する。 【事前学修】事前準備：事前にシラバスを読んでおくこと。印刷したシラバスを持参すること。 【事後学修】復習課題を使って、授業の概要、授業計画等について確認しておくこと。シラバスや配布資料プリントの内容を確認しながら記入すること。</p> <p>第2回 コミュニケーションのチャンネル コミュニケーションのチャンネルの種類と多様性について検討する。 【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後：・復習課題を使って、コミュニケーションのチャンネルについてまとめておくこと。レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。</p> <p>第3回 情報処理システムとしての人間(1) -認知の基礎を中心に- 人間は、外界からの情報を捉える(認知する)とき、情報をそのまま取り込み保存するのではない。情報を選択したり、情報のまとめりづけをしたりといった様々な処理を行っており、そうした処理が、コミュニケーションの基礎となっている。ここでは、「認知の基礎過程」の中から知覚と記憶について、簡単な実験・実習を交えながら検討する。 【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中に行った実験・実習について、方法と結果をまとめておくこと。</p> <p>第4回 情報処理システムとしての人間(2) -対人認知を中心に- 人についての情報をどう捉えているか(対人認知)について、印象形成、性格認知のバイアス、認知の均衡化などの観点から検討する。実験実習や発表を交える。</p>

第5回	<p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中に行った実験について、方法と結果をまとめておくこと。</p> <p>言語コミュニケーション。 言語の役割と獲得過程について検討する。</p>
第6回	<p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】授業後：復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。</p> <p>非言語コミュニケーション（1）近言語、身体言語、対人距離 コミュニケーションのチャネルとして、非言語コミュニケーションも非常に重要であり、言語と補い合う働きもしている。ここでは、非言語コミュニケーションの中から、近言語、身体言語、対人距離について、実験・実習も交えながら検討する。</p>
第7回	<p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業中に行った実験について、方法と結果をまとめておくこと。</p> <p>非言語コミュニケーション（2）被服が伝達するメッセージ、化粧の効果 非言語コミュニケーションのなかから、被服が伝達するメッセージ、化粧の効果について検討する。</p>
第8回	<p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 前回・今回の授業を踏まえて、自分の非言語コミュニケーションの特徴について検討し、まとめておくこと。</p> <p>説得的コミュニケーション（1）説得的コミュニケーションに関わる要因 説得的コミュニケーションには様々な要因が関わることが知られている。そうした要因の中から、情報源の信憑性、情報の提示方法、情緒の説得などのついて検討する。その上で、生活の中で、説得した体験、説得された体験について振り返る。</p>
第9回	<p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) グループごとに次回授業での発表準備を進めておく。</p> <p>説得的コミュニケーション（2）詐欺 グループごとに詐欺の事例について、事例の概要、影響していると考えられる要因などを発表（プレゼンテーション）し、詐欺被害の防止等について、コミュニケーションの観点から話し合う（ディスカッション）。</p>
第10回	<p>【事前学修】事前準備：グループワークで準備する。グループごとに、詐欺事例の資料を調べ、事例の概要、影響していると考えられる要因などをディスカッションし、発表の準備を行っておくこと。詳しくは第8回授業時に指示する。</p> <p>【事後学修】授業後：復習課題を使って、発表とディスカッションから考えたことをまとめておくこと。</p> <p>情緒の表出 情緒の表出様式（表情）の普遍性と文化差等について検討する。</p>
第11回	<p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】授業後 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 資料を読んで、資料中の実験や調査について方法と結果をまとめておく。</p> <p>コミュニケーションとメディア（1）現代メディアの状況 現在のメディア状況とコミュニケーションについて検討する。</p>
第12回	<p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】授業後 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 資料を読んで、現在のメディア状況についてまとめておく。 3) 現在のメディア状況と関わる自分の体験についてまとめておく。</p> <p>コミュニケーションとメディア（2）「うわさ」「ブログ」を考える 「うわさ」「ブログ」「SNS」などのコミュニケーションについて、資料を手がかりに検討する。</p>

	<p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 資料を読んで、関連する自分の体験についてもまとめておく。</p> <p>コミュニケーションとメディア (3) メディアリテラシー メディアからの情報を主体的批判的に受け取る能力「メディアリテラシー」について、資料をてがかりに検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 自分が体験した関連する事例についてもまとめておく。</p> <p>コミュニケーションとメディア (4) フードフェディズム 「食情報」の影響について、資料を手がかりに検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>【事後学修】1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、レジュメや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 自分が体験した関連する事例についてもまとめておく。</p> <p>まとめ これまで学んだ内容を振り返り、授業の目標が達成されたか確認する。 授業アンケート</p> <p>【事前学修】 これまでに配布したレジュメ・資料・課題をまとめて持参すること。 【事後学修】 復習課題を使って、基本的な事項を再度確認しておくこと。</p>
第13回	
第14回	
第15回	
定期試験	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
太田 誠			
開講曜限	授業形態		
火3、木4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p>
科目の概要・目的	<p>（Hクラス用）人間生活を考える際に、その主体である人間行動の理解が重要である。本講義では、生活のなかのさまざまな行動の基礎過程、特に知覚、学習、動機づけについて心理学の視点から焦点をあてて検討する。</p> <p>生活の中の人間行動に着目し、心理学の考え方についての理解をめざす。加えて、食行動の機制や栄養指導の過程、運動における行動変容を心理学の視点から検討する目を養うこともめざす。</p> <p>本講義は、人間行動の理解を通して、広い視点から人に向かい合い、栄養・食事指導ができるようになることをめざす管理栄養士養成課程の授業理解を助けるものである。特に、管理栄養士課程カリキュラムにおいて、人間の行動特性とその基本的メカニズムを理解することを目標の一つとしている「社会・環境と健康」、行動科学の理論と行動変容技法を学ぶ「栄養教育論」の内容との関連が深い。</p> <p>また、健康運動実践指導者課程の科目「運動指導の心理学的基礎」に充てられる。さらに、教職課程（栄養教諭課程）の科目「教育心理学」の内容理解の基礎となる。</p>
学習到達目標	<p>【知識】 心理学の基本的な概念や用語が説明できるようになる。 知覚、学習、動機づけなどの分野の基礎的な用語が説明できるようになる。</p> <p>【技能】 栄養指導や運動実践指導にかかわる行動変容の技法を活用することができるようになる。</p> <p>【態度】 行動を科学的に捉えることができるようになる。 データに基づいて考えることができるようになる。 生活の中の人間行動を心理学的視点で捉えることができるようになる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習、実験、：図版や簡単な装置を使用しての実験・観察などを行います。 特に、第6回～8回の「環境の認知 知覚情報の処理過程—もの見え方を中心に」では、図版や簡単な装置を観察や実験を行います。 ・グループワーク：グループで図版や簡単な装置を使用しての実験・観察を実施し、結果についてディスカッションします。 <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 3. 授業時に「復習課題プリント」を配布します。 提出用：授業時に指示に従って記入し、提出してください。 保存用：「提出用と同じ内容」と「自主的に理解を深めるための課題」から成る自習用課題です。持ち帰り、ノートや資料、テキストの内容を確認し記入してください。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題（各回提出：20%）、定期試験（筆記試験：80%）により評価します。 2. 各回授業で提出の課題は授業内容の理解を助けることを主眼とし、評価の割合としては定期試験を重視します。 3. 授業出席が授業回数の2/3未満の者および受講に著しく問題のある者については単位を認定しません。 4. 詳細は初回の授業時に説明します。 <p>【割合】 課題（各回提出：20%）、定期試験（筆記試験：80%）により評価します。</p>
教科書・テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鹿取廣人 杉本敏夫 鳥居修晃 編 2020 心理学 第5版補訂版 東京大学出版会 2. 資料プリント 3. 復習課題プリント（各回提出用、自習用） 4. 図版、装置など
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 飯長喜一郎 岩立志津夫 編 2008 精神保健福祉士・社会福祉士 養成基礎セミナー第2巻 心理学 心理学理論と心理的支援 へるす出版 2. 鳥居修晃 川上清文 高橋雅延 遠藤利彦 2011心のかたちの探求 異形を通して普通を知る 東京大学出版会 3. 永田良昭 2011 心理学とは何なのか 中公新書 4. 藤永保 斎賀久敬、春日 喬、内田 伸子 1987 人間発達と初期環境 有斐閣 5. 桜井茂男 岩立京子編著 2010たのしく学べる乳幼児の心理改訂版 福村出版 6. 今田 純雄 編 2005 食べることの心理学—食べる、食べない、好き、嫌い 有斐閣選書 7. 岩本隆茂 1988 オペラント心理学 その基礎と応用 勁草書房

	<p>上記の参考書は、心理学の様々な研究方法や応用面を知ったり、より広い視野で考える上で参考にしてください。授業中にも参考書の内容を紹介します。</p> <p>その他の参考書は授業中に紹介します。</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>1. 復習課題プリントを使って復習しましょう。授業時に「復習課題プリント」を配布します。 提出用：授業時に指示に従って記入し、提出してください。保存用：「提出用と同じ内容」と「自主的により理解を深めるための課題」から成る自習用課題です。持ち帰り、ノートや資料、テキストの内容などを確認しながら記入してください。疑問点はメモし、質問しましょう。 2. テキストや配布資料プリントの資料を読んで理解を深めましょう。詳細は授業時に指示します。</p>
履修上の留意事項	<p>教職課程（栄養教諭課程）履修者は必ず履修すること。心理学は、教職課程（栄養教諭課程）の科目「教育心理学」の内容理解の基礎となります。</p> <p>用語を憶えると同時にストーリーの理解に努めてください。 他の授業での学修内容や、生活の中での経験、栄養指導、自分の興味関心と関連づけて考えるように努めてください</p>
オフィスアワー	<p>月曜日5限（事前に連絡してから訪問してください。） その他の時間も可能な限り対応します。事前に連絡してから訪問してください。 授業内容についての質問をする際には、質問内容に関わるテキスト、ノート、プリント、筆記用具などを持参してください。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>1. 授業時に提出されたカード：授業の参考にすると同時に、みなさんからの質問等で重要なものに対しては後の授業でコメントします。 2. 復習課題等：授業中に学生の質問を受けつけたり、答え合わせをしたり、学生の記入内容へのコメントなどをします。 3. 筆記試験：a-portalおよび後期授業等でコメントします。</p>
実務経験	
その他	<p>授業開始時刻までに着席しましょう。 授業開始前に必要物（テキスト、ノート、筆記用具など）を準備し、配布物に目を通しましょう。 配布物をファイル等に整理しておきましょう。 授業中私語厳禁とします。授業中、携帯電話は電源を切り鞆の中に入れてください。 積極的に質問をしましょう。</p>
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 授業についての事前アンケートを実施した上で、授業の概要、授業計画、授業の方法、学習到達目標、成績評価の方法などについて確認する。</p> <p> 【事前学修】事前準備：事前にシラバスを読んでおくこと。テキストを購入済みであれば、テキストを持参すること。 【事後学修】復習用の課題で、授業内容について確認しておくこと。</p> <p>第2回 心理学とは（1）：心理学とは何か 心理学の定義と研究領域について学ぶ。</p> <p> 【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、心理学の定義や研究領域につまとめておくこと。その際、ノートや配付資料プリントの内容などを確認しながら記入すること。 2) 授業で紹介された心理学の研究領域と自分が予想した領域との違いをまとめておくこと。</p> <p>第3回 心理学とは（2）：心理学の方法 観察、実験について理解を深める。</p> <p> 【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) テキスト、資料で紹介した観察・実験の事例について、目的、方法、結果をまとめ、その観察や実験からわかったことをまとめておくこと。</p> <p> 次の準備： 配布するケーススタディの資料を読んで、事例の概要をまとめておくこと。</p> <p>第4回 心理学とは（3）：心理学の方法 検査、ケーススタディ、研究倫理について理解を深める。</p> <p> 【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 前回配布したケーススタディの資料を読んで、事例の概要をまとめておくこと。 【事後学修】授業後： 1) 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) テキストを参考に、検査の種類をまとめておくこと。 3) ヘルシンキ宣言の概要を調べておくこと。</p> <p>第5回 心理学とは（4）：心理学の歴史 心理学の基礎となる考え方の成り立ちを学ぶ。</p> <p> 【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。</p>

第6回	<p>環境の認知 知覚情報の処理過程—もの見え方を中心に（1）情報の選択 感覚器官等による情報の選択について検討する。 図版や簡単な装置を使用しての実験・観察なども実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1）復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2）授業中に行った観察や実験について、方法と結果をまとめておくこと。</p>
第7回	<p>環境の認知 知覚情報の処理過程—もの見え方を中心に（2）知覚の体制化について解説する。 知覚の体制化について検討する。 図版や簡単な装置を使用しての実験・観察なども実施する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1）復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2）授業中に行った観察や実験について、方法と結果をまとめておくこと。</p>
第8回	<p>環境の認知 知覚情報の処理過程—もの見え方を中心に（3）奥行知覚等について解説する。 奥行知覚等について検討する。 図版や簡単な装置を使用しての実験・観察なども実施する。</p> <p>【事前学修】事前準備： この回の図版観察の練習課題を事前に配布するので、可能な範囲で試しておくこと。但し、見え方には個人差があるので、可能な範囲で良い。 【事後学修】授業後： 1）復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2）授業中に行った観察や実験について、方法と結果をまとめておくこと。</p>
第9回	<p>学習と行動変容・運動における行動変容（1）：学習とは、学習の基礎過程（古典的条件づけ） 学習の定義について学んだ上で、学習の基礎過程、特に古典的条件づけ（レスポナント条件づけ）について学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1）復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2）授業中紹介した実験について、方法と結果をまとめておくこと。 3）関連する自分の体験についてまとめておくこと。</p>
第10回	<p>学習と行動変容・運動における行動変容（2）：学習の基礎過程（道具的条件づけと行動変容） 学習の基礎過程、特に道具的条件づけ（オペラント条件づけ）と行動変容について学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1）復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2）授業中紹介した実験について、方法と結果をまとめておくこと。 3）関連する自分の体験についてまとめておくこと。</p>
第11回	<p>学習と行動変容・運動における行動変容（3）報酬と罰、観察学習・社会的学習理論、行動療法 罰刺激による行動のコントロールについて学び、報酬と罰の働きの違いを検討する。さらに、観察学習・社会的学習理論や行動療法について学ぶ。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1）復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2）授業中紹介した実験について、方法と結果をまとめておくこと。 3）関連する自分の体験についてまとめておくこと。</p>
第12回	<p>動機づけ—摂食行動の調節を中心に：（1）生理的基礎をもつ動機づけ 動機づけの概念について学んだ上で、食の動機づけについて、視床下部の調節、他の要因について検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1）復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2）関連する自分の体験についてまとめておくこと。</p>
第13回	<p>動機づけ—摂食行動の調節を中心に：（2）生理的基礎をもつ動機づけ 食の動機づけについて肥満者の食行動、神経性食欲不振症について検討する。</p> <p>【事前学修】シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。 【事後学修】授業後： 1）復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料</p>

第14回	<p>プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。 2) 授業で紹介した実験について、方法と結果をまとめておくこと。 3) 肥満や神経性食欲不振症への管理栄養士としての対応をまとめておくこと。 動機づけ－摂食行動の調節を中心に：(3) その他の動機づけ、ストレスと認知等食の動機づけ以外の動機づけやストレスと認知の関わりについて検討する。</p> <p>【事前学修】 シラバスと第1回授業で配布した資料を使って、この回の授業内容を確認しておくこと。</p>
第15回	<p>【事後学修】 授業後：復習課題を使って、基本的な用語についてまとめておくこと。その際、テキストや配付資料プリントの内容、ノートなどを確認しながら記入すること。</p> <p>まとめ これまで学んだ内容を振り返り、授業の目標が達成されたか確認する。 授業アンケート</p>
定期試験	<p>【事前学修】 これまでに配布したレジュメ・資料・課題をまとめて持参すること。 【事後学修】 復習課題を使って、基本的な事項を再度確認しておくこと。</p>

講義科目名称： 情報処理（H）

授業コード： 51101700 51101710

英文科目名称： Information Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
辰口 和保			
開講曜限	授業形態		
火5、水4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p>
科目の概要・目的	<p>パソコンの普及によって、情報システムを活用する技能は、現代人の基本的な技能として定着してきた。中でも電子メールを含めた文書処理(ワードプロセッシング)は、もっとも基本的な技能といえる。これは、DP1-1の科学的な知識・考え方の基本にあたり、またネットワーク社会はDP1-2の社会と環境の重要な構成要素である。本講義では、実際にシステムを利用することで、大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)とMicrosoft365について知り、情報システムのしくみを理解するとともに、その活用方法の基礎を学ぶ。</p> <p>注意！！ 再履修者は、必ず第1回授業に出席すること。欠席の場合、以降の出席を認めない。</p>
学習到達目標	<p>大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)を利用できる。</p> <p>Microsoft365を利用できる。</p> <p>メールシステムを利用できる。</p> <p>検索システムやネットワークドライブなどのネットワークツールを利用できる。</p> <p>情報セキュリティに配慮することができる。</p> <p>ネットワーク上で適切にふるまうことができる。</p> <p>簡単な文書作成を行える。</p> <p>各種文書ファイルを取り扱える。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>情報システムを実際に動作させながら授業を進める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>パソコンを利用するとともに、教室システムやメール、Microsoft Teamsで確認を行いながら授業を進める。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>平常点および課題（レポートを含む）</p> <p>【割合】</p> <p>平常点40%、課題（レポートを含む）60%</p>
教科書・テキスト	<p>大阪青山大学情報教育センター「コンピュータ利用の手引」</p> <p>その他、適宜、授業中に指示する。</p>
参考書	<p>Microsoft 365 トレーニング</p> <p>https://support.microsoft.com/ja-jp/training?redirectSourcePath=%252fja-jp%252foffice-training-center</p> <p>その他、適宜、授業中に紹介する。</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>課題を作成し、教材の復習を行うこと。</p>
履修上の留意事項	<p>課題は自力で行うこと。</p> <p>再履修者は、必ず第1回授業に出席すること。欠席の場合、以降の出席を認めない。</p>
オフィスアワー	<p>水曜13:00~14:30</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>対面授業の中で、または、メールやMicrosoft Teamsを介して</p>
実務経験	<p>特記事項なし</p>
その他	<p>おもにコンピュータ室で授業を行う。</p> <p>授業の進行具合により、内容を変更することがある。</p> <p>プリント等の配布は、ひとり1部のみとする。紛失しても再配布しないので注意すること。</p>
授業の内容	<p>第1回</p> <p>はじめに</p> <p>大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)の概要 ユーザー登録</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読んでおく。

第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、ユーザー登録に必要なものを知っておく。 ・利用の手引を読んで、本学PCの操作方法の概要を知っておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行について再確認する。 ・本学のMicrosoft365へのサインインなどを試し、ユーザー登録完了を確認する。 <p>ネットワークとセキュリティ（1） ネットワークのしくみと構成 OAENSの動作の実際 情報セキュリティ</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、情報セキュリティの重要性を知っておく。 ・利用の手引を読んで、Microsoft365の概要について知っておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティについて、自分の取るべき具体的な行動を考える。
第3回	<p>ネットワークとセキュリティ（2） 電子メールの基礎 インターネットメールシステムのしくみと設定 電子メール活用技法</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、メールの仕組みを知っておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール利用のために必要な設定ができていないか確認する。
第4回	<p>ネットワークツール 情報の探索と共有 - 検索サイトの利用 検索条件の記述方法 その他のツール 配布プリントを参照し、身の回りのネットワークツールにはさまざまなものがあることを知る。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、クラウドコンピューティングについて知っておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドコンピューティングの重要性とそのセキュリティの重要性を再確認する。
第5回	<p>文書処理（1） 情報機器作業について 入力装置と入力技術について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、情報機器作業とその労働衛生ガイドラインについて知る。 ・入力装置の技術や種類について知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器作業の労働衛生について調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC利用時の作業環境や身体的な注意点を確認しておく。
第6回	<p>文書処理（2） 入力技術について ビジネスキーボード認定試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスキーボード認定試験について知り、練習ソフトを使って入力技能の判定を行う。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスキーボード認定試験について、確認しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力練習を行う。
第7回	<p>文書処理（3） 文書の形式と構造1 ビジネス文書とは ビジネス文書の形式 入力の実際 配布プリントを参照し、ビジネス文書の構造等について知る。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用の手引を読んで、Microsoft Word等の起動方法などを知っておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の体裁を知り、指示されたところまで文書入力を行い、保存する。
第8回	<p>文書処理（4） 文書の形式と構造2 ビジネス文書の装飾と印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文書作成の細部を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成された文書が保存されているか、確認しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内での文書の印刷方法について再確認する。
第9回	<p>文書処理（5） 文書の形式と構造3 一般文書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、ビジネス文書とは異なる一般文書について知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Wordの機能について簡単に調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示されたところまで、文書を作成しておく。
第10回	<p>文書処理（6） 文書の形式と構造4 一般文書の装飾と印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、一般文書作成の細目を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成された文書が保存されているか、確認しておく。 ・利用の手引きを読んで、教室でのプリンタ利用について再確認しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書作成の手順を再確認しておく。
第11回	<p>文書処理（7） 電子メールにおける文書 効果的なメール文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、メール文の構成や必要な要素や性質を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール文の書き方について調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がメールを書く際の具体的な注意点を考える。
第12回	<p>文書処理（8） コンピュータで文字を取り扱う方法 文字コード問題について コードとフォント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文字コードとは何かを知る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題を出題の予定。 【事前学修】 ・文字コードについて、簡単に調べておく。 【事後学修】 ・レポート課題のために授業で取り上げられた文字コードについてのトピックで、興味を持ったことを調べ、まとめる。 <p>第13回 文書処理（9）</p> <p>さまざまな文書の形式 DOC・DOCX・TXT・PDF・HTML・ODF e. t. c.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント参照し、文書ファイルとして取り扱われるファイルを種類を知る。 ・代表的な文書ファイル作成方法を知る。 【事前学修】 ・文書ファイル形式について、簡単に調べておく。 【事後学修】 ・よく利用される文書ファイル形式の作成方法を再確認する。
	<p>第14回 画像情報の取り扱い</p> <p>静止画と動画 さまざまな符号化方式 情報圧縮の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文字以外の情報のデータ化、特に画像情報のデータ化の方法を知る。 ・情報圧縮の方法を知る。 【事前学修】 ・画像のデータ化の方法を簡単に調べておく。 【事後学修】 ・自分の描いた画像が授業で紹介した方法でどのように圧縮されるか試してみる。
	<p>第15回 情報システムの今後</p> <p>ネットワークで接続された社会の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、ネットワークシステムにセキュリティが重要であることを再確認する。 ・配布プリントを参照し、文書のセキュリティを確保する方法を知る。 【事前学修】 ・これまでの授業内容を再確認する。 ・文書を安全に送受信する方法について調べておく。 【事後学修】 ・出題されている課題を再確認する。

講義科目名称： 情報処理（H・再履修）

授業コード： 51101720

英文科目名称： Information Processing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
辰口 和保			
開講曜限	授業形態		
土2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p>
科目の概要・目的	<p>パソコンの普及によって、情報システムを活用する技能は、現代人の基本的な技能として定着してきた。中でも電子メールを含めた文書処理(ワードプロセッシング)は、もっとも基本的な技能といえる。これは、DP1-1の科学的な知識・考え方の基本にあたり、またネットワーク社会はDP1-2の社会と環境の重要な構成要素である。本講義では、実際にシステムを利用することで、大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)とMicrosoft365について知り、情報システムのしくみを理解するとともに、その活用方法の基礎を学ぶ。</p> <p>注意！！ 再履修者は、必ず第1回授業に出席すること。欠席の場合、以降の出席を認めない。</p>
学習到達目標	<p>大阪青山教育情報ネットワーク(OAENS)を利用できる。</p> <p>Microsoft365を利用できる。</p> <p>メールシステムを利用できる。</p> <p>検索システムやネットワークドライブなどのネットワークツールを利用できる。</p> <p>情報セキュリティに配慮することができる。</p> <p>ネットワーク上で適切にふるまうことができる。</p> <p>簡単な文書作成を行える。</p> <p>各種文書ファイルを取り扱える。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>情報システムを実際に動作させながら授業を進める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>パソコンを利用するとともに、教室システムやメール、Microsoft Teamsで確認を行いながら授業を進める。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>平常点および課題（レポートを含む）</p> <p>【割合】</p> <p>平常点40%、課題（レポートを含む）60%</p>
教科書・テキスト	<p>大阪青山大学情報教育センター「コンピュータ利用の手引」</p> <p>その他、適宜、授業中に指示する。</p>
参考書	<p>Microsoft 365 トレーニング</p> <p>https://support.microsoft.com/ja-jp/training?redirectSourcePath=%252fja-jp%252foffice-training-center</p> <p>その他、適宜、授業中に紹介する。</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>課題を作成することで、教材の復習を行うこと。</p>
履修上の留意事項	<p>課題は自力で行うこと。</p> <p>注意！！ 再履修者は、必ず第1回授業に出席すること。欠席の場合、以降の出席を認めない。</p>
オフィスアワー	<p>水曜13:00～14:30</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>対面授業の中で、または、メールやMicrosoft Teamsを介して</p>
実務経験	<p>特記事項なし</p>
その他	<p>おもにコンピュータ室で授業を行う。</p> <p>授業の進行度合により、内容を変更することがある。</p> <p>プリント等の配布は、ひとり1部のみとする。紛失しても再配布しないので注意すること。</p>
授業の内容	<p>第1回</p> <p>はじめに</p> <p>はじめに この授業の概要 ユーザー登録の確認とメール設定の確認</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none">・シラバスを読んでおくこと。

第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー名・パスワード・メールアドレス等を確認しておくこと。 【事後学修】 ・メール設定等を再確認する。 <p>電子メールとMicrosoft365の活用</p> <p>電子メールとMicrosoft Teamsを中心としたMicrosoft365の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】 ・Microsoft365へサインインできることを確認しておく。 【事後学修】 ・Microsoft365の各種機能の利用方法を復習する。
第3回	<p>ネットワークツール</p> <p>情報の探索と共有 - 検索サイトの利用 検索条件の記述方法 その他のツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、身の回りのネットワークツールにはさまざまなものがあることを知る。 【事前学修】 ・利用の手引を読んで、クラウドコンピューティングについて知っておく。 【事後学修】 ・クラウドコンピューティングの重要性とそのセキュリティの重要性を再確認する。
第4回	<p>文書処理（1）</p> <p>電子メールにおける文書（1） 電子メール文の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、メール文の構成や必要な要素や性質を知る。 【事前学修】 ・メール文の書き方について調べておく。 【事後学修】 ・自分がメールを書く際の具体的注意点を考える。
第5回	<p>文書処理（2）</p> <p>電子メールにおける文書（2） 特徴的な電子メール文の用法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、返信や引用文など、メール特有の用法を知る。 【事前学修】 ・WEB版Outlookの機能を確認しておく。 【事後学修】 ・メール特有の用法をOutlookの機能とともに再確認する。
第6回	<p>文書処理（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題のひとつとして、メール利用について試験を行う。 【事前学修】 ・メールの取り扱い全般について、復習しておく。 【事後学修】 ・授業の内外でのメール利用の状況を思い返し、危険や間違いがないかを再確認する。
第7回	<p>文書処理（4）</p> <p>ビジネスキーボード認定試験日本語・英語トレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスキーボード認定試験トレーニングソフトにて、キーボード入力スキルを試す。 【事前学修】 ・トレーニングソフトについて、調べておく。 【事後学修】 ・トレーニングソフトを活用し、キーボード入力を練習する。
第8回	<p>文書処理（5）</p> <p>文書の形式と構造1 ビジネス文書とは ビジネス文書の形式 入力の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、ビジネス文書の構造等について知る。 【事前学修】 ・利用の手引を読んで、Microsoft Word等の起動方法などを知っておく。 【事後学修】 ・ビジネス文書の体裁を知り、指示されたところまで文書入力を行い、保存する。
第9回	<p>文書処理（6）</p> <p>文書の形式と構造2 ビジネス文書の装飾と印刷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文書作成の細部を知る。 【事前学修】 ・作成された文書が保存されているか、確認しておく。 【事後学修】 ・学内での文書の印刷方法について再確認する。
第10回	<p>文書処理（7）</p> <p>文書の形式と構造3 罫線や表組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罫線や表組などの特殊な機能を活用した文書の作成方法を知る。 【事前学修】 ・Microsoft Wordの機能について簡単に調べておく。 【事後学修】 ・課題文書を作成するとともに、機能を復習しておく。
第11回	<p>文書処理（8）</p> <p>文書の形式と構造4 文書の装飾 グラフや画像の挿入</p> <p>画像に代表される種々のデータを文書に挿入する方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】 ・Microsoft Wordの機能について簡単に調べておく。 【事後学修】 ・課題文書を作成するとともに、機能を復習しておく。
第12回	<p>文書処理（9）</p> <p>コンピュータで文字を取り扱う方法 文字コード問題について コードとフォント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文字コードとは何かを知る。 ・レポート課題を出題の予定。 【事前学修】 ・文字コードについて、簡単に調べておく。 【事後学修】

	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題のために授業で取り上げられた文字コードについてのトピックで、興味を持ったことを調べ、まとめる。
第13回	<p>文書処理 (10)</p> <p>さまざまな文書の形式 DOC・DOCX・TXT・PDF・HTML・ODF e. t. c.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント参照し、文書ファイルとして取り扱われるファイルを種類を知る。 ・代表的な文書ファイル作成方法を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書ファイル形式について、簡単に調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく利用される文書ファイル形式の作成方法を再確認する。
第14回	<p>画像情報の取り扱い</p> <p>静止画と動画 さまざまな符号化方式 情報圧縮の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントを参照し、文字以外の情報のデータ化、特に画像情報のデータ化の方法を知る。 ・情報圧縮の方法を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像のデータ化の方法を簡単に調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の描いた画像が授業で紹介した方法でどのように圧縮されるか試してみる。
第15回	<p>情報システムの今後</p> <p>ネットワークで接続された社会の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業を振り返り、ネットワークシステムにセキュリティが重要であることを再確認する。 ・配布プリントを参照し、文書のセキュリティを確保する方法を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業内容を再確認する。 ・文書を安全に送受信する方法について調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出題されている課題を再確認する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
辰口 和保			
開講曜限	授業形態		
月3、火2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p>
科目の概要・目的	現代の情報化社会では、「情報」は「コンテンツ」という形に仕立てられ、「メディア」によって提供される。コンテンツはDP1-1の科学的な知識・考え方の材料となり、またメディアはDP1-2の社会や環境と健康の関わりを形にするものである。本講義では、管理栄養士に必要な統計解析を取り上げ、コンピュータを利用して、データの単なる集まりからコンテンツの重要な要素となる意味のある分析結果を引き出す方法の基礎を学ぶ。
学習到達目標	メディアリテラシーを持って、事実に基づいた情報の判断ができる。 統計処理の基本的事項を理解している。 Microsoft Excelを利用してデータの統計的処理が行える。 SPSSを利用した簡単な統計処理が行える。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 情報システムを実際に動作させながら授業を進める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 パソコンを利用するとともに、教室システムやMicrosoft Teamsで確認を行いながら授業を進める。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点および課題（レポートを含む）</p> <p>【割合】 平常点30%、課題（レポートを含む）70%</p> <p>ただし、すべての課題が受理されることを単位取得の条件とする。</p>
教科書・テキスト	プリントを配布するほか、適宜、授業中に指示する。
参考書	涌井良幸、涌井貞美著「初歩からしっかり学ぶ 実習統計学入門」技術評論社刊 高橋信、トレンドプロ著「マンガでわかる統計学」オーム社 そのほか、適宜、授業中に紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	課題を作成し、教材の復習を行うこと。
履修上の留意事項	OAENS利用者登録を行っていること。 ネットワークシステムの利用について理解していること。 （基礎教育科目「情報処理」および「情報リテラシーⅠ」を履修していることが望ましい。）
オフィスアワー	水曜13:00~14:30
課題に対するフィードバックの方法	対面授業の中で、または、メールやMicrosoft Teamsを介して
実務経験	なし
その他	他の科目との連携を考慮する。 課題は自力で行うこと。 おもにコンピュータ室で授業を行う。 授業の進行度合により、内容を変更することがある。 プリント等の配布は、ひとり1部のみとする。紛失しても再配布しないので注意すること。
授業の内容	<p>第1回 はじめに 情報リテラシーⅡの授業の概要 メディアとコンテンツの時代 【事前学修】 ・シラバスを読んでおく。 【事後学修】 ・授業の進行について再確認する。</p> <p>第2回 統計の意味と計算 基本的な統計量 最小二乗法による直線回帰</p>

第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な統計量について理解する。 【事前学修】 ・基本的統計量・最小二乗法について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、統計量を計算する関数やグラフの取り扱いを再確認する。 <p>統計と表計算ソフトウェア（1）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析1 - 統計パッケージの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excelアドインの統計パッケージ「分析ツール」の利用法を理解する。 【事前学修】 ・Excelアドインについて調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、「分析ツール」の動作を利用方法を再確認する。
第4回	<p>統計と表計算ソフトウェア（2）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析2 - サンプルング・不偏推定量・自由度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不偏推定量について理解する。 【事前学修】 ・不偏推定量の意味を調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、全数調査と標本調査の違いを再確認する。
第5回	<p>統計と表計算ソフトウェア（3）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析3 - 共分散と相関係数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組になったデータから得られる統計情報について理解する。 【事前学修】 ・共分散と相関係数について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、共分散と相関係数の違いを再確認する。
第6回	<p>統計と表計算ソフトウェア（4）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析4 - 確率変数と確率分布1 確率密度関数と累積分布関数 一様分布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確率密度関数と累積分布関数の違いについて理解する。 ・一様分布について理解する。 【事前学修】 ・確率分布について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、各種分布に従う乱数の利用方法を再確認する。 ・分布の性質について再確認する。
第7回	<p>統計と表計算ソフトウェア（5）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析5 - 確率変数と確率分布2 離散一様分布・二項分布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離散一様分布と二項分布について理解する。 【事前学修】 ・確率分布について再確認する。 【事後学修】 ・課題を完成させ、各種分布に従う乱数の利用方法を再確認する。 ・分布の性質について再確認する。
第8回	<p>統計と表計算ソフトウェア（6）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析6 - 正規分布と中心極限定理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正規分布について理解する。 ・統計の最も重要な定理の1つである中心極限定理について理解する。 【事前学修】 ・正規分布と中心極限定理について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、計算に利用する関数について再確認する。 ・正規分布の性質について再確認する。 ・乱数により、中心極限定理の結果がどのように示されたか再確認する。
第9回	<p>統計と表計算ソフトウェア（7）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析7 - t分布とχ^2（カイ二乗）分布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・t分布とχ^2（カイ二乗）分布について理解する。 【事前学修】 ・それぞれの分布について調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、計算に利用する関数について再確認する。
第10回	<p>統計と表計算ソフトウェア（8）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析8 - 推定の原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的な推定について理解する。 【事前学修】 ・中心極限定理について再確認しておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、推定の利用できる条件・方法、信頼度について再確認する。
第11回	<p>統計と表計算ソフトウェア（9）</p> <p>Microsoft Excelを利用した統計解析9 - 検定の原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定とは何か、推定と検定の違いを理解する。 【事前学修】 ・検定がどのような場合に利用されるか調べておく。 【事後学修】 ・課題を完成させ、検定の方法や棄却域の意味などを再確認する。
第12回	<p>高度な統計解析ソフトウェア（1）</p> <p>統計解析ソフトウェアSPSSの基礎1 - ExcelからSPSSへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPSSの起動やデータの入力方法などについて理解する。 【事前学修】 ・これまでのExcelによる統計計算を再確認しておく。

第13回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を完成させ、SPSSの操作方法を再確認する。 <p>高度な統計解析ソフトウェア（2）</p> <p>統計解析ソフトウェアSPSSの基礎2 － SPSSでの基本的な統計処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPSSでの基本的な統計処理について理解する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPSSの操作方法を再確認しておく。
第14回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を完成させ、Excelとの利用方法の違いを再確認する。 <p>高度な統計解析ソフトウェア（3）</p> <p>統計解析ソフトウェアSPSSの基礎3 － データ変換 χ^2（カイ2乗）検定 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量データに基づく統計処理の実際を知る。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPSSの操作方法を再確認しておく。
第15回	<p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を完成させ、大量データの取り扱い方法を再確認する。 <p>統計の現代的な応用</p> <p>ベイズ統計 ビッグデータをコンテンツに仕立てる手法 人工知能の応用</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスについて簡単に調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的手法が専門分野の様々な場面で利用できることを再確認する。

講義科目名称： 基礎英語 I (H)

授業コード： 51102000 51102010

英文科目名称： Basic English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
中村 隆之、伊藤 美幸			
開講曜限	授業形態		
木3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>基礎的な英語の総合的運用能力の養成を目的とします。平易な英語で書かれているテキストを用い、世界の様々な国や地域の文化や近年の科学的発展についての話題を通して、文法表現を確認し、読解力とリスニング力の向上を目指します。また管理栄養士を養成する学科のポリシーを踏まえ、自文化理解・異文化理解を促進し国際的視野を広げていきます。</p> <p>毎回の授業は、基礎学力テストの結果に基づき、習熟度別に2つのグループに分けて行います。担当教員は2名で、それぞれが担当するグループの授業を行います。また、主要なテストの作成と評価は協議して行います。従って、どの教員も受講者からの授業に関わる質問や相談に応じます。</p>
学習到達目標	300～400語程度のエッセイや新聞記事等の英文を読んで理解できる。またはそれに関する会話を聴いて理解できる。内容理解の際に、基礎的な英文法知識をはじめ、リーディングストラテジー・リスニングストラテジーを活用できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>授業中は、ペアワーク・グループワークにおける受講生同士の積極的な交流を通じて、本文内容理解を深めます。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>単元によっては、Microsoft Formsを利用したオンライン課題が課されることがあります。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>対面授業が困難な状況の場合など、必要に応じてオンライン授業に切り替わることがあります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（授業内筆記試験）、平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度））</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験 60%＋平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度）など）40%</p>
教科書・テキスト	Ambition Elementary（金星堂出版）
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎時間かならず予習準備をして臨むこと。また小テストや筆記試験に備えて毎回必ず復習すること。詳細は第一回授業で説明します。
履修上の留意事項	特にありません。
オフィスアワー	中村：火、水曜日12:10～13:00 ※上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可 ※詳細は第一回授業で説明します。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや中間試験後は共通課題をその後の授業で全体共有します。またオンライン課題ではオンライン上で個別にフィードバックを行います。
実務経験	特にありません。
その他	特にありません。
授業の内容	<p>1 Guidance：授業の進め方、成績評価の説明等 【事前学修】英語学習への期待・不安を自己分析しておくこと 【事後学修】教科書付録音声データの確認</p> <p>2 Unit 1 Cleaning Abroad Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>3 Unit 1 Cleaning Abroad Reading & Comprehension Check 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>4 Unit 2 Instant Washoku</p>

	Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
5	Unit 2 Instant Washoku Reading & Comprehension Check 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時の学習内容の復習（次回小テスト）
6	Unit 3 Natsuko's Blog Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
7	Unit 3 Natsuko's Blog Reading & Comprehension Check 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時までの学習内容の復習
8	Review ①: Unit1 - 3 Mid-Semester Exam（中間試験） 【事前学修】前時までの学習内容の復習 【事後学修】中間試験の解きなおし
9	Unit 4 Olympic Swimmer Karen Stevenson's Blog Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
1 0	Unit 4 Olympic Swimmer Karen Stevenson's Blog Reading & Comprehension Check 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時の学習内容の復習（次回小テスト）
1 1	Unit 5 Steve's Famous Look Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
1 2	Unit 5 Steve's Famous Look Reading&Comprehension Check 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時の学習内容の復習（次回小テスト）
1 3	Unit 6 How Nature's Water Bottle Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
1 4	Unit 6 How Nature's Water Bottle Reading & Comprehension Check 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時までの学習内容の復習
1 5	Review ②: Unit 4 - 6 Semester Final Exam 定期試験（授業内）、まとめ 【事前学修】前時までの学習内容の復習 【事後学修】期末試験の解きなおし

講義科目名称： 基礎英語 I (H) (再履修)

授業コード： 51102090

英文科目名称： Basic English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
中村 隆之			
開講曜限	授業形態		
火5	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	英語を学び直すための授業として位置づけ、4技能のうちリーディング・リスニングに特に重点を置き、基礎的な英語力の向上を目指す。長文読解やリスニング問題を交えながら、英文法を中心に英語の基礎・基本を理解し、習得する。
学習到達目標	簡単な英語の文章や会話であれば、聞いたり読んだりして理解できる。英文法の基礎的な表現を理解し活用できる。内容理解の際に、基礎的なリーディングストラテジー・リスニングストラテジーを活用できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>授業中は、ペアワーク・グループワークにおける受講生同士の積極的な交流を通じて、本文内容理解を深めます。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>単元によっては、Microsoft Formsを利用したオンライン課題が課されることがあります。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>対面授業が困難な状況の場合など、必要に応じてオンライン授業に切り替わることがあります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（授業内筆記試験）、平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度））</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験 60%+平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度）など）40%</p>
教科書・テキスト	Reading Link（金星堂）
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎時間かならずリスニング・リーディングの復習を欠かさずに行うこと。英語学習において復習は特に重要です。詳細は第一回授業で説明します。
履修上の留意事項	特にありません。
オフィスアワー	中村：火、水曜日12:10～13:00 ※上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可 ※ 詳細は第一回授業で説明します。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや中間試験後は共通課題をその後の授業で全体共有します。またオンライン課題ではオンライン上で個別にフィードバックを行います。
実務経験	特にありません。
その他	特にありません。

授業の内容	<p>1 Guidance / Unit 1: Who is Pepper? 現在形 授業内容と進め方のガイダンス/vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】 英語学習についての苦手意識を自己分析しておくこと 【事後学修】 教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>2 Unit 1: Who is Pepper? 現在形 reading comprehension 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>3 Unit 2: What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? 代名詞 vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】 教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>4 Unit 2: What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? 代名詞 reading comprehension 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
-------	--

5	Unit 3: Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? 過去形 vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）
6	Unit 3: Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? 過去形 reading comprehension 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習 【事後学修】本時までの学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
7	Review: Unit1-3 Mid-Semester Exam 中間試験 【事前学修】前時までの学習内容の復習 【事後学修】中間試験の解きなおし
8	Unit 4: How Do Americans Celebrate Halloween? 可算名詞・不可算名詞 vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）
9	Unit 4: How Do Americans Celebrate Halloween? 可算名詞・不可算名詞 reading comprehension 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
1 0	Unit 5: Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? 時と場所を表す前置詞 vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）
1 1	Unit 5: Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? 時と場所を表す前置詞 reading comprehension 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
1 2	Unit 7: Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long? 疑問詞 vocabulary/grammar check/reading passage 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】教科書付録音声データの確認、本時の学習内容の復習（次回小テスト）
1 3	Unit 7: Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long? 疑問詞 vocabulary/grammar check reading comprehension 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング
1 4	Review Unit 4, 5, 7 Reading Comprehension Check 【事前学修】前時までの学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時までの学習内容の復習
1 5	Semester Final Exam: Unit 4, 5, 7 定期試験 Unit 4, 5, 7（授業内）、まとめ 【事前学修】前時までの学習内容の復習 【事後学修】期末試験の解きなおし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
中村 隆之、浅野 みつ子			
開講曜限	授業形態		
月2	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p>
科目の概要・目的	国内外における心身の健康や環境問題についての英文を読みながら、健康や食に関する知識を深めていきます。近年の科学技術に関する新聞や雑誌の記事を精読しながら、リーディング力の養成を図ります。さらに専門分野の研究や論文執筆のために役立つ英語力の修得も目指します。
学習到達目標	「健康」や「食」に関する話題についての300語程度の英文を理解できる。文章の構成や内容から、その概要を把握し説明できる。論文等によく使われる英文表現を理解し活用できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>授業中は、ペアワーク・グループワークにおける受講生同士の積極的な交流を通じて、本文内容理解を深めます。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>単元によっては、Microsoft Formsを利用したオンライン課題が課されることがあります。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>対面授業が困難な状況の場合など、必要に応じてオンライン授業に切り替わることがあります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（授業内筆記試験）、平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度））</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験 60%＋平常点（小課題（小テストなど）、提出物、授業態度（参加度）など）40%</p> <p>※再試験はレポート課題を予定しています。</p>
教科書・テキスト	健康的な生活から学ぶ大学総合英語 Good Health, Better Life（金星堂）
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎回、テキストの該当箇所を事前に読み、単語の意味を調べておくこと。また、review①②では、筆記試験を行うので復習しておくこと。
履修上の留意事項	「基礎英語I」および「基礎英語II」の履修を終えていること。
オフィスアワー	中村：火曜日2時限、水曜3時限、木曜2時限 ※上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可 ※ 詳細は第一回授業で説明します。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや中間試験後は共通課題をその後の授業で全体共有します。またオンライン課題ではオンライン上で個別にフィードバックを行います。
実務経験	特にありません。
その他	特にありません。
授業の内容	<p>1. Guidance：授業の進め方、成績評価の説明等 【事前学修】英語学習への期待・不安を自己分析しておくこと 【事後学修】教科書付録音声データ確認</p> <p>2. Unit 1 What Country Is the Fattest in the World? Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>3. Unit 1 What Country Is the Fattest in the World? Reading & Comprehension Check 【事前学修】前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p> <p>4. Unit 2 What Do We Know about Sleep Talking? Vocabulary Check & Reading 【事前学修】単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p> <p>5. Unit 2 What Do We Know about Sleep Talking?</p>

	<p>Reading & Comprehension Check 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
6.	<p>Unit 3 Why Are Bug Bites Dangerous? Vocabulary Check & Reading 【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
7.	<p>Unit 3 Why Are Bug Bites Dangerous? Reading & Comprehension Check 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】 本時までの学習内容の復習</p>
8.	<p>Review ①: Unit1 - 3 Mid-Semester Exam（中間試験） 【事前学修】 前時までの学習内容の復習 【事後学修】 中間試験の解きなおし</p>
9.	<p>Unit 4 What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef? Vocabulary Check & Reading 【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
10.	<p>Unit 4 What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef? Reading&Comprehension Check 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
11.	<p>Unit 5 How Much Caffeine Can We Take? Vocabulary Check & Reading 【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
12.	<p>Unit 5 How Much Caffeine Can We Take? Reading & Comprehension Check 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】 本時の学習内容の復習（次回小テスト）</p>
13.	<p>Unit 7 What Can Happen If You' re Too Clean? Vocabulary Check & Reading 【事前学修】 単元の重要語句・表現の予習 【事後学修】 本時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング</p>
14.	<p>Unit 7 What Can Happen If You' re Too Clean? Reading&Comprehension Check 【事前学修】 前時の学習内容（重要表現・本文内容）の復習、該当箇所のリスニング 【事後学修】 本時までの学習内容の復習</p>
15.	<p>Review ②: Unit 4, 5, 7 Semester Final Exam 定期試験（授業内）、まとめ 【事前学修】 前時までの学習内容の復習 【事後学修】 期末試験の解きなおし</p>

講義科目名称： 体育講義（H）

授業コード： 51102400

英文科目名称： Physical Education Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
中山 雅斗			
開講曜限	授業形態		
金1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p>
科目の概要・目的	心・身体・社会の3つの側面から健康について考えることで、複雑な現代社会を健康に生き抜くために必要なことを学ぶことを目的とする。また3つの側面の中でのスポーツと健康の関わりについても学ぶことで、自身の健康観を深めるきっかけを目指す。
学習到達目標	精神的に健康に生きていくために、複雑な現代社会の中で自身がどのような考えを持って生きていくか自身の考えを深める。 身体的に健康に生きていくために、どのような運動習慣や食事が影響をもたらしているのか理解し、実践に移すことができる。 社会的に健康に生きていくために、社会の中でどのような問題があるのか自身のなかで問題提起をしていき解決していく能力を育む。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 授業の中でディスカッションの時間を作り、その中で、他人の意見を聞くなかで自身の考えを深めていく。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	【評価項目】 【割合】 授業内レポート20%・授業態度20%・定期試験（筆記）60%
教科書・テキスト	授業者が作成するプリント資料
参考書	講義中や資料プリントによって随時紹介
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	スポーツに関するニュースをよく見ておく 授業内で学んだことを日々の生活に取り入れる
履修上の留意事項	遅刻厳禁(10分以上は認めない) 携帯電話厳禁・前向きな授業参加 授業内で配布する資料を活用して学習するようにしてください
オフィスアワー	授業前後随時対応します。
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内で質疑応答を随時行います。
実務経験	元高等学校保健体育科教員 バレーボール指導者(中学・高校・大学・社会人チーム)
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、評価及び受講に関する注意事項についての確認。 本授業のテーマである「健康」と「スポーツ」について理解し、今後の授業のアウトラインを掴む。 【事前学修】健康とは何か？とスポーツと健康の繋がりについて考えておく 【事後学修】健康という概念についての理解を深めておく</p> <p>第2回 身体的な側面から見た健康について I 身体的な側面からみた健康とは何かについて考察を行う 生命の概念について 【事前学修】身体的な健康について自身の考えをまとめておく 【事後学修】生命の概念についてもう一度考察を深める</p> <p>第3回 身体的な側面から見た健康について II 現代社会における生活習慣と健康の関係性について</p>

	<p>スポーツが身体的な健康に与える影響について</p> <p>【事前学修】 スポーツと健康の関わりについて自身の考えをまとめておく 【事後学修】 健康に過ごすために生活習慣の見直しを行う</p>
第4回	<p>精神的な側面から見た健康について I 精神的な側面からみた健康とは何かについて考察を行う ダイバーシティについて</p>
第5回	<p>【事前学修】 精神的な側面からみた健康について自身の考えをまとめておく 【事後学修】 ダイバーシティについて自身の考えを深めておく</p> <p>精神的な側面から見た健康について II 自身の人生を精神的に健康に過ごすために考察を行う 人生設計・モラトリアムについて</p>
第6回	<p>【事前学修】 人生設計について自身の考えをまとめておく 【事後学修】 自身の生き方について考察を深める</p> <p>社会的な側面から見た健康について I 社会と人々の健康の関わりについて スポーツが人々の健康にとって社会的に与える価値について</p>
第7回	<p>【事前学修】 社会と人々の健康の関わりについて考えておく 【事後学修】 日常生活の中でスポーツの価値を感じる機会を与える</p> <p>社会的な側面から見た健康について II 世界の貧困問題と健康について考える</p>
第8回	<p>【事前学修】 世界の貧困問題について調べておく 【事後学修】 貧困問題について自身ができることを考える</p> <p>まとめ・授業内定期試験 授業内容の振り返り、まとめ・定期試験を実施</p>
	<p>【事前学修】 第7回までの内容を復習しておく 【事後学修】 これまでの授業内容を整理する</p>

講義科目名称： 体育実技（H）

授業コード： 51102500 51102510

英文科目名称： Physical Education Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
中山 雅斗			
開講曜限	授業形態		
月1、2	実技		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p>
科目の概要・目的	<p>本講義は、生涯にわたって様々なスポーツを楽しみ心身の健康の保持増進を図るための能力を培うことを目的とする。</p> <p>複数のスポーツ種目の実践を通して、豊かな社会性、包括的な運動・メンタルスキルを身につけ、他者とのコミュニケーションによる意思決定や課題解決の方法についても考察する力を素養する。</p> <p>体力測定・及びトレーニングを行うことにより、自身の体力を知り、人体の構造や機能を系統的に理解する。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動における安全管理、危機管理について認識しながら活動できる。 ・種目ごとの特性を把握し、参加者とコミュニケーションを図りながらプレーを楽しむことができる。 ・グループワークにおいて他者と課題解決の為に前向きなコミュニケーションを取りながら、安心・安全に配慮した取り組みができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>毎回の授業内において、ゲームを行う中で、チーム内でディスカッションの時間を設け、各自の課題を見つける。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>なし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>受講態度及積極的な取り組みの姿勢などの平常点、授業の取り組みの中での学びについてのレポート(中間・最終の2回)を総合的に評価する。遅刻は授業の特性上厳禁。</p> <p>【割合】</p> <p>平常点60%、授業内レポート評価40%</p>
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	参考書：特になし。
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中でスポーツを観戦する機会を増やしたり、自身が行なったりスポーツに触れ合う機会を増加させる。 ・自身の体調管理を行い授業参加へ備える
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は体育館(リズム室)で行います。 ・運動のできる服装で参加すること。(上下ジャージ・体育館シューズ) ・アクセサリ類(ピアスなど)はケガの原因となるため外しておく ・授業時間内にトイレなど教室から退出する必要がある場合は教員に一言確認する。 ・体調不良やケガなどで見学を余儀無くされる場合は授業前に相談する。
オフィスアワー	・授業前後随時対応します。
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内で質疑応答を適時行う。
実務経験	元高等学校保健体育科教員 バレーボール指導者(中学・高校・大学・社会人チームでの指導実績あり)
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション・アイスブレイク</p> <p> 【内容】 授業の進め方、評価及び受講に関する注意事項についての確認 アイスブレイクのためレクリエーション</p> <p> 【事前学修】 シラバスを確認しておくこと</p> <p> 【事後学修】 授業の概要について理解・整理しておく</p> <p>第2回 バスケットボールⅠ</p> <p> 【内容】 チーム分け・ルール説明・試合・チームの課題確認</p> <p> 【事前学修】 バスケットボールのルールを理解しておく</p> <p> 【事後学修】 チームの試合の結果・課題を整理しておく</p>

第3回	バスケットボールⅡ 【内容】リーグ戦① 【事前学修】前回のチームの試合の結果・課題を整理しておく 【事後学修】その日の練習の課題・チームでディスカッションしたことを整理しておく
第4回	バスケットボールⅢ 【内容】リーグ戦② 【事前学修】前回の練習のチームの課題を整理しておく 【事後学修】バスケットボールのここまでの内容を振り返りしておく
第5回	ニュースポーツⅠ 【内容】ニュースポーツリーグ戦 【事前学修】第4回の授業内で競技の概要を説明するので自らでも調べておく 【事後学修】授業内の取り組みの振り返りを行う
第6回	ニュースポーツⅡ 【内容】ニュースポーツリーグ戦 【事前学修】第5回の授業内で競技の概要を説明するので自らでも調べておく 【事後学修】授業内の取り組みの振り返りを行う
第7回	バドミントンⅠ 【内容】チーム分け・ルール説明・試合・チームの課題確認 【事前学修】バドミントンのルールを理解しておく 【事後学修】チームの試合の結果・課題を整理しておく
第8回	バドミントンⅡ 【内容】リーグ戦① 【事前学修】前回のチームの試合の結果・課題を整理しておく 【事後学修】その日の練習の課題・チームでディスカッションしたことを整理しておく
第9回	バドミントンⅢ 【内容】リーグ戦② 【事前学修】前回の練習のチームの課題を整理しておく 【事後学修】バドミントンのここまでの内容の振り返りしておく
第10回	卓球Ⅰ 【内容】チーム分け・ルール説明・試合・チームの課題確認 【事前学修】卓球のルールを理解しておく 【事後学修】各自の試合の結果・課題を整理しておく
第11回	卓球Ⅱ 【内容】リーグ戦① 【事前学修】前回のチームの試合の結果・課題を整理しておく 【事後学修】その日の練習の課題・チームでディスカッションしたことを整理しておく
第12回	体づくり運動 【内容】体づくり運動 【事前学修】体づくり運動の概要を自ら調べておく 【事後学修】授業内の取り組みの振り返りを行う
第13回	バレーボールⅠ 【内容】チーム分け・ルール説明・試合・チームの課題確認 【事前学修】バレーボールのルールを理解しておく 【事後学修】チームの試合の結果・課題を整理しておく
第14回	バレーボールⅡ 【内容】リーグ戦① 【事前学修】前回のチームの試合の結果・課題を整理しておく 【事後学修】その日の練習の課題・チームでディスカッションしたことを整理しておく
第15回	バレーボールⅢ 【内容】リーグ戦② 【事前学修】前回の練習のチームの課題を整理しておく 【事後学修】バレーボールのここまでの内容を振り返りしておく

講義科目名称： 生物学(H)

授業コード： 51102700

英文科目名称： Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
若林 繁夫			
開講曜限	授業形態		
木1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	近年、生命科学の話題が連日メディアに取り上げられている。新型コロナウイルス、iPS細胞を用いた再生医療、新しい医療技術・医薬品の開発、ゲノム編集を用いた遺伝子組み換え食品など、枚挙にいとまがない。これらの情報の基礎にある学問が「生物学」である。栄養学・医療の基礎として、①この地球にどんなに多彩な生き物が生息しているか、②これらの生き物や人類はどのように進化してきたのか、③遺伝情報はどのように伝達されるのか、④現代病は人類の進化とどのように関連するのか、といった興味深いテーマについて理解しておくことは重要である。飽食の時代といわれる現在、現代病の多くが進化と文明化のスピードのギャップによって起こることを知ってもらいたい。「生命の進化」と「生命の基本原理解であるセントラルドグマ」の二点を理解することを大目標とし、DVDを活用しながら、時には最新研究成果も交えながら「生物学」の世界を講義する。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球上の生物や人類がどのようにして進化してきたのか、そのあらすじを理解し、説明できるようにすること。 2. 細胞の構造および細胞内小器官の役割を理解し、説明できるようにすること。 3. がんや心臓病などの現代の病が人類の進化と深く関わることを理解し、説明できるようにすること。 4. 地球における生命・人類の進化について理解し、現代病の多くが進化と文明化のスピードのギャップによって起こることを学び、説明できるようにすること。 5. 生命の基本原理解であるセントラルドグマを理解し、説明できるようにすること。 6. メディアの発信する栄養学・医学に関するニュースに際して、その生命科学的な背景について説明できるようにすること。
授業の方法	<p>【授業形態】 パワーポイントと板書を用いた、講義形式で行う。理解を深めるためにDVDを多用する。</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 毎回、講義内容を理解しているかを見るために小テストを行うとともに講義の感想を書かせ、出席カードとともに提出してもらおう。また、できる限り学生に授業中に発言させるようにしたい。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 対面授業ができない場合には録画授業を行い、Streamを用いて履修者に発信する。情報はA-portalを利用して発信する。</p> <p>【その他特記事項】 昨年度の授業アンケートでは、DVDの視聴が好評であった。そこで今年度も、生物学に興味を持ってもらうために、DVD視聴を多用したい。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、毎回の講義の平常点（小テストなど）によって評価する。何回か課題を提出させ、それを平常点に反映させる。</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）：80%、平常点：20%によって評価する。</p>
教科書・テキスト	毎回、資料を配布する。教科書は使用しないが、必要に応じて紹介する。
参考書	講義の中で、必要に応じて紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	各自、自分のノートを作ること。興味のあるテーマに関しては、紹介した本、参考書、教科書、WEBなどを利用して独自で勉強してみることを。
履修上の留意事項	筆記用具は毎回忘れずに持参すること。
オフィスアワー	出講日（月曜日、木曜日、金曜日）の講義などの予定が入っていない時間帯
課題に対するフィードバックの方法	小テストや試験の結果について質問があればオフィスアワーで返答する。
実務経験	医学・生理学研究・教育、40年間の勤務実績
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 生き物の進化と病気</p> <p>「創造説」と「自然選択説」を対比させながら、地球上の生命がどのようにして生まれたのか、人類がどのようにして誕生したのかを考えたい。</p> <p>【事前学修】 生命進化について、自分の興味のある本を読んだり、メディアなどで情報を入手すること。また、高校で習った生物学をもう一度復習しておくことを薦めます。</p>

第2回	<p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p> <p>人類の進化と病気・骨と皮膚の病</p> <p>人類の進化について解説したのち、DVD「病の起源、骨と皮膚の病 ～それは」出アフリカ“に始まった～”を視聴し、現代病が進化と文明化のスピードのギャップによって起こることを理解する。</p> <p>【事前学修】人類の進化に関する自分が興味のある本を読んだり、高校で習った生物学をもう一度復習しておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第3回	<p>生命体のつくりとはたらき</p> <p>生命の基本である細胞の構造について概説したのち、DVD「人体 ミクロの大冒険 ～あなたを創る！細胞のスーパーパワー～」を視聴し、細胞の持つ驚くべき能力について学ぶ。</p> <p>【事前学修】細胞の構造について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第4回	<p>生命維持のエネルギー</p> <p>生命はどのようにして必要なエネルギーを作り出しているのか、進化の過程で寄生したと言われるミトコンドリア、葉緑体を中心に学ぶ。</p> <p>【事前学修】ミトコンドリアの構造と機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第5回	<p>遺伝情報の伝達・発現のしくみ-1</p> <p>20世紀後半からの生命科学の輝かしい成果である、生命の基本原則“セントラルドグマ”について詳しく学び、生命とは何かを分子レベルで深く理解することをめざす。</p> <p>【事前学修】遺伝子の構造、情報伝達と発現の仕組みについて、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第6回	<p>遺伝情報の伝達・発現のしくみ-2</p> <p>第5回に引き続き、生命の基本原則“セントラルドグマ”について学んでいく。</p> <p>【事前学修】遺伝子の構造、情報伝達と発現の仕組みについて、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第7回	<p>遺伝情報の伝達・発現の仕組み-3 演習問題</p> <p>第5回、第6回で学んだ、生命の基本原則“セントラルドグマ”をもとに、遺伝子、DNA、RNA、蛋白質をより詳しく理解するために、講義の中で演習問題を解く。特に世界中で遺伝子の研究者が日常的に行っている研究業務の一端に触れ、遺伝子の面白さを感じてもらう。</p> <p>【事前学修】遺伝子の構造、情報伝達と発現の仕組みについて、第5回と第6回の内容を勉強し直すこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第8回	<p>細胞の老化、長寿とは何か？</p> <p>細胞の老化、ヒトの老化とは何かを解説したのち、DVD「長寿遺伝子」を視聴し、ある遺伝子のon-offがヒトの寿命をコントロールすることを学び、遺伝子の持つ不思議な魅力を理解する。</p> <p>【事前学修】第5回から第7回の遺伝子関連の内容を勉強し直すこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第9回	<p>個体の調節</p> <p>生物およびヒトの臓器、特に循環系について解説した後で、DVD「病の起源、心臓病～高性能ポンプの落とし穴～」を視聴し、人類の進化の過程で、脳の発達と心臓のポンプ機能が相反する関係であったことを学ぶ。</p> <p>【事前学修】生物の臓器、特に循環系の構造と機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第10回	<p>外界の刺激を受容するしくみ-1 (視覚)</p> <p>感覚器官である“目”の構造と機能について解説した後で、DVD「生命大躍進 ～そして“目”が生まれた～」を視聴し、カメラのような精巧な眼が生まれた進化の過程を新しい学説を交えて学ぶ。</p> <p>【事前学修】感覚器の構造・機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第11回	<p>外界の刺激を受容するしくみ-2</p> <p>味覚、嗅覚、触覚、聴覚、温度感覚などの分野では、最近の30年間で多くのことが明らかにされた。ノーベル賞級の研究を紹介しながら、これらの感覚器のもつ面白さを理解する。</p> <p>【事前学修】感覚器の構造・機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第12回	<p>生殖と発生</p> <p>生殖器・受精・妊娠・発生など生殖について解説した後、DVD「生命大躍進 ～そして“母の愛”が生まれた～」を視聴し、哺乳類が胎盤を持った“いきさつ”について学ぶ。</p> <p>【事前学修】生殖と発生について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第13回	<p>人類進化と脳</p>

	<p>ヒトの脳と神経系について概説した後で、DVD「生命大躍進 ～ついに“知性”が生まれた～」を視聴し、脳がなぜこれほど巨大化したのか、ネアンデルタール人と現代人の遺伝子の違いにも着目して考えてみたい。</p> <p>【事前学修】脳と神経系の構造と機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第14回	<p>人類の進化と病気・睡眠時無呼吸症</p> <p>人類の骨格・顎の構造の進化について解説したあとで、DVD「病の起源、睡眠時無呼吸症」を視聴し、言葉の獲得と引き換えに、進化の過程で“のっぴきならない現代病”を背負い込むことになってしまった人類の宿命を学ぶ。</p> <p>【事前学修】呼吸器の構造と機能について、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強する。小テストの解答をもう一度考える。</p>
第15回	<p>人類の進化と病気・糖尿病</p> <p>飽食の時代といわれる現代のやっかいな病・糖尿病について解説した後で、DVD「病の起源～糖尿病～」を視聴し、糖尿病が、文明化のスピードに追いつかないことによって起こる“進化病”であることを理解する。</p> <p>【事前学修】血糖値の調節に関して、少なくとも高校レベルの知識を勉強しなおしておくこと。</p> <p>【事後学修】配布資料をもう一度見直す。また、講義中に紹介した本や資料の中で、興味のあるテーマについて独自に勉強することを薦めます。</p>
定期試験	<p>【事前学修】定期試験の準備に当たり、もう一度資料を見なおすこと。また、授業中に配布した演習問題を復習しておくこと。毎回の授業で行う小テストを見直すこと。</p> <p>【事後学修】定期試験の結果を振り返ること。</p>

講義科目名称： 伝統文化に学ぶ（H）

授業コード： 51106300 51106310

英文科目名称： Learn from Traditional Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	1	必修
担当教員			
小倉 嘉夫			
開講曜限	授業形態		
木3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史の変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	大阪青山大学の『学則』第1条、及び『建学の精神』（いずれも『学生便覧』に掲載）にうたうところの「わが国の文化と伝統に基づいた感性、知性、倫理性及び創造性を備えた個性豊かな教養人」になることを目的とした科目である。日本の伝統文化を多面的に学ぶ。本学付属の大阪青山歴史文学博物館も活用し、実地見学会も含め所蔵資料をもとに日本の歴史・文化についての理解・認識を深める。また、茶道や書道の基本的知識を学び、歌舞伎や文楽、落語、俳句といった伝統的な芸能・文学にも触れ、日本の文化について見識を深めていく。分野によっては専門家をお招きして入門講義を受け、実技も学ぶ。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪青山学園の建学の精神や教育目標を理解する（知識・理解） ・日本文化の歴史の変遷やこんにちの在りようについて関心を持ち、理解を深める（知識・関心・理解） ・日本の文化や伝統について深く考え、知り得たことを今後の生活の中で判断し、生かそうとする（思考・判断・意欲） ・各回の授業で学んだことを適切に文章などで表現することができる（技能・表現）
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点及び定期試験（レポート）</p> <p>【割合】 授業ごとに、考えを簡単に文章にまとめてもらいます。それを含めて平常点30%。 定期試験（レポート）70%。</p>
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配付します。
参考書	適宜、授業の中で紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	季節ごとの年中行事や日本の伝統文化、特に食文化に関心を持つこと。
履修上の留意事項	授業計画に記載の内容を全15コマで学びます。順は必ずしもその通りではありません。特に特別招聘講師による授業は、講師や教室の都合等により、前後したり変更したりすることがあります。
オフィスアワー	木曜日1・2限目、金曜日2・3限目（2号館7階研究室）。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてA-POTALを活用します。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス 日本の伝統文化を学ぶ意義、大阪青山大学の建学の精神と教育目標 【事前学修】『学生便覧』の「建学の精神」及び「学則」第1条を読んでおくこと。 【事後学修】授業時に配布した資料を読んで復習すること。</p> <p>第2回 日本の歴史と文化 日本の歴史と文化の流れを概観 【事前学修】小中高で学んだ日本史の「時代」区分を復習すること。 【事後学修】授業中に配布した日本史年表をおさらいすること。</p> <p>第3回 日本の暦と年中行事 旧暦と新暦、日本の四季折々の年中行事や祭礼 【事前学修】「睦月」「弥生」等の各月の異名を書き出してみる。</p>

第4回	<p>【事後学修】月ごとの年中行事を復習すること。</p> <p>日本の食文化</p> <p>日本の伝統料理と和菓子の文化</p> <p>【事前学修】季節や年中行事ごとの食文化を思いつく限り書き出してみることに。</p> <p>【事後学修】配付資料を読んで復習すること。</p>
第5回	<p>日本の文学とその伝統Ⅰ</p> <p>和歌入門 『百人一首』を中心に、「日本人の心」といわれる和歌について学ぶ</p> <p>【事前学修】『百人一首』で知っている和歌、好きな和歌を思い浮かべ、その意味を考えること。</p> <p>【事後学修】和歌から採られた和菓子の名前など、日常的な和歌の浸透について、復習すること。</p>
第6回	<p>日本の文学とその伝統Ⅱ</p> <p>俳句入門 海外にも創作人口が増えている日本の俳句について、特別招聘講師による入門講座と実作（1～2コマ）について学ぶ</p> <p>【事前学修】担当講師の指示に従うこと（別途連絡）。</p> <p>【事後学修】同上。</p>
第7回	<p>日本の芸能</p> <p>文楽・歌舞伎</p> <p>【事前学修】文楽や歌舞伎についてのテレビやYouTubeを見てみることに。</p> <p>【事後学修】授業で学んだことを踏まえて、テレビやYouTubeで文楽や歌舞伎を視聴し、感想を書いてみることに。</p>
第8回	<p>日本の芸道</p> <p>「道」の文化</p> <p>【事前学修】これまで経験した「道」の付いた日本の伝統文化を思い出し、書き出してみることに。</p> <p>【事後学修】日常に息づいている「道」の精神が自分とどう関わっているか考えてみることに。</p>
第9回	<p>茶道入門</p> <p>日本の茶道について、入門講座</p> <p>【事前学修】茶道とその歴史について知っていることを書き出してみることに。</p> <p>【事後学修】茶道を中心として発達した日本人のマナーについて、授業を踏まえて実践すること。</p>
第10回	<p>落語入門</p> <p>上方落語について、特別招聘講師による入門講座</p> <p>【事前学修】担当講師の指示に従うこと（別途連絡）。</p> <p>【事後学修】同上。</p>
第11回	<p>書道入門</p> <p>日本の書道について、特別招聘講師による入門講座</p> <p>【事前学修】担当講師の指示に従うこと（別途連絡）。</p> <p>【事後学修】同上。</p>
第12回	<p>日本の伝統文化と美術工芸品</p> <p>次回の博物館見学の事前授業を兼ね、日本の文化財、本学所蔵の文化財について学ぶ</p> <p>【事前学習】事前配布資料に目を通しておくこと。</p> <p>【事後学習】配付資料を読んで復習すること。</p>
第13・14回	<p>大阪青山歴史文学博物館見学</p> <p>付属の大阪青山歴史文学博物館を見学し、施設及び国宝「土左日記」等の収蔵資料について実地に学ぶ（現地1回、2コマ分相当）</p> <p>【事前学修】事前配布資料を熟読すること。</p> <p>【事後学修】見学した感想や自分で調べたことを文章にしてみることに。</p>
第15回	<p>まとめ</p> <p>国際社会の中の日本文化</p> <p>【事前学修】配布したプリントに目を通し、ざっとこれまでの授業の総復習をすること。</p> <p>【事後学修】学んだことを今後の生き方や進路にどのように役立てるのか考えること。</p>
定期試験	

講義科目名称： 実用数学（一）

授業コード： 51107400

英文科目名称： Practical Mathematics(1)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
若狭 周二			
開講曜限	授業形態		
火2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>（健康栄養学科）</p> <p>大学では、どの授業でも数学的モデルによる説明や統計的手法による分析が行われており、数式がまったく出てこない教科書やテキストを探すことは難しい。一般社会においては、数学に関する計算力や思考力は、多くの職業に必要な基礎的能力である。</p> <p>本授業では、基礎基本となる数学の学びを再確認し、数学的知識、技能、思考力を高め、今後履修する科目で必要とされる実用数学技能を高めるとともに、企業や自治体の採用試験で出題頻度の比較的高いS P I問題等を通して計算力や論理的思考力の向上を目標とする。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学において必要となる数学の基礎的な知識や計算を修得する。 ・論理的な思考力をより高める。 ・数学の問題を主体的に解決していこうとする態度を身につける。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>各時間、授業内容に加えて、数的推理や判断推理、資料分析や解釈など論理的思考を要する問題を取り上げ、その解法・考え方についてグループや全体で話し合う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>未定</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業参加態度、 提出物、 小テスト、 定期試験</p> <p>【割合】</p> <p>授業参加態度：20% 提出物：10% 小テスト20% 定期試験50%</p>
教科書・テキスト	新編 実用数学セミナー（浜島書店）その他、（授業時に配布）
参考書	特になし
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	必要があれば授業時に適宜紹介する
履修上の留意事項	必要あれば授業時に適宜紹介する。
オフィスアワー	授業終了後に講師控室へ
課題に対するフィードバックの方法	授業時を予定
実務経験	中学校教諭
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 数の計算（有理数の四則計算）(1) (2)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示する 必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p> <p>第2回 割合</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>

第3回	<p>整式の計算</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第4回	<p>乗法公式</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第5回	<p>因数分解</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第6回	<p>無理数の計算</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第7回	<p>一次方程式</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第8回	<p>二次方程式</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第9回	<p>連立方程式(1) (2)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第10回	<p>二次関数</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第11回	<p>面積・体積(1) (2)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第12回	<p>順列(個数の処理)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>

第13回	<p>確率</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第14回	<p>直線の方程式</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第15回	<p>数列(1) (2)</p> <p>【事前学修】 授業テーマを参照にテキストの指定範囲を予習すること</p> <p>【事後学修】 授業で取り上げなかったテキスト問題から次回までの課題を指示するので復習すること また、必要に応じて適宜応用プリントを配布する</p>
第16回	<p>定期試験</p> <p>【事前学修】 指定範囲のテキスト問題及び配布プリントを再度学習すること</p> <p>【事後学修】 不得意なテーマを学習すること</p>

講義科目名称： 実用数学（二）

授業コード： 51107500

英文科目名称： Practical Mathematics(2)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	選択
担当教員			
中川 一彦			
開講曜限	授業形態		
火2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p>
---------	---

科目の概要・目的	本講義では、数学に関する様々な領域ごとに数学に関する問題場面・学習課題を設定し、言葉・数・図・式・表・グラフなどを相互に関連づけながら数学的に考え、問題解決する。
学習到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①【知識・技能】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>②【思考・判断・表現】数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>③【主体的に学習に取り組む態度】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>第1回～第15回全てにおいて、設定された課題に対して自分で考え、他者と意見交流し、課題解決に向けた活動を行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>デジタル教科書作成ツールを利用した授業展開を図る。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業態度などの平常点、定期試験（筆記）</p> <p>【割合】</p> <p>授業態度などの平常点(45%)、定期試験（筆記）(55%)</p>
教科書・テキスト	特になし。資料については、授業内で別途配布する。
参考書	特になし。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎回、授業の初めに前回の授業についての確認テストを行うので、復習をしておくこと。
履修上の留意事項	一般的な大学ノート(B5)を1冊用意すること。
オフィスアワー	講義後に講師控え室にて。または、Eメールで行う。
課題に対するフィードバックの方法	毎回実施する「確認テスト」について、コメントなどを記入した後、その次の回にて返却することでフィードバックを行う。
実務経験	平成21年4月～平成26年3月 吹田市公立中学校教諭（数学）
その他	特になし
授業の内容	<p>1 授業内容・方法に関するオリエンテーション</p> <p>■内 容：数学に関する問題解決する活動を通して、「実用数学」の学修についての見通しをもつ。</p> <p>【事前学修】これまでの自身の数学での学びについて振り返っておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>2 数・式・計算（その1）</p> <p>■内 容：整数の性質に関する内容について考察する。</p> <p>【事前学修】前回で学修した内容について振り返っておくこと。</p> <p>【事後学修】授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>3 数・式・計算（その2）</p>

4	<p>■内 容：有理数の性質や計算の仕方について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>数・式・計算（その3）</p>
5	<p>■内 容：式の意味や様々な計算の仕方について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>図形（その1）</p>
6	<p>■内 容：様々な面積の求め方について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>図形（その2）</p>
7	<p>■内 容：様々な角度の求め方について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>図形（その3）</p>
8	<p>■内 容：様々な体積の求め方について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>関数</p>
9	<p>■内 容：関数の意味、関数を用いた場面について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>データ・資料の活用（その1）</p>
10	<p>■内 容：代表値の意味や代表値の求め方について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>データ・資料の活用（その2）</p>
11	<p>■内 容：場合の数と確率の意味や求め方について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>データ・資料の活用（その3）</p>
12	<p>■内 容：標本調査の意味や求め方について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>暗号・集合・命題（その1）</p>
13	<p>■内 容：暗号の意味や、暗号を用いた場面について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>暗号・集合・命題（その2）</p>
14	<p>■内 容：集合の意味や、集合を用いた場面について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>暗号・集合・命題（その3）</p>
15	<p>■内 容：命題の意味や、命題を用いた場面について考察する。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、次時の確認テストに臨めるようにしておくこと。</p> <p>まとめ</p> <p>■内 容：学修内容について振り返る。 【事前学修】 前回で学修した内容について振り返っておくこと。 【事後学修】 授業を振り返る感想をノートにまとめ、定期試験に臨めるようにしておくこと。</p>
定期試験	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
藤井 久美子			
開講曜限	授業形態		
月2、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p>
---------	---

科目の概要・目的	社会環境の変化、少子高齢化の進行など、現状にはさまざまな課題がある。そのような中で、社会や環境と健康の関係を理解し、社会や環境の変化が健康に与える影響を正しく理解することが重要である。本科目では、公衆衛生の視点に立ち、疫学的知見から集団における生活習慣と健康状態との因果関係や、健康増進や疾病予防の考え方やその施策について学ぶ。さらに、個人の健康管理の方法について理解を深める。また情報過多の現在における健康情報の利用方法や情報統合についても理解できるようになる。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や環境、生活習慣が健康にどのような影響を与えるかを理解できる ・健康や疾病予防に関する基本的な知識と健康管理に関する方法を理解できる ・時代の変化を把握し、判断し行動するための基礎的スキルを身につける
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 web情報や各種HPを活用しながら、授業を進める</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 【割合】</p> <p>定期試験（筆記）（60%）、課題レポート（30%）、授業参加態度（10%）</p>
教科書・テキスト	学生のための健康管理学（南山堂）・配布プリント
参考書	特に指定しない
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースや社会動向などを通じて、公衆衛生や健康管理などの話題に関心を持つこと ・授業で扱ったテーマを、実生活やニュースと結びつけて考える時間を作ること
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを忘れず持参すること ・周りに迷惑となる行為は慎むこと
オフィスアワー	授業終了後に教室で
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートは、次回の授業時間内に返却する
実務経験	管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）</p> <p>健康情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康情報について ・健康情報の収集 ・ホームページの活用 ・健康情報のマネジメント ・保健医療情報システム <p>【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること</p> <p>第2回 健康の捉え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学の発展と健康管理 ・健康の定義 ・予防医学の考え方 ・公衆衛生の捉え方 <p>【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること</p> <p>第3回 健康の指標と現状(1)</p>

第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・人口 ・出生・婚姻・離婚 ・死亡 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>健康の指標と現状(2)</p>
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・寿命 ・健康状態と受療状況 ・人口統計に用いる比率 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>健康増進</p>
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進のための3つの要素 ・健康づくりのための施策 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>生活習慣と健康(1)</p>
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養・食生活 ・運動・身体活動 ・休養 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>生活習慣と健康(2)</p>
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙 ・飲酒 ・歯・口腔の健康 ・環境 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>疾病の予防(1)</p>
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病 ・がん ・循環器疾患 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>疾病の予防(2)</p>
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・代謝疾患 ・骨・関節疾患 ・歯科・口腔疾患 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>疾病の予防(3)</p>
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症 ・精神疾患 ・自殺 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>健康管理の進め方(1)</p>
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理の体系 ・健康教育 ・健康相談 ・集団健康診断と集団検診 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>健康管理の進め方(2)</p>
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニング ・疫学 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>健康管理の実際(1)</p>
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康管理 ・母子の健康管理 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>健康管理の実際(2)</p>
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の健康管理 ・職場の健康管理 ・高齢者の健康管理 【事前学修】テキスト指定範囲を事前に熟読し、テーマを把握しておくこと 【事後学修】授業で扱ったテーマについて、インターネットや本を調べて知識を深めること <p>まとめ</p>
定期試験	<p>第1回から第14回までの内容を復習する</p> <ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】これまで作成した課題プリントを見返し、振り返りをしておくこと 【事後学修】各テーマの繋がりを知り、大きく健康管理に対する全体像をまとめること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
相羽 洋子			
開講曜限	授業形態		
月3、水4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-1 科学的な知識・考え方の基本および、歴史、美術、言語などの文化的教養などの基礎力を身につけ、広い視点から人に向かい合い、人間生活を考えることができる。</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p>
---------	---

科目の概要・目的	公衆衛生学とは、地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命を延長し、身体的ならびに精神的能力を増進するための技術と科学であり、人、地域社会および国民全体の「健康」を最終目標とする学問である。本講義では、公衆衛生の概念とその重要性に関する知識を得ることを目標にし、健康に関する諸問題を理解し健康の保持・増進を実践できるようになる。
学習到達目標	日本の主な疾患の現状について学び、疾患の発生と予防の観点を理解できる。我々のライフステージにおける保健の現状と課題について知り、保健、医療、福祉、介護等の制度について説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 教科書と配布したプリントを使用した講義形式で行う。随時、講義該当部分の国家試験過去問題を提示して理解を深める。</p>
成績評価の方法	定期試験（筆記、50％）、中間試験（筆記、40％）、レポートと授業への参加態度（10％）
教科書・テキスト	社会・環境と健康 改訂第7版 古野純典・辻 一郎・吉池信男編、南江堂
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・国民衛生の動向 2023-2024（（一財）厚生労働統計協会） ・他は必要に応じてプリントを配布する
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	新聞・ニュースなどを通じて、健康や公衆衛生に関する社会的な話題に関心をもつこと。
履修上の留意事項	居眠り、携帯電話・スマートフォンの操作、他の科目の勉強、等は厳禁とする。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・木曜日昼休み ・上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業時間、メール及びA-ポータルを利用して返答する。 ・レポートは授業時に返却する。
実務経験	薬剤師、衛生工学衛生管理者、衛生管理者
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、生活習慣の現状と対策 ・授業の進め方の説明 ・健康の定義と生活習慣病との関連 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する</p> <p>第2回 健康日本21、健康日本21（第2次） 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する</p> <p>第3回 身体活動・運動、喫煙行動、飲酒行動 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する</p> <p>第4回 睡眠・休養・ストレス、歯科保健行動と歯科疾患 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する</p> <p>第5回 がん及び循環器疾患の疫学と予防対策 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する</p>

第6回	代謝疾患、骨・関節疾患の疫学と予防対策 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する
第7回	感染症及び予防接種の概要と分類 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する
第8回	精神疾患やその他の疾患の現状と保健対策、自殺・不慮の事故・虐待・暴力の現状や対策 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する
第9回	まとめ、中間試験 第1回から第8回まで学習した内容を復習し、中間試験を行う。 【事前学修】 第1回から第8回まで学習した内容を復習し、ノートにまとめる 【事後学修】 中間試験でわからなかった部分を再度学修する
第10回	保健・医療・福祉の制度 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する
第11回	地域保健 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する
第12回	母子保健、成人保健 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する
第13回	高齢者保健・介護 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する
第14回	産業保健 【事前学修】 テーマについて、予習したことをノートにまとめる 【事後学修】 授業後にわかったことと理解したことをまとめ、次回授業で提出する
第15回	学校保健、国際保健、まとめ 第10回から第15回まで学習した内容を復習する。 【事前学修】 第10回から第14回まで学習した内容を復習し、ノートにまとめる 【事後学修】 第15回で学習した内を含めてノートにまとめる
定期試験	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
渡邊 敏明			
開講曜限	授業形態		
水1、2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p> <p>■1-5 栄養とは何か、その意義について理解している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	本講義は、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の分野に含まれ、生体における生命活動を化学的に理解のために、生化学Iの復習をするとともに、糖質の代謝、脂質の代謝、たんぱく質の代謝、遺伝情報の発現の仕組み、酵素反応、微量栄養素の役割、生体の恒常性維持や情報伝達などについて学修する。
学習到達目標	生命現象を理解する上で、生化学の知識は必須である。生体を構成する物質は高分子からビタミン・無機塩などの低分子まで様々であり、これらが複雑に作用して生命が維持されている。そこで、本講義では、生命現象とその生理機能の基盤となるエネルギー産生栄養素の構造、機能、代謝を理解できるようにする。またこれらを維持するために重要な役割を果たしている、酵素反応、情報の発現、微量栄養素や情報の伝達について学ぶことを目標とする。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>・サブノート形式の資料を用意して、重要語句については質問しながら、双方向で理解させる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>・液晶プロジェクターを利用して、化学反応や代謝がイメージできるように説明する。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>国家試験の問題を利用して、ポイントを理解できるようにする。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>・授業態度</p> <p>・定期試験</p> <p>【割合】</p> <p>・授業態度20%</p> <p>・定期試験80%</p>
教科書・テキスト	渡邊敏明編 スタディ生化学 建帛社
参考書	岡純、曾根英行、沼田卓也編 Nブックス生化学の基礎 建帛社 必要に応じてプリントを配布
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	学習内容については、授業時間内にできるだけ理解し、1週間以内に必ず復習をすること。
履修上の留意事項	【重要】生化学Iを履修していることが前提である。 生化学Iを十分に理解していない学生は、事前に復習をしておくこと。
オフィスアワー	特に定めないが、事前に連絡をしてから訪問すること。
課題に対するフィードバックの方法	授業時間中に解説すると共に、必要に応じて、Aportal を利用する。
実務経験	実務経験はない。 生化学的知識及びスキルを用いて、企業と連携して商品開発を行っている。
その他	<p>関連URL</p> <p>http://www.osaka-aoyama.ac.jp/department/university/health_nutrition/hn_teacher/watanabe_toshiaki/ https://researchmap.jp/read0090416</p>
授業の内容	<p>1 細胞から人体の構造まで 本講義では、生化学Iで学習した内容を復習すると共に、エネルギー産生栄養素、核酸、ビタミン、ミネラル、ホルモンなどの生体成分について深く掘り下げる。そして、これらが代謝とどのように関わっているのかについて学ぶ。 細胞の特徴および細胞内小器官の種類と役割について解説する。 【事前学修】 p. 9-p. 16の内容を確認する。 【事後学修】 細胞小器官についてのポイントを復習する。</p> <p>2 糖質の基礎</p>

	<p>糖質の構造と種類について解説する。 【事前学修】 p. 17-p. 29の内容を確認する。 【事後学修】 糖質についてのポイントを復習する。</p>
3	<p>糖質の代謝 糖質の代謝について解説する。 【事前学修】 p. 30-p. 49の内容を確認する。 【事後学修】 糖質の代謝についてのポイントを復習する。</p>
4	<p>脂質の基礎 脂質の種類と機能について解説する。 【事前学修】 p. 50-p. 59の内容を確認する。 【事後学修】 脂質についてのポイントを復習する。</p>
5	<p>脂質の代謝 脂質の代謝について解説する。 【事前学修】 p. 60-p. 68の内容を確認する。 【事後学修】 脂質の代謝についてのポイントを復習する。</p>
6	<p>アミノ酸・タンパク質の基礎 アミノ酸およびタンパク質の構造と機能について解説する。 【事前学修】 p. 76-p. 88の内容を確認する。 【事後学修】 アミノ酸およびタンパク質についてのポイントを復習する。</p>
7	<p>アミノ酸・タンパク質の代謝 アミノ酸およびタンパク質の代謝について解説する。 【事前学修】 p. 89-p. 102の内容を確認する。 【事後学修】 アミノ酸およびタンパク質の代謝についてのポイントを復習する。</p>
8	<p>核酸の基礎 核酸の構造と機能について解説する。 【事前学修】 p. 157-p. 166の内容を確認する。 【事後学修】 核酸についてのポイントを復習する。</p>
9	<p>遺伝子の発現 遺伝子情報からタンパク質合成過程について解説する。 【事前学修】 p. 167-p. 174の内容を確認する。 【事後学修】 遺伝子発現についてのポイントを復習する。</p>
10	<p>酵素の基礎 酵素の分類と触媒する反応について解説する。 【事前学修】 p. 114-p. 119の内容を確認する。 【事後学修】 酵素についてのポイントを復習する。</p>
11	<p>酵素反応 酵素反応の特徴と酵素活性阻害について解説する。 【事前学修】 p. 119-p. 126の内容を確認する。 【事後学修】 酵素反応についてのポイントを復習する。</p>
12	<p>ビタミンの基礎 ビタミンの分類と生理学的役割について解説する。 【事前学修】 p. 127-p. 143の内容を確認する。 【事後学修】 ビタミンについてのポイントを復習する。</p>
13	<p>ミネラルの基礎 ミネラルの分類と生理学的役割について解説する。 【事前学修】 p. 200-p. 219の内容を確認する。</p>

	<p>【事後学修】 ミネラルについてのポイントを復習する。</p> <p>14</p> <p>ホルモンの基礎 ホルモンの種類とホルモンによる情報伝達機構について解説する。 【事前学修】 p. 183-p. 187の内容を確認する。 【事後学修】 ホルモンについてのポイントを復習する。</p> <p>15</p> <p>まとめと評価（到達度の確認） 生体内におけるエネルギー産生栄養素および微量栄養素について総合的に解説する。 【事前学修】 まとめプリントを確認する。 【事後学修】 理解できていない項目を復習する。</p> <p>定期試験</p> <p>【事前学修】 学習内容およびまとめプリントを復習する。 【事後学修】 学習内容については知識を確実にする。</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
榎原 周平			
開講曜限	授業形態		
木3、4、5 金3、4、5	実験		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p> <p>■1-5 栄養とは何か、その意義について理解している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	本実験は、生化学の講義で学んだ知識をより深めるために行う。内容としては(1)細胞小器官の特徴や働きについて、(2)酵素反応と性質について、(3)DNAの化学的特性や遺伝子について学ぶ。これらの実験を通して生命現象の仕組みを細胞レベルや遺伝子レベルから理解することを目指す。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具や分析装置の基本的な使い方が分かる。試薬の調製ができる。 ・細胞小器官の働き、酵素反応速度論、遺伝子について理解し説明できる。 ・PCR法、電気泳動法の原理について理解し説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 班単位で行うグループワークに相当する。各班のメンバーで協力して実験を行い、実験結果についてディスカッションし理解を深める。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業ごとの小レポート、授業参加態度により評価する。</p> <p>【割合】 授業ごとの小レポート70%、授業参加態度30%</p>
教科書・テキスト	プリントを配布する。
参考書	「生化学実験」、田代操編、化学同人 「生化学実験」、後藤潔編、建帛社
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	授業前に配布する実験プリントをよく読み、実験内容を理解しておくこと。 実験終了後、すぐにレポートの作成に取り掛かること。
履修上の留意事項	白衣を持参すること。ガラス器具や薬品を扱うので、ケガや事故のないように集中して実験に取り組むこと。
オフィスアワー	月・水・木曜日、12時～13時
課題に対するフィードバックの方法	学内Aポータルを利用する。
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、実験の諸注意、試薬の調製 【事前学修】シラバスを事前に読んでおくこと。 【事後学修】実験中の安全確保についてまとめておくこと。</p> <p>第2回 細胞小器官の分画(1) ニトロリの肝臓を用いて、肝細胞に存在する細胞小器官を細胞分画法により分画する。 【事前学修】細胞小器官の種類と役割について調べておくこと。 【事後学修】実験結果をノートにまとめておくこと。</p> <p>第3回 細胞小器官の分画(2) 特定の細胞小器官にしか存在していない酵素の存在を確認することにより、各画分の純度を検定する。 【事前学修】細胞分画法について調べておくこと。 【事後学修】実験レポートを作成し、次回の授業で提出すること。</p> <p>第4回 酵素活性の測定(1) この実験では酵素トリプシンに着目する。まず反応時間の経過に伴い生成物が増えることを分光光度計を使って追跡する。 【事前学修】酵素の性質について調べておくこと。 【事後学修】実験結果をノートにまとめておくこと。</p>

第5回	<p>酵素活性の測定 (2)</p> <p>酵素トリプシンの活性に及ぼすpHの影響と、基質の影響について調べる。 【事前学修】 酵素反応における基質濃度と反応速度の関係を調べておくこと。 【事後学修】 実験レポートを作成し、次回の授業で提出すること。</p>
第6回	<p>DNAの抽出、PCR法、電気泳動 (1)</p> <p>この実験ではアルコールの代謝に関わるアルデヒド脱水素酵素2の遺伝子多型を調べる。まずPCRの原理について学ぶ。鋳型DNAサンプルの調製、PCR反応を行う。 【事前学修】 DNAの性質、PCR法について調べておくこと。 【事後学修】 実験結果をノートにまとめておくこと。</p>
第7回	<p>DNAの抽出、PCR法、電気泳動 (2)</p> <p>PCRにより増幅したDNAをアガロース電気泳動法により確認する。 【事前学修】 DNAの電気泳動法について調べておくこと。 【事後学修】 実験レポートを作成し、次回の授業で提出すること。</p>
第8回	<p>まとめと片付け</p> <p>これまでの実験で理解が不十分なところを教科書等で調べておくこと。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	1	2	必修
担当教員			
野々木 宏			
開講曜限	授業形態		
月4、火3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p> <p>■2-2 傷病者の病態や栄養状態に応じて適切な栄養管理に必要な知識と技能を修得している。</p>
科目の概要・目的	<p>・各疾患に適切な栄養管理や栄養指導を実施するにあたり、その根拠を考えるうえで必要な解剖生理を理解する。</p> <p>・具体的には、人体の構造のみならず、その正常の機能の基本的事項について講義し、病態生理などで学ぶ疾患の理解の礎となる知識を伝達する。</p> <p>・理解度テスト（小テスト、過去の国家試験）を毎回行い、管理栄養士資格取得の心構えを伝達する。</p>
学習到達目標	<p>・病態生理学や臨床栄養学に必要な解剖の知識を整理する。</p> <p>・その基盤のもとにエビデンスに基づいた栄養指導が可能となる。</p> <p>・信頼を得る医療従事者として、共同意思決定時の揺るぎない医療的な知識が不可欠である。</p> <p>・各臓器の構造や機能を理解し、第三者に説明できるように理解を深める。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：授業中に使用するスライドのカラー版レジメ（2コマ、4コマ用）、小テストをAポータルで事前配布し予習に使用 ・授業：テキストに準じてパワーポイント使用、キーワードを穴埋めする形式でレジメ配布、キーポイントを習得する ・復習：小テスト実施し、毎回授業後に解説配布（復習に使用、欠席するときには注意）
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、平常点（小テストの結果、事前予習のA-portalアクセス点数）</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）60%、平常点40%（小テストの結果、事前予習のA-portalアクセス点数）</p>
教科書・テキスト	解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 志村二三夫編 羊土社 解剖のみならず臓器の生理的な機能に詳しい。疑問に思ったときには参照する。
参考書	「読んでわかる解剖生理学（テキスト）」 竹内修二著、医学教育出版社 解剖学に詳しい。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>人体の構造と機能について、テキストを重視し、レジメを事前配布することで該当の頁を予習をする。事前配布資料は、Aポータルで配信する。一定期間で消去されるのでダウンロードすることを勧める。復習や国家試験対策に使用できる。</p> <p>また毎回実施する小テストは事前配布するので予習に役立てること、小テストの解説は終了後に配信する。また次回の授業時に配布する。それを利用して事後の復習を行う。この知識がその後の病態生理、臨床栄養学につながるもので、おろそかにしない。</p> <p>前期試験は、小テスト問題から提出する。小テストの点数と前期試験の合算で成績判定をするので、毎回の授業を大切にすること。小テスト解説を大切に保管すること（欠席時には注意すること）。</p>
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問があれば、積極的な質問は歓迎する。テキストを忘れず持参すること。 ・授業時間内に集中して、完全理解と習得を強く勧める。 ・社会人となる基本的モラルが必要であり、私語を慎み、スマートフォンの使用や他の授業の準備などの作業は授業の妨げとなるため禁止する。
オフィスアワー	月曜日と火曜日は大学内研究室 授業後、あるいは研究室、メール（アドレスは授業時に連絡）での質問歓迎。
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に使用するスライドのカラー版レジメ（2コマ、4コマ用）を事前配信 ・次回の授業で小テスト解説配布（復習に使用、欠席するときには注意）、主に過去の国家試験問題から抽出
実務経験	<p>医師</p> <p>これまで循環器診療、集中治療、救急医療に従事し、臨床医学の実践と臨床研究、また医療従事者・学生への教育に従事してきた。国際的な活動で、救急蘇生のガイドラインを作成（JRC蘇生ガイドライン2020、本学図書館に常備）。米国心臓協会（AHA）国際トレーニングセンターでのBLS/ACLSインストラクターとして、全国で指導歴。近畿では主に国立循環器病研究センターで定期的に指導中である。</p> <p>研究歴・教育歴：リサーチマップ参照、https://researchmap.jp/hnonogi 大学の教員紹介参照：https://www.osaka-aoyama.ac.jp/department/university/health_nutrition/</p>

その他	特になし。
授業の内容	<p>第1回 解剖学・生理学の基礎、オリエンテーション 解剖生理と病態生理、臨床栄養学との相互作用、互いに補い合うため4年間常時復習できるようにすることがポイント。 教科書のはじめに参照 臓器の構造、機能について解説する。 【事前学修】テキスト P18-31 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第2回 細胞と組織 教科書第1章 細胞の構造と機能、生体膜の構造と機能を解説する 【事前学修】テキスト P32-48 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第3回 消化器系① 教科書第2章の上部消化管の構造と機能を解説する 【事前学修】テキスト P55-57 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第4回 消化器系② 教科書第2章の下部消化管の構造と機能を解説する 【事前学修】テキスト P56-59 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第5回 消化器系③ 肝・胆・膵の構造と機能を解説する 【事前学修】テキスト P61-72 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第6回 血液・リンパ・凝固系① 教科書第3章 血液・リンパの構成と機能を解説する 【事前学修】テキスト P73-83 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第7回 血液・リンパ・凝固系② 血小板と止血・凝固機能を解説する 【事前学修】テキスト P83-89 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第8回 循環器系① 教科書第3章の心臓の構造と機能、心電図と心臓周期を解説する 【事前学修】テキスト P90-96 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第9回 循環器系② 血管と血圧、循環調節を解説する 【事前学修】テキスト P96-110 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第10回 呼吸器系① 教科書第5章 気道と肺の構造と機能を解説する。 呼吸の調節について調べておくこと。 【事前学修】テキスト p111-116 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第11回 呼吸器系② 呼吸運動とガス交換、呼吸機能と調節を解説する 【事前学修】テキスト p116-125 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第12回 腎・尿路系① 泌尿器系臓器の構造と機能、尿生成の仕組み、排尿を解説する 教科書第6章に目を通し、尿生成の仕組みについて調べておくこと。 【事前学修】テキスト p126-131 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができる</p>

	<p>ように疑問点を解決すること。</p> <p>第13回 腎・尿路系② 体液とその異常について解説する</p> <p>【事前学修】テキスト p131-133 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第14回 腎・尿路系③ 水電解質とホルモンについて解説する</p> <p>【事前学修】テキスト p133-138 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>第15回 生殖器系 教科書第7章の生殖機能、妊娠と分娩を解説する</p> <p>【事前学修】テキスト P139-147 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p> <p>定期試験</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
駒田 致和、榎原 周平、高木 尚紘、田岡 晃子			
開講曜限	授業形態		
金1、2、3	実験		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p> <p>■2-2 傷病者の病態や栄養状態に応じて適切な栄養管理に必要な知識と技能を修得している。</p>
---------	---

科目の概要・目的	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基礎に、人体の構造と機能を系統的に学修する。具体的には、人体模型と骨格模型を用いて人体の構造を立体的に捉え、顕微鏡で各器官の微細構造を観察し、人体の機能との関連について学修する。また、身体計測、循環器検査等の概略を学び、それぞれの測定値が健康度判定や病気の診断にどのように用いられるかを学修する。更に、実際にラットの解剖を行い、各器官の局在および形態をヒトと比較することで、人体の構造への理解を深める。
----------	--

学習到達目標	人体について、細胞レベルから組織・器官レベルまで、構造と機能を説明できる。食事、運動、休養などの基本的な生活活動の機構や環境変化に対する対応機構を説明できる。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験班ごとに課題を取り組むなかで、学生同士の主体的な学び、積極的な対話を望む。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを利用し実験の説明をする。 ・適宜Microsoft officeのアプリケーションteamsなどを利用し、実験内容の補足等を行う。 <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>■授業態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験に対して積極的に取り組んでいるか ・実験内容を理解した上で実験に取り組んでいるか など <p>■確認テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容を理解できているか <p>■実験レポート（実験ごとに提出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験や課題の内容を理解できているか ・指示された内容（課題）をわかりやすく提示できているか など <p>【割合】</p> <p>■授業態度 15%</p> <p>■確認テスト 15%</p> <p>■実験レポート 70%</p>
---------	---

教科書・テキスト	実験書を配布する。
----------	-----------

参考書	<p>「読んでわかる解剖生理学（テキスト）」、竹内修二著、医学教育出版社</p> <p>「栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第3版」、志村二三夫、岡 純、山田和彦編、羊土社、2020</p> <p>「プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版」、坂井建雄監訳、医学書院、2019</p> <p>「読んでわかる解剖生理学（テキスト）」、竹内修二著、医学教育出版社、2014</p> <p>「入門組織学 改訂第2版」、牛木辰男著、南江堂、2013</p> <p>「Nブックス 実験シリーズ 解剖生理学実験」、青峰 正裕・藤田 守編著、建帛社、2009</p> <p>「バーチャルスライド組織学」 著：駒澤伸二 羊土社 ISBN978-4-7581-2105-7</p>
-----	--

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>予め、その日の実験の内容を予習・確認し、分からない事柄があれば調べてくること。</p> <p>実験で理解できなかったことはメディアセンターなどを利用し、次回までに解決すること。</p> <p>事前・事後の課題に各自取り組み学修すること。（解剖生理学Ⅰ、Ⅱの内容をしっかりと理解しておくこと。）</p>
---------------------------	---

履修上の留意事項	日頃から人体のしくみと働きについて関心を持ち、基本的な知識を身につけること。
----------	--

オフィスアワー	<p>駒田：実験中に指示</p> <p>榎原：実験中に指示</p> <p>高木：実験中に指示</p> <p>田岡：実験中に指示</p>
---------	---

課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの添削を行う。 ・実験内で直接対応する。 ・適宜、Microsoft officeのアプリケーションを利用して対応する。
------------------	---

実務経験	<p>高木：管理栄養士</p> <p>田岡：管理栄養士</p>
------	---------------------------------

<p>その他</p>	<p>実験中、積極的に発言・質問すること。 実験班で協力し、積極的に実験を行うこと。 私語は慎み、指示があるとき以外は、携帯端末等を使用しない。</p> <p><実験室に入る際の注意点> ・必ず白衣を着用すること（実験用メガネは不要）。 ・運動靴など実験に適した靴を履くこと（ヒールの高い靴、サンダルは不可）。 ・髪の毛が肩より長い場合は、まとめること。 ・アクセサリ等は外しておくこと。 ・色鉛筆を持参すること。</p> <p><実験スケジュール> ・隔週で実施する。 (例) 1週目：Aクラス第1回 2週目：Bクラス第1回</p>
<p>授業の内容</p>	<p>1. 実験 オリエンテーション、第1回実験 組織標本の観察Ⅰ（駒田・田岡） ・実験の流れについて説明する ・人体を構成する各器官を肉眼および顕微鏡により観察することにより、からだの基本構造を理解する。</p> <p> 【事前学修】 解剖生理学Ⅰで学修した人体の構成の組織について復習しておくこと。</p> <p> 【事後学修】 上皮組織（形態、特徴）を復習しておくこと。</p> <p>2. 実験 第2回実験 組織標本の観察Ⅱ（駒田・田岡） ・人体を構成する各器官を肉眼および顕微鏡により観察することにより、からだの基本構造を理解する。</p> <p> 【事前学修】 解剖生理学Ⅰで学修した人体の構成の組織について復習しておくこと。</p> <p> 【事後学修】 筋肉組織（形態、特徴）を復習しておくこと。</p> <p>3. 実験 第3回実験 人体模型の観察（駒田・田岡） ・人体の構造、特に内臓の位置、形態を学ぶ。</p> <p> 【事前学修】 人体の構造（臓器の種類、位置）を復習しておくこと。</p> <p> 【事後学修】 スケッチした全臓器の生理機能を解剖生理学の教科書・参考書で調べて復習しておくこと。</p> <p>4. 実験 第4回実験 骨格模型の観察（駒田・田岡） ・人体の骨格は全部で200個、各骨はお互いに何らかの方法で連結しているのとともその連結方法も合わせて観察する。</p> <p> 【事前学修】 骨格の名称、位置について復習しておくこと。</p> <p> 【事後学修】 以下のことを復習しておくこと。 ・ヒトでの脊柱は何種類の椎骨に分けられ、それぞれいくつつあるか ・大泉門の部位はどこか、またいつ閉鎖するか ・小泉門の部位はどこか、またいつ閉鎖するか ・上肢帯骨を構成する骨とその働きについて ・骨盤を構成する骨について</p> <p>5. 実験 第5回実験 ラットの解剖（駒田・田岡） ・ラットの解剖を行うことで、人体の構造の理解を深める。</p> <p> 【事前学修】 実験書を読み、実験方法について理解しておくこと。 人体の構造（臓器の種類、位置）について、再度確認しておくこと。</p> <p> 【事後学修】 実験についてレポートにまとめること。</p> <p>6. 実験 第6回実験 身体計測、呼吸に関する実験（高木・田岡） ・身体計測の意義・方法・判定基準等を理解する。 ・呼吸機能検査の目的・方法を理解する。</p> <p> 【事前学修】 実験書を読み、実験方法について理解しておくこと。</p> <p> 【事後学修】 実験についてレポートにまとめること。</p> <p>7. 実験 第7回実験 血糖値、排泄に関する実験（榎原・田岡） ・血糖値の測定、尿検査の意義・方法・判定基準等を理解する。</p> <p> 【事前学修】 実験書を読み、実験方法について理解しておくこと。</p>

8. まとめ	<p>【事後学修】 実験についてレポートにまとめること。 まとめ、確認（田岡） ・確認テストを実施し、学修内容の理解度を確認する。</p> <p>【事前学修】 7回の実験内容、事前事後学修の内容を復習しておくこと。</p> <p>【事後学修】 実験を通して、理解を深めたい点、不明な点について担当教員に質問をしたり、メディアセンターで調べるなどし、理解を深めておくこと。 今後履修する病態生理学や臨床栄養学につながる科目であることから、しっかり復習しておくこと。 確認テストを返却するので、必ず復習すること。</p>
--------	---

講義科目名称： 運動生理学

授業コード： 51201200 51201210

英文科目名称： Motor Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	選択
担当教員			
高木 尚紘			
開講曜限	授業形態		
月5、金4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	ヒトが運動を行うときに、身体の機能はどのような応答を示しているのか。運動を行うことで身体の機能はどのように変化するのか。さらに栄養との関連はどのようになっているのか。運動生理学では運動が健康の保持・増進、あるいは発育・発達にどのように影響するかを学ぶ。
----------	--

学習到達目標	本講義では、運動が身体機能に与える影響について学ぶ。運動生理学に関する基礎知識を修得し、現代人の課題について考察する。一般の方からスポーツ選手まで幅広い対象者に対して、運動生理学の知識を活かした栄養教育の計画立案・実施に役立てられるようにする。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>グループディスカッションおよびプレゼンテーションを取り入れる</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>状況に応じてオンラインでの補足講義を実施する可能性がある。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>予習・復習を必ず実施すること。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>課題提出および成果 定期試験(筆記)</p> <p>【割合】</p> <p>課題提出および成果20% 定期試験(筆記)80%</p>
---------	---

教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド 運動生理学 羊土社
----------	-------------------------

参考書	特に指定はしない。
-----	-----------

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	シラバスを確認し、テキストの該当ページを読んでから講義に臨んでください。講義終了後、ノートを中心に講義内容の確認をお願いします。
---------------------------	--

履修上の留意事項	テキストを忘れずに持ってくるようにしてください。
----------	--------------------------

オフィスアワー	月曜日 4限目
---------	---------

課題に対するフィードバックの方法	課題回収後、次の講義にて行う
------------------	----------------

実務経験	管理栄養士
------	-------

その他	特記事項無し
-----	--------

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 講義の進め方、成績評価等の解説 【事前学修】シラバスに目を通しておく 【事後学修】シラバスについて再確認をしておく</p> <p>第2回 運動生理学と栄養学のかかわり 身体運動の効果、スポーツ栄養学について解説 【事前学修】テキストのp. 14～18を読んでおく 【事後学修】運動生理学と栄養学のかかわりについてまとめる</p> <p>第3回 骨格筋の構造と筋収縮 骨格筋の構造や筋収縮の仕組みについて解説する 【事前学修】テキストのp. 19～31を読んでおく 【事後学修】骨格筋の構造や筋収縮の仕組みについてまとめる</p> <p>第4回 神経系の役割 神経系の構造と機能について解説をする 【事前学修】テキストのp. 32～45を読んでおく 【事後学修】神経系についてまとめる</p> <p>第5回 運動と循環・呼吸 血液の循環や呼吸と肺の働きについて解説をする 【事前学修】テキストのp. 46～64を読んでおく 【事後学修】心臓の働きと肺の働きについてまとめる</p>
-------	--

第6回	<p>運動とエネルギー源 エネルギー源となる栄養素について解説する 【事前学修】テキストのp. 66～85を読んでおく 【事後学修】エネルギー源となる栄養素についてまとめておく</p>
第7回	<p>エネルギー消費量 エネルギー消費量の推定法について解説をする 【事前学修】テキストのp. 86～100を読んでおく 【事後学修】エネルギー消費量の算出方法についてまとめておく</p>
第8回	<p>身体組成・体格 身体組成の測定方法について解説をする 【事前学修】テキストのp. 101～113を読んでおく 【事後学修】身体組成の測定方法についてまとめておく</p>
第9回	<p>筋肉づくりとタンパク質 タンパク質代謝の仕組みやタンパク質の必要量について解説する 【事前学修】テキストのp. 114～130を読んでおく 【事後学修】筋肉とタンパク質についてまとめておく</p>
第10回	<p>骨づくりと栄養素・身体活動 骨の代謝やFTAについて解説をする 【事前学修】テキストのp. 131～143を読んでおく 【事後学修】骨と身体活動についてまとめておく</p>
第11回	<p>水分 体温調節と水分補給について解説をする 【事前学修】テキストのp. 144～153を読んでおく 【事後学修】水分補給についてまとめておく</p>
第12回	<p>加齢に伴う身体機能の変化 加齢に伴う身体機能の変化について解説をする 【事前学修】テキストのp. 154～168を読んでおく 【事後学修】加齢と身体機能の変化についてまとめておく</p>
第13回	<p>運動と健康 運動処方の方考え方について解説する 【事前学修】テキストのp. ～189～200を読んでおく 【事後学修】身体活動の健康への影響についてまとめておく</p>
第14回	<p>スポーツ選手の食事管理 トレーニング期、試合前・中・後の食事について解説する 【事前学修】テキストのp. 201～215を読んでおく 【事後学修】トレーニング期、試合前・中・後の食事についてまとめておく</p>
第15回	<p>まとめ これまでの講義内容のまとめを行う 【事前学修】試験に向け、これまでの講義内容を整理し、疑問点を明確にしておく 【事後学修】試験に向け復習しておく</p>
定期試験	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
野々木 宏			
開講曜限	授業形態		
火2、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p> <p>■2-2 傷病者の病態や栄養状態に応じて適切な栄養管理に必要な知識と技能を修得している。</p>
科目の概要・目的	病態生理学では、さまざまな病気の成因や発症・進行に伴う生体の形態や機能の変化、病態評価や診断・治療の基本的な考え方を整理し、病気とはどのように発生し変化していくのかを全身的・総合的に学ぶ。教科書の後半を学習し、各疾患に適切な栄養管理や栄養指導を実施するにあたり、その根拠を考えるうえで必要な病態生理を学ぶ。
学習到達目標	<p>主要疾患について、その成因、発症・進行に伴う生体の形態や機能の変化を理解する。</p> <p>各疾病の病態評価や診断・治療の基本的な考え方を理解する。</p> <p>各疾病と代謝・栄養とを関連づけることができる。</p> <p>事前予習と復習の重要性を認識する。医療従事者として必須の生涯教育の姿勢であることを理解する。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：授業中に使用するスライドのカラー版レジメ（2コマ、4コマ用）、小テストをAポータルで事前配布し予習に使用 ・授業：テキストに準じてパワーポイント使用、キーワードを穴埋めする形式でレジメ配布、キーワードを習得する ・復習：小テスト実施し、毎回授業後に解説配布（復習に使用、欠席するときには注意）
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、平常点（小テストの結果、事前予習のA-portalアクセス点数）</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）60%、平常点40%（小テストの結果、事前予習のA-portalアクセス点数）</p>
教科書・テキスト	「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第3版」、田中、宮坂、藤岡編、羊土社、毎回レジメを印刷して配布します。またポータルで事前に資料を配付します
参考書	<p>読んでわかる解剖生理学 竹内修二 医学出版社、2020</p> <p>臨床栄養学概論 渡邊早苗 他 建帛社、2021</p> <p>ビジュアル栄養療法 丸山千寿子、中屋豊、編、南江堂、2020</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前配布資料は、Aポータルで配信する。一定期間で消去されるのでダウンロードすることを勧める。小テストも事前配布するので予習として目を通しておくとよい。レジメは復習や国家試験対策に使用できる。解説は授業後の配信と次の授業で配布する。前期試験は、小テスト問題から提出する。小テストと解説を大切に保管すること。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問があれば、積極的な質問は歓迎する。テキストを忘れず持参すること。 ・授業時間内に集中して、完全理解と習得を強く勧める。 ・社会人となる基本的モラルが必要であり、私語を慎み、スマートフォンの使用や他の授業の準備などの作業は授業の妨げとなるため禁止する。
オフィスアワー	月曜日と火曜日は大学内研究室 授業後、あるいは研究室、メール（アドレスは授業時に連絡）での質問歓迎。
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に使用するスライドのカラー版レジメ（2コマ、4コマ用）を事前配信 ・小テスト解説配布（復習に使用、欠席するときには注意）、主に過去の国家試験問題から抽出
実務経験	<p>医師</p> <p>これまで循環器診療、集中治療、救急医療に従事し、臨床医学の実践と臨床研究、また医療従事者・学生への教育に従事してきた。国際的な活動で、救急蘇生のガイドラインを作成（JRC蘇生ガイドライン2020、本学図書館に常備）。米国心臓協会（AHA）国際トレーニングセンターでのBLS/ACLSインストラクターとして、全国で指導歴。近畿では主に国立循環器病研究センターで定期的に指導中である。</p> <p>研究歴・教育歴：リサーチマップ参照、https://researchmap.jp/hnonogi</p> <p>大学の教員紹介参照：https://www.osaka-aoyama.ac.jp/department/university/health_nutrition/</p>
その他	なし
授業の内容	

第1回	腎臓・尿路系疾患① ①腎炎、ネフローゼを解説する 教科書第9章 【事前学修】腎機能の解剖生理復習しておく。テキスト P173-183 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第2回	腎臓・尿路系疾患② ②急性腎不全、慢性腎臓病、その他を解説します。 【事前学修】テキスト P183-196 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第3回	神経・精神系疾患① 教科書第10章 ①変性疾患、精神疾患、脳腫瘍、その他を解説します。 【事前学修】テキスト P183-191 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第4回	神経・精神系疾患② ②嚥下障害、摂食障害、その他を解説します。 【事前学修】テキスト P197-203 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第5回	呼吸器疾患① 教科書第11章 呼吸器感染症、その他を解説します。 【事前学修】テキスト P210-214 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第6回	呼吸器疾患② ②COPD、喘息、肺がん、その他を解説します。 【事前学修】テキスト P214-224 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第7回	血液疾患① 教科書第12章 ①貧血を解説します。 【事前学修】テキスト P225-231 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第8回	血液疾患② ②白血病、出血傾向をきたす疾患、その他を解説します。 【事前学修】テキスト P231-237 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第9回	運動器疾患① 教科書第13章 ①骨粗鬆症、骨軟化症を解説します。 【事前学修】テキスト P228-244 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第10回	運動器疾患② ②変形性関節症、フレイル、サルコペニア、その他を解説します。 【事前学修】テキスト P244-250 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第11回	皮膚疾患 教科書第14章 熱傷、褥瘡、その他を解説します。 【事前学修】テキスト P251-257 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。
第12回	免疫・アレルギー疾患① 教科書第15章 ①免疫、食物アレルギーを解説します。

<p>第13回</p>	<p>【事前学修】テキスト P258-263 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 免疫・アレルギー疾患② ②膠原病、その他を解説します。</p>
<p>第14回</p>	<p>【事前学修】テキスト P263-268 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 婦人科疾患 教科書第16章 婦人科疾患を解説します。</p>
<p>第15回</p>	<p>【事前学修】テキスト P269-279 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。 感染症 教科書第17章 感染症、食中毒、感染予防・治療を解説します。</p>
<p>定期試験 (筆記)</p>	<p>【事前学修】テキスト P280-291 事前配布レジメを事前に読んでおくこと 【事後学修】レジメ、小テスト解説で復習、講義内容を復習すること、第三者に説明ができるように疑問点を解決すること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
榎原 周平			
開講曜限	授業形態		
月4、水3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史的変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。</p>
科目の概要・目的	この授業では、穀類、野菜類、肉類のように各食品群を毎回一つずつ取り上げ、それらに含まれる成分の特徴や、調理や加工に伴う変化について理解できるようになることを目指します。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 食品の分類について説明できる。 各食品に含まれる成分の特徴について説明できる。 食品の調理や加工に伴う変化について説明できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜、食に関するトピックスを取り上げ、ディスカッションすることも取り入れる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 Microsoft Formsを利用して理解度チェックを行う。また質問も受け付ける。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、小テスト、授業参加態度で評価する。</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）75%、小テスト20%、授業参加態度5%</p>
教科書・テキスト	「食べ物と健康 食品の科学（改訂第3版）」、太田英明、白土英樹、古庄律/編、南江堂、2022年
参考書	「食品学－食品成分と機能性－」、久保田紀久枝、森光康次郎/編、東京化学同人 「食品学各論 第4版」、小西洋太郎、辻英明、渡邊浩幸、細谷圭助/編、講談社
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	教科書の該当する部分を読み、予習・復習をしておくこと。 講義開始時に、前回の講義に関する小テストを行うので復習をしておくこと。
履修上の留意事項	特になし
オフィスアワー	月・水・木曜日、12時～13時
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施し解説する。
実務経験	特になし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 食品の分類と食品成分表 【事前学修】教科書P175～P195を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>第2回 穀類 【事前学修】教科書P197～P205を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>第3回 いも類 【事前学修】教科書P205～P210を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>第4回 豆類、種実類 【事前学修】教科書P210～P220を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>第5回 野菜類 【事前学修】教科書P221～P226を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>第6回 果実類 【事前学修】教科書P227～P233を読み、専門用語の意味を調べておくこと。</p>

第7回	【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 さのこ類、藻類
第8回	【事前学修】教科書P233～P242を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 肉類
第9回	【事前学修】教科書P243～P253を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 魚介類
第10回	【事前学修】教科書P253～P265を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 乳類
第11回	【事前学修】教科書P265～P273を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 卵類
第12回	【事前学修】教科書P273～P280を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 油脂、調味料
第13回	【事前学修】教科書P281～P293を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 香辛料、嗜好飲料
第14回	【事前学修】教科書P293～P303を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 微生物利用食品
第15回	【事前学修】教科書P305～P316を読み、専門用語の意味を調べておくこと。 【事後学修】教科書や配布プリントを見直しておくこと。小テストに備え復習しておくこと。 まとめ
定期試験	【事前学修】教科書全体をもう一度読み返しておくこと。 【事後学修】定期試験に備え復習しておくこと。

講義科目名称： 食品衛生学

授業コード： 51202300 51202310

英文科目名称： Food Hygiene

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
水野 雅史			
開講曜限	授業形態		
水1、2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史的変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	管理栄養士の資格保持者としては、食品衛生法等の法律やそれに基づく行政の体制、食中毒の原因とその対策、さらにはHACCP制度といった事業者に課せられた衛生業務にいたるまで、幅広く知識として身に付けていなければなりません。本講義では、食品衛生の関連法規を学習します。さらに食中毒について、その原因となる細菌、ウイルス、化学物質、寄生虫等の学習をします。これら以外にも、食品の容器包装における有害物質、食品中の残留農薬、食品添加物まで学習します。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品関連事業において義務化されているHACCP制度について、考え方や制度内容を論じることができるようになる。 ● 食中毒による有害事象を学習することで、その防止策の立案、万が一食中毒が発生した場合の迅速な原因追究と被害の拡散防止ができるようになる。 ● 食品衛生関連法規を学習することで、法規改正等の際にも、落ち度なく改正に対応できるようになる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 授業開始前に前回講義した内容に関する小テストを行うので、しっかりと授業内容を復習しておくこと。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 小テスト、授業参加態度</p> <p>【割合】 小テスト 70%、授業参加態度 30%</p>
教科書・テキスト	特に指定しない。必要に応じてプリントの配布をする
参考書	食べ物と健康 食品の安全 改訂第2版（南江堂 有菌 幸司 編）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	シラバスの授業計画に沿って、予習・復習をしておくこと。
履修上の留意事項	生化学、微生物学、食品栄養学を復習しておくこと。
オフィスアワー	m-mizuno@osaka-aoyama.ac.jpに連絡
課題に対するフィードバックの方法	毎時間に実施する小テストについては、模範解答例を配布します。
実務経験	食品栄養化学教育研究分野の教授として、教育と研究に従事してきた
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 健康と食品衛生、食品衛生行政について リスク管理システムと食品衛生の法規 【事前学修】 参考書を読む。 【事後学修】 小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>第2回 食品衛生関連法規について 健康増進法、規格基準、食品総合、衛生管理製造過程の承認制度など 【事前学修】 参考書を読む。 【事後学修】 小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>第3回 食品と微生物について 微生物とは、発酵と腐敗の違い、発酵食品 【事前学修】 参考書を読む。 【事後学修】 小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>第4回 食品の変質とその防止について 微生物の増殖、水分活性、腐敗の化学、油脂の酸敗と劣化</p>

第5回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>食中毒の定義と分類、発生状況 細菌性食中毒のタイプと原因菌・発症経路</p>
第6回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>細菌性食中毒について リステリア菌、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、ボツリヌス菌など</p>
第7回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>ウイルス性食中毒、寄生虫性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、マスターテーブル法について ノロウイルス、ロタウイルス、A型などの肝炎ウイルス、アニサキス、テトラドキシシン、ソラニンなどによる食中毒とマスターテーブル法</p>
第8回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>食品の媒介による感染症について 感染症の分類、感染症に基づく就業制限</p>
第9回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>食品から感染する寄生虫について 寄生虫の概念とその種類</p>
第10回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>食品中の汚染物質について カビ毒、化学物質、放射性物質</p>
第11回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>食品成分相互反応で生成する有害物質 ニトロソ化合物、過酸化脂質、アクリルアミド、トランス脂肪酸</p>
第12回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>食品添加物について 食品添加物と農薬、ポジティブリスト制</p>
第13回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>食品衛生管理（食中毒の防止）について 食品用の器具と容器包装、食品衛生管理（食中毒の防止）</p>
第14回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。次回小テストに備え復習しておくこと。</p> <p>食品衛生管理（HACCPなど）について HACCPとは？、大量調理施設衛生管理マニュアル、殺菌消毒法</p>
第15回	<p>【事前学修】参考書を読む。 【事後学修】小テストを再度解く。</p> <p>総括 これまで学習してきたことを総括と達成度の確認。 【事前学修】これまでの小テストをよく復習すること。 【事後学修】模範解答例の学習。</p>

講義科目名称： 調理科学実験

授業コード： 51202600

英文科目名称： Experiments in Cooking Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	選択
担当教員			
須谷 和子			
開講曜限	授業形態		
火3、4、5	実験		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史的変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。</p>
科目の概要・目的	「調理」を理論的にとらえ、調理学・調理学実習と関連付けながら、食品の科学的・物理的性質の測定、組織の観察、官能評価により食品の総合的な評価手法を理解する。また、食品加工の要素も取り入れた内容とする。
学習到達目標	調理操作は、従来から” コツ ” や ” 勘 ” といった経験が重視されることが多いが、合理的に調理を学習するためには科学的根拠に基づいた理論が必要になってくる。食品を用いて行う実験を通して調理におけるさまざまな現象を理解し、実践に役立つ理論、考察力を養うことができるようになる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループワーク（4～5名）</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	課題・レポート（80%） 実験への取り組み（20%）
教科書・テキスト	大羽和子・川端晶子編著 「調理科学実験」学健書院
参考書	山崎清子他著 「NEW 調理と理論」 同文書院 山崎英恵編著 「食べ物と健康IV 調理学」 中山書店
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学習：シラバスで実験内容を確認し、教科書で手順等の予習をしておくこと。 事後学習：実験結果をまとめ、課題とともにレポートを作成する。
履修上の留意事項	実験は3コマ連続の8週の展開である。15回分の授業内容を記載しているが、その内容を8回に分けて実施する。詳細については、随時説明する。 実験時には清潔な白衣と帽子を着用。上靴、手拭きタオルを持参し、衛生面には十分注意すること。 包丁が必要な回には包丁を持参する。
オフィスアワー	金曜日 1限目
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題レポートは、添削後返却する。
実務経験	管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 調理科学実験を始める前に オリエンテーション（プリント） 【事前学修】テキスト p2～3を読み、調理科学実験を学ぶ目的と研究方法を理解しておく 【事後学修】テキスト p6～7に記載されているレポートの書き方について理解しておく</p> <p>第2回 調理科学に関する基礎実験（計量、計測、温度など） 食品の目安量と重量、容量、廃棄率の関係（テキスト p8～11） 【事前学修】食品の目安量について、自宅にある食材を用いて調べられる範囲で予備実験してみる 【事後学修】可食部重量や廃棄率の確認など、テキスト p10の内容を完成させレポートにまとめる</p> <p>第3回 五味を味わう・食品のテクスチャー測定 味覚による閾値、五味の識別（プリント）食品のテクスチャー測定（テキスト p60～65） 【事前学修】市販されている介護食の種類について調べる 【事後学修】味覚実験データ、テクスチャーの違う食品の官能検査データをレポートにまとめる</p> <p>第4回 卵の調理性に関する実験 卵の鮮度の鑑別、卵白の起泡性、卵の熱凝固（テキスト p162～169）</p>

第5回	<p>【事前学修】調理学で学んだ卵の調理特性について再度テキストで確認しておく (山崎英恵編集 調理学：中山書店 p 80～87)</p> <p>【事後学修】卵の鮮度、起泡性、熱凝固について実験データをレポートにまとめる</p> <p>米に関する実験 米の性状、炊飯、吸水 (テキスト p 114～117)</p>
第6回	<p>【事前学修】調理学で学んだ米の調理特性について再度テキストで確認しておく (山崎英恵編集 調理学：中山書店 p 54～60)</p> <p>【事後学修】米の性状、炊飯、吸水実験で得たデータをレポートにまとめる</p> <p>だしに関する実験 だしの種類と官能評価 (プリント)</p> <p>【事前学修】調理実習 I、II で調理時に使用した「だし」についてプリントや教科書で復習しておく</p> <p>【事後学修】だしを作る際の材料や作り方、取り合わせ方で味が変わることを確認し、官能評価の結果をレポートにまとめる</p>
第7回	<p>野菜に関する実験 生野菜の吸水と放水 (テキスト p 134～135)</p> <p>【事前学修】調理学で学んだ非加熱調理について復習しておく</p> <p>【事後学修】実験で得たデータをレポートにまとめる</p>
第8回	<p>いもに関する実験 粉ふきいもとマッシュポテト (テキスト p 128～129)</p> <p>【事前学修】調理学で学んだいも類、特にじゃがいもについて復習しておく</p> <p>【事後学修】粉ふきいもとマッシュポテトを手順に従って作り、得たデータをレポートにまとめる</p>
第9回	<p>果物に関する実験 ゼリー・ジャム製造 (テキスト p 138～139、プリント)</p> <p>【事前学修】果物に含まれているペクチンについて調べておく</p> <p>【事後学修】糖度の異なる2種類のジャムを調製するが、糖度の測定、官能評価の結果をレポートにまとめる</p>
第10回	<p>嗜好飲料の最適温度・介護食の実験 飲み物の適温を調べる (プリント) 市販のろみ調整食品添加試料の飲み込み特性、ゼリー食品の咀嚼性 (テキスト p 202～213)</p> <p>【事前学修】どのような飲み物が好まれているか、季節によって違いがあるかなど調べておく</p> <p>【事後学修】好みの飲み物の適温 (個人データ)、市販のろみ調整剤を入れるとどのようなど越しになるか、実験で得たデータをレポートにまとめる</p>
第11回	<p>小麦粉に関する実験① 小麦粉の種類による生地性状 (テキスト p 118～119)</p> <p>【事前学修】調理学で学んだ小麦粉の調理特性について復習しておく</p> <p>【事後学修】小麦粉の種類の違いで生地がどのように変化するのか、得たデータをレポートにまとめる</p>
第12回	<p>小麦粉に関する実験② パンの製造 (プリント)</p> <p>【事前学修】第11回と同じ準備をしておく</p> <p>【事後学修】パンを作る過程で計測したデータ、捏ね回数の違いで生じる食感の違いなど得たデータをレポートにまとめる</p>
第13回	<p>小麦粉に関する実験③ クッキーの製造・材料配合の割合を変えたクッキー製造 (p 124～127)</p> <p>【事前学修】第11回と同じ準備をしておく</p> <p>【事後学修】条件の異なるクッキー焼成で計測したデータをレポートにまとめる</p>
第14回	<p>官能評価法 2点比較法、3点比較法、順位法 (テキスト p 82～99)</p> <p>【事前学修】官能評価の手法について調理学のテキストを参考にして復習しておく</p> <p>【事後学修】手法について図式で説明できるようにしておくこと</p>
第15回	<p>実験結果の検討・解説 まとめ (提出されたレポート返却と課題の解説をおこなう)</p>

講義科目名称： 調理学実習 I

授業コード： 51202800 51202820

英文科目名称： Cooking Practice I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	1	2(通年)	必修
担当教員			
國末 直宏			
開講曜限	授業形態		
火3、4、5 水3、4、5	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史的変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	近年、調理業務にあたる栄養士の調理スキル不足が課題となっている。養成施設での調理技術の習得は、栄養士業務にあたるうえで必須である。この実習では、本学が伝統的に掲げる「料理のできる栄養士育成」を目指す。日本料理、西洋料理、中国料理などの基礎的知識・調理技術の修得と同時に厨房や調理器具の扱いを学ぶ。また、調理実習を通じ、料理への興味、関心を抱き、食への感謝の気持ち育む。基本的な調理技術を身につけ「調理学実習Ⅱ」へと繋げる。
学習到達目標	食材を扱うことの感謝の気持ちと、実習への取り組み姿勢を養う 心得ておきたい食文化・マナーを身につけ、それを実践することができる。 基本調理技術や調理方法を理解し、理論的に説明ができる。 味覚の感じ方の変化を捉えることができる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 各回デモンストレーション後の実習実施。実習前後のグループミーティング 【ICTを利用した双方向授業】 実習後の自宅練習内容の記録（写真等）の提出 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 授業参加態度、レジュメ提出、課題提出、実技試験、定期試験（筆記） 【割合】 授業参加態度（15%）、レジュメ提出（10%）、課題提出（10%）、実技試験（15%）、定期試験（筆記）（50%）
教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配付する
参考書	書籍名「これからの調理実習 - 基本手法から各国料理・行事食まで -」 編者：新調理研究会 発行所：株式会社オーム社
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学習は各回授業計画の内容を行う 技術習得は反復練習が必要であるため、実習で指導された内容をしっかり理解し、自宅等で練習を行い技術習得する。また、実習の学習内容が曖昧にならないようにできるだけ速やかに事後学修（技術練習など）を行うようにする。
履修上の留意事項	アレルギー食材については担当教員に申告し、自身でも留意するようにする。 健康面への配慮が必要である場合は、事前もしくは体調不良時に申告する。 衛生面や安全面でのルールが守られない場合は実習の参加が認められないことがある。 各回のまとめを配布レジュメに記録し、提出すること。
オフィスアワー	月曜日：9：00～12：00 水曜日：9：00～12：00 上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可
課題に対するフィードバックの方法	提出書類の返却による添削と直接指導
実務経験	日本料理専門調理師認定 給食用特殊料理専門調理師認定 管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1週 オリエンテーション</p> <p> ・実習の意義・心構え</p> <p> ・白衣・包丁・器具について</p> <p> 【事前学修】シラバスをよく読み、実習の目的と到達目標を認識しておく</p> <p> 【事後学修】配布プリントを再読し、次回以降の実習が円滑に進めることができるようコミュニケーションを行う</p> <p>第2週 切ることを知る</p> <p> ・包丁の部位・名称</p>

第3週	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の切り方 ・包丁の砥ぎ方 <p>「実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大根を切る・包丁を研ぐ <p>【事前学修】 食材の切り方と名称を調べ、理解しておく 【事後学修】 食材の切り方と名称を理解したうえで、実際にきれいに整った切り方ができるように反復練習をする</p> <p>西洋料理の基本（西洋料理の切り方、ドレッシング）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋料理のマナー ・野菜の切り方 ・レタスの千切り ・ドレッシングについて（マヨネーズドレッシング、フレンチドレッシング） <p>「実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大根を切る・レタスのサラダ～マヨネーズドレッシング～ ・包丁を研ぐ <p>【事前学修】 西洋料理の「スパイス」「調味料」を調べ、まとめる 【事後学修】 包丁を正しく持ち、切ることが自然にできるようになるまで反復練習行う。第2回の切り方も継続して反復練習を続ける</p>
第4週	<p>日本料理の出汁（だし）を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だしについて ・一番だし、二番だしの引き方 ・お吸い物の基本 ・ガス火での炊飯方法 <p>「実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出汁をとる・茶巾吸い物 ・きつねごはん <p>【事前学修】 自身の家庭でのだしの取り方を調査し、レポートに記録する 【事後学修】 食品売り場で販売されているだし用昆布、鰹節の種類を調査し、それぞれの違いや特徴をまとめる。実習でのだしの取り方を忠実に再現し、味を確認する</p>
第5週	<p>西洋料理の出汁を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォンとブイヨンについて ・玉ねぎの「スライス」「みじん切り」 ・オニオングラタンスープ ・若鶏もも肉の黄金焼き <p>「実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オニオングラタンスープ・若鶏もも肉の黄金焼き <p>【事前学修】 西洋料理のポタージュとソースの基本を調査し、レポートにまとめる 【事後学修】 実習した玉ねぎスライス、みじん切りを反復練習し、切った玉ねぎを使いオニオンスープもしくはオニオンスープを作る。包丁を研ぐ</p>
第6週	<p>日本料理 ～魚の扱い・焼き物～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚の卸し方・扱い方 ・鰻3枚卸し・塩の仕方 ・鰻の照り焼き <p>「実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鰻の3枚おろし・鰻の照り焼き・豆ごはん <p>【事前学修】 食品売り場で販売されている魚を調査し、名称と旬をレポートにまとめる 【事後学修】 実習した3枚卸の手順を理解したうえで反復練習し技術を習得する</p>
第7週	<p>西洋料理のソースを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトソース（マカロニグラタン） ・トマトソース（豚肉のソテー） <p>「実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マカロニグラタン・豚肉のソテー～トマトソース～ <p>【事前学修】 「ルー」「ベシヤメル（ホワイト）ソース」を使用した料理を調べ、レポートにまとめる 【事後学修】 実習した「マカロニグラタン」を忠実に再現し、味を確認する</p>
第8週	<p>中間実技テスト、大掃除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・掃除の仕方と衛生について <p>【事前学修】 実技テストに向けての反復練習。 厨房の衛生管理についてを学修しておく</p> <p>【事後学修】 実技テストから見えた自身の課題を克服するため、続けての反復練習を習慣化する</p>
第9週	<p>日本料理 天ぷら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天ぷら盛り合わせ ・もち麦御飯 ・包丁砥ぎ <p>【事前学修】 「揚げ物」の基本とコツを調べておく 【事後学修】 「揚げ物」の種類と適温について調べてまとめる</p>
第10週	<p>中華料理 点心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スープ餃子 ・チャーハン ・包丁砥ぎ <p>【事前学修】 中華料理の「点心」について調べておく 【事後学修】 実習で習った餃子を各自作り、A-PORTAL課題提出機能により提出する</p>
第11週	<p>日本料理 煮物、鰯の手開き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茄子の煮浸し ・鰯のつみれ汁 ・しめじ御飯 <p>【事前学修】 鰯の手開きの作業工程を調べておく。事前に学修した炊飯鍋による炊飯法を復習しておく</p>

第12週	<p>【事後学修】鰯の手開きを各自行い、A-PORTAL課題提出機能により提出する イタリア料理 パスタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルボナーラ ・ミネストローネ ・ティラミス <p>【事前学修】代表的なイタリア料理を調べておく</p>
第13週	<p>【事後学修】実習で習ったカルボナーラを各自作り、A-PORTAL課題提出機能により提出する 日本料理 焼き物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮭の幽庵焼き ・茸のひろうす和海老の炊き合わせ ・むかご御飯 <p>【事前学修】焼き物の種類と基本を調べておく</p>
第14週	<p>【事後学修】前期に学修した魚の三枚おろしの反復練習をする 西洋料理 ハンバーグとポタージュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンバーグステーキ キャロットグラッセ ・さつまいものポタージュ <p>【事前学修】ハンバーグの語源と美味しく作るポイントを調べておく</p>
第15週	<p>【事後学修】ポタージュを作る際の「とろみ」をつける役割をする食材についてまとめる 日本料理 寿司</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻き寿司 ・鰻の蕪蒸し ・しじみの味噌汁 <p>【事前学修】寿司飯を炊飯する時の水加減と寿司酢について調べておく</p>
第16週	<p>【事後学修】「すし」の発祥と発展について調べておく 実技テスト、大掃除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・掃除の仕方と衛生について ・大掃除 <p>【事前学修】実技テストに向けての練習、厨房の衛生管理について学修しておく</p>
定期試験	<p>【事後学修】実技テストから見えた自身の課題を克服するため、続けての反復練習を習慣化する</p>

講義科目名称： 応用栄養学 I

授業コード： 51203200 51203210

英文科目名称： Applied Nutrition I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
黒川 浩美			
開講曜限	授業形態		
月4、木3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-6 身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解している。</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p>
科目の概要・目的	<p>生命維持と健康増進に必要な食事の重要性を理解し、人生各段階での適切な栄養管理を学ぶことです。乳幼児期から老年期に至るまで、身体の変化に合わせた栄養ニーズがあり、この科目ではそれらを詳しく学びます。個人や集団の健康状態と食生活を評価し、改善に必要な栄養マネジメントとケアの技術を習得します。具体的には、ライフステージに応じた栄養の必要性、栄養状態の評価方法、そして栄養ケアの計画と実践について学びます。この科目を通じて、栄養に関する知識と実践スキルを身につけ、健康維持と疾病予防に寄与する栄養専門家としての基礎を築きます。</p>
学習到達目標	<p>本科目の目標は、栄養マネジメントの全般にわたる理解と、個人及び集団の栄養状態評価やリスク管理のための基礎知識とスキルの習得です。積極的なディスカッション参加を通じて、意見交換の能力を高め、食事摂取基準に関する理論と実践力を兼ね備えた管理栄養士としての資質を育成します。</p>
授業の方法	<p>講義中心の授業形式 本科目では、講義が学習の中心となります。基本的な栄養学の理論や概念を、講義を通じて詳細に学びます。</p> <p>【アクティブラーニングの実施】 第9回：講義内容を活かし、モデル患者の事例分析を行います。訴えの聞き取りと問題点の抽出、栄養ケア計画についてのディスカッションをクラス内で実施します。 第10回・第11回：学んだ知識を基に、モデル患者向けの栄養ケア計画をグループで作成します。 第12回：グループ作業で策定した栄養ケア計画を発表し、評価とフィードバックを受けます。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 講義内容の補強として、オンラインまたはオンデマンド形式での双方向授業を実施します。これにより、学習者は自宅からでも授業内容を復習し、理解を深めることができます。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【成績評価】【割合】 定期試験(筆記)：60% - 試験を通じて、学習した知識と理解度を評価します。 積極的授業参加：20% - 授業内での積極的な参加とディスカッションへの貢献を評価します。 課題提出：20% - 指定された課題を期限内に提出することが、この割合で評価されます。</p>
教科書・テキスト	<p>Visual栄養学テキスト 応用栄養学 編集 小切間美保・栗原晶子 中山書店 日本人の食事摂取基準(2020年版)</p>
参考書	<p>「日本人の食事摂取基準(2020年版)」策定検討会報告書 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08517.html</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>**重要な注意事項：**課題の提出が遅れた場合、または提出されなかった場合、成績に大きく影響します。この科目は、知識と技能の習得です。課題の適時提出は極めて重要です。課題提出期限を守れない特別な事情がある場合は、事前にご相談ください。</p>
履修上の留意事項	<p>本科目の成功は、皆さんの積極的な参加に大きく依存しています。課題の提出、発表、そしてクラスディスカッションへの参加は、学習成果を最大化するために不可欠です。以下の点に特に注意してください。</p> <p>課題提出：各課題は、指定された期限内に完成させ、提出してください。 クラス内発表：発表は、皆さんのコミュニケーション能力と理解の深さを示す機会です。事前準備を怠らず、自信を持って発表してください。 クラスディスカッション：積極的にディスカッションに参加し、自分の意見や質問を共有することで、学習の深化を図りましょう。</p>
オフィスアワー	<p>水～金 15:00-17:00 (授業時間以外)</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>Active Portalにて連絡する</p>
実務経験	<p>管理栄養士</p>
その他	<p>特になし</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の説明等) 栄養ケア・マネジメントを始めるにあたり</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・推定エネルギー必要量の算出，食事バランスガイドが理解できている。 【事前学修】食と健康の教科書P29を復習しておく 【事後学修】配布プリントの問題に取り組む
第2回	<p>食事摂取基準の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取基準の基本的な考え方について理解する。 【事前学修】教科書P16-18を読んで，わからない単語について調べておく 【事後学修】配布プリントの問題に取り組む
第3回	<p>食事摂取基準活用の基礎理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養摂取基準各指標の目的と種類について説明できる。 【事前学修】教科書P19-24を読んで，わからない単語について調べておく 【事後学修】配布プリントの問題に取り組む
第4回	<p>エネルギー・栄養素別食事摂取基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー・栄養素別食事摂取基準について理解する。 【事前学修】教科書P29-41を読んで，わからない単語について調べておく 【事後学修】配布プリントの問題に取り組む
第5回	<p>栄養ケア・マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養管理の目的が説明できる。 ・栄養ケア・マネジメントの概要が説明できる。 【事前学修】教科書P1-5を読んで，わからない単語について調べておく 【事後学修】授業内に提示したWordについて，ワークブックにまとめておく
第6回	<p>栄養アセスメント-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養アセスメントの意義と目的を理解する。 【事前学修】教科書P6-15を読んで，わからない単語について調べておく 【事後学修】静的栄養アセスメント，動的栄養アセスメントの項目をまとめた表を作成する
第7回	<p>栄養アセスメント-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養アセスメントの指標及び内容を理解する。 【事前学修】教科書P10の検査項目について理解しておく 【事後学修】食事調査についてまとめておく
第8回	<p>栄養ケアマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取基準活用の基礎理論 【事前学修】教科書p 172-181を読んで，わからない単語，項目について復習しておく 【事後学修】配布資料の書き込みに抜けがないか確認する
第9回	<p>栄養アセスメント①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル患者のアセスメント，評価を行う 【事前学修】第5, 6, 7回のプリントを復習しておく 【事後学修】モデル患者アセスメント内容をまとめておく
第10回	<p>栄養アセスメント②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル患者のカンファレンスを行う（グループワーク） 【事前学修】モデル患者アセスメント発表の準備をしてグループワークに参加する 【事後学修】グループワークの内容を理解する
第11回	<p>栄養アセスメント③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル患者のフィードバックを作成する 【事前学修】グループワークの内容をまとめておく 【事後学修】次回の発表のため，媒体を完成させておく
第12回	<p>栄養アセスメント④発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル患者のアセスメントについて発表する 【事前学修】発表の準備をしておく 【事後学修】他の発表についてまとめておく
第13回	<p>成長・発達・加齢と変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長・加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養について理解する。 【事前学修】教科書P76-86を読んで，わからない単語について調べておく 【事後学修】配布プリントの問題に取り組む
第14回	<p>環境と栄養</p> <p>ケース別（ストレス時・特殊環境下）の身体活動にともなう生理的な変化や栄養的特性と，それらに対する栄養管理について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】教科書P157-162を読んで，わからない単語について調べておく 【事後学修】配布プリントの問題に取り組む
第15回	<p>日本人の食事摂取基準についてまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食事摂取基準，特徴について確認する。 【事前学修】教科書p 16-41を読んで，わからない単語，項目について復習しておく 【事後学修】配布プリントの問題に取り組む
定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 【事前学修】教科書，配布プリントを復習しておく 【事後学修】試験問題のわからなかった個所を確認し，調べておく

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
黒川 浩美			
開講曜限	授業形態		
水2、5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-6 身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解している。</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>応用栄養学Ⅱでは、妊娠期から幼児期にかけての重要なライフステージを対象に、各段階での栄養の重要性を深く掘り下げます。妊娠期の栄養が母体と胎児の健康、出産後の回復、そして母乳分泌に直接影響するように、新生児期、乳児期、幼児期の栄養もそれぞれの成長と発達に欠かせない役割を果たします。</p> <p>この科目では、各ライフステージに特有の生理的特徴を理解し、適切な栄養アセスメントとケアの方法を学びます。さらに、応用栄養学Ⅰで習得した知識を基に、ライフステージごとの食事摂取基準と栄養ケアの具体的な実施方法について学習します。</p> <p>この授業を通じて、学生は各ライフステージにおける適切な栄養補給の重要性を理解し、栄養状態の評価と栄養ケアの実践能力を高めることを目指します。</p>
学習到達目標	<p>生理的特徴に基づく栄養管理：妊娠期から幼児期に至るまでの各ライフステージにおける生理的特徴を理解し、それに基づいた栄養管理の重要性を説明できるようになります。</p> <p>包括的な栄養マネジメント：各ステージにおける栄養状態の評価、判定から栄養ケアプロセスの計画、実施に至るまでの一連の栄養マネジメントを実践できる能力を身につけます。</p> <p>国家試験対策：国家試験に向けて必要な基礎知識を習得し、専門的な資格取得に向けた準備ができていないことを確認します。</p>
授業の方法	<p>講義形式とアクティブラーニングの組み合わせ</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 本科目では、伝統的な講義形式を基本としつつ、アクティブラーニングを積極的に取り入れることで、学習体験を豊かにしています。</p> <p>第5回：ディスカッションを通して、妊娠期の栄養ケアに関する深い知識と課題を探求します。学生は、妊婦への情報伝達方法について意見を交換し、効果的なコミュニケーション技術について学びます。 第6回：グループ活動を通じて、第5回のディスカッションで浮上した課題に基づき、具体的な栄養指導計画の策定に取り組みます。 第8回：各グループが作成した栄養指導計画をクラス内で発表し、評価とフィードバックを受けます。このプロセスは、実践的なプレゼンテーションスキルと批評能力を養わせます。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 本科目では、状況に応じてオンラインやオンデマンドの授業形式を採用します。このアプローチにより、柔軟な学習環境を提供し、学生がどこからでも授業内容にアクセスできるようにします。</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 【割合】</p> <p>定期試験(筆記) (60%)：科目全体の理解度を測るための筆記試験です。 授業への積極的参加 (20%)：授業内でのディスカッションへの貢献、質問、グループワークなど、積極的な参加態度を通じて評価されます。 課題提出 (20%)：指定された課題の完成度と提出期限の厳守を基に評価されます。</p>
教科書・テキスト	<p>Visual栄養テキスト 応用栄養学 編集 小切間美保・栗原晶子 中山書店 日本人の食事摂取基準 (2020年版) 授業中に適宜資料を配付する</p>
参考書	<p>授乳・離乳の支援ガイド (厚生労働省2019年改訂版) https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html 妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針～妊娠前から、健康なからだづくりを～ https://www.mhlw.go.jp/content/000776926.pdf</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>参考資料の事前読み込み：授業前には必ず指定された資料を読み、内容を予習しておきます。 課題の期限厳守：授業で出される課題は、提出期限を守り、期限内に課題を完成させて提出することが重要です。</p>
履修上の留意事項	<p>グループワークと発表に積極的に参加してください。皆さんの活発な参加がクラスを豊かにし、学びを深めます。自分の意見を共有し、他の人から学びましょう。一緒に成長し、成功を目指しましょう。</p>
オフィスアワー	<p>水～金 15:00-16:00 (授業時間外)</p>
課題に対する	<p>Active Portalにて連絡いたします。</p>

フィードバックの方法	
実務経験	管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） 妊娠期の特徴 ・母体の変化と胎児の成長について理解する</p> <p>第2回 【事前学修】 ライフステージ別食事摂取基準を復習しておく 【事後学修】 教科書P46表④を熟読し、妊娠期間の定義と母体胎児の変化を理解しておく 妊娠期の食事摂取基準 ・妊娠期に必要とされるエネルギーや栄養素のついて学び理解する。</p> <p>第3回 【事前学修】 妊娠期の食事摂取基準を把握しておく 【事後学修】 食事摂取基準（2020年版）P379表1を理解しておく 妊娠期の栄養ケア ・妊娠中の栄養管理の特徴を理解する。</p> <p>第4回 【事前学修】 教科書P53-56を読み、わからない単語、栄養素について調べておく 【事後学修】 妊娠期の栄養素と特徴をまとめておく 妊娠期のトラブルについての栄養ケア ・妊婦の疾病、具体的なアセスメント、栄養管理について理解する。</p> <p>第5回 【事前学修】 教科書P56-61を読み、わからない単語、栄養素について調べておく 【事後学修】 疾病ごとに栄養管理基準をまとめておく 妊娠期の栄養指導方法の検討 ・妊婦に対する集団栄養指導・個別栄養指導について検討する。</p> <p>第6回 【事前学修】 配布資料①の空欄を埋めておく 【事後学修】 配布資料②を読み、グループワークの準備をしておく 妊娠期の栄養指導方法を具体化（グループワーク） ・妊婦の栄養ケア方法について、グループワークを行う。</p> <p>第7回 【事前学修】 配布資料②の課題に取り組む 【事後学修】 グループワーク内容をまとめておく 妊娠期の栄養指導について計画作成 ・前回のグループワーク結果から、具体的な栄養指導計画案を作成する。</p> <p>第8回 【事前学修】 各自で栄養指導計画案を作成する 【事後学修】 グループで栄養指導計画案をまとめておく 妊娠期の栄養指導計画の発表 ・各グループごとに発表を行う。</p> <p>第9回 【事前学修】 発表準備をしておく 【事後学修】 他の班の発表をまとめて 授乳期の栄養ケア ・授乳期に必要とされるエネルギーや栄養素のついて学び理解する。 ・特徴的な疾患への栄養介入や予防について理解する。</p> <p>第10回 【事前学修】 教科書P50-52を読んでおく。わからないwordについては事前に調べておく 【事後学修】 過去問を解き理解しておく 新生児・乳児期の栄養ケア ・新生児期・乳児期の成長について理解する。</p> <p>第11回 【事前学修】 P64-71を読んでおく。わからないwordについては事前に調べておく 【事後学修】 配布資料をまとめておく 授乳・離乳の支援ガイドの活用 ・離乳食の進め方について理解する。</p> <p>第12回 【事前学修】 教科書72-75を読んでおく。わからないwordについては事前に調べておく 【事後学修】 配布資料をまとめておく 幼児期の栄養ケア ・幼児期の特徴 ・幼児期の食事摂取基準</p> <p>第13回 【事前学修】 教科書76-90を読んでおく。わからないwordについては事前に調べておく 【事後学修】 配布資料をまとめておく 幼児期の栄養 ・幼児期の食事摂取基準を理解する。 ・保育所給食の取り組みや疾病予防のための栄養介入について理解する。 ・食物アレルギーへの対応の仕方を理解する。</p> <p>第14回 【事前学修】 教科書91-93を読んでおく。わからないwordについては事前に調べておく 【事後学修】 配布資料をまとめておく 食事摂取基準の基礎的理解</p>

	<p>・エネルギー・栄養素別，ライフステージ別の食事摂取基準を理解し，説明ができる。</p> <p>【事前学修】 食事摂取基準(2020年版) P378-386PP389-P404を読んでおく 【事後学修】 ライフスタイル別の食事摂取基準に沿った献立の作成をする</p> <p>第15回 ライフステージごとのまとめ</p> <p>・各ライフステージの特徴と具体的な栄養ケアについて説明できる。</p> <p>【事前学修】 これまでの配布資料を復習する 【事後学修】 定期試験に向けて復習を行なう</p> <p>定期試験</p> <p>【事前学修】 定期試験に向けて復習を行なう 【事後学修】 定期試験でわからなかった問題について確認する</p>
--	---

講義科目名称： 応用栄養学Ⅳ

授業コード： 51203500

英文科目名称： Applied Nutrition IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
須谷 和子、高木 尚紘			
開講曜限	授業形態		
水2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-6 身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解している。</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>栄養摂取が運動成果（スポーツパフォーマンス）におよぼす影響について学習するとともに、コンディショニングについて学習し理解を深める。さらに、未来のスポーツ選手に向けて、栄養サポートのあり方についても学習し視野を広める。</p>
----------	---

学習到達目標	<p>スポーツ選手の身体組成とからだづくり、コンディショニングについて学習する。また、スポーツにおける栄養摂取の重要性についても学習する。ジュニアアスリートに対する栄養教育についても実務経験のある講師から話を聞き、世代ごとの特性やサポート体制についても理解を進める。</p>
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
-------	---

成績評価の方法	<p>【評価項目】 課題作成 ディスカッションへの関わり・プレゼンテーションの出来栄</p> <p>【割合】 課題作成 (60%) ディスカッションへの関わり・プレゼンテーションの出来栄 (40%)</p>
---------	---

教科書・テキスト	<p>適宜プリント教材を配布する</p>
----------	----------------------

参考書	<p>「健康運動実践指導者養成用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 「応用栄養学」 小切間美保、栗原晶子編著 中山書店</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>事前学習：各授業の対応項目を参考書などを用いて各自行い、疑問点があれば授業で解決できるようにまとめておく 事後学習：配布プリント、参考書などを用いて各自おこなう</p>
---------------------------	---

履修上の留意事項	<p>本講義と「応用栄養学実習Ⅲ」を併せて受講すると、スポーツ栄養に関する理論と実践の両面の学習ができる。 「健康運動実践指導者」資格養成講座の1つである。</p>
----------	--

オフィスアワー	<p>金曜日 1限目（須谷） 月曜日 4限目（高木）</p>
---------	------------------------------------

課題に対するフィードバックの方法	<p>ディスカッションを行う時間を設けている。</p>
------------------	-----------------------------

実務経験	<p>管理栄養士</p>
------	--------------

その他	<p>特になし</p>
-----	-------------

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション/須谷 授業の進め方と成績評価の説明 【事前学修】 応用栄養学で学んだスポーツと栄養について復習しておく 【事後学修】 競技の種類によって必要な栄養素の特徴をまとめておく</p> <p>第2回 IOCのスポーツ栄養に関する合同声明/須谷 スポーツ栄養マネジメントについて 【事前学修】 IOCの合同声明文（英文）を読み、要点をまとめておく 【事後学修】 授業後にまとめたものを提出する</p> <p>第3回 スポーツ選手に対する栄養サポート（概論）/須谷 身体活動時および運動時の栄養管理 【事前学修】 スポーツと栄養、体のリズムについて調べておく 【事後学修】 スポーツする人の効果的な食事のとり方について理解する</p> <p>第4回 スポーツ選手の身体組成と身体作りのための食事/須谷 エネルギー供給システム</p>
-------	---

第5回	<p>【事前学修】 スポーツ・運動における栄養素の働きを調べておく 【事後学修】 さらに発展させ、運動種目によってどのような違いがあるかまとめる トレーニングとエネルギー消費量/須谷 スポーツ選手の身体組成と貯蔵エネルギー 【事前学修】 どんな運動の種目に興味があるか、どのくらいの食事が必要か調べておく 【事後学修】 レポートにまとめたものを第6回までに準備しておく</p>
第6回	<p>栄養・食事計画の立案①/須谷 グループディスカッション① 【事前学修】 第5回事後学修で準備し、完成した資料をまとめておく 【事後学修】 ディスカッションの中で出てきた課題などを整理し、食事計画を確定させておく</p>
第7回	<p>栄養・食事計画の立案②/須谷 グループディスカッション② 【事前学修】 第6回事後学修で準備し、完成した資料をまとめておく 【事後学修】 栄養価計算を完成させる</p>
第8回	<p>スポーツと栄養・前半まとめ /須谷 スポーツと栄養についてのまとめ（応用栄養学実習Ⅲの内容も含める） 【事前学修】 実習での気づきをまとめておく 【事後学修】 講義と実習から学んだ内容をまとめる</p>
第9回	<p>アスリートに対する食事提供/ 高木 【内容】 スポーツ選手に対する食事提供について解説する 【事前学修】 アスリートに必要な栄養素について予習しておく 【事後学修】 アスリートの食事提供についてまとめておく</p>
第10回	<p>アスリートの栄養補給（補食） / 高木 【内容】 体づくりのために必要な栄養素および食事計画について考える 【事前学修】 体づくりを阻害する要因等について検討しておく 【事後学修】 体づくりのための食事計画を完成させる</p>
第11回	<p>アスリートの栄養補給（プレゼンテーション） / 高木 【内容】 アスリートに対する補食提供の意義と工夫について解説する 【事前学修】 補食メニューや工夫について調べておく 【事後学修】 補食メニューを考え、購入計画を立てておく</p>
第12回	<p>ジュニアアスリートの栄養サポート / 高木 【内容】 ジュニアアスリートの特徴を踏まえた栄養サポートの方法について解説する 【事前学修】 ジュニアアスリートの健康課題について調べておく 【事後学修】 ジュニアアスリートの栄養サポートについてまとめておく</p>
第13回	<p>暑熱対策 / 高木 【内容】 スポーツ実施時の暑熱対策、水分補給について解説する 【事前学修】 暑熱対策、水分 【事後学修】 水分補給方法を中心にまとめておく</p>
第14回	<p>アスリートとサプリメント / 高木 【内容】 サプリメント利用時の注意点や活用する方法について解説する 【事前学修】 サプリメントの種類や利用時の注意点を調べておく 【事後学修】 サプリメント利用時の注意点や活用する方法についてまとめておく</p>
第15回	<p>スポーツ栄養・後半のまとめ / 高木 【内容】 これまでの講義内容のまとめをおこなう 【事前学修】 講義内容の振り返りを行っておく 【事後学修】 全体のまとめをおこなう</p>

講義科目名称： 応用栄養学実習Ⅲ

授業コード： 51203800

英文科目名称： Practice in Applied Nutrition III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	選択
担当教員			
須谷 和子、高木 尚紘			
開講曜限	授業形態		
水3、4、5	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-6 身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解している。</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	<p>競技スポーツのための食品の摂取方法を検討し、その競技内容に見合った献立を立て、実習し評価を行う。各競技スポーツにおけるエネルギー供給の特性を把握し、指導方法を検討するとともに、栄養摂取が運動成果（スポーツパフォーマンス）に及ぼす影響について理解することを目的とする。</p>
学習到達目標	<p>①健康と運動との関係について理解を深め、実践指導者としての素養を修得できていること</p> <p>②競技内容に即した献立の検討ができ、実習を通して食事提案や提供ができること</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>①献立作成のためのグループワークと調理実習</p> <p>②各測定機器を用い、自身の身体組成やエネルギー消費量を測定し、ディスカッションしながら各講義の理解を深める</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 実習への参加態度、 課題・レポート</p> <p>【割合】 実習への参加態度（60%） 課題・レポート（40%）</p>
教科書・テキスト	プリント配布する
参考書	実習時に指示する
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>事前学習：出された課題やメニュー検討、栄養価計算などの検討</p> <p>事後学習：実習の事後評価を行い、レポートを作成する（授業期間内に定期的な測定を実施する予定）</p>
履修上の留意事項	本講義と「応用栄養学Ⅳ」を併せて受講すると、スポーツ栄養に関する理論と実践を体感できると考えられる。なお、この授業は「健康運動実践指導者」資格養成講座の1つとなっている。
オフィスアワー	<p>金曜日 1限目（須谷）</p> <p>月曜日 4限目（高木）</p>
課題に対するフィードバックの方法	ディスカッションを行う時間を設けている。
実務経験	管理栄養士
その他	実習は3コマ連続の8週で展開する。15回分の授業内容を8回に分けて実施する。詳細については随時説明する。調理実習時には清潔な白衣と帽子を着用。上靴、手拭きタオルを持参し、衛生面に注意して実習を行うこと。包丁が必要な回には包丁を持参する。
授業の内容	<p>第1回 健康と食事/須谷 健康づくりのための運動と食生活のありかた 【事前学修】肥満と食生活の関係について調べておく 【事後学修】肥満にならないための食生活アドバイスができるようになる</p> <p>第2回 一般食からアスリートのための食事の献立展開/須谷 スポーツ選手が必要とする食事内容、特徴の理解 【事前学修】競技種目の特性について調べる 【事後学修】対象者を決めて、どのような食事支援ができるか考える</p> <p>第3回 競技別スポーツ選手に対する1日分の食事提案①/須谷 献立作成① 【事前学修】第2回の事後学修で決めた対象者への1日分の献立作成 【事後学修】食事摂取基準も参考に、作成した献立をしっかりと検討する</p> <p>第4回 競技別スポーツ選手に対する1日分の食事提案②/須谷 献立作成② 【事前学修】使用する材料、レシピを確定させて授業に臨むこと 【事後学修】発注表の作成と作業計画立案</p>

第5回	第3,4回で検討した調理実習/須谷 調理実習 【事前学修】作業手順をしっかりと確認して授業に臨むこと 【事後学修】試食後の反省点をまとめてレポート作成する
第6回	合宿メニューの検討①/須谷 合宿所で食事提供をすると仮定し、バイキングメニューを考える 【事前学修】主食、主菜、副菜、汁物、デザートなど食事構成について考えておく 【事後学修】グループで考えをノートにまとめておく
第7回	合宿メニューの検討②/須谷 第6回の続き 【事前学修】第6回の意見をまとめて授業に臨むこと 【事後学修】メニューを確定させて栄養価計算をする
第8回	スポーツ選手への補食の検討/須谷 補食の重要性について理解する 【事前学修】補食としてどのようなものがあるか調べておく 【事後学修】市販品や手作りも含めて、提供する補食を確定させる
第9回	身体活動量の測定 / 高木 ① 【内容】大学近隣を散策し、実際の身体活動量を測定する 【事前学修】身体活動強度について予習しておく 【事後学修】データを受け取りまとめる
第10回	補食内容の検討 / 高木 ②-1 【内容】前回の身体活動量の算出を行う 【事前学修】身体活動量の計算方法について復習しておく 【事後学修】身体活動量に応じた補食について検討しておく
第11回	補食内容の検討 / 高木 ②-2 【内容】前回の身体活動量から必要な補食量を検討し、実際に献立作成をおこなう 【事前学修】補食の種類や提供方法について検討しておく 【事後学修】補食メニューについて考え書き出しておく。
第12回	補食提供の準備 / 高木 ③-1 【内容】補食献立の栄養計算 【事前学修】補食に必要な材料の検討をしておく 【事後学修】栄養価計算を完了させておく
第13回	補食提供の準備 / 高木 ③-2 【内容】補食献立の購入計画を立てる 【事前学修】補食に必要な材料の検討をしておく 【事後学修】購入計画を完了させ次回に備えておく
第14回	調理実習およびプレゼンテーション / 高木 ④-1 【内容】補食の調理および試食、プレゼンテーションのリハーサル 【事前学修】計画した補食の材料準備をおこなう。特徴をまとめておく 【事後学修】改善点の検討をおこなう
第15回	調理実習およびプレゼンテーション / 高木 ④-2 【内容】補食の調理および試食、プレゼンテーションの実施 【事前学修】計画した補食の材料準備をおこなう。特徴をまとめておく 【事後学修】感想を提出する

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
蜂須賀 のぞみ			
開講曜限	授業形態		
火3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p>
科目の概要・目的	<p>栄養教育論 Iにおけるねらいは、「社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた基礎的な栄養教育計画を展開することができる」ことである。</p> <p>食育推進基本計画や国民健康・栄養調査結果から現代的な課題をつかみ、それらを改善するための栄養教育目標の設定、評価の種類などを理解し、対象に応じた、より効果的な栄養教育カリキュラムの立案、実施、評価を総合的にマネジメントできる力を修得する。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教育の概念・役割について説明できる ・栄養教育の歴史について説明できる ・栄養教育と社会・生活とのかかわりについて説明できる ・栄養教育を実施するために必要なアセスメントの方法や教育目標の設定、教育内容やその評価の種類などを理解し、栄養教育計画を作成することができる
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを随時取り入れる。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>小テスト・課題提出、定期試験（筆記）、授業への参加態度</p> <p>【割合】</p> <p>小テスト・課題提出（40%） 定期試験（筆記）（55%） 授業への参加態度（5%）</p>
教科書・テキスト	<p>栄養科学シリーズ 栄養教育論 第4版 笠原賀子、斎藤トシ子編 講談社サイエンティフィック</p>
参考書	<p>日本人の食事摂取基準 国民健康・栄養調査</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の事前にテキストを読んでおくこと ・新聞・雑誌・ニュースなど食育に関する情報に着目し、目を通しておくこと
履修上の留意事項	<p>教科書は毎回持参すること 積極的な態度で授業に参加すること</p>
オフィスアワー	<p>4-406研究室（在室時間帯は研究室扉に掲示しています）</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出された課題等については、次の講義で説明する。</p>
実務経験	<p>管理栄養士 学校栄養職員 栄養教諭</p>
その他	<p>欠席した場合は次回の授業までに必ず講義資料を受け取りに来ること。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方・成績評価の説明など） "オリエンテーション 栄養教育の概念、定義、対象 科目到達目標、授業の進め方や成績評価を説明する。 栄養教育の概念、栄養教育の定義、対象について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p> <p>第2回 栄養教育と介入 栄養教育の目的・食の課題について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p> <p>第3回 栄養指導・栄養教育の法的根拠 食育推進計画など、栄養教育の法的根拠について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>

第4回	<p>管理栄養士・栄養士の役割 栄養教育と管理栄養士・栄養士の役割について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第5回	<p>栄養教育と社会の変化 栄養教育の歴史・近年の栄養教育について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第6回	<p>栄養・食生活と食環境づくり 食環境づくりにおける栄養教育について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第7回	<p>栄養教育に関連する生活指導① 栄養教育に関連する生活指導（運動、休養）について課題を解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第8回	<p>栄養教育に関連する生活指導② 栄養教育に関連する生活指導（飲酒対策、喫煙防止指導）について課題を解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第9回	<p>栄養教育マネジメント① 栄養教育のマネジメント・栄養管理プロセスについて解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第10回	<p>栄養教育マネジメント② 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメントについて解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第11回	<p>栄養教育マネジメント③ 栄養診断の判定・用語・報告書等について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第12回	<p>栄養教育マネジメント④ 栄養教育計画及び実施について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第13回	<p>栄養教育マネジメント⑤ 栄養教育計画の作成について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第14回	<p>栄養教育の実施 栄養教育の実施について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
第15回	<p>栄養教育の評価、まとめ 栄養教育の評価について解説する。 【事前学修】教科書を事前に熟読し、章のキーワードについて確認しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリント、振り返りシートを復習し理解しておくこと</p>
定期試験	

講義科目名称： 栄養教育論Ⅲ

授業コード： 51204100 51204110

英文科目名称： Nutritional Education III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	必修
担当教員			
須谷 和子			
開講曜限	授業形態		
金2、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育として、妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期、障がい者への栄養教育の特徴、災害時の栄養教育活動における教育目標や方法について学び、実践できるようになるための知識を修得する。
学習到達目標	栄養教育論Ⅰ、Ⅱで学んだことをベースに、個人及び集団の健康・栄養状態・食行動・食環境などに関する情報収集と分析を行う。それらを総合的に評価・判定することができるようになる。また、対象に応じた栄養教育のプログラムを作成し、実践、評価を行い、総合的なマネジメントに発展させることができるようになる。
授業の方法	<p>毎回、講義の前に国家試験の過去問題を解きながら、問題の傾向分析と対策をおこなう。</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 症例研究を行い、発表をする場合がある。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、課題提出、授業参加態度</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）（80%） 課題提出（15%） 授業参加態度（5%）</p>
教科書・テキスト	栄養教育論Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト 随時プリントを配布する。
参考書	授業時に指示する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>事前学習：栄養教育論Ⅰ・Ⅱの復習</p> <p>事後学習：栄養教育案の作成など、授業時間外で課題を調べたり、パワーポイント作成を通して学習目標の到達を目指す</p>
履修上の留意事項	特になし
オフィスアワー	金曜日 1限目
課題に対するフィードバックの方法	課題については、授業時間内に解答・解説の時間を設けたり、添削した後返却する。
実務経験	管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 栄養教育論Ⅰ・Ⅱの振り返り 授業の進め方・評価等について説明 【事前学修】キーワードの復習（栄養教育論Ⅰ・Ⅱに出てきたキーワードをまとめる） 【事後学修】国家試験の過去問題の解答・解説ができるようになる</p> <p>第2回 妊娠・授乳期を対象とする栄養教育① 妊娠・授乳期の栄養教育の特性と留意事項 【事前学修】人体の構造と機能、応用栄養学で学んだ妊婦・授乳婦の特徴を復習しておく 【事後学修】妊婦・授乳婦に対してどのような食品を選択したらよいか、調理法、食べ方など具体的に指導できるようにノートにまとめる</p> <p>第3回 妊娠・授乳期を対象とする栄養教育② 母性の育成と栄養教育について学ぶ 【事前学修】第2回の事後学修でまとめたことを発展させ、食事だけでなく日々の生活の過ごし方も含めて指導できるように、各期にわけて下調べしておく 【事後学修】妊婦・授乳婦に対する献立計画・栄養指導計画についてまとめる</p> <p>第4回 妊娠・授乳期を対象とする栄養教育③ 妊娠・授乳期の栄養教育のためのアセスメントを理解し、栄養教育案を立てる</p>

	<p>【事前学修】第3回の事後学修でまとめた計画について、食事摂取基準値にあてはまっているか確認しておく</p> <p>【事後学修】妊婦・授乳婦に対する食事計画、栄養指導計画についてレポートにまとめ、提出する</p>
第5回	<p>乳幼児期を対象とする栄養教育①</p> <p>乳幼児期の栄養教育の特性と留意事項</p> <p>【事前学修】乳幼児の身体発育、摂食機能・消化機能の発達などの身体特性を復習しておく</p> <p>【事後学修】事前学修した内容、講義で学んだポイントをノートにまとめる</p>
第6回	<p>乳幼児期を対象とする栄養教育②</p> <p>乳幼児の食事、生活リズムの形成、味覚・嗜好の形成と栄養教育について理解し、栄養教育案を立てる</p> <p>【事前学修】離乳食の進め方について復習しておく</p> <p>【事後学修】離乳の支援ができるようになる</p>
第7回	<p>学童期・思春期を対象とする栄養教育①</p> <p>学童期・思春期の栄養教育の特性と留意事項</p> <p>【事前学修】学童期・思春期の食事摂取基準について復習しておく</p> <p>【事後学修】思春期においては、男女の身体的特徴が明確になるので、性差を考慮した栄養ケアができるようになっておくこと</p>
第8回	<p>学童期・思春期を対象とする栄養教育②</p> <p>学童期・思春期の栄養教育のためのアセスメントを理解し、学校における食に関する指導（食育）推進への理解を深める</p> <p>【事前学修】応用栄養学で学んだ学校給食摂取基準を理解しておく</p> <p>【事後学修】食物アレルギー対応についてまとめる</p>
第9回	<p>成人期を対象とする栄養教育①</p> <p>成人期の栄養教育の特性と留意事項</p> <p>【事前学修】成人期における肥満や痩せについて理解しておく</p> <p>【事後学修】第10回に向けて、成人期に起りやすい問題点をノートにまとめておく</p>
第10回	<p>成人期を対象とする栄養教育②</p> <p>成人期（肥満や痩せの人）の個別栄養教育について理解し、栄養教育案を立てる</p> <p>【事前学修】第9回の事後学修を完成させておく</p> <p>【事後学修】成人期における栄養ケアマネジメントができるようになること</p>
第11回	<p>高齢期を対象とする栄養教育①</p> <p>高齢期の栄養教育の特性と留意事項</p> <p>【事前学修】高齢期の生理的特徴を理解しておく</p> <p>【事後学修】高齢期におこりやすい問題点をノートにまとめる</p>
第12回	<p>高齢期を対象とする栄養教育②</p> <p>摂食・嚥下障害と食事、生活習慣病の発症と食事など具体的な事例に即して栄養教育案を立てる</p> <p>【事前学修】低栄養にならないための食事について調べておく</p> <p>【事後学修】事例をまとめて提出する</p>
第13回	<p>要介護高齢者における栄養教育</p> <p>車椅子生活、寝たきりの生活者への栄養教育の実践を理解する</p> <p>【事前学修】食事面からどのようなサポートができるか調べておく</p> <p>【事後学修】事例をノートにまとめておく</p>
第14回	<p>障がい者への栄養教育</p> <p>障がいの程度によりどのような食事支援ができるか、栄養教育をどのように行えばよいのか総合的マネジメントを理解する</p> <p>【事前学修】障がいの種類や程度について理解しておく</p> <p>【事後学修】食の支援について考えることができる</p>
第15回	<p>災害時の栄養管理</p> <p>被災者への栄養教育活動について理解し、実践計画を立ててみる</p> <p>【事前学修】過去におこった災害時に管理栄養士がどのような活動をしていたか調べる</p> <p>【事後学修】被災者への支援プログラムを提案できる</p>
定期試験	

講義科目名称： 栄養教育論実習 I

授業コード： 51204200 51204240

英文科目名称： Practice in Nutritional Education I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	3	1 (通年)	必修
担当教員			
池上 益世			
開講曜限	授業形態		
火3、水4	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p>						
科目の概要・目的	前半は生活習慣病予防などのテーマで模擬集団健康教育の実施と相互評価を行う。後半は個別健康教育における基本的なスキルや心構えについて体験的に学習する。また模擬個別健康教育の実施と相互評価及びコンピューター栄養教育システムの活用により、個別健康教育の技術を高める。						
学習到達目標	管理栄養士として、健康の保持・増進につながる栄養教育を行うために必要なスキルを身につける。集団健康教育のために対象を評価し、計画し、実行、評価を行うための技術を身につける。個別健康教育の実践に必要なカウンセリングの基本的な技術を体験を通じて身につける。						
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>学内システムを通じて、学生同士の感想や意見のレスポンス、フィードバックを行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>						
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>1 実習への参加態度</p> <p>2 発表</p> <p>3 課題、媒体、相互評価</p> <p>【項目】</p> <table border="0"> <tr> <td>1 実習への参加態度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>2 発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題、媒体、相互評価</td> <td>30%</td> </tr> </table>	1 実習への参加態度	40%	2 発表	30%	3 課題、媒体、相互評価	30%
1 実習への参加態度	40%						
2 発表	30%						
3 課題、媒体、相互評価	30%						
教科書・テキスト	必要時プリントを配布する。						
参考書	栄養カウンセリング論 第2版 小松啓子・大谷貴美子編 講談社サイエンティフィック						
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	健康教育論の教科書を復習し、実習で行う模擬健康教育の企画や実施に必要な知識を再度確認する。病院や薬局、官公庁などで配布されるリーフレットやパンフレットをもらってくる。街中で見かけるポスターなどの掲示物の写真にとる。など日ごろから情報収集に努める。媒体作成や課題の検討、健康教育のシナリオなどは授業時間外の作業が必要ですので積極的に取り組むこと。						
履修上の留意事項	積極的な態度で取り組むこと						
オフィスアワー	火曜日曜日昼休み						
課題に対するフィードバックの方法	発表・媒体への相互評価・助言を個々に返却する。						
実務経験	行政栄養士						
その他	欠席したときは次の実習までに池上にメールで連絡をして指示を受ける。						
授業の内容	<p>《前期》</p> <p>第1回 前半オリエンテーション・集団を対象とした栄養教育について 授業の進め方、成績評価について説明する。 成績評価の説明・集団栄養教育の進め方</p> <p>【事前学修】 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養教育の項目を復習しておく。 【事後学修】 集団栄養教育のすすめ方についてまとめておく</p> <p>第2回 集団を対象とした栄養教育について アセスメントと計画書作成</p> <p>【事前学修】</p>						

第3回	<p>対象集団のアセスメントについて必要な情報を収集する。 【事後学修】 評価についての情報収集法等について検討する。 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の計画 1 スライド、シナリオ作成</p>
第4回	<p>【事前学修】 集団教育の教材作成に必要な情報を集める。 【事後学修】 次回までに進めるべき内容を確認して、課題の進捗管理を行う。 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の計画 2 スライド、シナリオ作成</p>
第5回	<p>【事前学修】 集団教育の教材作成に必要な情報を集める。 【事後学修】 次回までに進めるべき内容を確認して、課題の進捗管理を行う。 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の計画 3 スライド、シナリオ作成</p>
第6回	<p>【事前学修】 集団教育の教材作成に必要な情報を集める。 【事後学修】 次回までに進めるべき内容を確認して、課題の進捗管理を行う。 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の計画 4 スライド、シナリオ作成</p>
第7回	<p>【事前学修】 集団教育の教材作成に必要な情報を集める。 【事後学修】 次回までに進めるべき内容を確認して、課題の進捗管理を行う。 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の実施と相互評価 1 模擬集団健康教育の発表を行う。 他者の発表を聞き評価する。</p>
第8回	<p>【事前学修】 自身の発表の準備を行う。 【事後学修】 他者の発表で、特筆すべき点を整理しておき、自分のシナリオ訂正等に活用する。 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の実施と相互評価 2 模擬集団健康教育の発表を行う。 他者の発表を聞き評価する。</p>
第9回	<p>【事前学修】 自身の発表の準備を行う。 【事後学修】 他者の発表で、特筆すべき点を整理しておき、自分のシナリオ訂正等に活用する。 ライフステージ別、課題別の集団健康教育の実施と相互評価 3 模擬集団健康教育の発表を行う。 他者の発表を聞き評価する。</p>
第10回	<p>【事前学修】 自身の発表の準備を行う。 【事後学修】 他者の発表で、特筆すべき点を整理しておき、自分のシナリオ訂正等に活用する。 大学生等を対象とした栄養教育媒体の作成 1 学生食堂で活用する栄養教育媒体を作成する。</p>
第11回	<p>【事前学修】 大学食堂の媒体を確認する 【事後学修】 他の人の媒体を見て学ぶ 大学生等を対象とした栄養教育媒体の作成 2 学生食堂で活用する栄養教育媒体を作成する。</p>
第12回	<p>【事前学修】 大学食堂の媒体を確認する 【事後学修】 他の人の媒体を見て学ぶ 集団栄養教育のシナリオ・スライドの訂正と再提出 相互評価の結果返却、シナリオ等訂正再提出</p>
第13回	<p>【事前学修】 自身の発表について振り返っておく。 【事後学修】 提出までの間に再度検討する。 《後期》 後半オリエンテーション・栄養教育におけるカウンセリング 後半オリエンテーション</p>

	<p>授業の進め方、成績評価について説明する。 栄養カウンセリングについて解説する。</p> <p>【事前学修】 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養カウンセリングの項目を復習しておく。</p> <p>【事後学修】 栄養カウンセリングのすすめ方についてまとめておく</p>
第14回	<p>栄養カウンセリングの基本的態度 1 栄養カウンセリングの基本的態度について解説し、カウンセラーとクライアント役に分かれて、聴く姿勢・態度について体験する。</p> <p>【事前学修】 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養カウンセリングの項目を復習しておく。</p> <p>【事後学修】 体験した内容について、栄養教育論 I のテキストを確認する。</p>
第15回	<p>栄養カウンセリングの基本的態度 2 栄養カウンセリングの基本的態度について解説し、カウンセラーとクライアント役に分かれて、聴く姿勢・態度について体験する。</p> <p>【事前学修】 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養カウンセリングの項目を復習しておく。</p> <p>【事後学修】 体験した内容について、栄養教育論 I のテキストを確認する。</p>
第16回	<p>模擬個別健康教育の計画 1 テーマに沿って個別健康教育を行う事例のアセスメントを行い個別栄養教育を計画する</p> <p>【事前学修】 栄養教育論 I で使用したテキストの栄養カウンセリングの項目を復習しておく。</p> <p>【事後学修】 体験した内容について、栄養教育論 I のテキストを確認する。</p>
第17回	<p>模擬個別健康教育の計画2 テーマに沿って個別健康教育の内容を検討する。</p> <p>【事前学修】 事例について、アセスメントするために必要な情報を集めておく。</p> <p>【事後学修】 アセスメントが正しくできているか他の教科の教科書等も用いて調べておく。</p>
第18回	<p>模擬個別健康教育の計画3 テーマに沿って個別健康教育の内容を検討する。</p> <p>【事前学修】 検討している内容について必要な情報を収集する。</p> <p>【事後学修】 次回までに進めるべき内容を確認して、課題の進捗管理を行う。</p>
第19回	<p>模擬個別健康教育の発表と相互評価 1 個別健康教育を実施する。 他者の発表について、評価する。</p> <p>【事前学修】 自身の発表の準備を行う。</p> <p>【事後学修】 他者の発表で、特筆すべき点を整理しておき、自分のシナリオ訂正等に活用する。</p>
第20回	<p>模擬個別健康教育の発表と相互評価 2 個別健康教育を実施する。 他者の発表について、評価する。</p> <p>【事前学修】 自身の発表の準備を行う。</p> <p>【事後学修】 他者の発表で、特筆すべき点を整理しておき、自分のシナリオ訂正等に活用する。</p>
第21回	<p>模擬個別健康教育の発表と相互評価 3 個別健康教育を実施する。 他者の発表について、評価する。</p> <p>【事前学修】 自身の発表の準備を行う。</p> <p>【事後学修】 他者の発表で、特筆すべき点を整理しておき、自分のシナリオ訂正等に活用する。</p>
第22回	<p>コンピューター栄養教育システムを活用した栄養教育 I コンピューター栄養教育システムの準備をする。 評価する栄養価を設定する。 自分の食事を確認する。</p> <p>【事前学修】 コンピューター栄養教育システムについて調べておく。</p> <p>【事後学修】 資料を復習し、準備と後片づけの手順を理解する。</p>
第23回	<p>システムを活用した栄養教育・食生活の聴き取り方</p>

第24回	<p>コンピューター栄養教育システムの準備をする。 イベントで活用することを想定し、コンピューター栄養教育システムの出力画面を使った個別栄養教育を検討する。</p> <p>【事前学修】 システムを準備できるように資料を読み込む。</p> <p>【事後学修】 イベントで活用する場合に備えて、記録用紙等を用いて復習する。</p> <p>個別栄養教育のシナリオ等の訂正と再提出 相互評価の結果返却、シナリオ等訂正再提出</p> <p>【事前学修】 自身の発表について振り返っておく。</p> <p>【事後学修】 提出までの間に再度検討する。</p>
------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年	3	1 (通年)	必修
担当教員			
高田 守康			
開講曜限	授業形態		
木4、金4	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-2 傷病者の病態や栄養状態に応じて適切な栄養管理に必要な知識と技能を修得している。</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	患者・クライアントの情報収集や分析を行い、生活環境に対応した栄養教育カリキュラムの立案や献立作成、資料作成、指導案の作成等を行う。この実習で多くの栄養教育の基礎資料づくりと病態に応じた栄養評価を判定する能力を養い、演習を通して栄養介入の技法を身につける。食物を数値化すること、数値を具現化する能力を習得し、管理栄養士の役割を理解し、栄養改善の問題点を分析できるようになる。
学習到達目標	「新しい食生活指針」や「日本人の食事摂取基準2020版」、「食事バランスガイド」、「栄養ケアプロセス」、各種「診療治療ガイドライン」などを基本に栄養教育、栄養管理が必要とされる分野にテーマと題材を用いて、栄養教育者として必要な知識を理解し実施できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>前期は献立作成の基本、疾患に合わせた献立作成及び問題点の抽出を演習を通じて学ぶ。後期は課題の症例についてパワーポイントにてプレゼンテーションを行い、各患者の問題点を抽出し、栄養管理計画や栄養指導など演習を通じて学ぶ。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>特になし</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>授業態度、課題、確認テスト</p> <p>【割合】</p> <p>授業態度：30%、課題30%、確認テスト40%</p>
教科書・テキスト	プリント
参考書	各種診療ガイドライン、「日本人の食事摂取基準2020版」、「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「腎臓病食品交換表」、「食品成分表」
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>新聞、雑誌、テレビまたは街中などあらゆる場面において栄養・食生活に関する情報に関心を持つ。</p> <p>【事前学修】病態と栄養との関係について下調べをしておくこと</p> <p>【事後学修】症例に応じたガイドラインに沿った栄養管理計画を次回授業で提出すること</p>
履修上の留意事項	栄養教育指導者として栄養学の実践に向けた心構えと必要なスキルを全身で経験することが重要である。
オフィスアワー	事前にメールにて連絡し時間を調整し研究室を訪問すること。 m-takada@osaka-aoyama.ac.jp
課題に対するフィードバックの方法	添削し返却する。
実務経験	管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>前期</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業の概要、特定給食施設での栄養士・管理栄養士の役割などについて学ぶ。 【事前学修】栄養教育の意義と特性について下調べをしておくこと。 【事後学修】特定給食管理の手順についてポイントを整理すること。</p> <p>第2回 栄養教育のための基礎資料の考え方と作成方法① 食品加重平均成分価表の作成 食品加重平均成分価表の作成を行う。演習 【事前学修】食品群別荷重平均栄養成分の求め方について下調べをしておくこと。 【事後学修】食品群別荷重平均栄養成分値算出表を作成し、理解を深めること。</p> <p>第3回 栄養教育のための基礎資料の考え方と作成方法② 食品構成表の作成 食品構成表の作成を行う。演習 【事前学修】食品構成と食品構成表について下調べをしておくこと。 【事後学修】食品構成表を作成し、理解を深めること。</p> <p>第4回 糖尿病の食品交換表を用いた栄養教育のための基礎資料の考え方と作成方法 糖尿病の食品交換表の使い方、献立内容から栄養価計算を行い栄養評価を行う。演習</p>

第5回	<p>【事前学修】糖尿病治療の目標について下調べをしておくこと。 【事後学修】指定献立から糖尿病の食品交換表を使用し単位計算を実施、理解を深めること。 腎臓病の食品交換表を用いた栄養教育のための基礎資料の考え方と作成方法 腎臓病の食品交換表の使い方、献立内容から栄養価計算を行い栄養評価を行う。演習</p>
第6回	<p>【事前学修】腎臓病治療の目標について下調べをしておくこと。 【事後学修】指定献立から腎臓病の食品交換表を使用し単位計算を実施、理解を深めること。 常食の献立作成について 食品構成表を用いて常食の献立作成を行う。演習</p>
第7回	<p>【事前学修】献立表の役割について下調べをしておくこと。 【事後学修】食品構成表の意義を理解する。 基本献立の作成 月間計画、週間計画について 食品構成表を用いて常食の月間献立、週間献立を作成する。演習</p>
第8回	<p>【事前学修】献立表の役割について下調べをしておくこと。 【事後学修】月間計画、週間計画の献立を作成し、理解を深めること。 基本献立から形態別治療食への献立展開 基本献立から形態別治療食（軟菜食から流動食）への献立展開を行う。演習</p>
第9回	<p>【事前学修】基本献立と形態別治療食の特徴について下調べをしておくこと。 【事後学修】基本献立から形態別治療食へ献立を展開し、理解を深めること。 基本献立からエネルギーコントロール食への献立展開 基本献立からエネルギーコントロール食への献立展開を行う。演習</p>
第10回	<p>【事前学修】エネルギーコントロール食の基本的な考え方について下調べをしておくこと。 【事後学修】基本献立からエネルギーコントロール食へ献立を展開し、理解を深めること。 エネルギーコントロール食間への献立展開 糖尿病の食品交換表を用いたエネルギーコントロール食への献立展開を行う。演習</p>
第11回	<p>【事前学修】糖尿病の食品交換表の使用法について下調べをしておくこと。 【事後学修】糖尿病の食品交換表を使用し、エネルギーを調整した献立に展開し、理解を深めること。 基本献立からたんぱく質コントロール食への献立展開、たんぱく質コントロール食間の献立展開 基本献立からたんぱく質コントロール食への展開及び腎臓病の食品交換表を用いたたんぱく質コントロール食への献立展開を行う。演習</p>
第12回	<p>【事前学修】たんぱく質コントロール食の基本的な考え方について下調べをしておくこと。 腎臓病の食品交換表の使用法について下調べをしておくこと。 【事後学修】基本献立からたんぱく質コントロール食へ献立を展開し、理解を深めること。 腎臓病の食品交換表を使用し、エネルギー、たんぱく質を調整した献立に展開し、理解を深めること。 脂質コントロール食、食塩制限食、水分・電解質制限食への献立展開 基本献立から脂質コントロール食、塩分制限食、水分・電解質制限食への展開、前期の復習</p>
	<p>【事前学修】肥満症、高血圧症、心疾患の食事療法について下調べをしておくこと。 【事後学修】基本献立から脂質コントロール食へ献立を展開し、理解を深めること。 後期</p>
第13回	<p>オリエンテーション、診療ガイドラインについて 授業の概要、栄養管理に必要なガイドラインについて 【事前学修】診療ガイドラインについて下調べをしておくこと。 【事後学修】症例を用い、症例にあったガイドラインを用いてSOAPを作成し、理解を深めること。</p>
第14回	<p>栄養評価のための客観的データの捉え方と考え方① 栄養評価、身体計測値について 栄養摂取量、身体測定値などから栄養状態を読み解く 【事前学修】栄養評価方法、身体計測値の意義について下調べをしておくこと。 【事後学修】栄養評価を実施し、根拠に基づいた目標栄養量を算出し、理解を深めること。</p>
第15回	<p>栄養評価のための客観的データの捉え方と考え方② 血液生化学検査値など 血液生化学検査値について理解を深める。栄養指標項目や疾患別項目。 【事前学修】臨床検査項目の意義について下調べをしておくこと。 【事後学修】臨床検査項目の基準範囲を臨床検査表に作成し、理解を深めること。</p>
第16回	<p>栄養教育プログラムの作成（栄養管理計画書、栄養指導記録の算定） 入院基本料における栄養管理計画書の意義と書き方、栄養指導記録の進め方。演習 【事前学修】管理栄養士が入院患者に関わる流れを下調べをしておくこと。 【事後学修】栄養管理計画書を作成し、管理栄養士の役割を理解すること。</p>
第17回	<p>糖尿病患者の栄養管理における栄養教育プログラムの作成 症例検討Ⅰ：糖尿病患者。プレゼンテーション実習。 【事前学修】ガイドラインを基に糖尿病患者の栄養管理をSOAPで作成する。 【事後学修】症例発表を通して、根拠を持った栄養提案ができるよう理解を深めること。</p>
第18回	<p>脳梗塞の高齢者の栄養管理における栄養教育プログラムの作成 症例検討Ⅱ：脳梗塞患者。プレゼンテーション実習。 【事前学修】ガイドラインを基に脳梗塞患者の栄養管理をSOAPで作成する。 【事後学修】症例発表を通して、根拠を持った栄養提案ができるよう理解を深めること。</p>
第19回	<p>慢性腎臓病患者の栄養管理における栄養教育プログラムの作成 症例検討Ⅲ：慢性腎不全患者。プレゼンテーション実習。 【事前学修】ガイドラインを基に慢性腎不全患者の栄養管理をSOAPで作成する。 【事後学修】症例発表を通して、根拠を持った栄養提案ができるよう理解を深めること。</p>
第20回	<p>高齢入院患者の栄養管理（胃瘻）における栄養教育プログラムの作成 症例検討Ⅳ：高齢者の低栄養（胃瘻）患者。プレゼンテーション実習。 【事前学修】ガイドラインを基に胃瘻患者の栄養管理をSOAPで作成する。 【事後学修】症例発表を通して、根拠を持った栄養提案ができるよう理解を深めること。</p>
第21回	<p>術前の栄養管理における栄養教育プログラムの作成 症例検討Ⅴ：術前患者。プレゼンテーション実習。</p>

第22回	<p>【事前学修】ガイドラインを基に胃癌術前患者の栄養管理をSOAPで作成する。 【事後学修】症例発表を通して、根拠を持った栄養提案ができるよう理解を深めること。 認知症患者の栄養管理における栄養教育プログラムの作成 症例検討VI：認知症患者。プレゼンテーション実習。</p>
第23回	<p>【事前学修】ガイドラインを基に認知症患者の栄養管理をSOAPで作成する。 【事後学修】症例発表を通して、根拠を持った栄養提案ができるよう理解を深めること。 クローン病患者の栄養管理における栄養教育プログラムの作成 症例検討VII：クローン病。プレゼンテーション実習。</p>
第24回	<p>【事前学修】ガイドラインを基にクローン病患者の栄養管理をSOAPで作成する。 【事後学修】症例発表を通して、根拠を持った栄養提案ができるよう理解を深めること。 到着度チェック（確認テスト） 症例検討にてSOAPの書き方、根拠を持った栄養量の算出、問題点の抽出、それに対する栄養介入について栄養指導報告書の書き方に対する到達度を確認する。 【事前学修】各ガイドラインを復習し根拠をもったSOAPの書き方を復習する。 【事後学修】症例を通して、根拠を持った栄養提案ができるよう理解を深めること。</p>

講義科目名称： 臨床栄養学 I

授業コード： 51204400 51204410

英文科目名称： Clinical Nutrition I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
高田 守康			
開講曜限	授業形態		
月4、水2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-2 傷病者の病態や栄養状態に応じて適切な栄養管理に必要な知識と技能を修得している。</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	傷病者を対象とした栄養マネジメントを適切・効果的に実践できるように学習し、臨床栄養学の基礎となる栄養管理およびマネジメントに必要な事項や医療や介護の分野で管理栄養士がどのような役割を担っているのか。また医療制度及び介護制度などの法律について学び、栄養管理の重要性、管理栄養士の責務を理解できるようにする。
学習到達目標	臨床における管理栄養士が傷病者に適切な栄養管理を担当するために必要な知識（病態の把握とそれに対応する栄養計画）と技術（栄養処方）を修得し、目標栄養量の算出、栄養診断、栄養投与ルートを根拠に基づき論じることができる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし。</p> <p>【その他特記事項】教科書に基づき、ポイントを絞り資料を作成。重要項目を筆記させ、講義内容を理解する。講義後は、質問時間を設け理解を深めると共に復習テストを実施する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業参加度、小テスト、定期試験(筆記)</p> <p>【割合】 授業参加度：10%、小テスト：10%、定期試験(筆記)80%</p>
教科書・テキスト	<p>◆栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編 編/本田佳子、曾根博仁</p> <p>◆臨床検査値の読み方 考え方 ケーススタディ 第3版 編/奈良信雄</p>
参考書	雑誌：臨床栄養（月刊/医歯薬出版）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>【事前学習】シラバスに添って、該当項目を熟読する。該当項目を頭にいれ講義に臨む。最終的には、臨床栄養学の概念を理解し、傷病者、要介護者に対する栄養アセスメントを実施し、根拠のある栄養診断を行い、どの栄養投与方法が最適かについて下調べをしておくこと。</p> <p>【事後学習】小テストの見直しを行い、理解を深める。傷病者、要介護者に対する栄養診断を行い、栄養管理計画を立案できるよう理解を深めること。</p>
履修上の留意事項	臨床栄養学は、解剖生理学・病態生理学・生化学・食品学・調理学およびカウンセリング論など集体系した教科であることから、1年次、2年次で学修した関連教科を十分に復習しておく。
オフィスアワー	事前にメールにて連絡し時間を調整し研究室を訪問すること。 m-takada@osaka-aoyama.ac.jp
課題に対するフィードバックの方法	添削し返却する。
実務経験	管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 臨床栄養学概論 臨床栄養学について 【事前学修】臨床栄養学の概念を熟読し、臨床栄養の意義、目的について下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。</p> <p>第2回 医療と臨床栄養 医療制度からみる臨床栄養学について 【事前学修】医療と臨床栄養学を熟読し、医療制度の中における管理栄養士が関わる診療報酬を調べておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。</p> <p>第3回 福祉・介護と臨床栄養 介護制度からみる臨床栄養学について 【事前学修】福祉・介護と臨床栄養学を熟読し、介護制度の中における管理栄養士が関わる介護</p>

	報酬を調べておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第4回	栄養ケアマネジメント① 栄養スクリーニングについて 栄養スクリーニングについて 評価方法、評価項目など 【事前学修】栄養スクリーニングの意義を熟読し、どのようなスクリーニング方法があるか下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第5回	栄養ケアマネジメント② 栄養アセスメントについて 栄養アセスメントについて 体格、体脂肪、筋肉量の指標について 【事前学修】問診や身体所見を熟読し、身体計測の意義について下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第6回	栄養ケアマネジメント③ 臨床検査について 臨床検査について 【事前学修】臨床検査を熟読し、栄養状態や病態とどのように関連しているのか下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第7回	栄養ケアマネジメント④ 栄養必要量の算出方法について 栄養必要量の算出方法について 基礎代謝量、目標栄養量、その他栄養素の算出 【事前学修】栄養管理における短期目標、長期目標について下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第8回	栄養ケアマネジメント⑤ 栄養ケアプロセスについて（総論） 栄養ケアプロセスについて 【事前学修】栄養ケアプロセスを熟読し、栄養診断について下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第9回	栄養ケアマネジメント⑥ 栄養ケアプロセスを用いた栄養計画（演習） 栄養ケアプロセスを用いた栄養計画：演習 【事前学修】栄養ケアの意義を熟読し、管理計画書の書き方について下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第10回	栄養補給法① 経口栄養法 経口栄養法：病院食の分類、診療報酬における入院時食事量法について 【事前学修】経口栄養法を熟読し、一般食や特別治療食について下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第11回	栄養補給法② 経管栄養法Ⅰ：経管栄養法の適応と栄養投与ルートについて 経管栄養法Ⅰ：経管栄養法の適応と栄養投与ルートについて 【事前学修】経腸栄養法を熟読し、経腸栄養法の目的、投与方法について下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第12回	栄養補給法③ 経管栄養法Ⅱ：経管栄養法の副作用：合併症について 経管栄養法Ⅱ：経管栄養法の副作用：合併症について 【事前学修】経腸栄養法の合併症と対応を熟読し、経管栄養法における合併症について下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第13回	栄養補給法④ 経静脈栄養Ⅰ：末梢静脈栄養法について 経静脈栄養Ⅰ：静脈栄養法の適応と栄養投与ルートについて 末梢静脈栄養法について 【事前学修】末梢静脈栄養法を熟読し、維持輸液の内容や投与ルートについて下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第14回	栄養補給法⑤ 経静脈栄養Ⅱ：中心静脈栄養法について 経静脈栄養Ⅱ：中心静脈栄養法について 経静脈栄養の副作用：合併症について 【事前学修】中心静脈栄養法を熟読し、高カロリー輸液の内容や投与ルートについて下調べをしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
第15回	まとめ 前期のまとめ授業 【事前学修】第1回～第14回までの配布資料の穴埋め部分の確認をしておくこと。 【事後学修】該当する項目を教科書で復習し、授業後に配布資料の穴埋め部分を覚え理解を深めること。
定期試験	

講義科目名称： 臨床栄養学Ⅲ

授業コード： 51204600 51204610

英文科目名称： Clinical Nutrition III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
辻 多重子			
開講曜限	授業形態		
月1、3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-2 傷病者の病態や栄養状態に応じて適切な栄養管理に必要な知識と技能を修得している。</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	傷病者に対する食事療法や栄養食事指導についての意義と目的を理解し、病態に応じた栄養管理法を修得する。また、記録問題志向型システム (POS) について理解し、栄養ケア記録の記載方法について修得する。
学習到達目標	(1)各疾患の病態および適切な栄養管理法について説明できる。 (2)栄養食事指導をするにあたり、疾患別の臨床検査値が理解できる。 (3)栄養ケア計画の作成と評価、栄養ケア記録の作成について理解し説明できる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 Think Pair Shareを取り入れ授業の要点を確認する。 【ICTを利用した双方向授業】 状況に応じてオンライン、オンデマンドで実施する。 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 授業参加態度、小テスト、定期試験 (筆記) 【割合】 授業参加態度 10%、小テスト 20%、定期試験 (筆記) 70%
教科書・テキスト	『臨床栄養学 基礎編 第3版』 編集 本田桂子・曾根博仁 (羊土社) 『臨床栄養学 疾患別編 第3版』 編集 本田桂子・曾根博仁 (羊土社) 『栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版』 奈良信雄 著 (医歯薬出版株式会社)
参考書	『臨床医学 疾病の成り立ち 第3版』 編集 田中 明・藤岡由夫 (羊土社) 『病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 改訂第7版』 編集 日本病態栄養学会 (南江堂)
授業時間外の学修について (事前・事後学習について)	事前学習:授業計画に沿って、教科書を予習し、下調べをする。 事後学習:授業の重要な内容を確認・整理する。
履修上の留意事項	これまでに学んできた生化学, 解剖生理学, 病態生理学, 調理学, 応用栄養学などの関連科目を十分に復習しておくこと。
オフィスアワー	事前にメールにて連絡し時間を調整の上、研究室を訪問してください。
課題に対するフィードバックの方法	レポートは添削後、各自にフィードバックする。 小テストを実施した際は、講義にて解説をします。
実務経験	管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 栄養障害 低栄養 (栄養障害), ビタミン異常症, ミネラル異常症について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>第2回 栄養ケアの記録 栄養ケア記録の意義、問題志向型システム (POS) の概念について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>第3回 栄養教育 (栄養食事指導), モニタリングと再評価, 栄養ケアの修正 栄養ケア・マネジメントにおける栄養教育 (栄養食事指導), モニタリングと再評価, 栄養ケアの修正について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>第4回 代謝疾患① 肥満症, メタボリックシンドロームについて 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>第5回 代謝疾患② 糖尿病について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする</p>

第6回	【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める 代謝疾患③ 脂質異常症について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第7回	代謝疾患④ 高尿酸血症, 痛風について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第8回	消化管疾患① 口腔・歯科疾患, 上部消化管疾患について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第9回	消化管疾患② 下部消化管疾患について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第10回	肝・胆・膵疾患① 肝疾患について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第11回	肝・胆・膵疾患② 膵・胆道系疾患について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第12回	循環器系疾患① 高血圧, 動脈硬化について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第13回	循環器系疾患② 虚血性心疾患(狭心症, 心筋梗塞)について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第14回	循環器系疾患③ 心不全, 不整脈, 脳血管疾患について 【事前学修】教科書の該当ページを予習し、下調べをする 【事後学修】学修した内容をノートにまとめ理解を深める
第15回	まとめ 前期のまとめ授業 【事前学修】第1回～第14回までの配布資料および小テストの内容を確認しておくこと 【事後学修】新たに学修した内容をこれまでにまとめたノートに追記し理解を深める
定期試験	

講義科目名称： 臨床栄養学実習 I

授業コード： 51204800 51204820

英文科目名称： Practice in Clinical Nutrition I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
辻 多重子、黒川 浩美、高田 守康、横田 香世			
開講曜限	授業形態		
水3、4 木1、2	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-2 傷病者の病態や栄養状態に応じて適切な栄養管理に必要な知識と技能を修得している。</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	栄養ケアマネジメントや疾患別栄養管理の理論に基づき、臨床栄養管理に必要な知識や実践技術を修得する。また、多職種連携教育を取り入れ、チーム医療における管理栄養士の役割と他職種との連携について学修する。
学習到達目標	(1) 栄養アセスメントの手技を実践することができる。 (2) 提示された症例に対する栄養管理計画を作成することができる。 (3) チーム医療における管理栄養士の役割を説明することができる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 第6、7週の授業において、症例患者の栄養ケア計画について看護学科との合同カンファレンスを取り入れる。また、作成した栄養ケア計画を発表する。 【ICTを利用した双方向授業】 状況に応じてオンライン、オンデマンドで実施する。 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 積極的授業参加態度（実習への取組み）、課題レポート、確認テスト 【割合】 積極的授業参加態度 20%、課題レポート 60%、確認テスト 20%
教科書・テキスト	『糖尿病食療法のための食品交換表 第7版』日本糖尿病学会編（文光堂） 適宜プリントを配布する。
参考書	『臨床栄養学実習』監修 中村丁次 編集 本田桂子・曾根博仁（羊土社） 『臨床栄養学 基礎編 第3版』編集 本田桂子・曾根博仁（羊土社） 『臨床栄養学 疾患別編 第3版』編集 本田桂子・曾根博仁（羊土社） 『栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版』奈良信雄 著（医歯薬出版）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学習：授業計画に沿って教科書や参考書を予習し、下調べをする。 事後学習：授業の重要な内容を確認・整理し、レポートを作成する。
履修上の留意事項	グループワークを主体とする実習のため、協力的な態度で臨むこと。 課題は提出期限内に必ず提出すること。
オフィスアワー	事前にメールにて連絡し時間を調整の上、研究室を訪問してください。
課題に対するフィードバックの方法	レポートは評価後、各自にフィードバックする。
実務経験	辻：管理栄養士 黒川：管理栄養士 高田：管理栄養士 横田：看護師
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、栄養スクリーニングの実際（SGA, MNA） 実習の進め方について、栄養スクリーニングの実際（SGA, MNA） 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学 I およびⅢと関連付けて学修する。 【事後学修】授業内で指示する課題を行う。</p> <p>第2回 栄養アセスメント① 身体計測 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学 I およびⅢと関連付けて学修する。 【事後学修】授業内で指示する課題を行う。</p> <p>第3回 栄養アセスメント② フィジカルアセスメント、臨床検査 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学 I およびⅢと関連付けて学修する。</p>

第4回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 栄養アセスメント③ 食事調査 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
第5回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 チーム医療（職種の役割），症例提示と説明 【担当：辻・高田・黒川】 チーム医療（職種の役割）について，症例提示と説明 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
第6回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 チーム医療（症例検討） 看護学科合同授業 【担当：辻・高田・黒川・横田】 看護学科とグループワークにて症例検討および発表準備 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
第7回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 チーム医療（症例検討） 看護学科合同授業 【担当：辻・高田・黒川・横田】 看護学科との症例検討内容について発表 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
第8回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 チーム医療（まとめ），在宅栄養管理 看護学科との症例検討についての振り返り，在宅栄養管理について 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
第9回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 確認テスト，糖尿病食品交換表の説明 確認テスト（栄養アセスメント）の実施，糖尿病食品交換表の使い方について 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
第10回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 栄養管理計画書の作成 症例に対する栄養管理計画書を作成する。 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
第11回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 栄養管理計画書の作成および発表 作成した栄養管理計画書を発表する。 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
第12回	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。 経腸栄養剤の種類と選択 経腸栄養剤についての説明，試飲 【事前学修】関連科目を復習し、同時期に開講している臨床栄養学ⅠおよびⅢと関連付けて学修する。</p>
	<p>【事後学修】授業内で指示する課題を行う。</p>

講義科目名称： 公衆栄養学Ⅱ

授業コード： 51205100 51205110

英文科目名称： Public Dietetics II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	必修
担当教員			
池上 益世			
開講曜限	授業形態		
火5、水3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■2-3 地域や職域等の健康栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析評価し、適切な栄養関連サービスの提供とマネジメントに必要な知識と技術を修得している。</p>
科目の概要・目的	集団や地域の栄養問題をアセスメントし、適切な公衆栄養プログラムを計画、実行、評価、改善という一連の公衆栄養マネジメントを学び、現在行われている公衆栄養プログラムを知ること、自ら組み立てる力を養うための概念と理論を理解する。
学習到達目標	地域や職域における健康の維持・増進を目的として、それらを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報の収集、分析、評価、判定を行い、栄養関連サービス提供のマネジメントを実施するための理論と方法を学ぶ。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特記事項なし</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特記事項なし</p> <p>【その他特記事項】 特記事項なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験（筆記）、授業態度・提出物、小テスト</p> <p>【割合】 定期試験（筆記）（70%）、授業態度・提出物（20%）、小テスト（10%）</p>
教科書・テキスト	ウエルネス公衆栄養学/医歯薬出版株式会社/加島浩子他
参考書	国民衛生の動向（最新版）、国民健康・栄養調査報告書（健康栄養情報研究会編・第一出版）、管理栄養士・栄養士必携（日本栄養士会編・第一出版）
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	社会情勢などを含めた幅広い知識が必要となるため、日々伝えられる報道に関心を持ち、積極的に公衆栄養の情報を収集する。
履修上の留意事項	公衆栄養臨地実習に関する科目です。意欲的に学習することを希望します。
オフィスアワー	火曜日 昼休み
課題に対するフィードバックの方法	必要時添削指導を行う。
実務経験	行政栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション・栄養疫学1 講義の進め方、成績評価について説明する。 栄養疫学の概要、暴露情報としての食事摂取量、食事摂取量の測定方法（食生活状況調査まで）</p> <p>【事前学修】 教科書の栄養疫学の概要、暴露情報としての食事摂取量、食事摂取量の測定方法（食生活状況調査まで）を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。</p> <p>【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。</p> <p>第2回 栄養疫学2 食事摂取量の測定方法（食事摂取量を反映する身体測定値・生化学的指標）から食事摂取量の評価方法</p> <p>【事前学修】 教科書の食事摂取量の測定方法（食事摂取量を反映する身体測定値・生化学的指標）から食事</p>

第3回	<p>摂取量の評価方法を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 公衆栄養マネジメント1 公衆栄養マネジメントから公衆栄養アセスメント（食事摂取基準の地域集団への活用まで）</p>
第4回	<p>【事前学修】 教科書の公衆栄養マネジメントから公衆栄養アセスメント（食事摂取基準の地域集団への活用まで）を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 公衆栄養マネジメント2 公衆栄養アセスメント（量的調査と質的と質的調査の意義から）</p>
第5回	<p>【事前学修】 教科書の公衆栄養アセスメント（量的調査と質的と質的調査の意義から）を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 公衆栄養マネジメント3 教科書の公衆栄養プログラムの目標設定</p>
第6回	<p>【事前学修】 教科書の公衆栄養プログラムの目標設定を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 公衆栄養マネジメント4 公衆栄養プログラムの計画、実施、評価（プログラムに関連する関係者・機関の役割まで）</p>
第7回	<p>【事前学修】 教科書の公衆栄養プログラムの計画、実施、評価（プログラムに関連する関係者・機関の役割まで）を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 公衆栄養マネジメント5 公衆栄養プログラムの計画、実施、評価（評価の意義と方法から）</p>
第8回	<p>【事前学修】 教科書の公衆栄養プログラムの計画、実施、評価（評価の意義と方法から）を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 ミニテスト ミニテスト</p>
第9回	<p>【事前学修】 第1回から第7回の講義内容について復習するとともに管理栄養士国家試験の過去問についてeラーニングを用いて復習する。 【事後学修】 テスト内容を繰り返し復習する。 公衆栄養プログラムの展開1 地域特性特性に対応したプログラムの展開</p>
第10回	<p>【事前学修】 教科書の地域特性特性に対応したプログラムの展開を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 公衆栄養プログラムの展開2 食環境整備のためのプログラムの展開</p>
第11回	<p>【事前学修】 教科書の食環境整備のためのプログラムの展開を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 公衆栄養プログラムの展開3 地域集団の特性別プログラムの展開（ライフステージ別まで）</p>
第12回	<p>【事前学修】 教科書の地域集団の特性別プログラムの展開（ライフステージ別まで）を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。 【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。 公衆栄養プログラムの展開4 地域集団の特性別プログラムの展開（生活習慣病ハイリスク集団）</p>

	<p>【事前学修】 教科書の地域集団の特性別プログラムの展開（生活習慣病ハイリスク集団）を読む。読めない漢字、理解できない語句を調べる。</p> <p>【事後学修】 eラーニングシステムで該当箇所の課題を解く。</p> <p>第13回 まとめ 第1回から第12回の総まとめを行う</p> <p>【事前学修】 全ての資料に未記入部分がないことを確認する</p> <p>【事後学修】 時間内にできなかった場合は、指示された課題を完成させる。</p> <p>第14回 公衆栄養活動の実際1 現在保健所で行われている公衆栄養活動について調査する。</p> <p>【事前学修】 都道府県、政令市、中核市の公衆栄養業務について、都道府県や保健所のホームページ等で調べておく</p> <p>【事後学修】 行った課題に対する理解を深める。</p> <p>第15回 公衆栄養活動の実際2 現在保健所で行われている攻守栄養活動について調査する。</p> <p>【事前学修】 都道府県、政令市、中核市の公衆栄養業務について、都道府県や保健所のホームページ等で調べておく</p> <p>【事後学修】 行った課題に対する理解を深める。</p> <p>定期試験 【事前学修】 授業資料、教科書を復習する。</p> <p>【事後学修】 理解が不足している部分については、再度整理を行う。</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	必修
担当教員			
黒川 浩美、蜂須賀 のぞみ、國末 直宏、田岡 晃子			
開講曜限	授業形態		
金4、5	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-3 地域や職域等の健康栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析評価し、適切な栄養関連サービスの提供とマネジメントに必要な知識と技術を修得している。</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	地域の人々と協力して栄養活動を行い、食に関する地域行事へ積極的に参加します。地域社会における食の重要性を実感し、実際に社会貢献の一環として活動する機会を提供します。実習を通じて、地域の様々な年齢層や背景を持つ人々との交流を深め、これらの体験を通して、コミュニケーションスキルと社会的認識を高めることを目的とします。
----------	---

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none">・社会貢献への実践的体験： 地域栄養活動や食関連行事への参加を通じて、地域社会への貢献を実感し、社会的責任感を持つことができる。・多世代交流の促進： 幅広い年齢層の人々との交流を通して、異なる視点や価値観を理解し、共感する能力を持つことができる。・コミュニケーションスキルの向上： 実践的な活動を通じて、効果的なコミュニケーション技術を習得し、チームワークやリーダーシップ能力を高めることができる。・栄養教育の実践： 栄養に関する知識を地域社会に伝え、健康的な食生活の普及するための知識やスキルを修得することができる。・問題解決能力の強化： 地域の方の食に関わる課題を認識し、解決策を提案・実行する知識やスキルを修得することができる。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 学生は自主的に情報収集と調査を行います。例えば、地域の食習慣や栄養状態に関するデータを集め、その情報をもとに健康的なレシピの開発や指導媒体の作成に取り組みます。個人作業とグループでの協力を通じて、実際の調理実習を行い、成果を共有します。この過程で、学生は問題解決能力、コミュニケーションスキル、チームワークを実践的に学び、強化します。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 オンラインリソースの活用、オンラインコラボレーションツール、デジタルメディア制作を通じて、効果的な双方向学習環境を実現します。これにより、情報アクセスの幅が広がり、デジタルスキルが向上します。</p> <p>【その他特記事項】 地域との連携を重視し、実践的な学習機会を提供します。看護フェアや食育推進全国大会への参加を通じて、学んだ知識を社会に還元する経験を積みます。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】【割合】</p> <p>積極的授業態度 (60%)</p> <p>授業への出席：授業への定期的な出席が期待されます。 授業中の参加：ディスカッション、グループワーク、質疑応答など、授業中の積極的な参加が評価されます。 態度と貢献度：授業内外での積極的な姿勢や実習グループでの活動への貢献度も考慮されます。</p> <p>課題作成 (40%)</p> <p>課題：指定された課題を期限内に提出し、指示に従った内容と形式で完成させることが求められます。 グループプロジェクト：グループでの課題も設定され、協力して目標を達成するプロセスと成果が評価されます。 成果物の質：提出された課題やプロジェクトの内容、創造性、分析の深さが評価の対象となります。</p>
---------	---

教科書・テキスト	ワークブックを配布する
----------	-------------

参考書	臨床栄養学、調理学、栄養教育論、給食経営管理論、公衆栄養学、応用栄養学などで用いた教科書
-----	--

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>イベント参加に向けた準備 本授業では、看護フェアや食育推進全国大会への参加を含むイベントが予定されています。これらのイベントは、学習成果を展示し、専門知識を共有する絶好の機会です。成功を収めるためには、以下の準備が必要です。</p> <p>スケジュール管理：イベントの日程、準備期間、課題の締切などを事前に把握し、計画的にスケジュールを管</p>
---------------------------	--

	理してください。
履修上の留意事項	<p>課題提出の重要性: 本授業では、課題提出と成果物の完成が単位修得のために極めて重要です。全ての課題は指定された期日までに提出する必要があります。追試や再試の機会はありません。期限内に課題を提出できない場合、単位を修得することはできません。事前に計画を立て、課題に取り組む時間を確保してください。</p> <p>看護フェアおよび食育推進全国大会への参加: この授業では、看護フェアや食育推進全国大会への参加が含まれます。これらのイベントへの参加は、学習経験を豊かにし、授業で学んだ知識を実践的な環境で適用する絶好の機会です。イベントへの参加は、授業の授業の一環であり、評価にも影響します。参加できない場合は、事前に教員に連絡し、可能な対応策を相談してください。</p> <p>体調管理: イベント参加に向けて、十分に体調管理しておきましょう。</p> <p>活動日時: 授業スケジュールの変更連絡などは「Active Portal」にて行います。必ず確認しましょう。</p>
オフィスアワー	水～金 15:00～17:00
課題に対するフィードバックの方法	Active Portalにて連絡する
実務経験	管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 地域栄養活動実習のオリエンテーション 地域栄養活動における取り組み内容を詳細に説明します。学生は2つのグループに分けられ、それぞれのグループは異なる順序で活動を進めますが、共通して講義室、PC室、調理室での作業が含まれます。各グループは担当教員の指示に従い、具体的なワークに取り組み始めます。</p> <p>【事前学修】 地域栄養に関する基礎知識の学習を行います</p> <p>【事後学修】 実施した活動の振り返りと評価を行い、計画を立てる</p> <p>第2回 食育推進全国大会参加に向けた準備 指導媒体とレシピ案の作成に向けての準備を行います。献立表や発注書の作成を含むレシピ作成のための準備作業を進めます。</p> <p>【事前学修】 栄養バランスの良い献立作成の基本と、必要食材の選定方法について調べておきます</p> <p>【事後学修】 実際に作成したレシピと献立の評価を行い、改善点を見つける</p> <p>第3回 レシピ作成に向けての試作① 調理実習を通じてレシピの試作を行います。試作の結果をもとに修正・訂正を加え、次回の試作に向けた準備をします。</p> <p>【事前学修】 レシピの理論的背景と試作に必要な材料、手順の確認を行います</p> <p>【事後学修】 試作したレシピの結果を分析し、改善点を洗い出して反映させる方法を検討する</p> <p>第4回 看護フェアに向けてのシミュレーション 看護フェアに向けたシミュレーションを行います。SATシステムを利用した個別指導に向けての役割分担を決定します。</p> <p>【事前学修】 SATシステムの操作方法と個別指導の基本的なアプローチについて復習しておきます</p> <p>【事後学修】 看護フェアでのシミュレーションを振り返り、役割分担の効果と個別指導の実践における課題を議論し、今後の改善策を模索します。</p> <p>第5回 レシピ作成に向けての試作② 二度目の調理実習を通じてレシピの試作を行います。試作後は修正・訂正を加え、媒体作成に向けた準備を進めます。</p> <p>【事前学修】 初回の試作から得られたフィードバックを基に、レシピの改善点を検討し、必要な材料や調理手順の見直しを行います</p> <p>【事後学修】 二度目の試作結果を評価し、さらなる修正点を特定。これらの改善を反映させた最終レシピを完成させます</p> <p>第6回 看護フェア 参加 箕面市立病院で開催される看護フェアに参加し、来院患者様への食事改善支援を実施します。</p> <p>【事前学修】 栄養学の基礎知識と、患者の食事改善に関するガイドラインを見直ししておきます</p>

第7回	<p>【事後学修】 看護フェアでの体験を振り返り、実践した食事改善支援の効果と患者様からのフィードバックの分析を行います 看護フェア 参加 箕面市立病院で開催される看護フェアに参加し、来院患者様への食事改善支援を実施します。</p> <p>【事前学修】 栄養学の基礎知識と、患者の食事改善に関するガイドラインを見直しておきます</p>
第8回	<p>【事後学修】 看護フェアでの体験を振り返り、実践した食事改善支援の効果と患者様からのフィードバックの分析を行います 食育推進全国大会参加に向けた作業 栄養指導に用いるレシピ集や指導媒体の作成を行います。</p> <p>【事前学修】 栄養学の基礎と対象者の食生活に合わせたレシピ開発の方法を検討します</p>
第9回	<p>【事後学修】 作成したレシピ集や指導媒体を実際の栄養指導に活用し、その効果を評価方法について検討しておきます 食育推進全国大会参加に向けてのシミュレーション 食育推進全国大会に向けたシミュレーションを行います。 SATシステムを利用した個別指導のための役割分担を確認します。</p> <p>【事前学修】 SATシステムの操作と食育に関する専門知識を深め、個別指導での役割分担とチームワークについてイメージしておきます</p>
第10回	<p>【事後学修】 シミュレーションを通じて得られた経験を振り返り、指導の効果、チーム内の役割分担を確認しておきます 食育推進全国大会参加 大会に参加し、来場者に対して栄養改善に向けた支援を行います。</p> <p>【事前学修】 栄養学の基本から最新の食育情報まで幅広く学び、来場者の様々なニーズに応えるための準備をする。</p>
第11回	<p>【事後学修】 大会での経験を振り返り、実際に提供した栄養改善支援の内容と来場者からのフィードバックを分析します。 食育推進全国大会参加 大会に参加し、来場者に対して栄養改善に向けた支援を行います。</p> <p>【事前学修】 SATシステムを用いた効果的な個別指導方の確認をします。</p>
第12回	<p>【事後学修】 大会での経験を振り返り、実際に提供した栄養改善支援の内容と来場者からのフィードバックを分析します。 地域栄養活動実習の成果報告 地域栄養活動実習での成果と学修を通じて達成できたことについて発表します。</p> <p>【事前学修】 実習を通じて得た知識と経験をもとに、成果のまとめ方や発表技術に焦点を当てた準備を行います。</p> <p>【事後学修】 発表を通じて得たフィードバックを分析し、自身の学びや成長を振り返ります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	2	必修
担当教員			
森本 雅子			
開講曜限	授業形態		
水3、4	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史的変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。</p> <p>■2-4 給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	特定多数人に対して栄養・食事管理に必要な知識と、給食業務を円滑に管理・経営するための基本的知識と技術（方法）について講義する。また、栄養・食事管理およびサービスを運営するために必要な資源や情報とそれをマネジメントするために必要な生産（調理）の理論や手法について理解し、活用できるように解説する。管理栄養士養成課程におけるコアモデルカリキュラム2015の「給食施設における特定多数の人々の栄養管理を効率かつ効果的に継続して実践していくためのシステムおよびマネジメントについて、経営管理の理論に基づき習得する」を到達目標とし、これに準拠した内容で解説する。
----------	--

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特定給食施設とはどのような施設であるか、関係法規を学び理解する。 2. 継続的な特定多数の人に食事を提供することをマネジメントしていくために必要な知識を獲得する。 3. 給食施設が所属する組織について経営管理方法について理解する。 4. 食事摂取基準を活用し給食施設の給与目標量を決定し献立作成ができる。 5. 衛生管理するために知識を身につけ、臨地実習につなげる。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 授業の内容の状況で、理解度を確保するために、ディスカッションから、前授業の内容をチェックを行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 講義補足するため、授業内もしくは別途時間を設定し遠隔授業など取り入れる。</p> <p>【その他特記事項】 管理栄養士としての必要事項については小テストを行い、より深く理解できているか確認する。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>提出物、小テスト、定期試験（筆記）、課題、授業態度・参加度</p> <p>【割合】 提出物、小テスト10% 定期試験（筆記）70% 課題15% 授業態度・参加度 5%</p>
---------	--

教科書・テキスト	給食経営管理理論 第3版 吉田 勉 名倉秀子
----------	------------------------

参考書	藤原政嘉・河原和枝編 「栄養科学シリーズNEXT献立作成の基本と実践」講談社サイエンティフィク
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身で学ぶのではなく、自ら考えながら授業内容を復習する。 ・専門用語は管理栄養士国家試験や学外の実習で意味等の理解が必須となるので、十分復習し理解する。
---------------------------	---

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な事情を除き、無許可での途中退席は不可とし、私語は控え、携帯電話の不必要な使用は厳禁とする。臨地実習 I に必要な科目です。（必ず給食経営管理実習履修前に修得見込みであること）
----------	---

オフィスアワー	授業で理解できないときは、メールでアポイントをとってから、研究室に来てください。月曜日の研究日、授業時間以外は面談は可能。
---------	---

課題に対するフィードバックの方法	レポート添削、課題添削など返却等も行う。
------------------	----------------------

実務経験	管理栄養士
------	-------

その他	介護支援専門員 健康運動指導士取得
-----	-------------------

授業の内容	<p>第1回給食の概念①</p> <p>1. 給食の概要（1）</p> <p>給食の歴史、意義 栄養士・管理栄養士について予習する。 特定給食施設における給食の意義・役割、給食における管理栄養士の役割を復習する。 入院時食事療養制度を予習する。 【事前学修】管理栄養士に関する法令について事前に調べておく。 【事後学修】管理栄養士がなぜ配置するかを理解しておく。</p> <p>第2回給食の概念②</p> <p>2. 給食の概要（2）</p> <p>栄養士、管理栄養士の法的根拠、健康増進法他</p>
-------	--

第3回給食の概念③	<p>特定多数人への対応と個人対応、給食における管理栄養士の役割を復習する。 栄養管理基準を予習する。入院時食事療養制度を予習しておくこと。 【事前学修】管理栄養士に関する法令について事前に調べておく。 【事後学修】管理栄養士がなぜ配置するかを理解しておく。</p> <p>3給食経営管理の概念(1)。</p>
第4回給食の概念③	<p>給食経営の意義と給食を継続するための経営について学ぶ。さらに、経営のシステムを理解する。給食システムを、構築のための業務や給食目的に応じたオペレーションシステムを理解する。各給食システムの種類と特性を学ぶ。 【事前学修】給食システムの種類と特性を予習する。 【事後学修】給食システムを整理する。</p> <p>4. 給食経営管理の概念(2)</p>
第5回給食の概念⑤	<p>給食の資源を使い、継続的な循環過程マネジメントサイクルを学ぶ。また経営を運営するために組織の構築業務トータルシステムとサブシステムの具体的なマネジメントを復習する。特定給食施設に係る法規を予習する。 【事前学修】給食業務でのシステムをイメージしておく。 【事後学修】システムの把握ができたか、何を根拠としていいか検討する。</p> <p>5. 給食を提供する施設と関連法規(1)</p>
第6回給食の概念⑥	<p>健康増進法における特定給食施設の位置づけや給食経営管理、給食の意義を復習する。健康増進法について予習する。 【事前学修】管理栄養士が必要な施設を学んでおく。 【事後学修】それぞれの施設での管理栄養士の業務について整理しておく。</p> <p>6. 給食を提供する施設と関連法規(2)</p>
第7回経営管理①	<p>各給食提供施設の給食の意義とその関連法規などを復習する。 栄養・食事管理、業務委託化を予習する。 【事前学修】委託業者について学んでおく。 【事後学修】委託と直営の相違点をまとめておく。</p> <p>7. 栄養・食事管理の概要 小テスト①(給食の概念)</p>
第8回経営管理②	<p>栄養管理システム、給食経営の資源、外部委託における管理栄養士の役割を復習する。給食資源について予習する。 【事前学修】管理栄養士の業務を学んでおく。 【事後学修】委託側と受託側の給食を通じた業務を整理しておく。</p> <p>8. 経営管理の概要 課題①給食のシステムについて提出</p>
第9回経営管理③	<p>給食経営の資源、給食運営業務の外部委託などを復習する。 給食とマーケティングの関係を予習する。 【事前学修】マーケティングについてイメージできるように学習をすすめておく。 【事後学修】給食におけるマーケティングについて整理する。</p> <p>9. 給食とマーケティング</p>
第10回経営管理④	<p>給食におけるマーケティングの意義・目的、満足度の把握方法などを復習する。 摂食機能、院外給食を予習する。 【事前学修】給食における満足はどのようにすればいいか検討する。 【事後学修】満足度調査票を作成してみる。</p> <p>10. 給食運営と組織</p>
第11回栄養・食事管理	<p>給食におけるマーケティングの活用、リーダーシップなどを復習する。 対象者へのアセスメント内容を復習する。 【事前学修】リーダーシップとは、なぜ、必要であるのかを勉強しておく。 【事後学修】リーダーシップを給食現場で実践するにはどのような工夫が必要か議論していく。</p> <p>11. 栄養・食事のアセスメント(1) 課題：テーマ：給食の満足度について提出</p>
12回 栄養・食事	<p>給食利用者のアセスメント情報に基づいた栄養・食事管理の目標の立て方を復習する。 食事摂取基準の指標を予習する。 【事前学修】給食の計画を立てる前に、事前に準備することを調べておく。 【事後学修】アセスメントの内容を、事前学習とつなげていくことを指導し、実践案を作成する。</p> <p>12. 栄養・食事アセスメント(2)</p>
第13回栄養・食事管理	<p>利用者のアセスメント内容と摂食機能、給食の評価方法などを復習する。 食品構成、荷重平均成分表を予習する。 【事前学修】アセスメントについて勉強をしておく。 【事後学修】給食の現場でアセスメントをどのように実践するかを学んだことを整理する。</p> <p>13. 栄養・食事計画(1)・小テスト② 給食経営管理概念</p>
第14回栄養・食事管理	<p>食事摂取基準を活用して、給食施設の給与栄養目標量の決定方法、献立作成基準を復習する。 食材の発注方法、保管方法を予習する。 【事前学修】給食施設で栄養管理を考えて実施するには、何から開始するかをイメージしていく。 【事後学修】現場で実践して活用できるように、給与栄養目標量を作成していく。</p> <p>14. 栄養・食事計画(2)</p> <p>給与栄養目標量の計画、献立作成基準などを復習する。</p>

講義科目名称： 給食経営管理実習Ⅱ

授業コード： 51205600 51205630

英文科目名称： Practice in Food Service Business Management II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
森本 雅子			
開講曜限	授業形態		
木1、2、3 金1、2、3	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-4 給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントができる。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	特定給食施設でのフードマネジメントに必要な管理栄養士としての知識や能力を実践することで修得することを目的とする実習である。給食経営管理実習室にて、対象者に合った給食を提供するため、グループ別に役割を分担し給食運営を行う。「栄養・食事管理」「大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理」「作業管理」「原価管理」「施設・設備管理」などを実践で学ぶ。
----------	--

学習到達目標	給食の運営に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。管理栄養士業務を体験する中、修得した知識および技術の活用について説明できる。管理栄養士の職務を体験する中で、修得した知識および責任に関して、説明できる。大量調理機器の取り扱い、大量調理の方法、衛生管理の実際について理解し、食事サービスや喫食時の栄養教育を実践し、評価ができる。物資の購入計画から管理、原価計算等を実践し、給食経営の実際について分かる。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>実習前と実習後にグループワークにて、互いに意見交換をし、よりよい給食提供を検討していく。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>授業の進捗状況に応じてICTを活用していく。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>課題・実習を通じて、管理栄養士として、的確な判断ができるようにする。</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>実習態度 提出物・課題 発表 小テスト（実施期間中）</p> <p>【割合】</p> <p>実習態度 5% 提出物・課題 25% 発表 10% 小テスト 60%（実施期間中） （実習期間中、評価を併せて行うため、再試は行わない。）</p>
---------	--

教科書・テキスト	教科書・テキスト 給食経営管理実習ワークブック第3版 栄養科学シリーズNEXT献立作成の基本と実践 藤原政嘉・河原和枝 編 講談社サイエンティフィック 食品成分表
----------	---

参考書	参考書 給食経営管理理論 第3版 吉田 勉 名倉秀子
-----	-------------------------------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	献立作成を計画するためには、給与栄養目標量の設定、食品構成表の作成、食品群別荷重平均値などの理解し、演習実施して、自習より理解を深める。また、計画から実施をすすめるための流れについても、イメージできるようにする。各自献立を作成して給食にに適した内容を作成し、学内で各自作成する。衛生管理を、現場で使えるように実践する。
---------------------------	---

履修上の留意事項	発熱・下痢・嘔吐などの症状や手指に傷がある場合は実習室での作業に参加できませんので必ず申し出ること。検便実施。実習はその時点での対応であるため、健康管理にも、実習の授業態度として大切なことであると理解しておくこと。また、月1回の検便をしないものは出席できないのでオリエンテーション時に検便の提出について確認すること。臨地実習Ⅰに必要な科目です。（管理栄養士として大切な実習なので、体調管理は厳重にして、各班での責任は全体での責任となるため、自己判断せず、学内の保健室の教員にチェックしてもらうこと。）
----------	--

オフィスアワー	授業後、研究日火曜日と授業時間以外には研究室に事前に連絡をとり来てください。
---------	--

課題に対するフィードバックの方法	課題添削、レポート添削を行う。
------------------	-----------------

実務経験	管理栄養士
------	-------

その他	介護支援専門員 健康運動指導士
-----	-----------------

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、小テスト① 実習の意義・進め方、安全と衛生管理、役割分担と試作について 【事前学修】業務分担表を作成しておく。 【事後学修】班でグループワークして役割分担を作成完成する。</p> <p>第2回 各班の提供献立確認・作業工程・発注② 各班による試作と献立および作業工程・発注 衛生管理の検討</p>
-------	---

第3回	<p>【事前学修】 試作、献立チェックできるようにする。 【事後学修】 各班で、グループワークで試作計画と献立作成を完成させる。 各班試作メニュー実施（試作） 全員 試作：各班による試作と献立および作業工程・発注 衛生管理の検討 【事前学修】 発注計画をする。 【事後学修】 グループで、発注計画を完成する。</p>
第4回	<p>自主献立①試作献立 1班 試作：帳票の書き込み、アンケート作成、媒体の作成 提供献立仕上げる。反省点 【事前学修】 提供後の帳票を、作成してみる。 【事後学修】 グループで、帳票作成、アンケート等媒体の作成を完成させる。</p>
第5回	<p>自主献立① 提供献立 1班 提供：各班による試作と献立および作業工程・発注 衛生管理の検討 【事前学修】 各班での検食準備、提供発注表の作成 衛生管理を計画をする。 【事後学修】 試作後の改善点、献立改善点のグループワークから、提供時発注書作成 衛生管理の計画改善のグループワークを実施する。アンケートの集計、媒体の整理</p>
第6回	<p>自主献立② 試作献立 2班 試作：帳票の書き込み、アンケート作成、媒体の作成 提供献立仕上げる。反省点 【事前学修】 試作後の帳票を、作成してみる。献立変更をする。提供の発注をする。 【事後学修】 グループで、帳票作成、アンケート等媒体の作成を完成させる。</p>
第7回	<p>自主献立② 提供献立 2班 提供：各班による試作と献立および作業工程・発注 衛生管理の検討 【事前学修】 各班での検食準備、提供発注表の作成 衛生管理を計画をする。 【事後学修】 試作後の改善点、献立改善点のグループワークから、提供時発注書作成 衛生管理の計画改善のグループワークを実施する。アンケートの集計、媒体の整理</p>
第8回	<p>自主献立③ 試作献立 3班 試作：帳票の書き込み、アンケート作成、媒体の作成 提供献立仕上げる。反省点 【事前学修】 試作後の帳票を、作成してみる。献立変更をする。提供の発注をする。 【事後学修】 グループで、帳票作成、アンケート等媒体の作成を完成させる。</p>
第9回	<p>自主献立③ 提供献立 3班 試作：帳票の書き込み、アンケート作成、媒体の作成 提供献立仕上げる。反省点 【事前学修】 提供後の帳票を、作成してみる。献立変更をする。提供の発注をする。 【事後学修】 グループで、帳票作成、アンケート等媒体の作成を完成させる。</p>
第10回	<p>資料まとめ 提供：帳票の書き込み、アンケート集計 帳票の仕上げ。反省点 【事前学修】 各班での帳票の整理 発注表からの日計表の作成、衛生管理等の反省点を確認。 【事後学修】 提供後の改善点、献立改善点のグループワーク 試作・提供時発注書等の整理。 衛生管理の計画改善でのグループワーク。</p>
第11日	<p>発表原稿 帳票作成、日計表の作成から発表の原稿を作成する。 発表資料作成 【事前学修】 帳票の流れをつかむ。 【事後学修】 最終報告書について完成させる。</p>
第12回	<p>発表 小テスト 【事前学修】 発表の準備、各班でグループワークをして資料原稿を作る。 【事後学修】 発表をして、給食提供までの問題点、改善点と理解を記載し整理する。</p>

講義科目名称： 総合演習

授業コード： 51205700

英文科目名称： Comprehensive Practical

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年 (前期)	4	2 (通年)	必修
担当教員			
金子雅文、池上益世、相羽洋子、榎原周平、太田誠、辰口和保、根来宗孝、野々木宏、水野雅史、渡邊敏明、黒川浩美、須谷和子、蜂須賀のぞみ、森本雅子、國末直宏、高木尚弘、高田守康、辻多重子、岩本和子、田			
開講曜限	授業形態		
木1、2	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p>
--------	--

科目の概要・目的	今までに学習してきた科目区分「社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養、公衆栄養学、給食経営管理論」をさらに専門的かつ横断的に学習することにより、実践的な栄養評価や管理が行える能力を養う。
学習到達目標	管理栄養士として必要な知識を様々な分野を関連付けながら身に付けている。
授業の方法	講義、演習
成績評価の方法	【評価項目】 【割合】 中間試験 (30%) (授業内) 定期試験 (70%)
教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	必要に応じて資料を配布する。
授業時間外の学修について (事前・事後学習について)	1年間の計画を作って、目標を一つ一つクリアしていくこと。
履修上の留意事項	○各カテゴリー間の関連性について十分に理解するため、意欲的に履修すること。 ○各分野の理解が十分でない者には、特別補講を実施する場合がある。
オフィスアワー	勤務時間内に訪問すること。
課題に対するフィードバックの方法	個々の教員より、個々の課題についてコメント等を付加して返却する。
実務経験	特記事項なし
その他	授業内容は、「授業の内容」に示す通りである。オムニバス方式であるので、時間割やその他の事由により、その順番が変更する事がある。 別途、詳細な日程表を配布するので配布物も参照すること。なお、授業時間外に実施する模擬試験については授業の一環として実施する。
授業の内容	<p>1 基礎栄養学① 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】当該分野の教科書を復習する 【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>2 基礎栄養学② 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】当該分野の教科書を復習する 【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>3 基礎栄養学③ 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】当該分野の教科書を復習する 【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>4 基礎栄養学④ 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】当該分野の教科書を復習する 【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>5 生化学① 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】当該分野の教科書を復習する 【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>6 生化学② 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】当該分野の教科書を復習する 【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p>

26	<p>臨床栄養学③</p> <p>当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める</p> <p>【事前学修】当該分野の教科書を復習する</p> <p>【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p>
27	<p>臨床栄養学④</p> <p>当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める</p> <p>【事前学修】当該分野の教科書を復習する</p> <p>【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p>
28	<p>模擬試験</p> <p>模擬試験</p> <p>【事前学修】国家試験の過去問等を学習する</p> <p>【事後学修】自己採点を行い、間違ったところを復習する</p>
29	<p>中間試験</p> <p>中間試験</p> <p>【事前学修】前期の総合演習の科目を中心に学習する</p> <p>【事後学修】自己採点を行い、間違ったところを復習する</p>
30	<p>中間試験</p> <p>中間試験</p> <p>【事前学修】前期の総合演習の科目を中心に学習する</p> <p>【事後学修】自己採点を行い、間違ったところを復習する</p>

講義科目名称： 総合演習

授業コード：

英文科目名称： Comprehensive Practical

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年（後期）	4	2（通年）	必修
担当教員			
金子雅文、池上益世、相羽洋子、榎原周平、太田誠、辰口和保、根来宗孝、野々木宏、水野雅史、渡辺敏明、黒川浩美、須谷和子、蜂須賀のぞみ、森本雅子、國末直宏、高木尚弘、高田守康、辻多重子、岩本和子、田岡晃子			
開講曜限	授業形態		
	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p>
--------	--

科目の概要・目的	今までに学習してきた科目区分「社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養、公衆栄養学、給食経営管理論」をさらに専門的かつ横断的に学習することにより、実践的な栄養評価や管理が行える能力を養う。
学習到達目標	管理栄養士として必要な知識を様々な分野を関連付けながら身に付けている。
授業の方法	講義、演習
成績評価の方法	【評価項目】 【割合】 中間試験 (30%) 定期試験 (筆記) (70%)
教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	必要に応じて資料を配布する。
授業時間外の学修について (事前・事後学習について)	1年間の計画を作って、目標を一つ一つクリアしていくこと。
履修上の留意事項	○各カテゴリー間の関連性について十分に理解するため、意欲的に履修すること。 ○各分野の理解が十分でない者には、特別補講を実施する場合がある。
オフィスアワー	勤務時間内に訪問すること。
課題に対するフィードバックの方法	個々の教員より、個々の課題についてコメント等を付加して返却する。
実務経験	特記事項なし
その他	授業内容は、「授業の内容」に示す通りである。オムニバス方式であるので、時間割やその他の事由により、その順番が変更する事がある。 別途、詳細な日程表を配布するので配布物も参照すること。 なお、授業時間外に実施する模擬試験については授業の一環として実施する。
授業の内容	<p>31 臨床栄養学⑤ 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】 当該分野の教科書を復習する 【事後学修】 eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>32 臨床栄養学⑥ 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】 当該分野の教科書を復習する 【事後学修】 eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>33 臨床栄養学⑦ 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】 当該分野の教科書を復習する 【事後学修】 eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>34 臨床栄養学⑧ 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】 当該分野の教科書を復習する 【事後学修】 eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>34 公衆栄養学① 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】 当該分野の教科書を復習する 【事後学修】 eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p> <p>36 公衆栄養学② 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】 当該分野の教科書を復習する 【事後学修】 eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p>

56	<p>公衆衛生学⑤ 当該分野の重点や要点を解説し、他分野との関連性についての理解を深める 【事前学修】当該分野の教科書を復習する 【事後学修】eラーニングシステムで学修箇所を復習する</p>
57	<p>模擬試験 【事前学修】国家試験の過去問等を学習する 【事後学修】自己採点を行い、間違ったところを復習する</p>
58	<p>模擬試験 【事前学修】国家試験の過去問等を学習する 【事後学修】自己採点を行い、間違ったところを復習する</p>
59	<p>模擬試験 【事前学修】国家試験の過去問等を学習する 【事後学修】自己採点を行い、間違ったところを復習する</p>
60	<p>模擬試験 【事前学修】国家試験の過去問等を学習する 【事後学修】自己採点を行い、間違ったところを復習する</p>
	<p>定期試験</p>

講義科目名称： 臨地実習 I

授業コード： 51205800

英文科目名称： Practical Training I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
森本 雅子			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-4 給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントができる。</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	臨地実習は、学内の給食経営管理論や調理学等の講義・実習で修得した成果を、社会で活かす実践トレーニングの第一歩である。臨地実習は、学校、事業所、福祉施設等の特定給食施設で、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的とする。
学習到達目標	各特定給食施設の給食の意義・目的やその特質および栄養士・管理栄養士の業務を知る。栄養アセスメント、給食システム、生産管理、工程管理、食材管理、品質管理、原価管理、衛生管理、施設設備管理、帳票類管理、人事労務管理と人材教育、危機管理等を理解し、経営管理の視点から、給食業務の流れをシミュレーションできる。給食資源の具体的な活用法がわかり、給食の評価など理解できる。給食における多職種連携や地域連携がわかる。喫食者の基本的権利・個人情報保護等が理解できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>各施設は配属が決まり次第、課題をグループごとで行い、実習前演習と実習後演習を実施する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>理解度と各班での出欠状況から、補足説明は別途演習を通じて時間を作る。個別対応が必要な時は、遠隔操作を利用する。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>各授業時間で臨地実習で成果が上げられるように、各施設での学ぶべきことを計画できるように勧める。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>実習先評価 実習報告（グループへの対応、処理方法） 課題へのとりくみ</p> <p>【割合】</p> <p>実習先評価 50% 実習報告（グループへの対応、処理方法）20% 課題へのとりくみ 30%</p>
教科書・テキスト	臨地実習・校外実習ハンドブック 編集：藤原政嘉・田中俊治・赤尾 正 出版会社 株式会社 みらい
参考書	栄養士必携 社団法人 日本栄養士会（第一出版）臨地実習・校外実習ハンドブック 編集：藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 株式会社みらい
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	自ら課題を発見し意欲的、積極的な態度で実習に臨み、社会的常識に則った行動をすること。
履修上の留意事項	給食実習に参加するためには、給食経営管理論Ⅰと給食経営管理論Ⅱの単位を取得していることが必須。臨地実習Ⅱ事前指導は臨地実習Ⅰの事前指導と並行して行います。詳しい日程についてはオリエンテーションの時に日程表を配布します。
オフィスアワー	木曜日2限
課題に対するフィードバックの方法	各事業場所による課題の添削。
実務経験	病院給食、施設給食、事業所給食に従事していた時の経験を活かし、現場でのノウハウを交えながら管理栄養士として給食提供していく上での給食管理の意義や知識等の理論を学生に教示している。
その他	遅刻厳禁。学外実習には学ぶべき重要な事項が多い為、参加態度によっては学外実習に参加できない場合もあります。意識をもって取り組んでください。
授業の内容	<p>事前指導① オリエンテーション</p> <p>1. オリエンテーション（給食経営管理実習と合同で実習の概要、成績評価の考え方を説明する。）</p> <p>【事前学修】 マナーについて実習書を確認しておく。</p> <p>【事後学修】 個人票の確認をする。</p> <p>事前指導② 給食経営管理実習事前指導①（病院、事業所、福祉）課題 各事業所の説明、課題について</p> <p>【事前学修】 各事業所について勉強をする。</p> <p>【事後学修】 各グループで配属する施設の勉強をする。</p> <p>事前指導③ 給食経営管理実習事前指導② 実習のマナー</p>

事前指導④	<p>アセスメント・栄養計画、喫食者の権利や個人情報保護 献立作成 【事前学修】アセスメントについて学ぶ。 【事後学修】各施設のアセスメントをグループで意見交換をしていく。</p> <p>給食経営管理実習事前指導③ 実習ノートの使い方、個人票の書き方</p>
事前指導⑤	<p>【事前学修】各施設の概要を勉強する。 【事後学修】各グループで施設ごとの勉強を整理する。</p> <p>給食経営管理実習事前指導④ 衛生管理など給食に必要な基本的業務の修得 【事前学修】大量調理施設での衛生管理を確認する。 【事後学修】現場で重要な項目を調べる。(各班で実施する。)</p>
事前指導⑥	<p>給食経営管理実習事前指導⑤ グループ打ち合わせ、役割分担、連絡簿作成、緊急時対応について</p>
事前指導⑦	<p>【事前学修】連絡方法を話し合う。 【事後学修】連絡簿作成、緊急時の確認をし、実習ノートに添付する。</p> <p>給食経営管理実習事前指導⑥ 各施設での課題、特徴を確認して、グループでの実習の目的と具体的にどのような内容をチェックしていくのか項目を挙げていく。 【事前学修】各施設の理念、施設内容を調べる。 【事後学修】各班で、施設の理解できない内容を、グループで把握していく。</p>
事前指導⑧	<p>給食経営管理実習事前学習⑦ 実習中の課題(給与栄養目標量、食糧構成表) 【事前学修】施設の栄養量を検討しておく。 【事後学修】各班で、課題に取り組む。(給与栄養目標量を互いで確認)</p>
事前指導⑨	<p>給食経営管理実習事前学習⑧ 実習中の課題(給与栄養目標量、食糧構成表) 【事前学修】施設の栄養量を検討しておく。 【事後学修】各班で、課題に取り組む。(給与栄養目標量を互いで確認)</p>
事前指導⑩	<p>給食経営管理実習事前学習⑨ 実習先からの注意事項伝達、貸出 【事前学修】実習先の持参物の確認 【事後学修】実習後の打ち合わせ日程の調整</p>
臨地実習	<p>給食実習(5日間) 事業所、福祉施設等の特定給食施設で、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的とする。 【事前学修】施設の特徴に取り組めるように、事前にしっかり学習していく。 【事後学修】施設のことを2年生にわかりやすく説明できるようにし、臨地実習先学びを整理をする。さらに、臨地実習担当者に報告書を作成する。</p>
事後指導⑪	<p>給食実習報告会 給食実習の内容を振り返り、パワーポイントにまとめて報告する。 【事前学修】各班各自で振り返り、実習先の学びを協議する。 【事後学修】実習メンバー同士で学んだ内容を、発表できる資料で報告していく。</p>
事後指導⑫	<p>お礼状の作成 【事後学修】学んだ内容を、実習担当者に感謝でもってお礼の手紙を作成する。</p>
事後指導⑬	<p>実習後の振り返り 【事後学修】各施設の学んだ内容を、実習メンバーが、発表会で伝えられるようにグループワークをする。</p>
事後指導⑭	<p>実習後の振り返り 【事後学修】実習メンバーが、グループワークした内容を、発表できる資料で報告していく。</p>
事後指導⑮	<p>実習後の振り返り 発表原稿作成 【事後学修】発表する内容を、実習メンバー同士で共有化する。</p>

講義科目名称： 臨地実習Ⅱ

授業コード： 51205900

英文科目名称： Practical Training II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
池上 益世			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-3 地域や職域等の健康栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析評価し、適切な栄養関連サービスの提供とマネジメントに必要な知識と技術を修得している。</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p>
科目の概要・目的	保健所に5日間出向き、集団や職域の栄養課題をアセスメントし、適切な公衆栄養プログラムを計画、実行、評価、改善という一連の公衆栄養マネジメントを現場で学び、現在行われている公衆栄養活動を知る。
学習到達目標	保健所や保健センターの業務を知るとともに、行政栄養士の業務を学ぶ。地域や職域における、健康の保持・増進を目的とする公衆栄養活動について理解する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 事前事後指導と臨地実習</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 事前指導、事後指導の参加態度 保健所実習への参加状況 実習先における活動・評価</p> <p>【割合】 事前指導、事後指導の参加態度 30% 保健所実習への参加状況 50% 実習先における活動・評価 20%</p>
教科書・テキスト	公衆栄養学臨地実習レポートBOOK 改訂3版/南山堂/矢澤彩香 大西智美
参考書	公衆栄養学教科書、公衆衛生学教科書等
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	事前指導・事後指導にも積極的に参加する。
履修上の留意事項	保健所実習に参加するためには公衆栄養学Ⅰの単位を取得していることが必須。 臨地実習Ⅱ事前指導は臨地実習Ⅰの事前指導と並行して行います。 詳しい日程についてはオリエンテーションの時に日程表を配布します。
オフィスアワー	火曜日 昼休み
課題に対するフィードバックの方法	必要時添削指導
実務経験	行政栄養士
その他	事前指導出席状況、参加態度によっては臨地実習(保健所実習)に参加できないことがあります。
授業の内容	<p>事前指導</p> <p>オリエンテーション 給食経営管理実習と合同で実習の概要、成績評価の考え方などを説明する。 実習関係調査実施</p> <p>主な実習先、今後の予定、実習のマナーなど</p> <p>【事前学修】 テキストの該当部分を熟読する。</p> <p>【事後学修】 身だしなみについて自己チェックを行う</p> <p>公衆栄養学実習事前指導① 保健所における実習マナー、実習ノートの使い方</p> <p>【事前学修】</p>

	<p>保健所業務について調べておく。 【事後学修】 実習に備えて必要な準備を整える。 公衆栄養学実習事前指導 名札用写真撮影</p> <p>注意：標準服着用</p> <p>【事前学修】 髪の色、服装等を整える。 【事後学修】 実習に備えて必要な準備を整える。 公衆栄養学実習事前指導② 個人票下書き、班員一覧作成、役割分担</p> <p>【事前学修】 個人票の記入内容をあらかじめ確認する。 【事後学修】 訂正を指示された部分については訂正し、清書する。 公衆栄養学実習事前指導③ 保健所実習参加者 事前課題情報収集</p> <p>【事前学修】 保健所管内の業務内容について調べておく。 【事後学修】 不明な点は再度調べる 公衆栄養学実習事前指導④ 事前課題</p> <p>【事前学修】 大阪府保健所の業務内容について調べておく。 高槻市班は課題が遂行できるように情報を収集する。 【事後学修】 不明な点は再度調べる。 公衆栄養学実習事前指導⑤ 事前課題</p> <p>【事前学修】 大阪府保健所班は班ごとに課題を仕上げる。 高槻市班は、事前課題を検討する。 【事後学修】 指摘を受けた個所は訂正する。 公衆栄養学実習事前指導⑥ 課題・持ち物確認</p> <p>【事前学修】 持ち物、集合場所等でわからないことがないか確認する。 【事後学修】 班ごとに、情報を共有する。 保健所実習（5日間） 保健所や保健センターに行き、行政栄養士業務を体験する。具体的な内容については実習先により異なる。</p> <p>【事前学修】 保健所ごとに指示された課題、必要書式、昼食代、交通費などを準備する 【事後学修】 毎日、実習ノートを当日中に仕上げる。 事後指導 臨地実習報告会 実習内容を振り返り、パワーポイントにまとめて来場者に報告する</p> <p>【事前学修】 班ごとに、パワーポイント、シナリオの準備を行う。 【事後学修】 班ごとに反省会を行う。</p>
--	---

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 51206100

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	4 (通年)	必修
担当教員			
金子 雅文			
開講曜限	授業形態		
月1、2、3、4	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	3年次前期までに履修した内容を基に、研究計画を立て、3年後期からそれぞれの研究テーマに従って実験・調査・試験・試作等を実施する。4年次前期においては、得られた研究成果をまとめ、科学的に解析し、多角的な視点で考察を行い、論文としてまとめる。これらの研究を通して、食と健康に関する理解を深め、管理栄養士としての視野を広げ、将来地域のリーダーとして人々の栄養管理を担うことができる基礎的な能力と幅広い知識を養うことを目的とする
学習到達目標	それぞれの研究テーマに基づき、課題の抽出、仮説の設定・検証を行い、得られたデータを最終的に卒業論文としてまとめることにより、論理的な考え方や課題解決能力を修得する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの仮説に基づき、機器分析、調理実習、実態調査などを通して、科学的な実証を行う。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究成果についてはパワーポイントにまとめ発表をする。この際必要に応じて遠隔で実施する。 <p>【その他特記事項】</p> <p>なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査研究活動、研究論文、パワーポイント、発表態度を基準に評価する。 研究指導教員（ゼミ指導教員）が評価する。 <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査研究活動：40% 研究論文：30% パワーポイント、発表態度：30%
教科書・テキスト	・研究テーマによって、教科書・テキストの必要性や種類が異なっている。
参考書	・研究テーマに関して、必要に応じて文献等を検索する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	・ゼミ指導教員と研究活動のスケジュールを協議して決める。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 履修条件：3年次前期終了時点において、「専門教育科目」に配当されている3年次前期開講までのすべての必修科目の総単位（65単位）のうち、39単位以上を修得していること。 積極的に関連する領域の文献を読み、研究内容のまとめ等を行うこと。 計画的に研究を進めること。
オフィスアワー	・ゼミ指導教員によって異なるので、事前に確認する。
課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> 実験、調査を進めながら、必要に応じて教員と学生が協議しながら指導する。 フィードバック方法は研究内容やゼミ指導教員の指導方法によって異なる。
実務経験	・ゼミ指導教員によって、実務経験の期間及び内容が異なる。
その他	<p>研究発表会は下記の予定で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究成果の要旨提出：6月上旬 研究発表会のパワーポイント提出：6月中旬 研究発表会：6月下旬 卒業論文提出：10月予定
授業の内容	<p>卒業研究の実施</p> <p>ゼミ指導教員のもとで個別に卒業研究を行う。</p> <p>3年次後期から開始した卒業研究は、それぞれの研究テーマに基づいて、ゼミ指導教員と相談して研究を引き続き実施する。研究計画に基づき実験・調査・試験・試作等を遂行し、得られたデータをまとめてプレゼンテーションを行い、さらに卒業論文を作成する。</p> <p>3年次後期から行ってきた研究を、4年次前期において引き続き実施して、研究成果をまとめていく。</p> <p>研究の種類によって研究方法に違いはあるが、基本的には、以下の内容を含む。</p> <p>文献等の調査</p>

実験・調査の遂行

試作の実施

データの統計学的解析

研究成果のまとめ

文献的な考察

要旨の作成

卒業研究発表会（口頭発表）

ポスターの作成

卒業論文の作成・提出

講義科目名称： 基礎栄養学特別講義

授業コード： 51206200

英文科目名称： Basic Nutrition Special Lectures

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
根来 宗孝			
開講曜限	授業形態		
火1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p> <p>■1-5 栄養とは何か、その意義について理解している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	本講義において、基礎栄養学分野をさらに深く学修する。本分野は人間栄養学を理解する基本となる知識を習得する。基礎栄養学とともに、基礎栄養学特別講義を聴講することにより、人間栄養学の習得がさらに確かなものとなる。
学習到達目標	① タンパク質、糖質、脂質の消化・吸収メカニズムを説明できる。② アミノ酸の代謝とタンパク質の栄養価、糖質の代謝と血糖調節、食物繊維の生理機能、脂質の体内動態・代謝について説明できる。③ 各種ビタミン、ミネラルの生理機能と欠乏症について説明できる。④ 水・電解質の栄養学的意義やエネルギー代謝について説明できる。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】なし 【ICTを利用した双方向授業】なし 【その他特記事項】なし
成績評価の方法	【評価項目】定期試験（筆記）（期末試験とするが、授業への参加態度を考慮に入れて判断する。 【割合】定期試験（筆記）（80%）、授業への参加態度（20%）
教科書・テキスト	基礎栄養学ノート 第4版 羊土社（田地陽一 編）
参考書	奥恒行、柴田克己 編 健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第5版 南江堂
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	基礎栄養学についてよく復習しておくこと。
履修上の留意事項	予習復習を心がけること。
オフィスアワー	特に定めませんが、事前に連絡をしてから訪問すること。
課題に対するフィードバックの方法	A-ポータルなどで問い合わせ内容に対応する。
実務経験	大学（医学部 法医学/衛生学）教員、高等専門学校教員
その他	特になし。

授業の内容	<p>1 栄養の概念・食物の摂取 【事前学修】教科書(第1章、第2章)の栄養の概念、摂食行動を予習し、専門用語を整理しておくこと。 【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p> <p>2 消化吸収 【事前学修】教科書(第3章)の消化吸収を予習し、専門用語を整理しておくこと。 【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。専門用語を整理しておくこと。</p> <p>3 栄養素の体内動態（1） 【事前学修】教科書(第3章)前1/2章の栄養素の体内動態を予習し、専門用語を整理しておくこと。 【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p> <p>4 栄養素の体内動態（2） 【事前学修】教科書(第3章)後1/2章の栄養素の体内動態を予習し、専門用語を整理しておくこと。 【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p> <p>5 炭水化物の栄養（1）</p>
-------	--

	<p>【事前学修】教科書(第4章)前1/2章を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
6	炭水化物の栄養(2)
	<p>【事前学修】教科書(第4章)後1/2章を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
7	脂質の栄養(1)
	<p>【事前学修】教科書(第5章)前1/2章を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
8	脂質の栄養(2)
	<p>【事前学修】教科書(第5章)後1/2章を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
9	たんぱく質の栄養(1)
	<p>【事前学修】教科書(第6章)前1/2章を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
10	たんぱく質の栄養(2)
	<p>【事前学修】教科書(第6章)後1/2章を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
11	ビタミンの栄養(1)
	<p>【事前学修】教科書(第7章)前1/2章を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
12	ビタミンの栄養(2)
	<p>【事前学修】教科書(第7章)後1/2章を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
13	ミネラルの栄養
	<p>教科書(第8章)を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
14	水・電解質の栄養的意義
	<p>【事前学修】教科書(第9章)を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
15	エネルギー代謝
	<p>【事前学修】教科書(第10章)を予習し、専門用語を整理しておくこと。</p> <p>【事後学修】章末の演習問題を解き、知識の定着を図ること。</p>
定期試験	<p>【事前学修】教科書の演習問題や配布プリントを確認すること。</p> <p>【事後学修】試験問題で解けなかった箇所を再度学修すること。</p>

講義科目名称： 調理学実習Ⅱ（一）

授業コード： 51206300

英文科目名称： Cooking Practice II (1)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
須谷 和子			
開講曜限	授業形態		
木3、4	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史的変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。</p> <p>■1-5 栄養とは何か、その意義について理解している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	1年次で学んだ調理理論・技術を基本にして、日常的な料理の組み合わせへの展開を試みる。調理過程における総合的な力を高めるとともに、季節の食材を使った料理、様々な国の料理を実習し食事作法についての理解も深める。
学習到達目標	調理学実習Ⅰで学んだ内容や技術を活用・発展させ、食品の調理性や各調理操作（煮る、蒸す、揚げる、炒める、焼くなど）を考えた上で日常の献立にも生かせる実習内容を理解し、円滑な調理操作が行えるようになることを目指す。さらに、四季のもてなし料理や行事食にも応用できる力を身に付け、実践できるようになる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 実習・グループワーク</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 実習への参加態度 課題・レポート</p> <p>【割合】 実習への参加態度（50%） 課題・レポート（50%）</p>
教科書・テキスト	オーム社 「これからの調理学実習 基本手法から各国料理・行事食まで」新調理研究会編（授業時に随時プリントを配布する。）
参考書	同文書院 「NEW 調理と理論」山崎清子他 共著
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	事前学習：毎実習終了後に次回の実習メニューを提示する。テキストを一読しておくこと。 事後学習：毎回実習終了時に出す課題について調べ、レポートを作成すること。レポートは実習終了後1週間以内に提出すること。全実習終了後にファイルにまとめ提出してもらう。
履修上の留意事項	規定の清潔なユニフォームと上靴を着用し、衛生的な配慮のもと実習に臨むこと。
オフィスアワー	金曜日 1限目
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題・レポートは添削後返却する。
実務経験	管理栄養士
その他	食材の入荷状況により、順番が入れ替わることがある。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション、西洋料理① ・ペンネのアッラビアータソース ・茹で海老のツナソース 【事前学修】小麦粉の調理特性について理解しておく 【事後学修】小麦粉の分類、お茶についてレポート作成</p> <p>第2回 日本料理① ・筍ごはん ・若竹汁 ・煮魚 ・春菊の白和え ・いちご大福 【事前学修】煮だし汁のとり方、筍の取り扱い方について理解しておく 【事後学修】煮だし汁について、和菓子を作る時に使う「粉」についてレポート作成</p> <p>第3回 西洋料理② ・ロールパン ・チキンカツレツ ・コールサラダ ・パンプキンスープ ・コーヒージェリー 【事前学修】揚げ物の特徴、凝固剤としてゼラチンの特性を理解しておく 【事後学修】鶏肉の部位と調理法、ゼラチンについてレポート作成</p> <p>第4回 中国料理①</p>

第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・白飯 ・古嗜肉 ・辣椒黄瓜 ・玉米湯 ・杏仁酥餅 【事前学修】中国料理の特徴について理解しておく 【事後学修】中国料理の献立構成、マナーとラードについてレポート作成 <p>日本料理②</p>
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・十六穀ご飯 ・天ぷら ・南京のそぼろあんかけ ・赤だし ・水羊羹 【事前学修】雑穀の種類と寒天について調べておく 【事後学修】雑穀について、赤だし汁に使用する椀種についてレポート作成 <p>西洋料理③</p>
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・カレーピラフ ・鮭のホイル包み焼き ・グリーンサラダ ・コンソメスープ ・レモンスカッシュ 【事前学修】洋風だしの取り方について理解しておく 【事後学修】ドレッシング、マヨネーズについてのレポート作成 <p>西洋料理④</p>
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドイッチ ・ホタテのクリームスープ ・カスタードプリン ・コーヒー 【事前学修】砂糖の調理特性について理解しておく 【事後学修】砂糖の温度による状態変化とホワイトソースについてレポート作成 <p>日本料理③</p>
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・赤飯 ・茶碗蒸し ・魚の照り焼き ・胡瓜の酢の物 ・黒糖葛餅 【事前学修】もち米の調理特性、蒸し物を作る際の注意点について理解しておく 【事後学修】小豆について、もち米の調理特性についてレポート作成 <p>日本料理④</p>
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当 (しょうがご飯 筑前煮 だし巻き卵 水菜のからし和え 吉野鶏のすまし汁) 【事前学修】お弁当に詰める時の味付けや注意点について理解しておく 【事後学修】3・1・2弁当箱法が理解できる <p>西洋料理⑤</p>
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・パエリア ・スペイン風オムレツ ・鯔のエスカベッシュ ・フルーツバスケット 【事前学修】スペイン料理の特徴、食材、食文化について理解しておく 【事後学修】スペイン料理についてレポート作成 <p>日本料理⑤</p>
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・ちらし寿司 ・切干大根の酢の物 ・すまし汁 ・フルーツ白玉 【事前学修】乾物の取り扱い方について調べておく 【事後学修】関東と関西での寿司の違い、白玉粉についてレポート作成 <p>中国料理②</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・涼拌麵 ・奶豆腐 【事前学修】中華麵の特徴について調べておく 【事後学修】寒天液と牛乳についてレポート作成

講義科目名称： 調理学実習Ⅱ（二）

授業コード： 51206400

英文科目名称： Cooking Practice II (2)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	必修
担当教員			
國末 直宏			
開講曜限	授業形態		
月5 火1、2、3	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	■健康栄養学科■ ■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史的変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。 ■1-5 栄養とは何か、その意義について理解している。
---------	--

科目の概要・目的	栄養士として調理現場で勤めるためには、大量調理の実践的技術を養うことが求められる。実習では、綿密な作業計画に沿った大量調理を実施、学内の教職員、学生を対象としたランチを販売する。また、附属幼稚園年長児を対象に「食事のマナー」をテーマとした、食育講習とランチ提供も行う。課題となる料理メニューを十分に把握し、作業計画書の作成を行ったうえで試作を行う。試作での反省を生かし、課題料理の理解を深めたうえで再度、作業計画を組み直し、グループミーティングを行う。提供日には担当教員の安全性の監視のもと、学生達が中心となり実習を進める。発注表、タイムスケジュール、役割分担、予約管理に必要な書類の作成とそれをもとにした納品確認、仕込み、調理、提供を行う。毎回、実習終了後には反省会を行い、次回の実習の課題を探るとともに、現時点での自分達のレベルを認識する。大量調理の実践から効率のよい実習の進め方を身につける。原価計算などの書類作成についても学修する。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none">・時間配分感覚を身につけ、効率的な調理作業ができる・衛生面に配慮した調理作業と料理提供ができる・与えられた役目から責任感を持つことができる・喫食者の満足度をあげるためには、何が重要であるのかを述べるができる
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループ内での実習計画や改善点などについてのディスカッション 【ICTを利用した双方向授業】 なし 【その他特記事項】 なし
成績評価の方法	【評価項目】 授業参加態度、提出物、レポート 【割合】 授業参加態度（70%）、提出物（10%）、レポート（20%）
教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配付する
参考書	書籍名「調理実習 - 基本手法から各国料理・行事食まで -」 編者：新調理研究会 発行所：株式会社オーム社
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	作業効率の学修を養うことを目的とするため、事前の配布レシピを十分に理解しておくことが前提となる。実習を終えた後は、グループミーティングを通じ、時間配分、効率性、料理クオリティー、チームワーク、喫食者の意見等を振り返り、自身の課題を検討しレポートにまとめる。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none">・アレルギー食材などは担当教員に申告し、自身でも留意するようになる・嘔吐、下痢、発熱を伴う体調不良は実習に参加不可。その際は必ず申し出て、授業時間中の課題について担当教員より指示をうける。・衛生面、安全面の遵守に努めない際には、実習担当除外となることもある・よく切れる包丁の状態として実習に参加する
オフィスアワー	月曜日 9:00～12:00 水曜日 9:00～17:00 上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可
課題に対するフィードバックの方法	書類の返却による添削と直接指導
実務経験	日本料理専門調理師認定 給食用特殊料理専門調理師認定 管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	第1週 オリエンテーション ・実習の目標、意義 ・実習を行うにあたっての注意事項 ・厨房内見学 ・リーダーの選出 【事前学修】シラバスを読み、実習の目的と到達目標を理解し、個人的目標を設定する。

第2週	<p>【事後学修】オリエンテーション配布資料を再読し、次回以降の実習が円滑に進むように理解しておく。料理レジメを読み、自分の役割と調理方法を把握するようにする</p> <p>第3週、第4週 ランチ営業のための合同試作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピリ辛胡瓜 ・スープ餃子 ・油淋鶏 ・雑穀飯 ・ザーサイ ・杏仁豆腐
第3週	<p>【事前学修】実習で使用する調理器具と使用方法を理解しておく。調理作業の流れをシミュレーションして計画をたてておく。</p> <p>【事後学修】試作で課題となったことをまとめる。苦手だと感じた調理作業を反復練習し、大量調理に備える</p> <p>1班 中華料理営業日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピリ辛胡瓜 ・スープ餃子 ・油淋鶏 ・雑穀飯 ・ザーサイ ・杏仁豆腐 <p>※2班はミーティング、原価計算、栄養価計算</p>
第4週	<p>【事前学修】試作での課題を再認識する。食材や調理方法についての知識を深め、喫食者に説明ができるようにまとめる</p> <p>【事後学修】喫食者アンケート、調理内容、効率の視点などから実習を振り返り、グループでの課題と個人的課題の設定をする。</p> <p>2班 中華料理営業日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピリ辛胡瓜 ・スープ餃子 ・油淋鶏 ・雑穀飯 ・ザーサイ ・杏仁豆腐 <p>※1班はミーティング、原価計算、食材情報表の作成</p>
第5週	<p>【事前学修】試作での課題を再認識する。食材や調理方法についての知識を深め、喫食者に説明ができるようにまとめる</p> <p>【事後学修】喫食者アンケート、調理内容、効率の視点などから実習を振り返り、グループでの課題と個人的課題の設定をする。</p> <p>第6週、第7週 園児対象食育ランチ提供のための合同試作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーンポタージュ ・ハンバーグステーキ ・マッシュポテト ・人参 ・ブロッコリー ・さつまいも ・みかんゼリー ・パン <p>【事前学修】実習で使用する調理器具と使用方法を理解しておく。調理作業の流れをシミュレーションして計画をたてておく。</p> <p>【事後学修】試作で課題となったことをまとめる。苦手だと感じた調理作業を反復練習し、大量調理に備える。授業で学修したマナーについて自らも実践できるようにする。</p>
第6週	<p>園児対象食育ランチ提供</p> <p>「1班 料理提供」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーンポタージュ ・ハンバーグステーキ ・マッシュポテト ・人参 ・ブロッコリー ・さつまいも ・みかんゼリー ・パン <p>「2班」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原価計算、食材情報表の作成 ・食育「食事マナー」園児指導
第7週	<p>【事前学修】試作での課題を再認識する。食材や調理方法についての知識を深める。幼児期の食育課題についてを調べ、レポートにまとめる</p> <p>【事後学修】調理内容、効率の視点などから実習を振り返り、グループでの課題と個人的課題の設定をする。実際に園児と触れ合って学修したことをレポートにまとめる</p> <p>園児対象食育ランチ提供</p> <p>「2班 料理提供」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーンポタージュ ・ハンバーグステーキ ・マッシュポテト ・人参 ・ブロッコリー ・さつまいも ・みかんゼリー ・パン <p>「2班」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原価計算、食材情報表の作成 ・食育「食事マナー」園児指導
第8週	<p>大掃除</p> <p>【事前学修】厨房の衛生管理、調理器具の洗浄方法について学修しておく</p> <p>【事後学修】大掃除から学んだ方法を記録する。実習全体で学修したことを整理し、レポートにまとめる。</p>

講義科目名称： 看護学概論（H）

授業コード： 51206600

英文科目名称： Introduction to Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	2	1	選択
担当教員			
塩野 徳史			
開講曜限	授業形態		
月1	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p>
---------	--

科目の概要・目的	人が生きていくうえで「健康」や「病い」は重要なテーマであり、看護師は人々の健康や生活に深く関わる職業である。病院の中だけではなく、感染症のパンデミックや震災や豪雨などの災害時には地域の中で活躍する看護師が増えている。この講義では「看護」「人」「健康」「医療」をキーワードに時事問題を取り上げながら、看護活動を体験し、看護の考え方、とらえ方の一端を学ぶ。
学習到達目標	<p>1) 看護・人・健康について、定義や知り得た知識にもとづいて自分自身の考えを述べることができる。</p> <p>2) 医療・看護・健康をめぐる課題について関心を深め、自分自身の考えを述べるができる。</p> <p>3) 臨床の現場や看護の専門性の一端を、講義や演習を通して実感し、表現できる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>講義形式と演習形式を組み合わせで行います。講義の中でグループワークやディスカッションなどを取り入れます。積極的に参加してください。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>講義の中で、映像資料や動画資料を活用します。</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>第3回～第6回の講義では、実際のベッドや器具を使って、看護活動の一端を体験してもらおう予定です。物品は貸し出しますが、動きやすい服装で参加してください。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>毎回のミニレポートと最終レポート、課題制作により評価する。</p> <p>【割合】</p> <p>ミニレポート（70%）、最終レポート（20%）、課題制作（10%）</p>
教科書・テキスト	教科書はありません。必要時に資料を配布します。
参考書	志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明祐 編: ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論, メディカ出版. 茂野香おる, 他: 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論, 医学書院. 藤本真記子, 他: 看護がみえる vol.1 基礎看護技術, メディックメディア. 吉田みつこ, 本庄恵子: 写真でわかる臨床看護技術1 アドバンス, インターメディア.
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	社会現象に関心をもって、医療や看護に関する日々のニュースを見てきてください。五感を使い、様々な本を読み、その内容や感じたことを他の人に伝えようとする事は「看護」のみならず、職業人としての豊かな人間性につながっていくと思います。
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 講義、演習では主体的に考え、積極的に行動することで個人の体験や学びが蓄積されます。 講義演習の出席は「ミニレポート」で確認します。提出方法については初回講義で相談します。 講義中の携帯電話・スマートフォンなどは指示がある場合を除いて、原則、使用禁止とします。
オフィスアワー	塩野徳史：講義・会議のない月曜から木曜日、9時-16時の間であればいつでもお越しください。 場所：5号館 研究室102
課題に対するフィードバックの方法	質問は授業中に受け付けます。次の授業の最初にフィードバックを行い、意見交換ができるようにします。
実務経験	看護師
その他	臨床の現場では、看護師が最も多く、患者さんの身近にいる存在です。食事や栄養については管理栄養士さんと共同することもしばしばあります。この講義や演習を通して、看護や医療について、専門的な関心を持っていただけることを期待しています。
授業の内容	<p>第1回 健康ってどういうコトだろう</p> <p>【事前学修】「健康」について、気になるニュースや話題を調べ、自分の考えを整理する。</p> <p>【事後学修】講義を通して気づいたこと、感じたこと、考えたことを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し提出する。</p> <p>第2回 病をもつ人の「こころ」を理解する - 看護師のコミュニケーション -</p> <p>【事前学修】自分自身や周囲の人が病気を患ったとき、どのような気持ちになるのか、どのように接することができるのか考えてくる。</p>

	<p>【事後学修】講義を通して気づいたこと、感じたこと、考えたことを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し提出する。</p>
第3回	<p>「手」と「五感」を使って人の健康を探る *この講義では、聴診器や打診器、ペンライトを使って、学生同士で、看護師が日常的に行う脈拍測定や血圧測定、瞳孔の観察を行います。動きやすい服装で参加してください。</p> <p>【事後学修】講義を通して気づいたこと、感じたこと、考えたことを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し提出する。</p>
第4回	<p>臨床で役立つ看護テクニック① - ボディメカニクス - *この講義では、看護技術のひとつ、ボディメカニクスを活用して、ベッドから車椅子に安全に移乗する技術を実際に体験します。動きやすい服装で参加してください。</p> <p>【事後学修】講義を通して気づいたこと、感じたこと、考えたことを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し提出する。</p>
第5回	<p>臨床で役立つ看護テクニック② - 移送のポイント - 臨床で役立つ看護テクニック -移送のポイント- *この講義では、看護技術のひとつ、車椅子の移送やストレッチャーでの移送を安全に移乗する技術を実際に体験します。動きやすい服装で参加してください。</p> <p>【事後学修】講義を通して気づいたこと、感じたこと、考えたことを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し提出する。</p>
第6回	<p>見えない「モノ」と向き合う - 感染看護 - *この講義では、医療現場で行われている感染予防策を実際に体験します。動きやすい服装で参加してください。</p> <p>【事後学修】講義を通して気づいたこと、感じたこと、考えたことを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し提出する。</p>
第7回	<p>人や地域のヘルスプロモーションをすすめる - 地域看護 - 【事前学修】「健康行動」や「予防」、「検査」や「ワクチン」について、気になるニュースや話題を調べ、自分の考えを整理する。 【事後学修】講義を通して気づいたこと、感じたこと、考えたことを、自分自身の言葉でまとめ、所定の用紙に手書き（600字-1200字以内）で記述し提出する。テーマに沿って訴求力のあると思えるポスターを制作し、提出する。</p>
第8回	<p>看護ってなんだろう - 看護であるもの、看護でないもの - 【事前学修】「看護」について、気になるニュースや話題を調べ、自分の考えを整理する。 【事後学修】これまでの講義を通して気づいたこと、感じたこと、考えたことを、自分自身の言葉でまとめ、これからの学生生活にどのように活かしていくのか、所定の用紙に手書き（1000字-1200字以内）で記述し提出する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	0	選択
担当教員			
池上 益世、森本 雅子、高田 守康			
開講曜限	授業形態		
月5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	■健康栄養学科■ ■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。
---------	---

科目の概要・目的	臨地実習に向けての事前学習を行う。 臨地実習の意味を知り、実習のマナーを学ぶ。また提出書類の準備、課題の作成等を通じ、臨地実習を効果的に行う準備をする。 実習報告会を行う。
学習到達目標	臨地実習の意義を理解する。 実習受け入れ施設について理解する。 臨地実習で学ぶべき管理栄養士業務について理解する。 臨地実習での学びから管理栄養士としての知識と技術を習得する。
授業の方法	【アクティブラーニングの取り入れ状況】 特になし 【ICTを利用した双方向授業】 特になし 【その他特記事項】 特になし
成績評価の方法	【評価項目】 臨地実習Ⅰ・Ⅱも参照参照する 臨地実習Ⅲ：事前学習、病院実習先の評価、事後学習にて評価する。
教科書・テキスト	臨地実習Ⅰ・Ⅲ 臨地実習・校外実習ハンドブック (みらい) 臨地実習Ⅱ 公衆栄養学臨地実習レポートBOOK改訂3版 (南山堂)
参考書	臨地実習Ⅰ 栄養士必携 社団法人 日本栄養士会 (第一出版)
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	実習にかかわる内容について、該当する教科の復習を行う。
履修上の留意事項	臨地実習Ⅰ～Ⅲに必要な単位を修得していること
オフィスアワー	森本 月曜日昼休み 池上 火曜日昼休み 高田 事前にメールにて連絡し時間を調整し研究室を訪問すること。m-takada@osaka-aoyama.ac.jp
課題に対するフィードバックの方法	森本：レポート添削、課題添削など返却等も行う。 池上：必要時添削・返却等を行う。 高田：レポート及び課題を添削し返却等を行う。
実務経験	森本：病院・福祉・健康センター栄養士 池上：行政栄養士 高田：病院管理栄養士
その他	特になし
授業の内容	第1回 給食経営管理・公衆栄養学臨地実習合同オリエンテーション 対象：事業所・保健所実習者 担当：森本・池上 内容：主な実習先、今後の予定、実習のマナーなど 実習関係調査実施 【事前学修】 テキストの該当部分を熟読する。 【事後学修】 身だしなみについて自己チェックを行う。 第2回 臨地実習Ⅲ(病院実習)について 対象：病院実習者 担当：高田 内容：病院実習の心得え

第3回	<p>書類の書き方 【事前学修】テキストの該当部分を熟読する。 【事後学修】臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床栄養学実習の復習。 給食経営管理 ①</p> <p>対象：給食実習者 担当：森本</p> <p>内容：給食実習先について（病院，事業所，福祉）について説明。</p>
第4回	<p>実習関係調査配布 各事業所ファイルの説明。 【事前学修】各自、実習先の場所の特徴を学ぶ。 【事後学修】学んだ内容を発表する。 公衆栄養学実習事前指導① 対象：保健所実習者 担当：池上</p> <p>内容：実習マナー、実習ノートの使い方</p>
第5回	<p>【事前学修】保健所業務について調べておく。 【事後学修】指示された内容を確認し、実行できるようにする 給食経営管理 ② 対象：事業所実習者 担当：森本 内容：各事業所内容説明</p>
第6回	<p>【事前学修】事業所給食について、学ぶ。委託給食と受託側への連絡方法を説明する。 【事後学修】献立練習から修得されたことについて検討する。 名札用写真撮影 対象：保健所実習者 担当：森本・池上 内容：名札用写真撮影など</p> <p>注意：標準服着用</p>
第7回	<p>【事前学修】髪の色、服装等を整える。 【事後学修】実習に備えて必要な準備を整える。 給食経営管理実習③ 対象：福祉施設，病院施設実習者への説明 担当：森本 内容：病院，福祉施設 課題 内容説明</p>
第8回	<p>【事前学修】事業所の課題についての目標，施設の栄養や施設の取り組みについて各々について調べておく要点をつたえる。個人票の書き方の説明。 【事後学修】各施設について、課題について各班でグループワークする。 給食経営管理実習④衛生テスト 対象：事業所実習者 担当：森本 内容：各事業所 課題 内容説明</p>
第9回	<p>個人票下書き、個人票の修正を行う。班員一覧作成、役割分担 【事前学修】事前課題を中心に学習をしていく。 【事後学修】各班で、実習での学びを話し合う。 給食経営管理実習⑤衛生テスト 対象：事業所実習者 担当：森本 内容：各事業所 課題 各事業所への挨拶，注意点等，個人票の完成を行う。</p>
第10回	<p>【事前学修】事前課題を中心に学習をしていく。 【事後学修】各班で、実習での学びを話し合う。 公衆栄養学事前学習② 対象：保健所実習者 担当：池上</p> <p>内容：個人票下書き、班員一覧作成、役割分担</p>
第11回	<p>【事前学修】個人票の記入内容をあらかじめ確認する。 【事後学修】訂正を指示された部分については訂正し、清書する。 公衆栄養学事前学習③ 対象：保健所実習者 担当：池上</p> <p>内容：事前課題情報収集</p>

第12回	<p>【事前学修】 保健所の業務内容について調べておく。</p> <p>【事後学修】 不明な点は再度調べる。</p> <p>公衆栄養学事前学習④ 対象：保健所実習者 担当：池上</p> <p>内容：事前課題</p>
第13回	<p>【事前学修】 大阪府保健所の業務内容について調べておく。 高槻市班は課題が遂行できるように情報を収集する。</p> <p>【事後学修】 不明な点は再度調べる。</p> <p>給食経営管理実習⑥ 対象：事業者実習者 担当：森本</p> <p>内容：各事業所 課題取り組み, 挨拶訪問後、課題状況（各施設への送付） 各事業所への取り組み状況について確認。</p>
第14回	<p>【事前学修】 事業者の概要を教員と確認する。 【事後学修】 実習中に学びたいことを各班で検討する。</p> <p>公衆栄養学事前学習⑤ 対象：保健所実習者 担当：池上</p> <p>内容：事前課題</p>
第15回	<p>【事前学修】 大阪府保健所班は班ごとに課題を仕上げる。 高槻市班は、事前課題を検討する。</p> <p>【事後学修】 指摘を受けた個所は訂正する。</p> <p>公衆栄養学事前学習⑥ 臨地実習に向けて最終確認 対象：事業所・保健所実習者 担当：森本・池上</p> <p>内容：課題・持ち物確認 個人票の確認。各事業所の実習目的を確認する。</p>
臨地実習 I	<p>【事前学修】 持ち物、集合場所等でわからないことがないか確認する。</p> <p>【事後学修】 班ごとに、情報を共有する。</p> <p>給食経営管理実習⑦ 対象：事業所 担当：森本</p> <p>内容：課題 各事業所の重要項目について確認する。</p>
臨地実習 II	<p>【事前学修】 保健所ごとに指示された課題、必要書式、昼食代、交通費などを準備する</p> <p>【事後学修】 毎日、実習ノートを当日中に仕上げる。</p> <p>保健所実習（5日間） 保健所や保健センターに行き、行政栄養士業務を体験する。具体的な内容については実習先により異なる。</p>
臨地実習 I	<p>各事業所の終了後の事後指導 挨拶状の作成，課題提出後、振り返り、パワーポイント原稿を作成。</p>
実習報告会	<p>実習報告を行う。 実習内容を振り返り、パワーポイントにまとめて来場者に報告する。</p> <p>2H参加</p> <p>【事前学修】 班ごとに、パワーポイント、シナリオの準備を行う。</p> <p>【事後学修】 班ごとに反省会を行う。</p>

講義科目名称： コース特別活動 I

授業コード： 51207000

英文科目名称： Course Special Activities I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 通年（前期）	2	2（通年）	選択
担当教員			
池上益世、金子雅文、相羽洋子、榎原周平、太田誠、辰口和保、根来宗孝、野々木宏、水野雅史、渡辺敏明、黒川浩美、須谷和子、蜂須賀のぞみ、森本雅子、國末直宏、高木尚弘、高田守康、辻多重子、岩本和子、田岡晃子			
開講曜限	授業形態		
月1	演習		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■4-1 管理栄養士の責務を理解し、専門的関心を持ち続けることができる。</p>
--------	---

科目の概要・目的	管理栄養士の仕事は、多様性があり、進路は多様である。健康増進と疾病予防のプロとしての管理栄養士の仕事を理解するとともに、即戦力となり得るために、より専門的な学習を通して、専門性の高い管理栄養士を目指す。2年次後期から、自分の興味や適性に応じて、3コースに分かれて学する。そのため、それぞれの特化したコース（分野9において、どのような専門知識が必要とされているのか、またどのような実践力なスキルを学習するかなどを理解する。																
学習到達目標	現在社会で活躍している管理栄養士や実務者などとの交流を通して、それぞれに特化したコース（分野）の特色や専門性を正しく認識するとともに、これからの学習内容、習得できる資格や技術いよび将来性の仕事などについて理解することを目的とする。																
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 講義のみでなく、グループワーク、フィールドワークを行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>																
成績評価の方法	<p>【評価項目】【割合】</p> <p>前後期通年のため、後期に評価する。 評価としては活動への参加態度、演習と課題レポートを提出し評価する。</p>																
教科書・テキスト	特に使用しない。必要に応じてプリントする。各コースの共通分野では、教科書が指定あれば利用する。																
参考書	特になし																
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	フィールドワークや見学などについては、企業など先方の都合により、授業時間が変更になることがある。																
履修上の留意事項	【重要】本特別活動は管理栄養士およびその仕事の理解、卒業研究や就職選択に重要な科目のため、意欲を持って演習に励むこと。																
オフィスアワー	特に定めないが、事前に連絡をしてから訪問すること。																
課題に対するフィードバックの方法	森本雅子 研究室4-418 m-morimoto@osaka-aoyama.ac.jp																
実務経験	<table border="0"> <tr> <td>森本 雅子</td> <td>管理栄養士</td> <td>健康運動指導士</td> <td>介護支援専門員</td> </tr> <tr> <td>須谷 和子</td> <td>管理栄養士</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>黒川 裕美</td> <td>管理栄養士</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高木 尚紘</td> <td>管理栄養士</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	森本 雅子	管理栄養士	健康運動指導士	介護支援専門員	須谷 和子	管理栄養士			黒川 裕美	管理栄養士			高木 尚紘	管理栄養士		
森本 雅子	管理栄養士	健康運動指導士	介護支援専門員														
須谷 和子	管理栄養士																
黒川 裕美	管理栄養士																
高木 尚紘	管理栄養士																
その他	特になし																
授業の内容	<p>第一回 インTRODクシヨン：コース制について</p> <p>【事前学修】それぞれのコースについて、どんな内容が必要か、事前に調べておく。 【事後学修】コースの内容を把握し整理しておく。 コース制とは何か。コース制の必要性について解説するとともに、本学科で実施している4コース、つまり医療栄養コース、食育・栄養教育コース・フードマネジメントコース・スポーツ栄養コースについて、それぞれの特色を概説する。またコース特別活動は管理栄養士および幅広い仕事を理解するために不可欠であり、卒業研究担当者とコース担当教員について紹介する。</p> <p>第2回 医療栄養コースとは</p> <p>【事前学修】医療でどのような業務や知識が必要か事前学習する。 【事後学修】コースでの説明から、管理栄養士として学修する内容を整理する。 医療での管理栄養士の役割 医療栄養の知識を身に付け、今後の臨床栄養学を学ぶための準備していく。</p> <p>第3回 食育・栄養教育コース</p>																

第4回	<p>【事前学修】学校や地域で行われている食育の活動を調べる。 【事後学修】コースでの説明から、管理栄養士として学修する内容を整理する。 幼稚園、保育園、認定保育園での食育活動の様子, 食育実践のやり方や指導ツールの紹介 フードマネジメントコースとは</p>
第5回	<p>【事前学修】企業や食堂など、食を通して様々な研究や実践を学ぶ。 【事後学修】食の提案を企画するために、対象者のアセスメントなどを通じて、提案書を作ってみる。 各施設での管理栄養士の実務体験、オーダーリングシステム経験 1. 病院でのオーダーリングシステム 2. 福祉施設でのオーダーリングシステム 3. 事業所内でのオーダーリングシステム 4. 各施設でのフィールドワークについて 食品製造過程について 健康スポーツ栄養コースについてのガイダンス</p>
第6回	<p>【事前学修】スポーツ栄養（スポーツ栄養士の業務等）に関する情報を調べておく 【事後学修】健康スポーツ栄養コースで学びたい内容を検討する</p> <p>食事と運動の両面から健康を学びます。 1. 幅広い世代を対象に、健康づくりを目的とした食事と運動に関する知識と技術を学びます 2. スポーツをする人に対して実践的な栄養・食事指導ができるように学びます 3. 公認スポーツ栄養士をはじめ、スポーツ現場で活躍する方の講演を開催します 4. スポーツイベントでの出店計画をおこないます それぞれのコースでの活動内容（健康栄養学科のコース担当の説明）</p>
第7回	<p>【事前学修】コースの先生についての研究内容を学習する。 【事後学修】専門分野での先生方の研究を整理しておく。 それぞれのコースでの活動内容（健康栄養学科のコース担当の説明）</p>
第8回	<p>【事前学修】それぞれのコースの先生についての研究内容を学習する。 【事後学修】専門分野での先生方の研究を整理しておく。 それぞれのコースでの活動内容（健康栄養学科のコース担当の説明）</p> <p>【事前学修】それぞれのコースの先生についての研究内容を学習する。 【事後学修】専門分野での先生方の研究を整理しておく。</p>

講義科目名称： コース特別活動Ⅱ

授業コード： 51207100

英文科目名称： Course Special Activities II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
黒川 浩美、須谷 和子、森本 雅子、高木 尚絃 他			
開講曜限	授業形態		
水1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	■健康栄養学科■		
科目の概要・目的	食と健康に関する実践的な活動を行い、医療現場や食品開発、教育・福祉施設、スポーツ関連施設などで活躍できる専門性の高い管理栄養士になるための知識とスキルを修得する。		
学習到達目標	※各コース別シラバス参照		
授業の方法	※各コース別シラバス参照		
成績評価の方法	※各コース別シラバス参照		
教科書・テキスト	医療栄養コース：授業中に適宜資料を配布する。 食育・栄養教育コース：栄養教育論、応用栄養学で使用したテキスト フードマネジメントコース：建帛社 食品加工学実習テキスト 健康スポーツ栄養コース：なし		
参考書	医療栄養コース：必要に応じて指示する。 食育・栄養教育コース：臨床栄養、基礎栄養、生化学、解剖学、応用栄養学の教科書など フードマネジメントコース：なし 健康スポーツ栄養コース：運動生理学、スポーツ栄養に関する書籍全般		
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	医療栄養コース： シラバスにある講義内容に連携した内容について事前学習を行ない、自らの意見を持って出席すること。 食育・栄養教育コース： 【事前学修】他大学の学生食堂ではどのような掲示物があるか調べられる範囲で調べる。 【事後学修】グループワーク後は必ず振り返りを行い、作業計画や役割分担を決めて準備する。 フードマネジメントコース： 工場での見学、フィールドワークなど修める学生については、実習先の担当者とあらかじめアポイントと実習内容報告書を提出して、コース特別活動をして実施したこととみなす。 健康スポーツ栄養コース： 各回の内容を確認し、グループワークや資料作成を丁寧に行うこと。 授業時間外に外部のスポーツチームへの訪問等では積極性をもって参加すること。		
履修上の留意事項	医療栄養コース： 課題は提出期限内に必ず提出すること。グループワーク・課題の取り組み・発表には積極的に参加すること。 食育・栄養教育コース： グループに分かれて活動するため、お互い連携をとりあうこと。 フードマネジメントコース： 本特別活動は、管理栄養士および仕事の理解、卒業研究や就職の選択に不可欠であるため、演習を通じて、実践力をつける。 健康スポーツ栄養コース： 各回の内容を確認し、グループワークや資料作成を丁寧に行うこと。 授業時間外に外部のスポーツチームへの訪問等では積極性をもって参加すること。		
オフィスアワー	※各コース別シラバス参照		
課題に対するフィードバックの方法	※各コース別シラバス参照		
実務経験	森本 雅子 管理栄養士 健康運動指導士 介護支援専門員 須谷 和子 管理栄養士 黒川 裕美 管理栄養士 高木 尚絃 管理栄養士		
その他	特になし		
授業の内容	※授業内容は各コース別のシラバスを参照		

講義科目名称： コース特別活動Ⅱ (健康スポーツ栄養)

授業コード：

英文科目名称： Course Special Activities II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
高木 尚紘			
開講曜限	授業形態		
水1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	健康スポーツに関する基本的な知識や理論を生かし、様々な対象者に対する栄養教育で、どのような指導ができるかを考え、理解できるようになることを目的とする。学生同士、および教員とのディスカッションを行い、スポーツ栄養の現場における栄養教育に関する技術を養う。
----------	--

学習到達目標	スポーツを行う子どもから高齢者まで幅広い対象者に対して、スポーツ栄養に関する知識を生かした栄養教育が実施できるようになる。グループワーク等を通じて、コミュニケーション能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を向上させる。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>グループディスカッション、プレゼンテーションを行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>状況に応じてオンラインでの講義を実施することがある</p> <p>【その他特記事項】</p> <p>特記事項無し</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>グループワークへの参加態度、プレゼンテーション</p> <p>【割合】</p> <p>グループワークへの参加態度：40%</p> <p>プレゼンテーション：60%</p>
---------	--

教科書・テキスト	なし
----------	----

参考書	運動生理学、スポーツ栄養に関する書籍全般
-----	----------------------

授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	各回の内容を確認し、グループワークや資料作成を丁寧に行うこと。 授業時間外に外部のスポーツチームへの訪問等では積極性をもって参加すること。
---------------------------	--

履修上の留意事項	授業には積極性と自主性を持って参加すること。
----------	------------------------

オフィスアワー	月曜日 4限
---------	--------

課題に対するフィードバックの方法	自己評価、他者評価を実施する。
------------------	-----------------

実務経験	管理栄養士
------	-------

その他	特記事項無し
-----	--------

授業の内容	<p>第1回 オリエンテーションおよびコース変更調整 ・スケジュール等 健康スポーツ実施に関する諸問題について意見交換 【事前学修】 スポーツ栄養を取り巻く課題について調べておく 【事後学修】 次回に向け、各グループで意見をまとめておく</p> <p>第2回 外部講師の講演 聴講前準備 【内容】 外部講師への質問の検討 【事前学修】 公認スポーツ栄養士の仕事内容について調べておく 【事後学修】 質問項目を提出する</p> <p>第3回 外部講師の講演 【内容】 外部講師の講演を聴講する 【事前学修】 当日の質問項目をまとめておく 【事後学修】 聴講した感想を提出する</p> <p>第4回 外部講師の講演 ディスカッション 【内容】 外部講師とフリーディスカッション 【事前学修】 スポーツ栄養士の業務内容等興味のある事柄をまとめておく 【事後学修】 ディスカッションの振り返りをおこなう</p> <p>第5回 スポーツイベントにおける催しについて検討① 【内容】 スポーツイベント出展に向けた内容の検討 【事前学修】 スポーツイベントで行われている催し、取り組みについて調べておく 【事後学修】 コース活動で実践可能な内容の精査をおこなう</p>
-------	---

<p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p>	<p>スポーツイベントにおける催しについて検討②</p> <p>【内容】スポーツイベント出展に向けた内容の検討、デモ</p> <p>【事前学修】実際の動きを想定してデモンストレーションをおこなうために実施計画を考えておく</p> <p>【事後学修】デモ後の改善点、反省点の検討</p> <p>スポーツイベントにおける催しについて検討③</p> <p>【内容】改善点を踏まえた準備</p> <p>【事前学修】出店に向けた調整をおこなっておく</p> <p>【事後学修】当日に向けた準備をおこなう</p> <p>スポーツイベント出展</p> <p>【内容】イベント会場にて実際にスポーツコースならではの催しを実施する</p> <p>【事前学修】当時に向けた体調管理をおこなう</p> <p>【事後学修】出店後の反省点、改善点、感想を提出する。</p>
----------------------------------	---

講義科目名称： コース特別活動Ⅱ(医療栄養コース)

授業コード：

英文科目名称： Course Special Activities II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
黒川 浩美、高田 守康、横田 香世、辻 多重子			
開講曜限	授業形態		
水1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■3-2 多様な職種の人と協力し、チーム医療などにも参画することができる。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	このコースでは、管理栄養士として健康増進と疾病予防に貢献するために必要な、形式的な知識と実践的なスキルの両方を習得することを目指します。学生は、最新の医療栄養学の理論を学び、それを実際の臨床や地域健康推進の場で活用できる能力を養います。
学習到達目標	形式的な知識の習得：栄養学の基本から最新の研究まで、幅広い知識を学びます。この知識は、管理栄養士としての専門性を深める基盤となります。 実践的なスキルの獲得：病院や地域での栄養ケア計画の立案、実施、評価など、実際の現場で必要とされるスキルを習得します。 このコースを通じて、専門的な学習と実践を経験し、即戦力として活躍できる管理栄養士を目指します。
授業の方法	<p>本科目では、アクティブラーニングの手法と伝統的な講義形式を組み合わせています</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回・第4回：症例患者の栄養ケア計画に関するカンファレンスを行い、具体的な症例をもとにした深い理解と実践的な知識を培います。 ・第5回・第6回：病院でのチーム医療ミーティング（例：NST）の見学を通じて、実際の医療現場での多職種連携の重要性を学びます。 ・第8回：これまでの学修内容と達成した成果について発表し、学びの振り返りと相互評価の機会を提供します。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、状況に応じてオンラインまたはオンデマンド形式で実施します。この柔軟なアプローチにより、どこからでも学習に参加し、進めることができます。 <p>【その他特記事項】</p> <p>特になし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 【割合】</p> <p>積極的授業参加態度（60%）：授業への積極的な参加、ディスカッションへの貢献、グループワークへの積極的な関与など、授業内での活動態度を重視して評価します。</p> <p>レポート課題（40%）：指定されたテーマに対する理解と分析を示すレポートの質を基に評価します。</p>
教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配付する
参考書	臨床栄養、基礎栄養、生化学、解剖学、応用栄養学の教科書など
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	シラバスに記載された講義内容を事前に学習し、授業には自分の意見を持って参加してください。これにより、授業の理解が深まり、より充実したディスカッションが可能になります。
履修上の留意事項	<p>フィールドワーク・見学の注意事項</p> <p>フィールドワークや見学では、授業時間が通常の時間割から変更になる場合があります。変更がある場合は事前に連絡いたしますので、ご注意ください。これらの活動は、実際の現場を体験し、学んだ知識を深める絶好の機会です。予定に変更があっても、柔軟に対応し、積極的に参加していただくことで、貴重な経験と学びを得ることができます。</p>
オフィスアワー	水～金曜日 12:15～12:50
課題に対するフィードバックの方法	Active Portalにて連絡する
実務経験	管理栄養士
その他	外部講師、企業など他コース合同企画を実施する場合もある
授業の内容	<p>第1回 概要説明 コース変更希望調査 オリエンテーション 医療栄養コースでの科目の概要、授業目的、授業スケジュールの説明</p> <p>【事前学修】 コースの内容を理解しておく</p>

	<p>【事後学修】希望コースを確定しておく</p> <p>担当 黒川浩美</p>
第2回	<p>症例検討 症例を基にアセスメントを作成する</p> <p>【事前学修】実症例のアセスメントを理解しておく 【事後学修】具体的問題をまとめておく</p> <p>担当 高田守康 辻多重子</p>
第3回	<p>アセスメント作成 症例を基に看護学科とプレカンファレンス実践内容についてプレゼン</p> <p>【事前学修】カンファレンス準備 【事後学修】カンファレンス内容をまとめておく</p>
第4回	<p>担当 横田香世 高田守康 黒川浩美 辻多重子</p> <p>チーム医療について 管理栄養士の目線から 看護学科との合同授業を終えて、管理栄養士の目線から考える 看護との合同授業を終えて、まとめ チーム医療について 多職種とのコミュニケーションについて考える 問題点明確化・多職種での対応策について考える</p> <p>【事前学修】合同授業での理解を深めておく 【事後学修】配布資料で復習を行う</p>
第5回	<p>担当 高田守康 黒川浩美 辻多重子</p> <p>チーム医療カンファレンス見学会の実施 臨床現場での栄養管理のプロセスを直接観察し、教室での学習との橋渡しを促進。 【事前学修】チーム医療について考えをまとめておく 【事後学修】資配布資料で復習を行う</p>
第6回	<p>担当 黒川浩美 高田守康 辻多重子</p> <p>チーム医療カンファレンス見学会の実施 ・多職種連携の重要性やチームでの協働を理解し、将来的に求められるスキルの獲得を目指す。 チーム医療、多職種とのコミュニケーションについて考える 問題点明確化・多職種での対応策について考える</p> <p>【事前学修】多職種協働することの理解と難しさについてまとめておく 【事後学修】グループディスカッション内容をまとめておく</p>
第7回	<p>担当 黒川浩美 高田守康 辻多重子</p> <p>チーム医療における連携・協働及び相互支援の必要性を説明できる チーム医療論 看護学科合同授業、チーム医療カンファレンス見学会のまとめ</p> <p>看護学科との合同授業、多職種の講義を終えて、グループディスカッションを実施。 問題点明確化・多職種での対応策について考える</p> <p>【事前学修】多職種協働することの理解と難しさについてまとめておく 【事後学修】グループディスカッション内容をまとめておく</p>
第8回	<p>担当 黒川浩美 高田守康 辻多重子</p> <p>チーム医療における連携・協働及び相互支援の必要性を理解する 看護学科との合同授業、チーム医療カンファレンス見学会での多職種連携について学修した内容についてプレゼンを作成する 学修内容、効果、達成できたことなどを発表する</p> <p>【事前学修】発表の練習を行なう 【事後学修】この科目を通して自身が身に付けたことを確認しておく</p> <p>担当 黒川浩美 高田守康 辻多重子</p>

講義科目名称： コース特別活動Ⅱ（フードマネジメントコース） 授業コード：

英文科目名称： Course Special Activities II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
森本 雅子、渡邊 敏明、金子 雅文、榎原 周平、水野 雅史、岩本 和子、田岡 晃子			
開講曜限	授業形態		
水1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-4 人間と食べ物の関わり（歴史的変遷、食物連鎖を含む）や食品の各種成分を理解し、加工・調理の方法、衛生管理の方法を理解し修得している。</p> <p>■2-3 地域や職域等の健康栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析評価し、適切な栄養関連サービスの提供とマネジメントに必要な知識と技術を修得している。</p>
---------	---

科目の概要・目的	食品のコンセプト、パッケージのデザイン、ネーミング、宣伝・広告、店舗デザインなど実践的な課題に取り組む授業を展開したり、常に食に対する興味を追求します。
----------	--

学習到達目標	フードサービスの世界に知的興味と関心がもてるように、幾つかの手掛かりを学習します。フードサービスには、日常的な食を担うレストラン業もあれば、非日常の宴席・パーティ、健康維持やアスリート対応といった目的食の提供もあります。フードサービスビジネスの観察と分析法を身につけたいと思います。自分で一つのビジネスモデルを構築するとともに、多様なフードサービスビジネスの観察を通して、斯界への関心を磨きます。自分の企てたビジネスモデルを現実の社会の中に置いて、その実現性、有効性を検証してみたいと思います。講義科目、演習、インターンシップなどを活用して、第一線の企業人と交流し学習する機会も増えていきます。2年から取り組んできた演習論文の仕上げと、パワーポイントによるプレゼンテーションの完成度を高めます。論文では、論点の理路整然性、説得力が、プレゼンテーションでは、画面構成の巧みさ、人を引き付ける話法が伴っているかが問われます。このことを目的に進めていきたいと考えております。
--------	--

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 講義のみではなく、グループワーク、フィールドワーク</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点 実践時の参加態度</p> <p>【割合】 平常点 60% 実践時の参加態度 40%</p>
---------	---

教科書・テキスト	建帛社 食品加工学実習テキスト
----------	-----------------

参考書	なし
-----	----

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	工場での見学、フィールドワークなど修める学生については実習先の担当者とあらかじめアポイントをとり、実習内容報告書を提出する。
---------------------------	--

履修上の留意事項	本特別活動は、管理栄養士および仕事の理解、卒業研究や就職の選択に不可欠であるため、演習を通じて、実践力をつける。
----------	--

オフィスアワー	特に定めませんが、事前に連絡をしてから訪問すること。
---------	----------------------------

課題に対するフィードバックの方法	メール：m-morimoto@osaka-aoyama.ac.jp
------------------	-----------------------------------

実務経験	管理栄養士
------	-------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 概要説明 コース変更調整 【事前学修】2年の後期で考案して内容を再度調整する。 【事後学修】コンテスト案をやってみよう！</p> <p>第2回 テーマ別 グループワーク・テーマ別 グループワーク 試作原案 【事前学修】コンテスト内容の把握 作業工程の作成 【事後学修】グループワーク、実施調理実習と併用 食品加工を実施 製品化案をつくる</p> <p>第3回 テーマ別 グループワーク 試作原案◎いちごドレッシング案（1～3）</p>
-------	--

第4回	<p>【事前学修】実施調理実習と併用 食品加工を実施する(いちごジャム)製造過程 実習要点:仕上げの判断基準の説明 糖度計の確認調理学</p> <p>【事後学修】製品化にするためにはどのようにするかグループワークする。 テーマ別グループワーク いちごドレッシングとパンづくりをしよう!</p>
第5回	<p>【事前学修】実施調理実習と併用 食品加工を実施する(パン)製造過程 【事後学修】製品化にするためにはどのようにするかグループワークする。 外部講師(スポーツ栄養コースと共同)</p>
第6回	<p>【事前学修】アスリートに必要な栄養への取り組みと食品開発(案) 【事後学修】普段の食生活にどのように献立に盛り込むかを検討と考案を検討する。 テーマ別グループワーク アスリートへの食事提供</p>
第7回	<p>【事前学修】実施調理実習と併用 アスリートに対しての食事を検討して、食事提供を学ぶ。 仕上げの判断基準と提供法やフリージングを学ぶ。 【事後学修】:アスリートへの食事提供方法を学び、食品の取り扱いを学ぶ。 演習・実習 食品加工学(パンづくり)作業工程を考案。</p>
第8回	<p>【事前学修】実施調理実習と併用 食品加工とパン作りとくに発酵を理解し製造過程を知る。 【事後学修】実習要点をまとめ、当日製品化に向けて、衛生管理を中心に製造と包装を学ぶ。 提供実施 会場でのパン製造と飲み物を対にし、提供を実施する。 【事前学修】実施調理実習と併用 食事の提供を実施する。 【事後学修】実習要点をまとめ、提供までの過程を発表をし、今後新商品へつなげる。 食事提供レポートを作成する。</p>

講義科目名称： コース特別活動Ⅱ（食育・栄養教育コース）

授業コード：

英文科目名称： Course Special Activities II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	選択
担当教員			
須谷 和子、池上 益代、蜂須賀 のぞみ			
開講曜限	授業形態		
水1	演習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-5 専門分野を横断し栄養評価や管理を実践する総合的能力を有している。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	コース特別活動Ⅰ、関連する授業で学んだ知識を活かし、幼児期から高齢期にいたるまで幅広い対象者を想定し各々のライフステージに見合った食育・栄養教育とは何かを考え理解できるようになることを目的とする。時候・季節に合わせた「食と健康ひとことメモ」「旬の食材を使った美味しいメニュー」など本学学生、教職員向けの掲示物を作成する。
----------	--

学習到達目標	本学学生・教職員に向けた栄養・食事指導ツールを完成させること。また、それらをオープンキャンパスや地域活動（健康フェアなど）向けにアレンジして掲示できるよう展開させること。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 グループワーク（履修する学生の人数によっては個人ワークになる）</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 特になし</p>
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点（グループ活動状況、ツールの完成度） 実践時の参加態度</p> <p>【割合】 平常点（グループ活動状況、ツールの完成度）：60% 実践時の参加態度：40%</p>
---------	---

教科書・テキスト	栄養教育論、応用栄養学で使用したテキスト
----------	----------------------

参考書	必要に応じて指示する。
-----	-------------

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>【事前学修】他大学の学生食堂ではどのような掲示物があるか調べられる範囲で調べる。</p> <p>【事後学修】グループワーク後は必ず振り返りを行い、作業計画や役割分担を決めて準備する。</p>
---------------------------	--

履修上の留意事項	グループに分かれて活動するため、お互い連携をとりあうこと。
----------	-------------------------------

オフィスアワー	金曜日 1限目（須谷）
---------	-------------

課題に対するフィードバックの方法	自己評価、他者評価をおこなう。（オープンキャンパスでの説明や展示も含む）
------------------	--------------------------------------

実務経験	管理栄養士
------	-------

その他	特になし
-----	------

授業の内容	<p>第1回 概要説明 どのような内容にするか説明と意見調整 【事前学修】食に関して話題になってる事柄を調べておく 【事後学修】第2回のテーマ選定につながるように意見をまとめておく</p> <p>第2回 テーマ選定 作成する内容を精査し、適したテーマを選定する 【事前学修】第1回でまとめた意見を発表できるようにしておく 【事後学修】グループワークできるような資料準備をしておく</p> <p>第3回 グループワーク① 選定したテーマについて、調査・研究 【事前学修】必要な資料の準備と整理 【事後学修】次回のグループワークに向けて準備しておく</p> <p>第4回 グループワーク② 第3回の内容の続き 【事前学修】グループワーク①で出た意見集約 【事後学修】栄養指導ツールの案を作り、第5回で説明できるようにしておく</p>
-------	--

第5回	<p>進捗状況確認 I</p> <p>グループごとに進捗状況を報告する</p> <p>【事前学修】意見交換できるように準備する</p> <p>【事後学修】修正点などがいないか、さらにわかりやすいツールにするにはどうしたらよいかグループで意見をまとめる</p>
第6回	<p>グループワーク③</p> <p>第5回で整理した点の確認、修正点があればさらに検証する</p> <p>【事前学修】発表形態も含めて内容の質や量が適切かどうか確認する</p> <p>【事後学修】第7回で発表練習できるように仕上げを目指す</p>
第7回	<p>グループワーク④</p> <p>ツールの完成、発表練習をおこなう</p> <p>【事前学修】発表に向けての最終調整しておく</p> <p>【事後学修】発表準備</p>
第8回	<p>まとめ</p> <p>グループとに発表する</p>

講義科目名称： 学校栄養教育概論

授業コード： 51800600

英文科目名称： Introduction to School Nutritional Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
蜂須賀 のぞみ			
開講曜限	授業形態		
火5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>本科目は、「栄養教諭」免許取得のための科目である。</p> <p>栄養教諭は、小・中学校等において「学校給食の管理」と「食に関する指導」を一体的に展開して、児童・生徒が望ましい食習慣を形成し、生涯を通して健全な生活を送るよう支援する職務である。</p> <p>この科目では、栄養教諭の果たすべき役割や教育的な意義、栄養教諭創設の背景、及び学校給食の歴史、学校給食の管理、栄養・衛生管理、および地場産物を活用した郷土料理、子どもの食行動の実態を考慮した食事内容などについて理解する。また、給食の時間の運営や給食の献立と関連させた食に関する指導の方法を体得する。</p>
学習到達目標	<p>①栄養教諭の使命、職務内容、「食に関する指導の目標」等を理解する。</p> <p>②食教育に相応しい学校給食の食事内容〔地場産物、郷土料理等〕を理解し、献立作成ができる。</p> <p>③給食の時間の指導方法を理解して学習指導案を作成し、模擬授業を実践することができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを随時取り入れる。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式を主とし、給食時間における指導の演習等も行う。
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>定期試験（筆記）、模擬授業、授業中課題、授業参加意欲・態度</p> <p>【割合】</p> <p>定期試験（筆記）70% 模擬授業10% 授業中課題10% 授業参加意欲・態度10%</p>
教科書・テキスト	<p>栄養教諭論 ―理論と実践― 建帛社</p>
参考書	<p>食に関する指導の手引き</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>①学校給食の特性について理解に努め、プリントやノートを整理する。</p> <p>②給食の時間の学習指導案を作成し、模擬授業発表のための教材作りや演習準備に取り組む。</p>
履修上の留意事項	<p>小・中学校において、食に関する指導を行う教育者「栄養教諭」を目指していること。</p> <p>次年度、教育現場において、栄養教諭としての教育実習を行うこと。</p>
オフィスアワー	<p>4-406研究室（在室時間帯は研究室扉に掲示しています）</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出された課題等については、講義の中で共有し改善する。</p>
実務経験	<p>管理栄養士 学校栄養職員 栄養教諭</p>
その他	<p>授業時間数に制限があるため、期日までに学習指導案作成、教材作りなど演習の準備を行うこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 科目到達目標、授業の進め方や受講者の留意点等や栄養教諭の全体像を解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p> <p>第2回 子どもの食生活の現状把握 子どもの発達と食生活の現状を説明し、食に関する指導の必要性を考えさせる。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p> <p>第3回 栄養教諭制度 栄養教諭創設の背景、学校組織における栄養教諭の位置づけ、果たすべき役割を解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>

第4回	<p>栄養教諭の職務内容 学校給食の管理と食に関する指導の目標および指導展開の方法を解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第5回	<p>学校給食の歴史と変遷 学校給食の歴史、学校給食が果たしてきた役割、教育的な意義と食の変遷を解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第6回	<p>日本の食文化－Ⅰ 食文化形成の要因および食文化の変遷、和食の特徴、年中行事（季節暦）の行事食等を解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第7回	<p>日本の食文化－Ⅱ 地域の産物を活用した郷土料理と学校給食を関連付けて解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】郷土料理と関連した学校給食について調べる。 教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第8回	<p>学校給食の食事内容 文部科学省通達食事内容を解説し、行事食や地場産物を活用した献立の作成をする。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】行事食や地場産物を活用した献立の作成をする。 教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第9回	<p>学校給食の衛生管理 文部科学省通達の衛生管理を解説し、その在り方を考えさせる。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第10回	<p>食に関する指導全体計画 小学校における教育活動全体計画と指導計画、給食の時間の指導の特徴を解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第11回	<p>給食の時間の指導① 給食の時間における指導の進め方、指導の実際の事例を用いて解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第12回	<p>給食の時間の指導② 給食の時間の指導の学習指導案作成方法を解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】給食の時間の食に関する指導について、指導案を作成する。 教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第13回	<p>給食の時間の模擬授業① 学習指導案を基に模擬授業方式で個別発表をさせる。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第14回	<p>給食の時間の模擬授業② 学習指導案を基に模擬授業方式で個別発表をさせる。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
第15回	<p>個別栄養相談指導 科目のまとめ 個別栄養相談指導の特徴および指導の方法、食物アレルギー児童の対応を解説する。 【事前学修】教科書の関連箇所を事前に熟読し、理解しておくこと 【事後学修】教科書、授業プリントを復習し理解しておくこと</p>
定期試験	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
田岡 昌大			
開講曜日	授業形態		
金5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>本講義の目的は、大きく2つある。</p> <p>1点目は、教育に関する理論的・歴史的な基礎知識の習得と、それを応用して教育について考える基礎的な力量の獲得である。本講義を通じて、学校教育を意識しながらも、教育について幅広く考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>2点目は、本講義が栄養教諭養成課程の科目であることにかんがみ、本講義の内容を踏まえて「食育」について考える力量の獲得である。「食育」もまた教育の一つであるため、本講義の知見を援用して「食育」「教育」のそれぞれを批判的に考える力量の形成を目的とする。</p> <p>以上の2つの目的のため、講義の内容としては、前者の教育学に関わる内容と後者の「食育」の批判的検討を含む。ただし、講義としては教育原理としての内容が主である。「食育」については、講義内容を応用して考察するのみである。</p>
----------	--

学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育および教育学についての基礎的な知識、思考法を獲得する。 2. 自身の教育観・子ども観・社会観を豊かにし、表現する。 3. 講義にて得た知見を用いて、応用的に思考し、表現する。 4. 講義にて得た知見を用いて、食育について思考し、表現する。
--------	---

授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定した課題に取り組んだうえで講義を受講する。 ・講義の中では、ディスカッションなどを行う。 ・毎回講義に関するリアクションペーパーへの記入を課す。 <p>その内容は次回の講義にて紹介すると共に、レスポンスを行う。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・teamsを利用し、講義外での質疑応答の機会を設ける。 ・teamsを利用し、講義資料の配布や補足資料等を配信する。 ・formsを利用し、宿題などの提出を行う。 <p>使用方法については、講義内にて説明する。</p> <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の人数に応じて、授業計画や授業方法を変更することがある。
-------	--

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題 ・定期試験（レポート） <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題など（40%） ・定期試験（レポート）（60%） <p>※ 期末試験の実施形態は変更の可能性がある。これについては授業内にて指示する。</p>
---------	--

教科書・テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・今井康雄編（2009）『教育思想史』有斐閣 ・古屋恵太（2017）『教師のための教育学シリーズ2 教育の哲学・歴史』学文社 ・井藤元編2015『ワークで学ぶ 教育学』ナカニシヤ出版 ・木村元・汐見稔幸編『アクティベート教育学① 教育原理』ミネルヴァ書房 <p>この他、必要に応じて講義内で指示する。</p>
-----	---

授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り平易に講義を行うが、場合によっては、ただ「聴く」だけでは内容を完全に理解することは難しい。 ・必要な学修を自身で補って受講すること。 ・授業で扱う論点やトピックについて、友人同士で議論したり、自分で調べるなどして、思考を深められるように準備することが望ましい。
---------------------------	--

履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・受講人数が少ないことが予想されるため、応答的な形で授業を実施する可能性が高い。 ・受講人数が少ないことから、授業内課題への取り組みが不十分だと授業に支障が生じる。
----------	---

	事前課題などには欠かさず取り組むこと。	
オフィスアワー	・金曜3限	
課題に対するフィードバックの方法	・講義内で必要に応じてレスポンスを行う。	
実務経験	特になし	
その他		
授業の内容	第1回	<p>ガイダンス／「教育」とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の概要その他、「教育原理」を学ぶ意義を学ぶ。 ・「教育」という言葉、カテゴリーについて。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを事前に読み、本講義の目的や内容について把握しておくこと。 ・「なぜ教育は必要なのか？」という問いについて、自分なりに考えておくこと。 ・また、講義内で他者に説明できる程度に整理しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
	第2回	<p>「食べる」から教育と人間形成を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食べる」の経験「こども食堂」から、人間形成を考える。 ・「食べる」と「社会」の関係を考える <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こども食堂」について調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
	第3回	<p>教育の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生児（アマラとカマラ）の事例について ・事例を踏まえて、「食育」の必要性について再検討する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生児（アマラとカマラ）について、事前に調べておくこと。 ・他の講義で学んでいる場合は、その内容を復習しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
	第4回	<p>教育の目的について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法について ・日本国憲法と教育基本法の関係について。 ・食育基本法について <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法で学んだ内容を復習しておくこと。 ・教育基本法について、一通り目を通しておくこと。 ・食育基本法について、復習しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
	第5回	<p>教育と格差について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育格差の実態とメカニズムについて。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育格差」について調べておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
	第6回	<p>公教育制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公教育制度とは何で、どのような意義があるのか。 ・教育を受ける権利について。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公教育制度、教育を受ける権利について調べておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示したテキストを読む。
	第7回	<p>教育と学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力」について。 ・「学力」と資質能力について。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学力」とは何かについて、調べてまとめておくこと。 ・現代に求められる「学力」について調べておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示したテキストを読む。

第8回	<p>教育と発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育と学ぶことの関係について。 ・教育と「発達」の関係について <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発達」について他の講義で学んだ内容を復習しておくこと。 ・特にピアジェ、ヴィゴツキーについては復習しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 ・講義で指示をしたテキストを読む。
第9回	<p>中間まとめ／「食べる」から教育を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの内容を振り返ってまとめる。 ・文献に基づきながら「食べる」を考えることによって教育を多面的多角的に考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定された文献を読んで、まとめておく。 ・授業内にて討議を行うため、準備しておく。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討議の内容を振り返って、論点を整理しておく。
第10回	<p>学校の成り立ちと展開（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、なぜ必要なのかについて。 ・近代社会と学校について。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の学校の経験を思い返し、学校／教室を成り立たせていた仕組みについて考えておくこと。 ・分からない場合は、自身で調べておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
第11回	<p>学校の成り立ちと展開（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における学校教育制度の誕生と展開について ・学校の歴史を踏まえて「食」について <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史に関する内容を含むため、特に近代化に関わる歴史について予備的に復習しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
第12回	<p>教育思想（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にコメニウスとルソーの教育思想を通して「子ども」について検討する。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上にあげた人物の教育思想について、事前に調べておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
第13回	<p>教育思想（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルソー、デューイの教育思想から、「食」と教育の関係を考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デューイについて、事前に調べておくこと。 ・事前に指定した資料を読んでおくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。 ・本講義回以降、補足資料を配布する。 ・講義の中ではそのすべてに触れることはできないため、自身で読んでおくこと。
第14回	<p>教育思想（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで触れた教育思想を踏まえながら、現代の教育について考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12～第13回の内容を復習しておくこと。 ・現代の教育について、自身の関心のある事象を調べ、論点を考えておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
第15回	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15回の内容を振り返ると共に、改めて教育と「食育」について考える。 <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義全体のまとめであるため、全体の流れと一貫して検討してきた論点について再度見直しておくこと。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時に課題を課す。
定期試験	

講義科目名称： 教育方法・技術論(H)

授業コード： 51801100

英文科目名称： Theory of Educational Method & Technigue

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	2	選択
担当教員			
辰口 和保、山田 綾			
開講曜限	授業形態		
月5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。(人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む)</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法(行動科学、カウンセリングを含む)を修得している。</p>
科目の概要・目的	<p>今日求められる授業のあり方を、授業の現状や自分自身の経験などをもとに考え、子どもたち全員にとって学びがよいある授業づくりの方法・技術を身につける。それをもとにして授業指導案を構想する。(山田担当)</p> <p>また、授業におけるメディア利用とプレゼンテーションを取り上げ、情報技術を利用した教育の方法について学び、実際に教育コンテンツを作成することで教育に必要な情報技術を修得する。また、教育と著作権の関係について、およびe-Learning の実効性を高めるための「インストラクショナルデザイン」についても取り上げる。(辰口担当)</p>
学習到達目標	<p>(山田担当)</p> <p>今日の授業づくりの課題を理解する。 子どもたち全員にとって学びがよいある授業づくりの方法・技術を身につける。</p> <p>(辰口担当)</p> <p>情報技術を用いた授業づくりと資料作成の方法を身につける。 授業で利用されるICT機器の取り扱い方を身につける。 遠隔授業を含めたICT機器を活用した授業の方法を身につける。 学校教育における著作権の取り扱いについて理解する。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 授業内で「ディスカッションとプレゼンテーションを通して学生それぞれが授業を構想」することで取り入れている。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 「構想した授業で利用する教育コンテンツを作成」するうえでICT 技術を利用するとともに、授業の上でもMicrosoft Teams などのツールを使い、双方向の授業を実践する</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 平常点および提出課題</p> <p>【割合】 平常点40%、提出課題 60%</p>
教科書・テキスト	適宜、配布資料あり
参考書	<p>文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年3月告示)」東洋館出版2018年 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年3月告示)解説総則編」東洋館出版2019年 「ICT教育環境整備ハンドブック2023」一般社団法人日本教育情報化振興会編著2022年 子安潤編『教科と総合の教育方法・技術』学文社、2019年</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	授業の復習は毎回必ず行い、最終レポート・課題に反映させること
履修上の留意事項	OAENS利用者登録を行っていること。(「情報処理」を履修していることが望ましい。)
オフィスアワー	<p>山田：金曜日12:30~13:30 辰口：水曜日13:00~14:30</p>
課題に対するフィードバックの方法	対面授業の中で、または、メールやMicrosoft Teams を介して
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション【辰口・山田】 授業概要の説明を行う。自分の受けてきた授業の経験を振り返り、授業づくりへの課題意識を持つ</p>

	<p>【事前学修】自分の受けてきた授業の経験で印象に残っていることをまとめる。 【事後学修】本科目での自分なりの目標をまとめる。</p>
第2回	<p>学習指導案とは何か【山田】 授業という営みについて、学習指導案の内容と構成について学ぶ 【事前学修】学習指導案の作り方について各自調べてくる。以前に作成した学習指導案を持参する。 【事後学修】これまで作成した指導案を振り返る。</p>
第3回	<p>教科内容研究をどのように行うか【山田】 各教科や総合的な学習の時間などの学習指導要領の目標・内容・各学年の内容について理解するとともに、学術的に教科内容を研究する視点について学ぶ 【事前学修】指導案を作成する教科の題材あるいはテーマを決めて、論争点を調べてくる。 【事後学修】教科内容論に関する本やテーマに関わる本を検索し、読んでみる。</p>
第4回	<p>教材研究をどのように行うか【山田】 教科書の教材や探した教材と学習指導要領との対応について調べるとともに、教材研究の方法について学ぶ 【事前学修】指導案を作成する教科・学年・教材について考えておく。 【事後学修】自分の指導案における教材観を考える。</p>
第5回	<p>教材解釈をどのように行うか【山田】 子ども理解の視点について学び、ICT利用も含めた、子どもたちの実態に合わせて授業づくりを行う方法について学ぶ 【事前学修】教育実習等で出会った「学びにくさ」を抱えた子どもへの支援について考えておく。 【事後学修】自分の指導案における児童観と指導観を考える。</p>
第6回	<p>発問づくりをどのように行うか【山田】 授業における発問づくりの視点について学ぶ 【事前学修】自分の指導案の展開にあわせた発問を考えておく。 【事後学修】講義で提示した視点にもとづいて指導案の発問を考えなおす。</p>
第7回	<p>学習形態とコミュニケーション過程の構想【山田】 授業を認識過程と集団過程からとらえたうえで、「みんなでわかる」授業にするための学習形態とコミュニケーション過程の構想について学ぶ 【事前学修】自分の指導案での学習形態の転換と、そこで想定されるコミュニケーションについて考えておく。 【事後学修】学習形態とコミュニケーションの構想から応答予想を考える。</p>
第8回	<p>単元・授業における学習評価【山田】 授業や単元における指導的評価活動や学習評価のあり方を学ぶ 【事前学修】自分の指導案での「振り返り」や「評価」の観点について考えておく。 【事後学修】授業や単元をとおして育てたい「価値」について考える。</p>
第9回	<p>指導案発表会【山田】 各自作成した指導案を持ち寄り、発表会を行う 【事前学修】これまでの授業内容を活かした指導案を用意する。 【事後学修】他者の意見をふまえて指導案をより良くする。</p>
第10回	<p>教育における視聴覚メディア&コンピューターの利用【辰口】 教育における視聴覚メディア利用の歴史的な動向とGIGAスクールやプログラミング教育を含めた現代のICT利用の状況について 【事前学修】GIGAスクールやプログラミング教育について文部科学省ホームページなどで調べておく。 【事後学修】ICTの教育利用の広がりについて授業資料をもとに復習する。</p>
第11回	<p>授業のためのデジタルコンテンツとその作成技術【辰口】 PowerPointによるスライド作成を基礎にした、授業資料としてのデジタルコンテンツ作成技術について 【事前学修】PowerPointの取り扱いについて確認しておく。 【事後学修】コンテンツ作成技術の課題への生かし方について考察する。</p>
第12回	<p>遠隔授業とICT技術【辰口】 Microsoft TeamsおよびZoomを中心とした遠隔授業で取り扱われるICT技術について 【事前学修】自分の取り扱える遠隔授業ツールを確認しておく。 【事後学修】ICT技術の実際の授業での適用について考察する。</p>
第13回	<p>著作権について一学校教育と著作権【辰口】 学校教育における著作権の取り扱いとICTの教育への導入によるその変化について 【事前学修】文化庁ホームページで著作権と著作権法について調べておく。 【事後学修】教育における著作権法の例外とICT技術に係る著作権について再確認する。課題に関して著作権法上の問題点について考察し、必要な解決手段をとる。</p>
第14回	<p>e-Learningと教授システム学ー学習システムとインストラクショナルデザイン【辰口】 効率的な「学習」のしくみとは 【事前学修】「授業」を構築するさまざまな方法について確認しておく。 【事後学修】「授業」へのインストラクショナルデザイン的な方法の自分なりの生かし方を考察する。インストラクショナルデザイン的な方法を課題に取り入れることを試みる。</p>

第15回

全体のまとめ【辰口・山田】

授業全体の振り返りとまとめ・課題作成

【事前学修】授業全体をまとめておく。

【事後学修】授業で学んだことを振り返りつつ課題の完成を目指す。

講義科目名称： 教育課程論(H)

授業コード： 51801400

英文科目名称： Curriculum Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
山田 綾			
開講曜限	授業形態		
月3	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。(人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む)</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法(行動科学、カウンセリングを含む)を修得している。</p>
---------	---

科目の概要・目的	一般に人格と学力の計画と言われる教育課程編成の原理・方法について検討する。教育課程編成の歴史や事例の分析を通して、教育課程の決定要因、構成要素、編成の基本原則を検討し、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。食に関するカリキュラム・マネジメントの実践を構想する。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義や編成の方法について説明できる。 ・各学校や子どもの実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの実践構想を立てることができる。 ・「食に関する指導」を中心としたカリキュラム・マネジメントの実践を構想できる。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>毎回の授業でグループワークおよびディスカッションを行う</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>オンラインでのアンケート実施や文書の共同作成を行う場合がある</p> <p>【その他特記事項】</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>毎回の課題提出、レポート</p> <p>【割合】</p> <p>毎回の課題提出40点(中間発表資料を含む)、課題レポート60点(簡易授業案を含む)</p>
教科書・テキスト	特に指定しない
参考書	<p>文部科学省『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』2019年</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』東洋館出版 2018年</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)解説 総則編』東洋館出版 2018年</p> <p>田中耕治編『よくわかる教育課程 第2版』ミネルヴァ書房 2018年</p> <p>子安潤『反・教育入門 改訂版:教育課程の案ラーン』白澤社 2009年</p> <p>家庭科教育研究者連盟編『子どもの生活とつながる食育 小学校編』日本標準 2007年</p> <p>山田綾・鶴田敦子編『生活みつめる食』日本標準 2010年</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	事前学修は、毎回それぞれのテーマについて調べ、ノートにまとめてくること 事後学修については、各回で指示する
履修上の留意事項	積極的な意見表明、疑問、質問を期待しています
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時30分 上記以外の時間帯でも、事前連絡があれば対応可能
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出を求める課題については、次回の授業でフィードバックを行う
実務経験	特記事項なし
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 授業概要を理解するとともに、本科目受講への課題意識を持つ 【事前学修】学校は何のために行くのかについて、自分の考えをノートにまとめてくる 【事後学修】食の現代的課題を調べる</p> <p>第2回 教育課程の編成原理 教育課程の社会的役割、決定要因、構成要素、編成の基本原則について学ぶ 食の現代的課題について交流する 【事前学修】今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる 【事後学修】教育課程の編成原理についてまとめ、調べたい食の現代的課題を深める</p> <p>第3回 学習指導要領の歴史 戦後の学習指導要領の変遷、教育課程編成をめぐる論点について検討する</p>

	<p>【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる</p> <p>【事後学修】 教育課程編成をめぐる論点についてまとめる</p>
第4回	<p>PISAと学習指導要領</p> <p>教育のグローバル化、OECDのPISA調査と日本への影響について学ぶ</p> <p>【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる</p> <p>【事後学修】 OECDの教育政策提言についてまとめる</p>
第5回	<p>学習指導要領2017年改訂の特徴</p> <p>学習指導要領2017年改訂の背景やキーワードについて学ぶ</p> <p>【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる</p> <p>【事後学修】 『学習指導要領 解説 総則編』を改めて読んでおく</p>
第6回	<p>教育課程とカリキュラム、隠れたカリキュラム</p> <p>カリキュラム概念、児童中心主義と経験主義、隠れたカリキュラムについて学ぶ</p> <p>【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる</p> <p>【事後学修】 児童中心主義と経験主義の意義と課題をまとめ、隠れたカリキュラムの例を考える</p>
第7回	<p>「食に関する指導」の意義と課題</p> <p>食育が求められる背景と「食に関する指導」の領域について検討する</p> <p>【事前学修】 『食に関する指導の手引き』「第1章 学校における食育の推進の必要性」を読んで、どのような食育をしたいかを考えておく</p> <p>【事後学修】 「食に関する指導」の領域についてまとめ、調べたいテーマや食物を決める</p>
第8回	<p>「食に関する指導」を中心とした教育課程の編成</p> <p>学校の教育課程における「食に関する指導」の位置づけについて検討する</p> <p>食に関する指導で取り組みたいテーマや食物を交流する</p> <p>【事前学修】 『食に関する指導の手引き』「第3章 食に関する指導に係る全体計画の作成」を読んでくる。食に関する指導で取り組みたいテーマや食物を持ち寄る</p> <p>【事後学修】 第3章4節「栄養教諭の役割」を改めて読む</p>
第9回	<p>授業における「食に関する指導」の展開</p> <p>教科と「食に関する指導」の関係、授業づくりの方法について検討する</p> <p>【事前学修】 『食に関する指導の手引き』「第4章 各教科等における食に関する指導の展開」を読んでくる。</p> <p>【事後学修】 自分が簡易授業案をつくる教科やテーマ、教材について考える</p>
第10回	<p>学校給食における「食に関する指導」の展開</p> <p>特別活動と「食に関する指導」の関係、学校給食の指導について検討する</p> <p>【事前学修】 『食に関する指導の手引き』「第5章 給食の時間における食に関する指導」を読んでくる</p> <p>【事後学修】 給食指導における注意点をまとめる</p>
第11回	<p>カリキュラム・マネジメントとは何か</p> <p>カリキュラム・マネジメントという概念について学ぶ</p> <p>自分が簡易授業案をつくる教科やテーマ、教材について交流する</p> <p>【事前学修】 自分が簡易授業案をつくる教科やテーマ、教材について中間発表を準備する</p> <p>【事後学修】 自分が簡易授業案をつくる教科やテーマ、教材を調べ直す</p>
第12回	<p>カリキュラム・マネジメントと授業づくり</p> <p>カリキュラム・マネジメントの考え方を活かした授業づくりの方法について学ぶ</p> <p>【事前学修】 子どもたちの興味・関心を引き出す教材と展開を考えておく</p> <p>【事後学修】 教材を使った簡易授業案（評価対象）を再検討する</p>
第13回	<p>カリキュラム・マネジメントの事例検討</p> <p>カリキュラム・マネジメントの実践事例を検討する</p> <p>【事前学修】 今回のテーマについて調べ、ノートにまとめてくる</p> <p>【事後学修】 授業で読んだ実践記録について再分析をする</p>
第14回	<p>簡易授業案または食べ物の成り立ちの教材研究の発表交流</p> <p>【事前学修】 簡易授業案または食べ物の成り立ちの教材研究を完成させる</p> <p>【事後学修】 簡易授業案あるいは食べ物の成り立ちの教材研究をブラッシュアップする</p>
第15回	<p>まとめ 第1回から第14回までの学習をまとめる</p> <p>【事前学修】 第1～14回で学んだ内容についてノートにまとめてくる</p> <p>【事後学修】 レポート作成に備えて、自分なりに追加調査を行う</p>

講義科目名称： 教育相談（H）

授業コード： 51801700

英文科目名称： Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
佐藤 琢志			
開講曜限	授業形態		
火2	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p> <p>■3-1 職業人としての豊かな人間関係を作ることができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>不登校やいじめ、非行など、今日の子ども、保護者、教師を取り巻く環境・問題を考察しながら、子どもを正しく理解し、問題を抱えた子どもにどのように指導・援助していけばよいのか臨床心理学の知見をふまえて幅広く学ぶ。</p> <p>また、基本的なカウンセリングの知識や技術を習得するとともに、教師が行う「学校における」カウンセリングのあり方、及び、校内や地域、関係機関との連携について理解を深め、その基本的な態度を身につけ、教育現場で活用できる力を養う。</p>
学習到達目標	<p>1) 学校教育における教育相談の重要性を認識し、教育相談の方法や教育相談の実際について説明することができる。</p> <p>2) 「学校における」教師の相談のあり方として、基本的なカウンセリングの技法を使用することができる。</p> <p>3) 様々な子どもの問題行動について、教師としてどのように対応すべきか、連携も視野に含めて見通しを立てることができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 適宜、ロールプレイ並びにグループワークを取り入れる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 なし</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 定期試験(筆記)、授業中の課題、受講態度</p> <p>【割合】 定期試験(筆記) (55%)、授業中の課題 (30%)、受講態度 (15%)</p>
教科書・テキスト	向後礼子・山本智子 2014 「ロールプレイで学ぶ 教育相談ワークブック第2版」 ミネルヴァ書房
参考書	吉田武男監修 2019 「教育相談」 ミネルヴァ書房
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	教員になるという強い自覚のもと、現代の教育上の諸問題について書籍やニュース等を通じて興味・関心を向けておくこと。
履修上の留意事項	「教育心理学」を履修し、単位を取得していることが望ましい。
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：15～12：55）
課題に対するフィードバックの方法	採点をして返却する。
実務経験	高等学校教諭
その他	特になし
授業の内容	<p>第1回 教育相談の基礎知識について 教育相談の学校における意義と課題を理解する。同時に教育相談の3つの機能について理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト第1章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第2回 価値観の多様性について 自分とは異なった意見を受け止め、多様な価値観を理解する。</p> <p>【事前学修】テキスト第2章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>第3回 カウンセリングにおける受容・共感・傾聴について 話を聴くための基本的な姿勢を理解する。また、傾聴のスキルについて学ぶ。</p>

第4回	<p>【事前学修】テキスト第3章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>子どもたちのSOSサインについて 子どもたちが発するサインとカウンセリングマインドについて理解する。それと同時に学校と家庭の連携について学ぶ。</p>
第5回	<p>【事前学修】テキスト第4章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>自己理解について 相談場面における自己理解の重要性とその視点について学ぶ。</p>
第6回	<p>【事前学修】テキスト第5章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>不登校に対する対応（その1）不登校に関する基礎知識 不登校に関する基本的な知識を身につける。</p>
第7回	<p>【事前学修】テキスト第6章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>不登校に対する対応（その2）不登校対応へのポイント 不登校に対する基本的な姿勢と対応について学ぶ。また、学校内外の連携について学ぶ。</p>
第8回	<p>【事前学修】テキスト第7章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>いじめに対する対応（その1）いじめに関する基礎知識 いじめに関する基本的な知識を身につける。また、いじめに対する対応の基本的流れについて理解する。</p>
第9回	<p>【事前学修】テキスト第8章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>いじめに対する対応（その2）いじめの多様性を事例から理解する いじめの様態を理解するとともに、基本的対応の留意点について学ぶ。</p>
第10回	<p>【事前学修】テキスト第9章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>発達障がいのある児童生徒への対応について（その1）発達障がいの理解 発達障がいについての基礎的な知識について学ぶ。</p>
第11回	<p>【事前学修】テキスト第10章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>発達障がいのある児童生徒への対応について（その2）発達障がいの児童・生徒の理解 発達障がいを背景とした相談における基本的な姿勢と対応について学ぶ。</p>
第12回	<p>【事前学修】テキスト第11章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>保護者を対象とした教育相談について（その1）保護者対応の重要性とポイント 教育現場における保護者対応の重要性とその視点について理解する。</p>
第13回	<p>【事前学修】テキスト第12章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>保護者を対象とした教育相談について（その2）保護者対応の基本的な流れと事例 学校における保護者対応の基本的な流れについて理解する。また、他機関との連携について学ぶ。</p>
第14回	<p>【事前学修】テキスト第13章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>教員のメンタルヘルスについて 教員のメンタルヘルスの現状とその不調について理解する。</p>
第15回	<p>【事前学修】テキスト第14章を事前に熟読しておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p> <p>反社会的行動の理解と対応、まとめ 非行や不良行為に対する基本的な姿勢と対応について学ぶ。全体のまとめ。</p>
定期試験	<p>【事前学修】反社会的行動と非社会的行動について調べておくこと。 【事後学修】授業中に実施した課題について振り返りを行うこと。</p>

講義科目名称： 栄養教育実習

授業コード： 51801810

英文科目名称： Practice in Nutritional Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	選択
担当教員			
蜂須賀 のぞみ			
開講曜限	授業形態		
	実習		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>栄養教育実習では、小・中学校において栄養教諭の職務を経験する。小・中学校の管理・運営等の実際について観察・理解に努め、また教育活動において、児童生徒との関わり方や授業の進め方、教師としての支援の在り方などについて参観・体験および補助を行う。また、実習校の実態に合わせて、栄養教諭候補生として専門性を生かした食に関する指導を実施して指導力を養うと共に、児童生徒と触れ合って理解に努める。栄養教育実習の事後においては、実習中の課題や目標、食教育の実践や体験した内容、指導効果などの実習成果を報告会において発表し、相互に学び合う。</p>
学習到達目標	<p>①教師としての児童・生徒との関わり方、教員の実践的な授業法を学びとることができる。</p> <p>②栄養教諭として専門性を生かした食に関する指導の授業のための学習指導案、学習教材等を作成し、実習校の実態に合わせて実践をすることができる。</p> <p>③教育実習の内容や成果、学んできたことなどをまとめ、表現豊かに発表をすることができる。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 臨地実習における実習</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 特になし</p> <p>【その他特記事項】 小学校教育実習 教育実習報告会</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 教育実習校の実習評価、教育実習中の活動、記録内容、教育実習における態度、授業評価、教育実習報告会</p> <p>【割合】 教育実習校の実習評価 60% 教育実習中の活動、記録内容、教育実習における態度、授業評価 20% 教育実習報告会 20%</p>
教科書・テキスト	<p>食に関する指導の手引き 学習指導要領 文部科学省 実習校の指定するもの</p>
参考書	特になし
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>①実習までに、実習校を数回訪問して、指導教諭から多方面の指導を受ける。</p> <p>②実習前には、子どもたちの実態、食に関する課題（授業題材）を掴み、教材研究を行い、授業を組み立て、学習指導案を作成して、指導教諭等から指導助言を受けたのち実習に臨む。</p>
履修上の留意事項	「教職に関する科目」「栄養にかかる教育に関する科目」「栄養教育実習事前指導」が履修済みであること。
オフィスアワー	実習前の書類が整えば、日時を調整して必ず教員に連絡をとること。
課題に対するフィードバックの方法	教育実習校への訪問指導
実務経験	<p>管理栄養士 学校栄養職員 栄養教諭</p>
その他	<p>教育実習校では、実習生ではなく、教員候補生として見られる。教員としての言動、行動、人間性が求められることを自覚しておくこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 栄養教育実習① 学校の管理・運営について理解する。</p> <p>【事前学修】実習校の指導計画を熟読し理解しておく 【事後学修】実習校から指導いただいた内容について記録し振り返りを行う</p> <p>第2回 栄養教育実習② 学校給食管理（児童の栄養管理・献立・衛生管理・食材管理等）の実際を観察・調査する。</p> <p>【事前学修】実習校の指導計画を熟読し理解しておく</p>

第3回	<p>【事後学修】観察、体験した内容について記録し振り返りを行う 栄養教育実習③ 学級経営、学級活動、給食活動などの実態の観察、および児童・生徒理解に努める。</p>
第4回	<p>【事前学修】実習校での活動準備をする 【事後学修】観察、体験した内容について記録し振り返りを行う 栄養教育実習④ 各教科における指導法、児童への支援方法、働きかけなどを観察し実践する。</p>
第5回	<p>【事前学修】実習校での活動準備をする 【事後学修】観察、体験した内容について記録し振り返りを行う 栄養教育実習⑤ 実習校の実態に合わせて、実習校の教師の指導を受け、児童への食教育活動を展開する。</p>
第6回	<p>【事前学修】実習校での活動準備をする 【事後学修】観察、体験した内容について記録し振り返りを行う 栄養教育実習⑥ 実習校の実態に合わせて「学習指導案」作成、教材研究して学習教材を作り、授業を実施する。</p>
第7回	<p>【事前学修】実習校での活動準備をする 【事後学修】学習指導案を作成、教材研究をして授業準備をする 栄養教育実習⑦ 実習中の観察、経験、助言内容、感想等を実習記録簿に記入する。</p>
第8回	<p>【事前学修】実習校での活動準備をする 【事後学修】実習内容について記録し振り返りを行う 栄養教育実習⑧ 栄養教育実習校において履修した内容をまとめて記録する。 実習報告会では、栄養教育実習の概要やで学んだこと、観察したこと、実践したこと、児童への働きかけ、児童の思いや行動など、実習の成果をパワーポイントにまとめて発表する。</p> <p>【事前学修】実習校での活動内容をまとめる 【事後学修】実習内容について発表する</p>

講義科目名称： 栄養教育実習事前事後指導

授業コード： 51802100

英文科目名称： Practice Teaching Pre & Post Direction

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	4	1	選択
担当教員			
蜂須賀 のぞみ			
開講曜限	授業形態		
木4、5	講義		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p> <p>■4-2 自主的、積極的、継続的に学修でき、主体的に行動することができる。</p>
---------	---

科目の概要・目的	<p>本科目は、栄養教諭の免許取得のために必要な栄養教育実習のための科目である。事前指導では教育実習内容全体を把握し、教育実習に必要な知識の習得と心構えを養うとともに、実習で行う研究授業の準備、模擬授業の実施・評価・改善を行い、教育実習が意義あるものとなるよう準備する。事後指導においては教育実習を振り返り、自己評価して改善に取り組む。実習を通して栄養教諭の職務・役割について理解し、教育者としての人間性を養うことを目的とする。また次年度に栄養教諭を目指す学生に、実習での学びを伝達する。</p>
学習到達目標	<p>①教育者としての資質、人格、識見を養い、栄養教諭としての基礎知識・技術を身に付ける。</p> <p>②教育実習に備えて、学習指導案作成、模擬授業の展開などの実践力を身に付ける。</p> <p>③児童・生徒への関わり方、コミュニケーションのとり方を研究し、教育実習に備える。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション、グループワーク、模擬授業を随時取り入れる。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【その他特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回2コマ連続で行う
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>学習指導案レポート、模擬授業 <授業構成（授業展開）、指導力、学習教材、板書、ワークシート>、授業参加意欲・態度</p> <p>【割合】</p> <p>学習指導案レポート：50% 模擬授業：40% 授業参加意欲・態度：10%</p>
教科書・テキスト	<p>栄養教諭論 ―理論と実践― 建帛社（3年次に購入済み）</p> <p>食に関する指導の手引き（3年次に購入済み）</p>
参考書	<p>学習指導要領 文部科学省</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>①実習校に数回訪問し、実習についての打ち合わせ及び実習校の実態把握をする。</p> <p>②食に関する指導の事例、授業法の研究を行う。</p> <p>③授業展開のための学習教材作り、ワークシート作成等について時間外で準備をする。</p>
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職に関する科目」「栄養にかかる教育に関する科目」が履修済みであること。 ・教育者としての人格を備え、人間性を養うこと。
オフィスアワー	<p>4-406研究室（在室時間帯は研究室扉に掲示しています）</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>受講者間で課題を共有、整理し、実習に向けて改善する。</p>
実務経験	<p>管理栄養士 学校栄養職員 栄養教諭</p>
その他	<p>授業時間数に制限があるため、期日までに学習指導案作成、教材作りなど演習の準備を行うこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 授業のガイダンス、教育実習の目的と意義、実習内容や心構え、実習校の確認</p> <p> 【事前学修】 実習校に数回連絡あるいは訪問し、実習についての準備をする 【事後学習】 実習校の実態把握をしておく</p> <p>第2回 栄養教育実習の準備 栄養教育実習の内容、方法、留意点について 栄養教諭の位置づけと役割</p> <p> 【事前学修】 実習校の実態把握をしておく 【事後学習】 実習の準備をしておく</p> <p>第3回 学校給食の管理 栄養教諭の職務内容 学校給食の意義</p>

第4回	<p>【事前学修】教科書の関連箇所を熟読し、理解しておく 【事後学習】実習校の給食の実態把握をしておく</p> <p>給食時間における食に関する指導① コミュニケーション 給食時間における食に関する指導の計画 給食指導週案の書き方 コミュニケーションの取り方 自己紹介シート作成</p>
第5回	<p>【事前学習】給食週案を作成する。 【事後学習】実習時の自己紹介について準備しておく</p> <p>給食時間における食に関する指導② 授業例検討 給食週案に沿った給食時間における指導の検討 教材作成</p>
第6回	<p>【事前学修】給食週案を作成する 【事後学習】給食時の指導内容を考える</p> <p>給食時間における食に関する指導③ 給食時間における模擬授業準備、媒体作成</p>
第7回	<p>【事前学修】給食時の指導内容を考えておく 【事後学習】給食時の指導を完成させる</p> <p>給食時間における食に関する指導④ 給食時間における模擬授業、相互評価</p>
第8回	<p>【事前学修】給食時の指導の準備をする 【事後学習】自分の授業について振り返る</p> <p>各教科の食に関する指導 食に関する指導の事例研究 授業づくりのポイント</p>
第9回	<p>【事前学修】前時の内容を復習しておく 【事後学習】授業内容について復習する</p> <p>授業のポイント 授業を行うためのポイント、留意点について</p>
第10回	<p>【事前学修】前時の内容を復習しておく 【事後学習】授業内容について復習する</p> <p>教科における食に関する指導① 食に関する指導展開、表現力、指導方法研究</p>
第11回	<p>【事前学修】前時の内容を復習しておく 【事後学習】授業内容について復習する</p> <p>教科における食に関する指導② 食に関する指導授業準備</p>
第12回	<p>【事前学修】授業内容について復習する 【事後学習】授業準備をしておく</p> <p>模擬授業の演習および相互批評① 1校時（45分）の学級活動等における食に関する指導案の作成 ・授業展開、学習教材、板書、ワークシート、学習者への声かけ、支援の在り方等について研究</p>
第13回	<p>【事前学修】自分の授業の準備をする 【事後学習】自分の授業を振り返る</p> <p>模擬授業の演習および相互批評② 1校時（45分）の学級活動等における食に関する指導案の作成 ・授業展開、学習教材、板書、ワークシート、学習者への声かけ、支援の在り方等について研究</p>
第14回	<p>【事前学修】自分の授業の準備をする 【事後学習】自分の授業を振り返る</p> <p>模擬授業総合評価 学習指導案、授業展開等の評価・総括をする。</p>
第15回	<p>【事前学修】自分の授業を振り返る 【事後学習】振り返りシートを完成させる</p> <p>教育実習準備ガイダンス 教育実習中の留意事項、実習ノートの書き方、実習のための事前準備の説明</p>
	<p>【事前学修】実習校への連絡方法を確認しておく。 【事後学修】授業案の準備を整える。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	1	必修
担当教員			
根来 宗孝			
開講曜限	授業形態		
木3、4、5 金3、4、5	実験		
添付ファイル			

D Pとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-3 人体の構造や機能を系統的に理解し、主要疾患の成因、病態、診断、資料などを理解している。</p> <p>■1-5 栄養とは何か、その意義について理解している。</p>
---------	--

科目の概要・目的	基礎栄養学で学習した知識をさらに深く理解するために、本実験では、三大栄養素である糖質、脂質およびタンパク質の栄養的性質や特徴について、自らが実験によって理解することを目的とする。さらに、これらの栄養素が体内でどのように消化、吸収、代謝されているのか、種々の酵素反応を利用して学習する。
学習到達目標	栄養学の基礎である消化・吸収、栄養素の体内動態や代謝について理解するために、消化実験、ヒトおよびラットの尿、血液、肝臓などの生体試料を利用して、必要な成分の分析ができるようにする。得られた実験結果から、体内における栄養素の動態や代謝について理解できる能力を修得する。
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 班ごとに実験結果を考察し、プレゼンテーションすること。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 部分的にICTを活用する。</p> <p>【その他特記事項】 なし</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 実験レポートと実験態度を総合的に評価する。</p> <p>【割合】 実験レポート（80%）、実験態度（20%）</p>
教科書・テキスト	田代操(編著) 生化学実験 化学同人
参考書	奥恒行、柴田克己 編 健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 改訂第5版 南江堂
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	実験前に実験書を熟読し、内容を理解しておくこと。 基礎栄養学の教科書を利用して、関連するところを予習・復習すること。
履修上の留意事項	白衣を持参する。実験では多くの試薬を扱うので、集中して行うようにする。ケガや事故のないように注意をする。
オフィスアワー	特に定めないが、事前に連絡をしてから訪問すること。
課題に対するフィードバックの方法	A-ポータルなどで問い合わせ内容に対応する。
実務経験	大学(医学部 法医学/衛生学)教員、高等専門学校教員
その他	実験ノートを用意して、実験中に行ったことを詳細に記録する。
授業の内容	<p>1 ガイダンス、実験器具の準備、機器使用方法の確認、班分け 基礎栄養学実験の心構えおよびレポートの注意点などを解説する。 実験前に実験書を熟読し、内容を理解しておくこと。 基礎栄養学の教科書を利用して、関連するところを予習・復習すること。</p> <p>【事前学修】 実験前に実験書を熟読し、内容を理解しておくこと。 【事後学修】 基礎栄養学の教科書を利用して、関連するところを復習すること。</p> <p>2 たんぱく消化① たんぱく質の消化 ペプシンとパンクレアチンによるタンパク質の人工消化(教科書p81, p84-86)について読み、専門用語を調べ、実験の目的や方法を各自簡潔に整理しておくこと。 【事前学修】 実験前に実験書を熟読し、内容を理解しておくこと。 【事後学修】 基礎栄養学の教科書を利用して、関連するところを復習すること。</p> <p>3 たんぱく消化② アミノ酸量の定量 TNBS法によるアミノ基の定量(p85-86)について読み、専門用語を調べ、実験の目的や方法を各自簡潔に整理しておくこと。 【事前学修】 実験前に実験書を熟読し、内容を理解しておくこと。 【事後学修】 基礎栄養学の教科書を利用して、関連するところを復習すること。</p> <p>4 ビタミンC 尿中ビタミンCの定量(p72-74)について読み、専門用語を調べ、実験の目的や方法を各自簡潔に整理しておくこと。 【事前学修】 実験前に実験書を熟読し、内容を理解しておくこと。 【事後学修】 基礎栄養学の教科書を利用して、関連するところを復習すること。</p>

5	<p>塩素 尿中塩素の定量 (P76-77) について読み、専門用語を調べ、実験の目的や方法を各自簡潔に整理しておくこと。 【事前学修】実験前に実験書を熟読し、内容を理解しておくこと。 【事後学修】基礎栄養学の教科書を利用して、関連するところを復習すること。</p>
6	<p>クレアチン、クレアチニン クレアチン、クレアチニンの定量(p116-118)について読み、専門用語を調べ、実験の目的や方法を各自簡潔に整理しておくこと。 【事前学修】実験前に実験書を熟読し、内容を理解しておくこと。 【事後学修】基礎栄養学などの教科書を利用して、関連するところを復習すること。</p>
7	<p>まとめ 【事前学修】これまで実施した実験について結果をまとめ考察し、班ごとにパワーポイントなどで発表ができるように準備すること。 【事後学修】班ごとに役割分担を行い、発表会に備えること。</p>
8	<p>発表会 班ごとに準備した発表資料に基づき実習内容を発表する。他者の発表や考察についてもよく把握するように努めること。 【事前学修】班ごとに準備した発表資料に基づき実習内容を整理する。 【事後学修】他者の発表や考察から自分の班のデータを再評価する。</p>

講義科目名称： 総合的な学習の時間の指導（H）

授業コード： 51803910 51803950

英文科目名称： Teaching Method for the Period for Intergrated Learning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2024年度 前期	3	2	選択
担当教員			
服部 太、山田 綾、久田 敏彦			
開講曜限	授業形態		
月4	講義		
添付ファイル			

DPとの関連	<p>■健康栄養学科■</p> <p>■1-2 人間や生活について目を向け、社会や環境と健康の関わりについて理解している。（人間の生活や行動特性、健康情報の活用・処理についての理解を含む）</p> <p>■2-1 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析・評価の能力を有し、健康・栄養教育の理論と方法（行動科学、カウンセリングを含む）を修得している。</p>
--------	---

科目の概要・目的	<p>新設時の「総合的な学習の時間」の特徴や新学習指導要領におけるその新たな特徴について、目標・内容・方法にわたって明らかにする。次に、学校の教育課程において果たす「総合的な学習の時間」の意義と役割を年間指導計画・単元計画とも関連づけて講ずる。さらに、実際の実践展開例をグループ討論をとおして検討する。最後に、「総合的な学習の時間」における評価方法を講ずる。</p>
学習到達目標	<p>1 学習指導要領の変遷のなかで「総合的な学習の時間」がどう捉えられてきたかを理解する。そのうえで、新学習指導要領における「総合的な学習の時間」の新たな特徴を目標・内容・方法にわたって理解する。</p> <p>2 探究的な見方・考え方を働かせた総合的な学習の年間指導計画・単元構成の考え方とその方法を身につける。</p> <p>3 実社会・実生活の課題を共同して探究する学びを実現する指導方法に関する知識と技能を身につける。</p> <p>4 「総合的な学習の時間」における評価方法の視点を獲得する。</p>
授業の方法	<p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】第8回～第12回はグループワークとディスカッションによって実践事例を検討する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】なし</p> <p>【その他特記事項】第1回～第7回および、第13回～第15回は講義形式による。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】授業内課題（実践事例課題、レポート、小テストなど）、定期試験（レポート）</p> <p>・ほぼ毎時間、授業内課題を提示する。できる限り欠席をしないように留意すること。</p> <p>【割合】授業内課題（実践事例課題、レポート、小テストなど）40%、定期試験（レポート）60%</p>
教科書・テキスト	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編</p>
参考書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省告示）を参考</p>
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	<p>授業内容について課題を提示するので、その課題について考察しておくこと。</p>
履修上の留意事項	<p>授業中にわからないことがあればその都度質問すること。ただし、私語は慎むこと。</p>
オフィスアワー	<p>服部：授業後、研究室にて 山田：授業終了後、教室にて 久田：授業終了後、教室にて</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>学期中の小レポートに関しては、授業中に全般的な解説を行う。</p>
実務経験	<p>公立学校、附属学校勤務経験あり</p>
その他	<p>・授業中の携帯電話、スマートフォン等の使用は禁止する（学生便覧p.26）。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション：本授業の概要と計画（久田・山田・服部）</p> <p>【事前学修】小学校で学習した総合的な学習の時間の内容について想起しておく。 【事後学修】小学校時の総合的な学習の時間の内容と学習指導要領を照らし合わせ、再評価する。</p> <p>第2回 1998年に新設された「総合的な学習の時間」の特徴（久田）</p> <p>【事前学修】総合的な学習の時間が新設された経緯を、配付資料を読み概要をとらえておく。 【事後学修】総合的な学習の時間が新設された経緯を、講義内容をふまえて整理する。</p> <p>第3回 2008年改訂学習指導要領における「総合的な学習の時間」の特徴（久田）</p>

第4回	<p>【事前学修】配付資料を読み、2008年改訂の総合的な学習の時間の特徴をとらえておく。 【事後学修】1998年の総合的な学習の時間と比較することにより、2008年の総合的な学習の時間の特徴を明らかにする。</p> <p>2017年改訂学習指導要領の特徴と「総合的な学習の時間」の意義・役割（久田）</p>
第5回	<p>【事前学修】学習指導要領pp.1-7.を読み、改訂の経緯についておさえておく。 【事後学修】2017年改訂の総合的な学習の時間の意義・役割について、講義内容を振り返り理解を深めておく。</p> <p>「総合的な学習の時間」における「育成すべき資質・能力」の内容（久田）</p>
第6回	<p>【事前学修】学習指導要領pp.9-17.を読み、総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力の概要について理解をしておく。 【事後学修】総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力について、講義内容を振り返り理解を深めておく。</p> <p>学校の教育課程づくりの視点と「総合的な学習の時間」の位置と年間指導計画（山田）</p>
第7回	<p>【事前学修】学習指導要領pp.66-69, pp.89-98.を読み、総合的な学習の時間の全体計画、年間計画作成の概要について理解をしておく。 【事後学修】総合的な学習の時間の全体計画、年間計画作成について、講義内容を振り返り理解を深めておく。子どもたちと探究したい現代的課題を探しておく。</p> <p>「対話的・主体的で深い学び」の実現と「総合的な学習の時間」の単元構成の実際（山田）</p>
第8回	<p>【事前学修】学習指導要領pp.111-114.を読み、対話的・主体的で深い学びの概要について理解をしておく。 【事後学修】総合的な学習の時間における対話的・主体的で深い学びについて、講義内容を振り返り理解を深めておく。グループごとに、子どもたちと探究したい現代的課題を決める。</p> <p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（1）－教材づくりを中心として（山田）</p>
第9回	<p>【事前学修】学習指導要領pp.29-31.を読み、総合的な学習の時間の学習内容について理解しておく。 【事後学修】グループごとに、教材づくりを実施する課題について、意見交流を踏まえて調べ直しておく。</p> <p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（2）－教師の発問と子どもの「問い」を中心として（山田）</p>
第10回	<p>【事前学修】グループごとに、教材づくりを実施する課題を決定し、課題についてどのような論争的課題があるのか、調べてくる。 【事後学修】課題に対して、子どもの「問い」となるだろうことがらを整理しておく。</p> <p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（3）－現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題とは（山田）</p>
第11回	<p>【事前学修】配付資料や講義内容をもとに、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題について理解を深めておく。 【事後学修】他グループの教材に関して解釈した上で、代替案を考えておく。</p> <p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（4）－地域や学校の特色に応じた課題とは（服部）</p>
第12回	<p>【事前学修】配付資料や講義内容をもとに、地域や学校の特色に応じた課題について理解を深めておく。 【事後学修】他グループの教材に関して解釈した上で、代替案を考えておく。</p> <p>「総合的な学習の時間」の実践展開の検討（5）－児童の興味・関心に基づく課題とは（服部）</p>
第13回	<p>【事前学修】配付資料や講義内容をもとに、児童の興味・関心に基づく課題について理解を深めておく。 【事後学修】他グループの教材に関して解釈した上で、代替案を考えておく。</p> <p>教育評価の種類・方法と「総合的な学習の時間」における教育評価（服部）</p>
第14回	<p>【事前学修】学習指導要領pp.124-128.を読み、総合的な学習の時間における評価のあり方について、概要を理解しておく。 【事後学修】講義で提示された評価方法も踏まえ、総合的な学習の時間における評価のあり方について再整理する。</p> <p>戦前・前後の総合学習と今後の「総合的な学習の時間」（服部）</p>
第15回	<p>【事前学修】配付資料をもとに、戦前・前後の総合学習の特徴をとらえておく。 【事後学修】戦前・前後の総合学習から、1998年以降の総合的な学習の時間の関連を整理し、今後の総合的な学習の時間のあり方について考えを深める。</p> <p>まとめ（久田・山田・服部）</p> <p>【事前学修】今までの講義内容を振り返り、総合的な学習の時間の目的と意義について再整理する。 【事後学修】今までの講義内容を振り返り、総合的な学習の時間の目的と意義について理解を深める。</p> <p>定期試験'（レポート）</p>